OTSUCLEクラウドファンディング研究成果報告書

庄・蔵本弥生集落遺跡の研究

2022

国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室

庄・蔵本弥生集落遺跡の研究

2022

国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室

序　文

本書は，OTSUCLE クラウドファンディング『弥生時代最古級の遺跡発掘調査から，弥生人の生活を解明したい！』の支援金をもとに行った研究成果をまとめ，刊行されたものです．研究に用いた資料は，これまでに本学蔵本キャンパスの工事に先立ち実施された発掘調査での記録，および出土品であり，今回の活動は，そうした資料を含めた大学構内遺跡の活用事業の一環として，位置づけられます．この場をお借りして，改めてご支援いただいた皆様に厚く御礼申し上げます．

本書で取り上げた 1998 年度立会調査地点では，縄文時代晩期～中世の考古資料が数多く出土しました．なかでも，弥生時代前期のそれは，注目に値します．居住域を取り囲む二重の大溝や墓域は，この場所が当時，集落のなかでも，とくに土地利用が活発であったことを物語っています．また，徳島平野における弥生時代最古段階の土器や，東日本系，朝鮮系などの他地域との交流を示す土器も出土しており，弥生時代の始まり当初から，外部世界とのつながりを強くもった社会状況であったことがわかります．こうした研究成果が今後，考古学界に大きく貢献することを期待しています．

さて，ここ数年は新型コロナウイルス感染症の拡大のため，世界規模で先の見えない状況が続いています．本プロジェクトのリターンとして開催予定であったイベントも，中止となってしまいました．しかし，こうした感染症を含むさまざまな災害に，これまで人類は幾度となく直面し，立ち向かい，そして克服してきました．上記の弥生時代についても，決して順風満帆に始まったわけではなく，気候変動とそれにともなう天候不順，自然災害に対する適応をきっかけとして始まったとする意見も提出されています．こうした研究成果から，過去の人類の，困難に対峙し，それを乗り越える姿を学ぶことができるのは，現代社会においての，考古学の大きな存在理由といえるでしょう．

最後とはなりましたが，本書の刊行にあたって，ご協力・ご助言を賜った学内外の関係者の皆様に厚く御礼申し上げます．

令和 4 年 7 月 31 日

徳島大学埋蔵文化財調査室長
端　野　晋　平

例　言

1. 本書は，徳島大学埋蔵文化財調査室が2019年度に実施したOTSUCLEクラウドファンディング『弥生時代最古級の遺跡発掘調査から，弥生人の生活を解明したい！』の研究成果をまとめた報告書である．
2. 第２章に関係する整理作業は，中村豊（現・本学総合科学部）・橋本達也（現・鹿児島大学）・端野晋平・三阪一徳（現・岡山理科大学）・脇山佳奈（元・本室）・岸本多美子・久米淑子・中原尚子・板東美幸・前田千夏・安山かおり・山本愛子が担当した．
3. 遺構写真の撮影は中村・橋本が，遺物写真の撮影は板東が担当した．
4. 本書の執筆分担は，目次と本文中に示した通りである．
5. 本書の編集は，端野が行った．
6. 第２章で使用した座標の値は，世界測地系による平面直角座標系（第Ⅳ系）に準拠した．方位は座標北，レベルは海抜標高である．
7. 第２章の土層および土製品の色調は，農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』に準拠した．
8. 第２章の弥生時代の時期区分については，前期は中村（2000・2002）の土器編年，中期以降は菅原・瀧山（2000）のそれに準拠した．

   中村豊，2000．阿波地域における弥生時代前期の土器編年．田崎博之（編），突帯文と遠賀川．土器持寄会論文集刊行会，松山．pp.471-497.

   中村豊，2002．縄文から弥生へ－眉山北麓遺跡群の分析から－．徳島考古学論集刊行会（編），論集徳島の考古学．徳島考古学論集刊行会，徳島．pp.245-258.

   菅原康夫・瀧山雄一，2000．阿波地域．菅原康夫・梅木謙一（編），様式と編年　四国編．木耳社，東京，pp.1-130.
9. 第２章に掲載した調査記録および出土遺物は，すべて徳島大学埋蔵文化財調査室で保管している．
10. 本プロジェクトは，以下の方々からご支援いただいた．記して感謝の意を表す次第である（五十音順・敬称略）．

石田智子，石部雄紀，石丸恵利子，医療法人徳松会・松永病院，岩永省三，片上利生，片上寿子，片上道範，加藤洋平，上條信彦，河村好光，菅浩伸，黒田紀典，小出恵子，西條滋樹，重盛史彦，白石渓冴，菅榮太郎，高橋敦，武末純一，谷野歯科医院，徳澤小次郎，中川洋作，長野芳彦，那波市郎，丹羽佑一，根本幸枝，端野育代，端野典平，端野伸也，原田智也，日林強，平井理心，福永光，松尾淳，溝口孝司，宮本一夫，森貴教，有限会社ハヤシカメラ・林俊宏，吉田静代，米田澄江

目　次

第１章　遺跡を取り巻く環境と概要 …… 端野晋平　1

１．遺跡の位置と地理的環境 …… 1
２．歴史的環境 …… 1
３．庄・蔵本遺跡の概要 …… 4

第２章　1998 年度立会調査（排水管・東側溝・南側溝地点）の成果
…… 端野晋平・脇山佳奈　9

１．調査にいたる経緯と経過 …… 9
　A　調査にいたる経緯 …… 9
　B　調査体制 …… 9
　C　調査の経過 …… 9
２．調査地点の位置と区割り …… 12
　A　調査地点の位置 …… 12
　B　調査地点の区割り …… 12
３．基本層序 …… 12
４．遺構 …… 38
　A　排水管地点第１・２遺構面 …… 38
　B　排水管地点第３遺構面 …… 46
　C　東側溝１地点 …… 48
　D　東側溝２地点 …… 49
　E　南側溝１地点 …… 51
　F　南側溝２地点 …… 64
　G　南側溝３地点 …… 77
５．遺物 …… 77
　A　土器 …… 77
　B　石器・土製品・木器 …… 82
６．まとめ …… 82

第３章　庄・蔵本遺跡一帯の調査研究成果 …… 端野晋平　199
はじめに …… 199
１．庄・蔵本遺跡一帯の調査成果 …… 199
２．徳島平野における弥生時代の始まり …… 200
３．墓地からみた初期弥生社会 …… 206
おわりに …… 207

挿図目次

図 1-1　庄・蔵本遺跡と周辺遺跡の位置 …… 2
図 1-2　庄・蔵本遺跡における調査地点の位置 …… 5
図 2-1　調査地点の区分とその名称 …… 13
図 2-2　排水管・東側溝地点第 1・2 遺構面全体図 …… 14
図 2-3　排水管・東側溝地点第 3 遺構面全体図 …… 15
図 2-4　南側溝 1・2 地点遺構面全体図（1） …… 16
図 2-5　南側溝 1・2 地点遺構面全体図（2） …… 17
図 2-6　南側溝 1・2 地点遺構面全体図（3） …… 18
図 2-7　南側溝 1・2 地点遺構面全体図（4） …… 19
図 2-8　南側溝 3 地点遺構面全体図 …… 20
図 2-9　排水管地点土層断面図（1） …… 21
図 2-10　排水管地点土層断面図（2） …… 22
図 2-11　排水管地点土層断面図（3） …… 23
図 2-12　排水管地点土層断面図（4） …… 24
図 2-13　排水管地点土層断面写真（1） …… 25
図 2-14　排水管地点土層断面写真（2） …… 26
図 2-15　南側溝地点土層断面図（1） …… 27
図 2-16　南側溝地点土層断面図（2） …… 28
図 2-17　南側溝地点土層断面図（3） …… 29
図 2-18　南側溝地点土層断面図（4） …… 30
図 2-19　南側溝地点土層断面図（5） …… 31
図 2-20　南側溝地点土層断面図（6） …… 32
図 2-21　南側溝地点土層断面図（7） …… 33
図 2-22　南側溝地点土層断面図（8） …… 34
図 2-23　南側溝地点土層断面図（9） …… 35
図 2-24　南側溝地点土層断面写真（1） …… 36
図 2-25　南側溝地点土層断面写真（2） …… 37
図 2-26　南側溝地点土層断面写真（3） …… 38
図 2-27　SD01・SD02・SK01 …… 39
図 2-28　SD03 …… 40
図 2-29　排水管・東側溝 1 地点北西部の遺構 …… 41
図 2-30　SK03・SK04 …… 42
図 2-31　SK05・SK07 …… 43
図 2-32　SK08 …… 44
図 2-33　SD66・SD67 …… 44
図 2-34　SK02 …… 45
図 2-35　SK09 …… 46
図 2-36　SD111・SK134・SK137 …… 47
図 2-37　SD59・SK11B・SK121・SK122 …… 48
図 2-38　SD112・SK139・SK140 …… 50
図 2-39　SK120 …… 50
図 2-40　SD102 上面 …… 52
図 2-41　SD103 …… 53
図 2-42　SD104・SK109・SK110・SP01 …… 54
図 2-43　SD105・SK106 …… 55
図 2-44　SD107 …… 56
図 2-45　SI01 …… 57
図 2-46　SK101・土器群 No.1 …… 58
図 2-47　SK102・SK103・SK104・土器群 No.3 …… 60
図 2-48　SK105A …… 61
図 2-49　SK133 …… 62
図 2-50　SD102 …… 65
図 2-51　SD103・SK129・SK131 …… 66
図 2-52　SD110 …… 67
図 2-53　SK114 …… 69
図 2-54　SK115・SK116・SK117 …… 70
図 2-55　SK123 …… 71
図 2-56　SK125・SK127・SK132 …… 72
図 2-57　SK126 …… 73
図 2-58　SK128 …… 73
図 2-59　SK132 …… 74
図 2-60　SK135・SK136 …… 75
図 2-61　SK301 …… 76
図 2-62　土器（1） …… 85
図 2-63　土器（2） …… 86
図 2-64　土器（3） …… 87
図 2-65　土器（4） …… 88
図 2-66　土器（5） …… 89
図 2-67　土器（6） …… 90
図 2-68　土器（7） …… 91
図 2-69　土器（8） …… 92
図 2-70　土器（9） …… 93
図 2-71　土器（10） …… 94
図 2-72　土器（11） …… 95
図 2-73　土器（12） …… 96
図 2-74　土器（13） …… 97

図 2-75　土器（14）…… 98
図 2-76　土器（15）…… 99
図 2-77　土器（16）……100
図 2-78　土器（17）……101
図 2-79　土器（18）……102
図 2-80　土器（19）……103
図 2-81　土器（20）……104
図 2-82　土器（21）……105
図 2-83　土器（22）……106
図 2-84　土器（23）……107
図 2-85　土器（24）……108
図 2-86　土器（25）……109
図 2-87　土器（26）……110
図 2-88　土器（27）……111
図 2-89　土器（28）……112
図 2-90　土器（29）……113
図 2-91　土器（30）……114
図 2-92　土器（31）……115
図 2-93　土器（32）……116
図 2-94　土器（33）……117
図 2-95　土器（34）……118
図 2-96　土器（35）……119
図 2-97　土器（36）……120
図 2-98　土器（37）……121
図 2-99　土器（38）……122
図 2-100　土器（39）……123
図 2-101　土器（40）……124
図 2-102　土器（41）……125
図 2-103　土器（42）……126
図 2-104　石器・土製品・木器（1）……127
図 2-105　石器・土製品・木器（2）……128
図 2-106　石器・土製品・木器（3）……129
図 2-107　石器・土製品・木器（4）……130
図 2-108　石器・土製品・木器（5）……131
図 2-109　石器・土製品・木器（6）……132
図 2-110　石器・土製品・木器（7）……133
図 3-1　弥生時代前期前葉～中葉における庄・蔵本集落一帯の様相……200
図 3-2　庄・蔵本遺跡第 35 次調査地点の弥生時代前期水田跡 DEM……201
図 3-3　庄・蔵本遺跡第 20 次調査地点の弥生時代前期畑跡……201
図 3-4　庄・蔵本遺跡出土炭化種実と農具……202
図 3-5　鮎喰川流域における遺跡と縄文・弥生移行期の文化要素の変遷……203
図 3-6　庄・蔵本遺跡一帯最古の弥生土器……203
図 3-7　庄・蔵本遺跡第 6 次調査地点の墓域……204
図 3-8　庄・蔵本遺跡第 6 次調査地点の墓と出土遺物……204
図 3-9　朝鮮半島南部の支石墓と北部九州の墓制……205
図 3-10　集落と出自集団……206

表目次

表 1-1　庄・蔵本遺跡発掘調査一覧…… 6
表 2-1　土器観察表（1）……134
表 2-2　土器観察表（2）……135
表 2-3　土器観察表（3）……136
表 2-4　土器観察表（4）……137
表 2-5　土器観察表（5）……138
表 2-6　土器観察表（6）……139
表 2-7　土器観察表（7）……140
表 2-8　土器観察表（8）……141
表 2-9　土器観察表（9）……142
表 2-10　土器観察表（10）……143
表 2-11　土器観察表（11）……144
表 2-12　土器観察表（12）……145
表 2-13　土器観察表（13）……146
表 2-14　土器観察表（14）……147
表 2-15　石器・土製品・木器観察表……148

図版目次

図版1　排水管地点出土遺物1……149
図版2　排水管地点出土遺物2……150
図版3　排水管地点出土遺物3……151
図版4　排水管地点出土遺物4……152
図版5　東側溝地点出土遺物1……153
図版6　東側溝地点出土遺物2……154
図版7　南側溝地点出土遺物1……155
図版8　南側溝地点出土遺物2……156
図版9　南側溝地点出土遺物3……157
図版10　南側溝地点出土遺物4……158
図版11　南側溝地点出土遺物5……159
図版12　南側溝地点出土遺物6……160
図版13　南側溝地点出土遺物7……161
図版14　南側溝地点出土遺物8……162
図版15　南側溝地点出土遺物9……163
図版16　南側溝地点出土遺物10……164
図版17　南側溝地点出土遺物11……165
図版18　南側溝地点出土遺物12……166
図版19　南側溝地点出土遺物13……167
図版20　南側溝地点出土遺物14……168
図版21　南側溝地点出土遺物15……169
図版22　南側溝地点出土遺物16……170
図版23　南側溝地点出土遺物17……171
図版24　南側溝地点出土遺物18……172
図版25　南側溝地点出土遺物19……173
図版26　南側溝地点出土遺物20……174
図版27　南側溝地点出土遺物21……175
図版28　南側溝地点出土遺物22……176
図版29　南側溝地点出土遺物23……177
図版30　南側溝地点出土遺物24……178
図版31　南側溝地点出土遺物25……179
図版32　南側溝地点出土遺物26……180
図版33　南側溝地点出土遺物27……181
図版34　南側溝地点出土遺物28……182
図版35　南側溝地点出土遺物29……183
図版36　南側溝地点出土遺物30……184
図版37　南側溝地点出土遺物31……185
図版38　南側溝地点出土遺物32……186
図版39　南側溝地点出土遺物33……187
図版40　南側溝地点出土遺物34……188
図版41　南側溝地点出土遺物35……189
図版42　南側溝地点出土遺物36……190
図版43　南側溝地点出土遺物37……191
図版44　南側溝地点出土遺物38……192
図版45　南側溝地点出土遺物39……193
図版46　南側溝地点出土遺物40……194
図版47　南側溝地点出土遺物41……195
図版48　南側溝地点出土遺物42……196
図版49　南側溝地点出土遺物43……197
図版50　南側溝地点出土遺物44……198

第1章　遺跡を取り巻く環境と概要

端野晋平

1．遺跡の位置と地理的環境

国立大学法人徳島大学蔵本キャンパスは，徳島市庄町1丁目と蔵本町2丁目・3丁目にわたって所在し，徳島県遺跡地図（徳島県教委・徳島県埋文編 2006）上では，蔵本遺跡の大部分および庄遺跡の東端を含む範囲に位置する（図 1-1-1・5・6）．本学では『庄・蔵本遺跡1』（北條編 1998）の刊行以降，同キャンパス内の遺跡については，独自にこの名称を用いており，本書でもこれに従う．

庄・蔵本遺跡は，吉野川の支流である鮎喰川の下流域右岸，四国山地東端の眉山北麓に位置する．現在の鮎喰川は，四国山地の雲早山に源を発し，外帯を約 50km 北流して吉野川と合流する．下流域では，数面の沖積段丘面を伴う扇状地性平野が発達することが知られている．また，上流域では御荷鉾構造線をはじめとする複数の破砕帯を通過し，また地すべりや山腹崩壊により，下流域の平野部において，礫層が厚く発達し，礫床河道となっている（古田 2005）．

吉野川下流域から河口付近にかけての古環境復元の研究によれば，約2万～1万8千年前の海水準は，現在に比べ約 100m 前後低く，その後の温暖化にともない次第に上昇したとされる．約6千年前の縄文海進のピーク時には，吉野川河口部の汀線は，現在の地形面の標高 5m 程度内陸に入り込んでいたと推定され，鮎喰川は直接，紀伊水道に注ぎ込み，河口部に三角州性扇状地を形成したとみられる．その後，やや寒冷化する弥生時代以降，海面の低下と吉野川から流出した土砂の堆積により，三角州が発達していく（古田 1996，2005，平井 1998）．

2．歴史的環境

庄・蔵本遺跡は，縄文時代晩期から近現代にいたるまでの複合遺跡である．その形成過程を正しく理解するためには，当然のことながら，周辺の遺跡まで視野を広げることが不可欠である．そこで，周辺遺跡について，以下，時代ごとに概観する．

旧石器時代　現在のところ，庄・蔵本遺跡周辺で旧石器時代の遺跡は確認されていない．徳島県域においては，吉野川中・下流域の北岸に遺跡が分布する（氏家 2002）．

縄文時代　徳島県域において，縄文時代草創期～前期の遺跡は存在するものの，遺跡数は限られ，その様相は不明瞭である．中期になると，遺跡数が若干増加し，三好郡東みよし町の加茂谷川支流沿いに位置する加茂谷川1号岩陰や，吉野川中流域の美馬郡つるぎ町貞光前田遺跡では，船元Ⅰ式・里木Ⅱ式土器が確認されている．鮎喰川下流域左岸の矢野遺跡（図 1-1-18）では，中期末～後期前葉の居住域が検出されている（湯浅 2002）．

庄・蔵本遺跡周辺で，遺跡形成が顕著となるのは後期後葉以降であり（中村編 2011），庄遺跡（図 1-1-6）の財務省蔵本住宅地点では，後期後葉の住居跡1棟が検出されている（岡山編 1999）．また，同遺跡の各調査地点では，後期末～晩期前半の土器や石器が確認されている（湯浅 2002，中村編

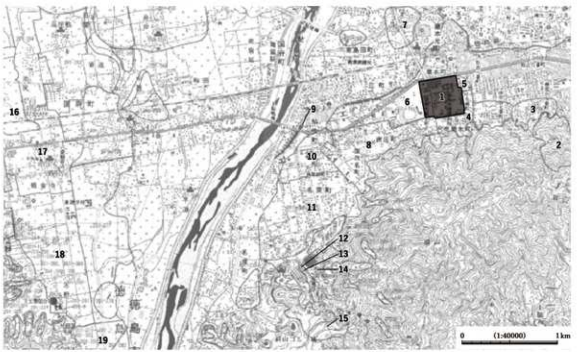


図 1-1　庄・蔵本遺跡と周辺遺跡の位置

1. 庄・蔵本遺跡　2. 蜂須賀家万年山墓所　3. 三谷遺跡　4. 南蔵本遺跡　5. 蔵本遺跡　6. 庄遺跡　7. 中島田遺跡　8. 南庄遺跡　9. 袋井用水の水源地　10. 鮎喰遺跡　11. 名東遺跡　12. 節句山 1 号墳　13. 節句山 2 号墳　14. 穴不動古墳　15. 八人塚古墳　16. 敷地遺跡　17. 観音寺遺跡　18. 矢野遺跡　19. 延命遺跡（徳島県教委・徳島県埋文編 2006 をもとに作成）

2011）．名東遺跡（図 1-1-11）では，晩期後半の自然落ち込みから突帯文土器と石器が出土した（勝浦編，1990）．

弥生時代　三谷遺跡（図 1-1-3）では名東遺跡より新しい時期に位置づけられる，突帯文土器と遠賀川式土器との共伴関係が確認されている（勝浦編 1997）．近年の調査でもこの時期の集落域の一部が明らかとなっている（中村 2016，2017）．庄・蔵本遺跡では，弥生時代前期前葉～中葉の居住域・墓域・生産域からなる集落の全容が把握され，隣接する南蔵本遺跡（図 1-1-4）まで広がることが確認されている（近藤編 2014 ほか）．これらの遺跡では，前期末から中期初頭の洪水起源砂層が確認されており，洪水砂によって集落のほとんどが埋没したものと推定されている（中村編 2011 ほか）．庄・蔵本遺跡や名東遺跡周辺で確認された自然流路は，鮎喰川の旧分流の一部とみられ，弥生時代初期の居住域は，これらの旧分流の中州か眉山北麓斜面に存在したと考えられている（古田 2005）．

庄・蔵本遺跡一帯では，中期前葉～中葉の遺構は極めて少なく，この時期の集落構造は判然としない．中期後葉になると，居住域や墓域が明瞭になる．鮎喰川流域では，右岸の名東遺跡や庄・蔵本遺跡一帯で数十基の方形周溝墓，左岸の矢野遺跡（図 1-1-18）で，30 棟前後の竪穴住居跡が確認されている．ただし，水田などの生産域はわかっていない．つづいて後期初頭になると，これらの遺跡一帯では，遺構・遺物の数はともに極端に減少する（近藤 2012）．なお，名東遺跡（図 1-1-11）では，中期後葉～後期初頭の所産とみられる扁平紐式銅鐸の埋納遺構が検出されている（勝浦編 1990）．

後期前半は，それ以前に比べると，竪穴住居跡の数は少なく，墓域や生産域も不明瞭である．その後，後期後半～終末期になると，竪穴住居跡数は増加し，中期後半の数を上回るようになる．矢野遺跡（図

1-1-18）では，蛇紋岩製勾玉の未成品や鍛冶関連遺構，突線紐式銅鐸の埋納遺構が確認されている．矢野遺跡の南に隣接する延命遺跡（図 1-1-19）では，墳丘墓などからなる墓域が認められ，石井城ノ内遺跡では水田が確認されている（近藤 2012）．

古墳時代　眉山西北麓の丘陵尾根上には，前期古墳が点在する．節句山古墳群（図 1-1-12・13）の2号墳からは，浮彫式獣帯鏡が出土している．本学考古学研究室が測量調査を実施した八人塚古墳（図 1-1-15）は，全長約 60m の前方後円墳で，川原石を用いた積石塚である（東ほか 2006）．庄・蔵本遺跡の南側に面した眉山北麓では，今のところ前期古墳や居住域は確認されていない．中期の古墳，居住域もまた未発見である．後期になると，横穴式石室をもつ穴不動古墳（図 1-1-14）などがみられるが，やはり集落域はわかっていない（北條編 1998，中村編 2011）．

古代　観音寺遺跡や敷地遺跡（図 1-1-16・17）の発掘調査により，多数の木簡および多彩な遺構・遺物が確認され（藤川編 2002 ほか），これらの遺跡一帯は，国府であった可能性が高い（藤川 2015 ほか）．庄・蔵本遺跡と名東遺跡周辺では，大型の掘立柱建物跡や墨書土器，石帯，木製祭祀具などが相対的に多く出土しており，郡衙である名東郡にあたる可能性が指摘されている（早渕 2002，藤川 2002）．また，この一帯では条里地割に関係するとみられる溝が検出されている．

中世　12 世紀後半～ 13 世紀が中心時期とされる中島田遺跡（図 1-1-7）では，道路状遺構と，その両側で屋敷地区画が確認されている．また，徳島県域の他の遺跡で多数を占める和泉型瓦器椀よりも，吉備系土師器椀が多数出土したことが注目されている（石尾 2002，島田 2008）．そこから，この遺跡を物資の集散地とみなし，さらに「市庭」跡（福家 2002）や「市町」（石尾 2002）と解釈する見解も提出されている．名東遺跡や庄遺跡周辺では，溝などの遺構や瓦器・土師器などの遺物が検出されているが，遺跡の性格ははっきりしない（福家 2002，島田 2008）．

近世　庄・蔵本遺跡一帯は，城下町周辺の散村および水田であった可能性が高く，後述する鮎喰川の改修工事などにより水田開発が進められていったと考えられる．この時期の水田開発により，古墳時代から中世にかけての遺構の多くが，削平された可能性が指摘されている（中村編 2011）．また，佐古に所在する蜂須賀家万年山墓所（図 1-1-2）は，10 代藩主蜂須賀重喜が藩政改革を背景に造成した儒式の墓地で，以後，蜂須賀家は仏式の興源寺と儒式の万年山による両墓制をとるようになった（徳島県の歴史散歩編 2009）．

鮎喰川の河川改修の記録としては，天正 15 年（1587）の「逢庵堤」が知られている．これは徳島城の築城および名東郡の洪水対策のために，右岸の築堤が行われたというものである．その後，享保年間（1716 ～ 1736 年）や寛政年間（1789 ～ 1801 年）の工事によって，右岸の連続築堤が完成された．しかし，逆にこれが天井川化を加速させ，今日にいたる洪水被害の一因となったという（古田 2005）．ほかに，元禄年間（1688 ～ 1704 年）には，鮎喰川流域右岸の水不足解消のため，袋井用水（図 1-1-9）の開削が開始されたという記録もある．また，蔵本付近は伊予街道と讃岐街道の分岐点に位置し，交通の要所でもあった（ふるさと徳島編 1991）．

近現代　現在の蔵本キャンパスとその周辺にあたる区域では，1907 年，陸軍第 10 旅団司令部，歩兵第 62 連隊が設置されたが，第 1 次大戦後は廃止された．これにかわり 1925 年，歩兵第 43 連隊が移駐し，以後，1945 年まで存続することとなった．また，1908 年に徳島衛戍病院が設けられ，その後，徳島陸軍病院と改称された．また，1945 年 7 月 4 日の徳島大空襲の後，同月 24 日に 1 トン爆弾によって，歩兵第 43 連隊本部を標的とした蔵本空襲があった（山川 1995）．

終戦後まもなく連隊跡地には，1947 年に官制徳島医学専門学校および同附属病院が移転し，翌年には徳島医科大学および同附属病院となった．1949 年には，国立大学徳島大学および同附属病院が設置された．また，陸軍病院跡には県立中央病院，練兵場跡には蔵本公園・賀茂名中学校，実弾射撃場跡には徳島県立林業試験場（林業総合技術センター）が，それぞれ置かれることとなった（ふるさと徳島編 1991）．

3．庄・蔵本遺跡の概要

1982 年に始まった蔵本キャンパスでの発掘調査は，2022 年 7 月現在，計 35 次にも及び，35,000 ㎡以上の面積がその対象となった（図 1-2，表 1-1）．前節でも適宜触れてきたが，ここではとくに個々の調査地点に焦点をあて，その成果を振り返っておきたい．

庄・蔵本遺跡では，縄文時代から現代にいたるまでの幅広い時期の，遺構・遺物が多数確認されている．なかでも，弥生時代前期前葉～中葉のものについては，墓域・生産域・居住域からなる集落の全体像を描き出すほどの成果が得られており，注目される．

この時期の墓域については，キャンパスの南西部（第 6 次調査地点）と南東部（ボイラータンク地点，第 22 次調査地点）の二か所で確認されている．第 6 次調査地点では，石棺墓・配石墓・土壙墓・甕棺墓といった計 20 基以上の墓からなる墓域が明らかとなった（北條編 1998）．ボイラータンク地点・第 22 次調査地点でも，石棺墓・土坑墓が確認された（中村 2010b，端野編 2018）

生産域については，水田跡が検出されており（第 17・19・24・28 次調査地点），これが本遺跡の東側に位置する南蔵本遺跡県立中央病院地点まで広がることがわかっている（近藤編 2014）．また，構内の南端を東流する旧河道（第 5・13・15・16・27 次調査地点）と，ここから分岐する用水路網（第 5・9・10・13・15・16・26・27・29 次調査地点など）が検出され，水田への給水システムも判明しつつある．さらに，第 20 次調査では，畝を伴う畑跡（中村 2009b）が確認されている．こうした弥生時代前期中葉の畑跡の検出例は，全国的にみても極めてまれであり，特筆に値する．第 27 次調査でも畝状の遺構が検出されており，これも畑跡の可能性がある（端野ほか 2015）．

居住域については，第 1 ～ 3・15 次調査では，構内で土坑群が検出され，その存在がうかがえるものの，明確な住居跡は検出されていない．ただし，庄・蔵本遺跡の南側に位置する南蔵本遺跡では，この時期の住居跡が数基検出されており（徳島市教委 1989，中村 1998，2002 ほか），遺跡南側の眉山北麓に居住域の存在が推定される．また，この時期の植物種実や木製品が良好な状態で検出されたことは，考古学だけではなく植物学的にもきわめて重要な成果といえる（中村 2009b，2010c，端野ほか 2015 ほか）．

以上の弥生時代前期前葉～中葉の集落は，遅くとも弥生時代前期末から中期初頭にかけての時期に，その大部分が洪水砂によって埋没したとみられている（中村編 2011 ほか）．この洪水砂層上に堆積した弥生時代前期末・中期初頭～中世の土層は，土壌化が著しく進行し，時期ごとに遺構面を検出することは困難である．そのため，この間については，集落の全体像を描くことは難しい．断片的な把握にとどまるが，重要な遺構・遺物について以下，詳述する．

第 7 次調査では，弥生時代中期初頭～中葉の溝が検出されている．この時期の遺構は，本遺跡一帯では検出例が極めて少なく，集落構造の変遷を押さえるうえで，貴重な資料である．構内の南半部に位置する第 2・13・16・20・27 次調査地点では，弥生時代中期後葉前後の方形周溝墓が確認されている

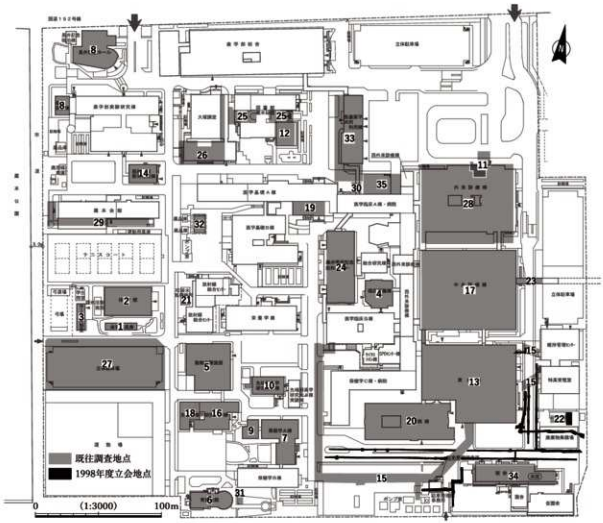


図 1-2　庄・蔵本遺跡における調査地点の位置

(定森・中村編 2005，中村 2009b，端野ほか 2015 ほか)．また，第 16・18 次調査地点では，終末期の鍛冶関連遺構をはじめ，羽口，鉄滓，スラグ，石製の鉄槌や砥石が出土しており（中村 2003），この地での鉄器生産の存在がうかがえる．第 27 次調査地点では，後期後葉から終末期に位置づけられる一〇（形）土坑を伴う住居跡や，終末期の突線紐式銅鐸片（端野ほか 2015）が，第 17 次調査では異体字銘帯鏡片が確認されている（徳大施設・徳大埋文 2000）．

第 2 次調査では，古墳時代前期（布留式期前後）の住居跡や井戸が検出されており（定森・中村編 2005），同地点辺りにこの時期の居住域が存在していたことがわかる．古墳時代中期のものとしては，第 7 次調査で祭祀遺構とみられる溝から須恵器，勾玉形石製品が（中村編 2011），第 9 次調査で同じ溝

表 1-1　庄・蔵本遺跡発掘調査一覧

調査次数	調査地点	調査年度	調査期間	調査主体	調査担当者 *は調査主任	調査面積(㎡)	文献
1	体育館器具庫新営	1982	1982年11月30日～1983年2月5日	徳島県教育委員会	鳥居賢二、秋山浩一ほか	147	中村編2010
2	体育館新営	1982・1983	1983年1月中旬～11月30日	徳島県教育委員会	脇室清司、久保脇美朗ほか	1160	定森・中村編2005、中村編2010
3	調外活動共用施設新営	1984	1984年7月3日～8月10日	徳島県教育委員会	脇室清司、久保脇美朗ほか	157	中村編2011
4	医学部臨床講義棟新営	1985	1985年4月25日～7月14日	徳島県教育委員会	松本佳美、大谷泰久ほか	655	中村編2010
5	動物実験施設新営	1985	1985年9月2日～12月28日	徳島県教育委員会	松本佳美、大谷泰久ほか	1321	中村編2008
6	青藍会館（同窓会館）新営	1986	1986年12月11日～1987年3月20日	徳島大学	岡内三眞、河野雄次ほか	540	北條編1998
7	医療技術短期大学校舎新営	1987	1987年4月1日～8月31日	徳島県教育委員会	羽山久男、久保脇美朗ほか	870	中村編2011
8	長井記念ホール・薬学部実験研究棟新営	1990	1990年1月11日～2月28日	徳島大学	岡内三眞、桑原久男	1430	北條編1998
9	医療技術短期大学校舎増築	1992	1992年7月11日～9月4日	徳島大学	東潤、北條芳隆*	310	北條編1998
10	酵素科学研究センター新営	1993	1993年5月26日～9月30日	徳島大学	東潤、北條芳隆*	623	北條編1998
11	MRI・CT装置棟新営	1993	1994年2月18日～3月17日	徳島大学	東潤、北條芳隆*	224	HPに概要報告書を掲載
12	附属図書館蔵本分館増築	1993	1994年2月25日～3月24日	徳島大学	東潤、北條芳隆*	288	HPに概要報告書を掲載
13	東病棟新営（病棟Ⅰ期）	1994～1996	1995年3月27日～1996年7月31日	徳島大学	東潤、北條芳隆*	5000	HPに概要報告書を掲載
14	医歯薬湾教育研究センター新営	1995	1995年6月21日～9月5日	徳島大学	東潤、橋本達也*	300	HPに概要報告書を掲載
15	共同講義設置	1996・1997	1996年11月1日～1997年7月	徳島大学	北條芳隆、橋本達也、中村豊*	1754	HPに概要報告書を掲載
16	ゲノム機能研究センター新営	1998	1998年9月1日～1999年2月2日	徳島大学	北條芳隆、橋本達也*、中村豊	1000	HPに概要報告書を掲載
17	中央診療棟新営	1999	1999年8月1日～2000年3月	徳島大学	北條芳隆、中村豊*	5000	HPに概要報告書を掲載
18	ゲノム機能研究センター増築	2001・2002	2002年3月11日～6月10日	徳島大学	北條芳隆、中村豊*	311	HPに概要報告書を掲載
19	医学系総合実験研究棟Ⅱ期改修	2006	2006年4月17日～7月25日	徳島大学	定森秀夫、中村豊*、中原計	324	中村2009a
20	西病棟新営	2006	2006年6月27日～2007年3月15日	徳島大学	定森秀夫、中村豊*、中原計	2645	中村2009b
21	医学系総合実験研究棟Ⅱ期改修（RI棟排水処理設備）	2007	2007年10月22日～11月7日	徳島大学	定森秀夫、中村豊*、中原計	45	中村2010a
22	西病棟新営その他電気設備	2007	2008年1月9日～2月14日	徳島大学	定森秀夫、中村豊*	103	中村2010b、端野編2018
23	連絡橋建設	2011	2011年4月4日～4月18日	徳島大学	中村豊*、遠部慎	100	HPに概要報告書を掲載
24	藤井節郎記念医科学センター新営	2011	2011年10月7日～2012年3月14日	徳島大学	中村豊*、遠部慎	1800	三阪編2016
25	附属図書館蔵本分館増築Ⅱ期	2011	2011年10月6日～10月26日	徳島大学	中村豊*、遠部慎	430	三阪編2016
26	大塚講堂改修	2012	2012年4月9日～6月1日	徳島大学	中村豊、遠部慎*、山口雄治	1030	三阪編2016
27	立体駐車場新営	2012・2013	2012年5月1日～2013年4月19日	徳島大学	中村豊、遠部慎、山口雄治*	3610	端野ほか-2015
28	外来診療棟新営	2012	2012年7月2日～2013年1月9日	徳島大学	中村豊、遠部慎*、山口雄治	3688	三阪編2016
29	学生支援センター改修	2011	2012年10月31日～2013月2月5日	徳島大学	中村豊*、遠部慎、山口雄治	554	三阪編2016
30	渡り廊下建設	2016	2016年11月14日～12月1日	徳島大学	三阪一徳*	70	端野編2018
31	解剖体慰霊碑区域	2017	2017年8月21日～24日	徳島大学	端野晋平*・三阪一徳	20	HPに概要報告書を掲載
32	給水設備新営	2018	2018年7月31日～9月5日	徳島大学	端野晋平*	134	HPに概要報告書を掲載
33	病院臨利厚生施設新営	2018	2018年9月6日～12月13日	徳島大学	端野晋平*	1490	HPに概要報告書を掲載
34	寄宿舎棟新営	2019	2019年7月1日～10月7日	徳島大学	端野晋平*	1212	HPに概要報告書を掲載
35	多用途型トリアージスペース新営	2020	2021年3月2日～4月6日	徳島大学	端野晋平*	275	HPに概要報告書を掲載

の延長部から須恵器に加え，朝顔形埴輪片が出土している（北條編1998），第27次調査では，古墳被葬者の副葬品とみられる玉類や石製紡錘車が出土しており（端野ほか2015），これらの事実は，付近にかつて古墳が存在した可能性を示唆する．第2次調査などでは，掘立柱建物跡や墨書土器，木製祭祀具，石帯などが確認されている．これらにもとづいて，本遺跡周辺を古代の郡衙である名東郡に比定する説が提出されているのは，前節で述べた通りである．また第2次調査では，飛鳥時代から鎌倉時代にかけての大溝・水路が検出されている．飛鳥時代の大溝は東西正方向をとるのに対し，10世紀後葉～11世紀前葉の水路，13世紀前葉の大溝はやや北に振れた東西方向をとることが注意され，その背後に条里制の変化がうかがえる（定森・中村編2005）．

近世の遺構としては，第11次調査などで水田跡や溝，井戸，暗渠が，第10次調査で木棺墓（北條編1998）が検出されている．これらは，絵図に描かれた「蔵本村」の農民層が残したものとみなせよう．そのほか，戦前，現在の蔵本キャンパス一帯は，旧陸軍や病院に関係する建造物が立地したことや，空襲にあったことが知られており，実際に発掘調査でも，これらに関連する遺構や遺物が時折，確認されている．

文献

東潮・中原計・石村友規・大谷育恵・松浦稔，2006．徳島市八人塚古墳測量調査報告．徳島大学総合科学部人間社会文化研究13，61-83．

石尾和仁，2002．中世阿波における集落の展開．徳島考古学論集刊行会（編），論集徳島の考古学．徳島考古学論集刊行会，徳島，pp.647-656．

氏家敏之，2002．先土器時代(旧石器時代)．徳島考古学論集刊行会(編)，論集徳島の考古学．徳島考古学論集刊行会，徳島，pp.11-28．

岡山真知子編，1999．庄遺跡Ⅲ：大蔵省蔵本団地宿舎新営工事（第3期工事）関連埋蔵文化財発掘調査報告．徳島県教育委員会・徳島県埋蔵文化財センター，徳島．

勝浦康守編，1990．名東遺跡発掘調査概要：名東町2丁目・宗教法人天理教国名大教会神殿建設工事に伴う発掘調査．名東遺跡発掘調査委員会，徳島．

勝浦康守編，1997．三谷遺跡：徳島市佐古配水場施設増設工事に伴う発掘調査．徳島市埋蔵文化財発掘調査委員会，徳島．

近藤玲，2012．徳島市眉山周辺の弥生集落の動態．徳島県埋蔵文化財センター研究紀要真朱10，31-48．

近藤玲編，2014．南蔵本遺跡：県立中央病院改築事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書．徳島県教育委員会・徳島県埋蔵文化財センター，徳島．

定森秀夫・中村豊編，2005．庄（庄・蔵本）遺跡：徳島大学蔵本団地体育館建設に伴う発掘調査報告書．徳島県教育委員会・徳島大学埋蔵文化財調査室，徳島．

島田豊彰，2008．吉野川流域における中世集落の様相．徳島県埋蔵文化財センター研究紀要真朱7，17-28．

徳島大学施設委員会・徳島大学埋蔵文化財調査室，2000．庄・蔵本遺跡発掘調査概要：新中央診療棟建設に伴う埋蔵文化財調査．徳島大学埋蔵文化財調査室，徳島．

徳島県教育委員会文化財課・徳島県埋蔵文化財センター編，徳島県遺跡地図，第2分冊，2006．徳島．

徳島県の歴史散歩編集委員会編，2009．徳島県の歴史散歩，歴史散歩36．山川出版社，東京．

徳島市教育委員会，1989．平成元年度文化財調査報告資料．徳島市教育委員会，徳島．

中村豊，1998．稲作のはじまり：吉野川下流域を中心に．東潮（編），川と人間：吉野川流域史．溪水社，広島，pp.79-100．

中村豊，2002．縄文から弥生へ－眉山北嶺遺跡群の分析から－．徳島考古学論集刊行会（編），論集徳島の考古学．徳島考古学論集刊行会，徳島，pp.245-258．

中村豊，2003．徳島における弥生時代終末期の鉄器生産．青藍1，25-36．

中村豊，2009a．医療系総合実験研究棟Ⅱ期改修に伴う埋蔵文化財発掘調査の成果．国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室年報 1，1-10.

中村豊，2009b．西病棟建設に伴う埋蔵文化財発掘調査の成果．国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室年報 1，11-28.

中村豊，2010a．庄・蔵本遺跡・医学系総合実験研究棟Ⅲ期改修その他工事に伴う埋蔵文化財発掘調査．国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室年報 2，1-9.

中村豊，2010b．庄・蔵本遺跡・西病棟新営その他電気設備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査．国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室年報 2，11-21.

中村豊，2010c．概要．国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室年報 2，33-42.

中村豊，2016．徳島市三谷遺跡の研究 1 －徳大 1 ・ 2 次発掘調査成果から－．国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室紀要 2，1-10.

中村豊，2017．徳島市三谷遺跡の研究 2 －徳大 3 ・ 4 次発掘調査成果から－．中村豊（編），縄文／弥生移行期における農耕の実態解明に関する研究．徳島大学大学院総合科学研究部，徳島，pp.23-43.

中村豊編，2008．庄(庄・蔵本)遺跡：徳島大学蔵本団地動物実験施設建設に伴う発掘調査報告書．徳島県教育委員会・国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室，徳島．

中村豊編，2010．庄（庄・蔵本）遺跡：徳島大学蔵本団地体育館器具庫・医学部臨床講義棟建設に伴う発掘調査報告書，体育館建設に伴う発掘調査報告書補遺．徳島県教育委員会・国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室，徳島．

中村豊編，2011．庄（庄・蔵本）遺跡：徳島大学蔵本団地課外活動共用施設・医療技術短期大学建設に伴う発掘調査報告書，弓道場建設に伴う立会調査報告書．徳島県教育委員会・国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室，徳島．

端野晋平編，2018．庄・蔵本遺跡 3 －ボイラータンク地点（1998 年度立会）・第 22・30 次調査地点－．国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室，徳島．

端野晋平・三阪一徳・脇山佳奈・山口雄治，2015．庄・蔵本遺跡第 27 次調査（立体駐車場地点）の成果．国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室紀要 1，43-97.

早渕隆人，2002．古代阿波における官衙と祭祀．徳島考古学論集刊行会（編），論集徳島の考古学．徳島考古学論集刊行会，徳島，pp.629-648.

平井松午，1998．吉野川の河川環境と流域史．東潮（編），川と人間：吉野川流域史．渓水社，広島，pp.3-25.

福家清司，2002．中世．徳島考古学論集刊行会（編），論集徳島の考古学．徳島考古学論集刊行会，徳島，pp.135-162.

藤川智之，2002．古代．徳島考古学論集刊行会（編），論集徳島の考古学．徳島考古学論集刊行会，徳島，pp.115-134.

藤川智之，2015．徳島県内における律令期腰帯具と出土遺跡．徳島県埋蔵文化財センター研究紀要真朱 11，71-84.

藤川智之編，2002．観音寺遺跡Ⅰ（観音寺遺跡木簡編）：一般国道 192 号徳島南環状道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書．徳島県教育委員会・徳島県埋蔵文化財センター，徳島．

ふるさと徳島編集委員会編，1991．ふるさと徳島．ふるさと徳島編集委員会，徳島．

古田昇，1996．徳島県吉野川・鮎喰川下流域平野の沖積層の形成過程．立命館地理学 8，61-72.

古田昇，2005．多様性をもつ中央構造線沿いの徳島平野．平野の環境歴史学．古今書院，東京，pp.209-246.

北條芳隆編，1998．庄・蔵本遺跡 1：徳島大学蔵本キャンパスにおける発掘調査．徳島大学埋蔵文化財調査室，徳島．

三阪一徳編，2016．庄・蔵本遺跡 2 －藤井節郎記念医科学センター新営，附属図書館蔵本分館増築Ⅱ期，大塚講堂改修，外来診療棟新営，学生支援センター改修－．徳島大学埋蔵文化財調査室，徳島．

山川浩實，1995．戦争から豊かな未来へ．徳島県立博物館，徳島．

湯浅利彦，2002．縄文時代．徳島考古学論集刊行会（編），論集徳島の考古学．徳島考古学論集刊行会，徳島，pp.29-61.

第2章　1998年度立会調査（排水管・東側溝・南側溝地点）の成果

端野晋平・脇山佳奈

1．調査にいたる経緯と経過

A　調査にいたる経緯

徳島大学蔵本キャンパスの南東部では，1997年度末から1998年度上半期にかけて，排水管の設置などに伴う工事が実施された．それまでの調査で，工事予定地の付近では，弥生時代前期～近世にかけての遺構・遺物（第10次調査地点），弥生時代前期の大溝や土坑（第12次調査地点）などが検出されており，これらに関係する遺構・遺物が，予定地の範囲まで広がっている可能性を予測し得た．そのため，1998年3月31日～1998年9月2日の期間で，工事に伴う土地掘削に際し，調査員2名による立会調査を実施した．調査面積は約970㎡である．

B　調査体制

調査体制は以下のとおりである．

調査主体　徳島大学埋蔵文化財調査室（室長　北條芳隆）
調査担当　橋本達也（総合科学部・助手）
　　中村　豊（開放実践センター・助手）
調査補助　岸本多美子・上田淑子・新谷多賀子・安山かおり・山本愛子（以上，施設マネジメント部・技術補佐員）

C　調査の経過

以下，調査日誌にもとづき，調査実施期間中の経過を記述する．なお，南側溝3地点の経過については，日誌が残されていないため，省略する．

3月31日　本学施設マネジメント部が設定した測量基準点T15からT14を視準し，構内に基準杭T15－1，T15－2を設定した．
4月3日　排水管南側の重機掘削を開始した．X950-960・Y1030-1060の範囲にあたる．調査は東西方向に延びる排水管の東端から西に向かって進めた．黒褐色シルト上面，黄褐色シルト層，黄褐色シルト下層（暗褐色細砂層）の順に掘り下げを行った．Y1050-1060でSD01・SK01を検出した．SK01の東側で弥生時代前期前葉の壺形土器が出土した．
4月7日　Y1050-1060の掘り下げを行った．SK02・SD02の図面作成，SK03・SK04の検出を行った．
4月8日　Y1040-1050の調査を行った．SK05の検出・写真撮影を行った．
4月9日　Y1040から西側へ向かって遺構検出を行った．
4月13日　Y1040の西側を重機掘削した．
4月15日　Y1030の西側を掘り下げた．
4月16日　Y1040-1045でSK07を検出し，遺構の掘り下げを行った．Y1030-1035でSK08を検出した．

4月17日　Y1030より西側の掘り下げを行った．
4月22日　Y1040-1045でSD03を検出した．SD03の東側でSK09を検出した．
4月24日　排水管南側の実測・写真撮影を行った．
4月28日　Y1030より西側の掘り下げを行った．
5月1日　Y1005-1030の掘り下げを行ったが，遺構・遺物ともに確認されず，排水管南側の調査を終了した．
6月8日　南北に延びる排水管東側の調査を開始した．その範囲はX955-990・Y1005-1020である．排水管東側の北半分に相当するX975-990・Y1010-1020より，SD59・SD44・SD46・SK10を検出した．
6月10日　SD59・SD44・SD46・SK10を掘削した．
6月11日　SK11を第3遺構面で検出した．SD66・SD67を検出した．
6月12日　SK11・SD67を掘削した．
6月24日　中央診療棟より南に位置する南側溝1地点Y990-1000の調査を開始し，重機掘削を行った．
6月25日　SI01を検出した．
6月26日　南側溝1地点Y990-1100の掘り下げを行った．
6月29日　南側溝1地点Y960-1100の調査を行い，SK102・SD101を掘削した．
6月30日　南側溝1地点Y960-1000の調査を行った．
7月1日　南側溝1地点Y950-990の調査を行った．SD104の検出，SP01の実測を行った．
7月2日　南側溝1地点Y970-990の調査を行った．SD102を検出した．
7月3日　南側溝1地点Y950-990の調査を行った．Y960より西側の重機掘削を行った．
7月6日　南側溝1地点Y965-990の調査を行った．SD102・SD103を掘削した．
7月7日　南側溝1地点の西側にあたるY880-900の重機掘削を行い，SK105の検出・掘削を行った．
7月8日　南側溝1地点Y880-900のSK105の調査を行った．1地点Y900-910で，SK106を検出した．同時に，南側溝2地点の調査を開始した．Y875-880で，1地点で検出されたSK105の続きを検出した．
7月9日　南側溝1地点Y900-910のSK106の掘削を引き続き行いつつ，Y920-950の掘削を進め，SK107を検出した．
7月10日　南側溝1地点Y900-940で，SD106・SD107・SK108を検出した．南側溝2地点Y890から東へ向かって重機掘削を行った．
7月13日　南側溝2地点で，SD107・SD108・SK109・SK110を掘削した．
7月14日　南側溝1地点Y920-940の調査を行い，Y920-930でSD107を掘削した．
7月15日　南側溝1地点Y920-930でSD107を掘削し，2地点Y890-910でSD108･SK112を検出した．
7月17日　南側溝2地点Y930-940の掘り下げを行った．
7月21日　南側溝2地点Y900-910のSD106，Y915-920のSD107，Y925-935のSD109，Y930-940のSK113を掘削した．
7月22日　南側溝2地点Y940-970で重機掘削を始めた．
7月23日　東側溝1・2地点の調査を始めた．東側溝1地点はX940-1010・Y1015-1020，東側溝2地点はX940-1020・Y1020-1025に位置する．東側溝1地点X970-980でSK11を検出した．

南側溝2地点Y930-950でSK115～118を掘削した．

7月24日　東側溝2地点X970付近でSK120を検出し，東側溝1地点X975-985でSK121・SK122・SK11を掘削した．排水管東側で検出したSD59の続きを確認した．南側溝2地点Y960~970の掘り下げを行った．

7月28日　南側溝2地点Y970-980でSD103を掘削した．

7月29日　南側溝2地点Y970-1000でSD103･SK123を掘削した．2地点Y930-940の掘り下げを行った．

7月30日　南側溝2地点Y930-940・960-970の掘り下げを行った．SK125・SK126を検出した．南側溝1地点SD103の続きを2地点で確認した．

7月31日　南側溝2地点Y930-950で，SK125・SK126・SK127を掘削した．

8月3日　南側溝2地点Y930-940・980-990を調査した．SK128・SK129を検出した．SK130の掘方は検出できなかった．2地点Y1000より東側の重機掘削を行った．

8月4日　南側溝2地点Y930-950・980-1000を調査した．Y970-980でSK131を検出した．

8月5日　南側溝2地点Y930-940・990-1010を調査した．Y1005-1010でSD110を検出した．

8月6日　南側溝2地点Y930-950で，SK125・SK126・SK127の遺物を取り上げた．2地点Y945-950でSK132を検出した．Y985-995でSD102を掘削した．

8月7日　南側溝2地点Y940-950・970-1100を調査した．SD102を完掘し，Y1005-1010でSD110の掘削，Y970-980でSK131，Y975-985でSK129の検出を行った．南側溝1地点Y1100より東側の重機掘削を行った．

8月17日　南側溝2地点Y1000から東へ向かって掘り下げを行った．南側溝1地点Y1100から東に向かって重機掘削を行った．

8月18日　南側溝2地点Y1020から東へ向かって重機掘削を行った．1地点Y1000-1020，2地点Y1000-1020の掘り下げを行った．

8月19日　南側溝2地点Y1000-1020を掘り下げ，1地点Y1020-1030・X940-950でSK133を検出した．東側溝1地点X940-950で重機掘削を行い，SD111・SK134を検出した．

8月20日　東側溝1地点X945-955で，SD111・SK134・SK137を掘削した．東側溝2地点X940-950の重機掘削を行った．南側溝2地点Y1020より東側で重機掘削を行った．

8月21日　東側溝2地点X945-955で，SD112（1地点SK134の続き）を検出した．南側溝2地点Y1020を掘り下げ，2地点Y1030より東側で重機掘削を行った．

8月24日　東側溝1地点X940-950で掘り下げを行った．東側溝2地点X945-955でSK138を検出した．南側溝2地点Y1010-1030を掘り下げ，SE01・SE02を検出した．

8月25日　Y1040-1050の重機掘削を行った．東側溝1地点X940-950を掘り下げた．南側溝1地点と東側溝2地点の交わるX940-950・Y1020-1030の掘り下げを行った．

8月26日　南側溝2地点Y1010-1030で黒褐色シルト層を掘り下げた．X940-950・Y1020-1030の掘り下げを行った．

8月27日　南側溝2地点Y1010-1030で黄褐色シルト層を検出した．X940-950・Y1020-1030の掘り下げを行った．

8月28日　東側溝2地点でSK133を掘削した．南側溝2地点Y1020-1030の掘り下げを行い，SD114

を検出した．

8月31日　南側溝1地点Y1020-1050の重機掘削を行った．南側溝2地点Y1010-1030の黄褐色シルト層を掘り下げた．SD114を掘削した．

9月1日　南側溝1地点Y1020-1050の重機掘削を行った．1地点Y1020でSK133の続きを検出した．

9月2日　南側溝1地点・東側溝2地点のSK133を掘削し，1地点Y1020-1040，2地点Y1010-1040の平面図を作成した．南側溝1・2地点，東側溝2地点の調査を終えた．

2．調査地点の位置と区割り

A　調査地点の位置

本稿で報告する地点は，徳島市蔵本町2丁目に所在し，蔵本キャンパス東南部に位置する．便宜上，調査地点を次の6つに呼び分けて報告する（図2-1）．すなわち，第13次調査地点の東側に位置し，南北に延びる二条の側溝工事に伴う地点を，西より「東側溝1地点」「東側溝2地点」と呼ぶ．この二つの地点と交わりつつ，第13次調査地点の東側，および第22次調査地点とボイラータンク地点の南側に位置する，L字形の地点を「排水管地点」と呼ぶ．そして，第13次調査地点の南側に位置し，東西に延びる二条の側溝工事に伴う地点を，北より「南側溝1地点」「南側溝2地点」，さらにその南側に展開する地点を「南側溝3地点」と呼ぶ．これらの地点の周辺ではそれまでに，第10・12次調査が実施され，弥生時代前期の遺構・遺物などが確認されていたのは先述の通りである．本報告地点の調査後も，第15・20・22次調査などでこれらに関係する遺構・遺物が確認され，とくに弥生時代前期前葉～中葉の集落域の様相が鮮明になっている．

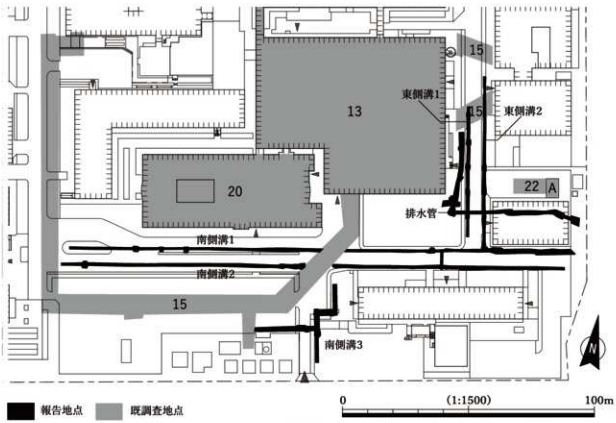
B　調査地点の区割り

南側溝1～3地点，東側溝1・2地点の調査にあたっては，本学施設部（現・施設マネジメント部）が構内とその周辺に設置した測量基準点にもとづく5mグリッドを用いた（図2-2～2-8）．このグリッドは，蔵本キャンパス外の南西に設定された原点からの距離で表現され，そのX軸・Y軸はそれぞれ，同キャンパスの南北道路，東西道路にほぼ平行する．排水管地点では調査時には，1－1～5区・2区・3区というように，独自の調査区が設定されていたが，本稿ではこれを用いず，南側溝1～3地点，東側溝1・2地点と同じ5mグリッドを用いて報告する．また，このグリッドと平面直角座標系（第Ⅳ系）との関係については，2017年4月，本学施設マネジメント部が設置した測量基準点の2点を現地で確認し，トータルステーションを用いた測量を行うことによって求めた．

3．基本層序

本調査地点の基本土層を，排水管・東側溝地点A-A'断面（図2-9）にもとづいて，以下，詳述する．なお，現地表面は標高約3.6mであり，そこから標高約2.8mまでは近代以降の造成土が堆積していた．

1層　暗灰黄色（2.5Y5/2）シルト質粘土からなる．上面の標高は約2.9m，厚さは10～20cmを測る．下部にマンガンが沈着し，炭化物を少量含む．



13. 東病棟新営(病棟I期)　15. 共同溝設置　20. 西病棟新営　22. 西病棟新営その他電気設備　A. ボイラータンク(1998年度立会)

図 2-1　調査地点の区分とその名称

2層　黄褐色（2.5Y5/3）粘土からなる．上面の標高は約 2.7 m，厚さは約 10cmを測る．下部に鉄分が沈着する．

3層　暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト質粘土からなる．上面の標高は 2.6 ～ 2.65 m，厚さは約 10cmを測る．マンガン・鉄分を含む．

4層　黄褐色（2.5Y5/3）細砂からなる．上面の標高は 2.5 ～ 2.55 m，厚さは約 10cmを測る．マンガンを多量含む．

5層　オリーブ褐色（2.5Y4/3）の細砂を含むシルトからなる．上面の標高は 2.4 ～ 2.6 m，厚さは 20 ～ 50cmを測る．マンガンを含む．

6層　灰オリーブ色（5Y5/3）細砂からなる．上面の標高は 2.2 ～ 2.6 m，厚さは約 30cmを測る．鉄分を含む．

7層　にぶい黄褐色(10YR4/3)細砂からなる．上面の標高は約 2.2 m，厚さは約 10cmを測る．マンガン・鉄分を多量含む．

8層　灰オリーブ色（5Y5/3）細砂からなる．上面の標高は 2.15 ～ 2.2 m，厚さは約 10cmを測る．マンガンを多量含む．

9層　暗灰黄色（2.5Y5/2）粘質土からなる．上面の標高は約 2.1 m，厚さは約 20cmを測る．鉄分を含む

10層　暗オリーブ色(5Y4/3)粘土からなる．上面の標高は約 1.9 m，厚さは約 20cmを測る．鉄分を含む．

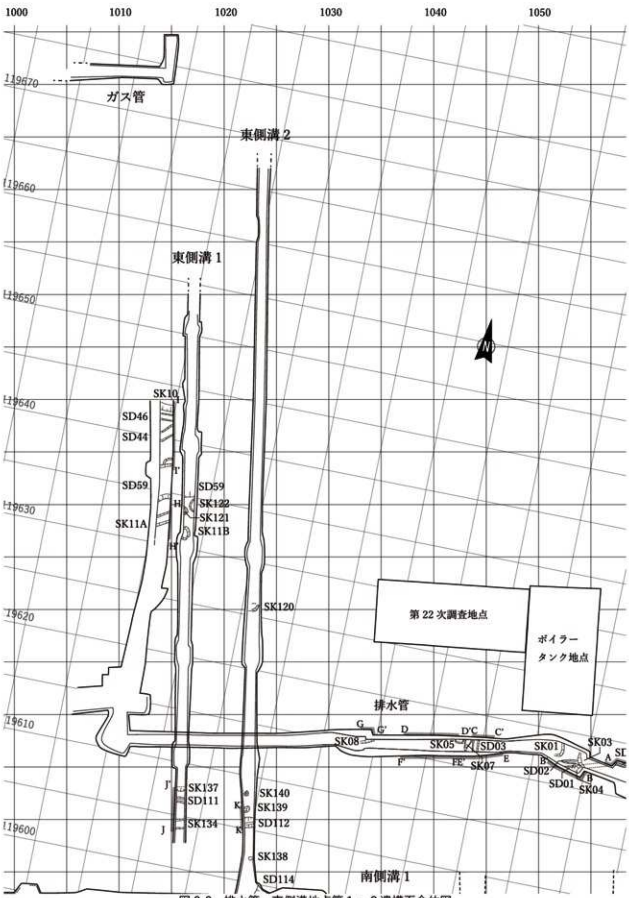


図 2-2　排水管・東側溝地点第１・２遺構面全体図

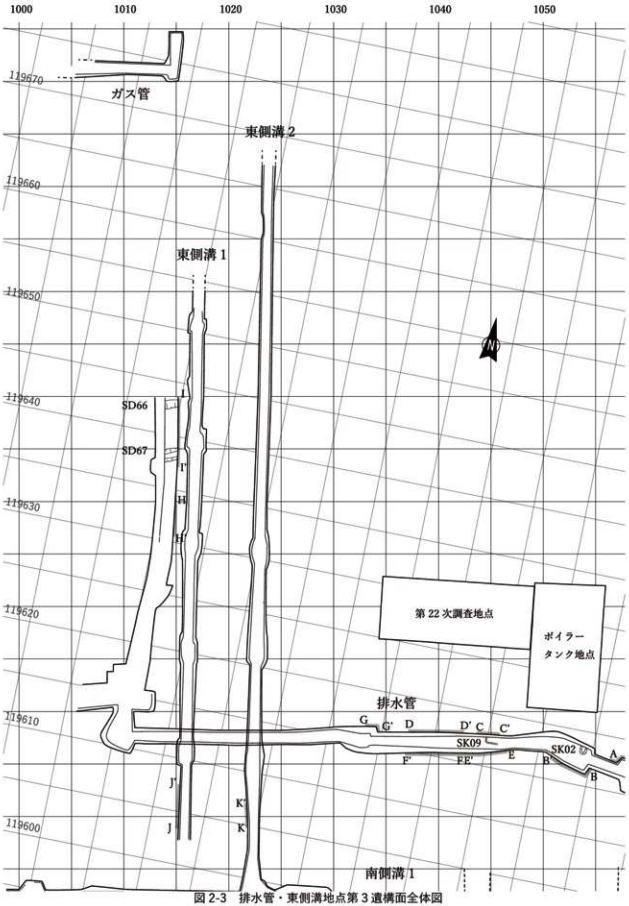


図 2-3　排水管・東側溝地点第３遺構面全体図

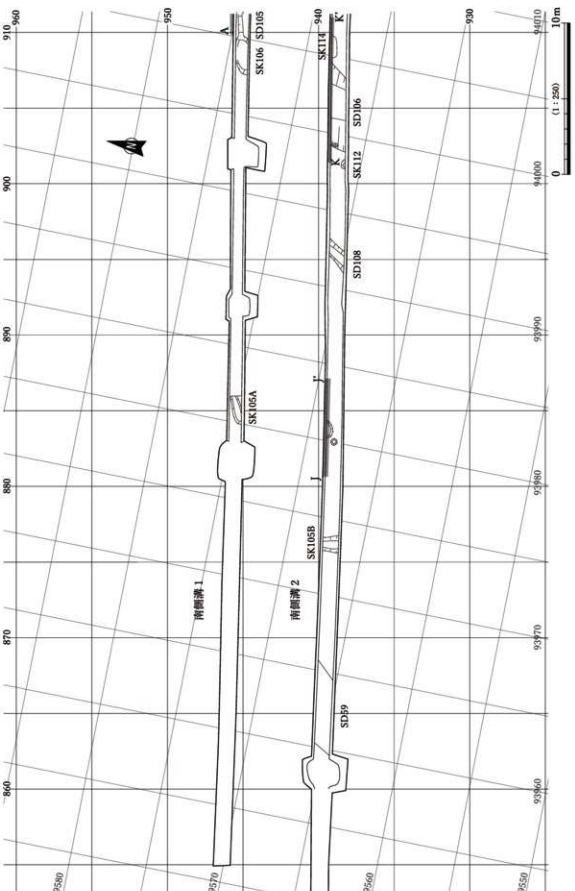


図 2-4　南側溝 1・2 地点遺構面全体図（1）

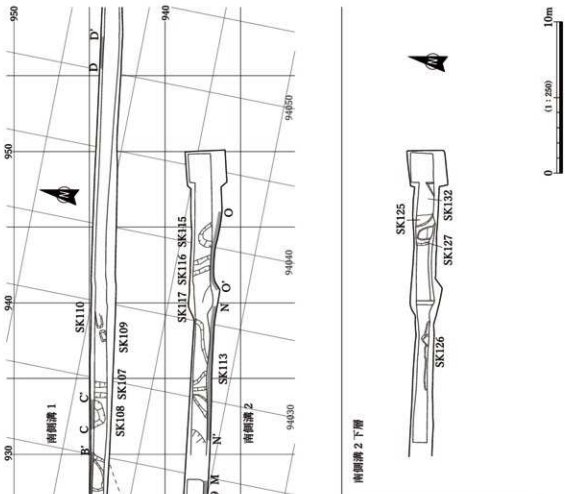


図 2-5　南側溝 1 ・ 2 地点遺構面全体図（2）

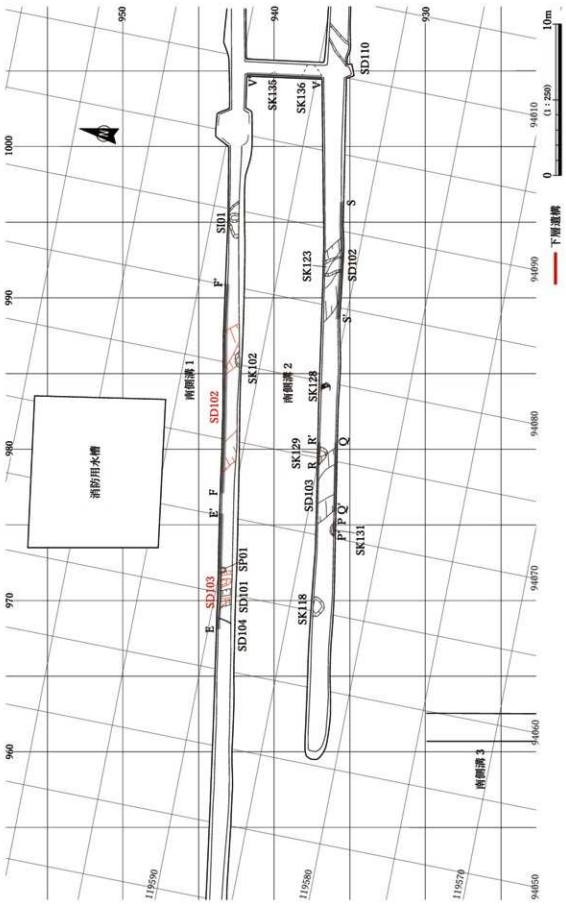


図 2-6　南側溝 1・2 地点遺構面全体図（3）

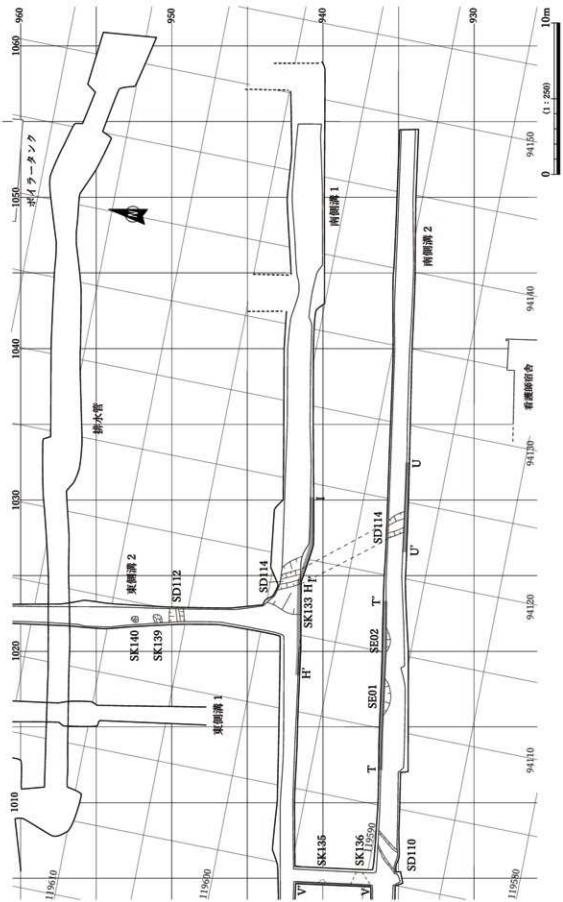


図 2-7　南側溝 1・2 地点遺構面全体図（4）

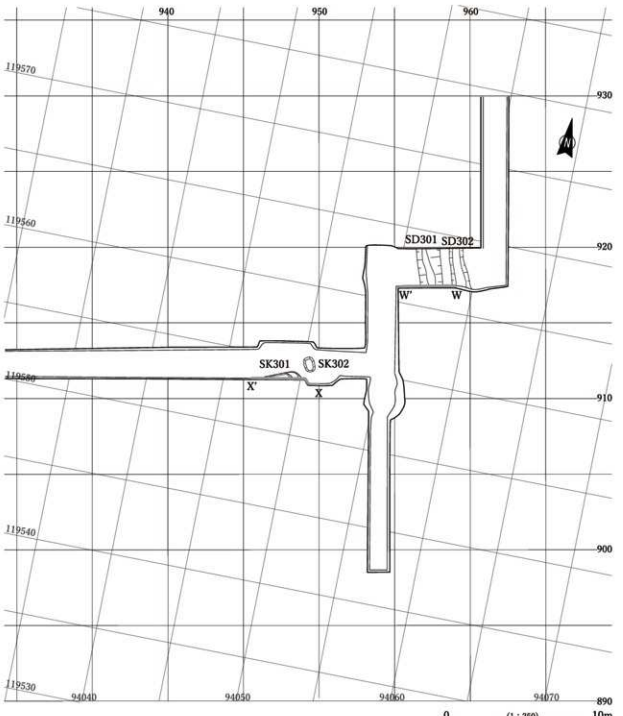
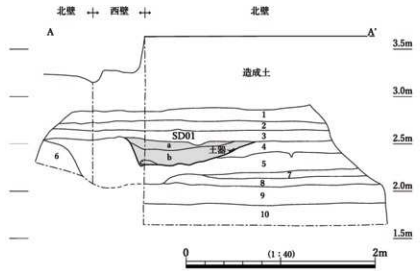
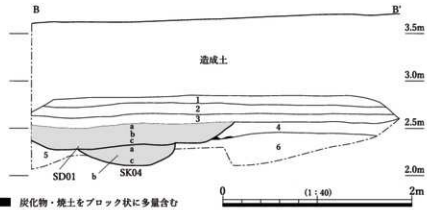


図 2-8　南側溝 3 地点遺構面全体図



[A-A']
1　暗灰黄色（2.5Y5/2）シルト質粘土，下部にマンガン沈着，炭化物少量含む
2　黄褐色（2.5Y5/3）粘土，下部に鉄分沈着
3　暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト質粘土，マンガン・鉄分含む
4　黄褐色（2.5Y5/3）細砂，マンガン多量含む
5　オリーブ褐色（2.5Y4/3）細砂，マンガン含む
6　灰オリーブ色（5Y5/3）細砂，鉄分含む
7　にぶい黄褐色（10YR4/3）細砂，マンガン・鉄分多量含む
8　灰オリーブ色（5Y5/3）細砂，マンガン多量含む
9　暗灰黄色（2.5Y5/2）粘質土，鉄分含む
10　暗オリーブ色（5Y4/3）粘土，鉄分含む

[SD01]
a　黒褐色（2.5Y3/2）シルト，マンガン多量含む
b　暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト，マンガン含む
c　暗灰黄色（2.5Y5/2）粘質土，砂性あり，鉄分多量含む

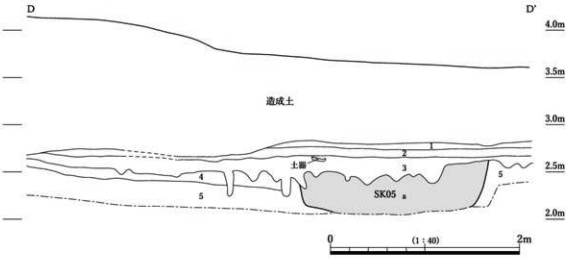


[B-B']
1　暗灰黄色（2.5Y5/2）シルト質粘土，下面にマンガン沈着
2　黄褐色（2.5Y5/3）粘土，下半分に鉄分の沈着が顕著
3　暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト質粘土
4　黄褐色（2.5Y5/4）シルト・細砂，炭化物・土器片含む，暗褐色（10YR3/3）炭化物・焼土ブロック多量含む
5　オリーブ褐色（2.5Y4/3）細砂
6　にぶい黄褐色（10YR4/3）中粒砂，マンガン・炭化物含む

[SD01]
a　暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）シルト
b　暗灰黄色（2.5Y5/2）シルト質粘土，黄灰色（2.5Y6/1）粘土ブロック含む
c　オリーブ褐色（2.5Y4/6）シルト質粘土

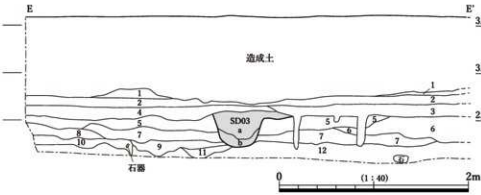
[SK04]
a　オリーブ褐色（2.5Y4/3）シルト，炭化物含む
b　黒色（2.5Y2/1）炭化物
c　暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）中粒砂

図2-9　排水管地点土層断面図（1）



[D-D']
1 暗オリーブ灰色（2.5GY4/1）シルト質粘土
2 灰オリーブ色（7.5Y4/2）シルト質粘土，下層に鉄分沈着
3 暗褐色（10YR3/3）粘質土，マンガン多量含む，土器片含む
4 暗オリーブ色（5Y4/3）砂質土，細砂含む
5 オリーブ褐色（2.5Y4/3）砂質土，粘性あり

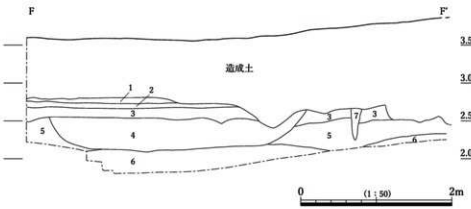
[SK05]
a 灰オリーブ色（5Y4/2）細砂，鉄分含む



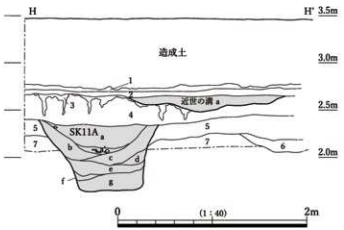
[E-E']
1 暗オリーブ灰色（2.5GY4/1）シルト質粘土
2 灰オリーブ色（7.5Y5/2）シルト質粘土，下部にマンガン沈着
3 暗灰黄色（2.5Y4/2）粘質土，マンガン多量含む
4 オリーブ褐色（2.5Y4/3）シルト，マンガンの沈着が顕著，やや黒色をおびる
5 黄褐色（2.5Y5/4）シルト
6 オリーブ褐色（2.5Y4/4）細砂
7 オリーブ褐色（2.5Y4/3）細砂，マンガンの沈着が顕著，シルト質粘土含む
8 暗褐色（10YR3/4）中粒砂，マンガンの沈着が顕著
9 にぶい黄褐色（10YR4/3）細砂・中粒砂，上面に土器含む
10 暗褐色（10YR3/4）細砂・シルト質粘土，マンガンの沈着が極めて顕著，石器含む
11 灰黄褐色（10YR4/2）粘土含むシルト，炭化物含む，遺構内埋土か?
12 オリーブ褐色（2.5Y4/4）粘土含む細砂

[SD03]
a オリーブ色（5Y5/4）細砂含むシルト
b 暗オリーブ色（5Y4/3）シルト含む細砂

図 2-10　排水管地点土層断面図（2）



[F-F']
1 暗オリーブ灰色（2.5GY4/1）シルト質粘土
2 灰オリーブ色（7.5Y5/2）シルト質粘土，下部にマンガン沈着
3 暗灰黄色（2.5Y4/2）粘質土，マンガン多量含む
4 暗オリーブ色（5Y4/3）細砂，大部分はグライ化している(暗オリーブ灰色2.5GY4/1)
5 オリーブ褐色（2.5Y4/3）砂質土，粘性あり，マンガン含む
6 灰オリーブ色（5Y5/3）粘土，マンガン含む
7 暗オリーブ色（5Y4/3）細砂，暗灰黄色（2.5Y4/2）粘質土ブロック含む

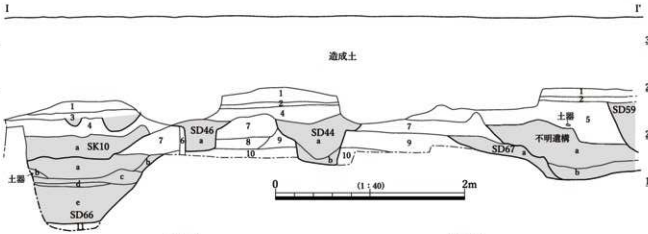


[H-H']
1 灰オリーブ色（5Y4/2）粘土
2 暗オリーブ色（5Y4/3）粘土
3 暗褐色粘質土
4 黄褐色（2.5Y5/3）シルト
5 黄褐色（2.5Y5/4）シルト
6 黄褐色（2.5Y5/4）細砂含むシルト
7 オリーブ褐色（2.5Y4/3）細砂含むシルト

[近世の溝]
a 灰オリーブ色（5Y5/3）シルト質粘土

[SK11A]
a 灰オリーブ色（5Y5/3）細砂・中粒砂，マンガン含む
a' 灰オリーブ色（5Y5/3）細砂・中粒砂，遺物が集中
b 灰オリーブ色（5Y5/2）細砂，硬くしまる
c 暗灰黄色（2.5Y5/2）シルト質粘土，細砂ラミナ状に含む
d 灰オリーブ色（5Y5/2）細砂・シルト
e 灰オリーブ色（7.5Y5/2）シルト，細砂ラミナ状に含む
上面に鉄分の沈着顕著
f 暗オリーブ灰色（5GY4/1）粘土・シルト
g オリーブ褐色（2.5Y4/4）粗砂・中粒砂

図 2-11　排水管地点土層断面図（3）



[I-I']
1 灰オリーブ色（7.5Y4/2）粘質土
2 黄褐色（2.5Y5/3）粘土
3 オリーブ灰色（10Y4/2）粘土
4 黒褐色（2.5Y3/2）シルト質粘土
5 黒褐色（2.5Y3/2）シルト質粘土，黄褐色シルトを多量含む
6 灰オリーブ色（5Y4/2）粘土質
7 黄褐色（2.5Y5/4）シルト質粘土
8 暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）シルト質粘土，粘性強い
9 暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト質粘土
10 暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）砂，鉄分を多量含む
11 暗緑灰色（10GY4/1）粘土，極細砂含む

[SK10]
a 褐色（2.5Y5/3）シルト，4層を斑状に含む

[SD46]
a 暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト質粘土，粘性強い

[SD44]
a 黒褐色（10YR3/2）シルト質粘土，黄褐色シルト斑状に含む
b 黒褐色（10YR3/2）シルト質粘土

[不明遺構]
a 暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト質粘土
b 暗灰黄色（2.5Y4/2）砂，鉄分多量含む

[SD66]
a オリーブ褐色（2.5Y4/3）シルト質粘土，砂含む
b 暗灰黄色（2.5Y5/2）シルト質粘土
c 灰オリーブ色（5Y5/2）細砂，鉄分含む
d 灰オリーブ色（5Y5/2）細砂
e 暗緑灰色（10GY4/1）細砂

[SD67]
a オリーブ褐色（2.5Y4/3）シルト質粘土，砂粒含む

図 2-12　排水管地点土層断面図（4）

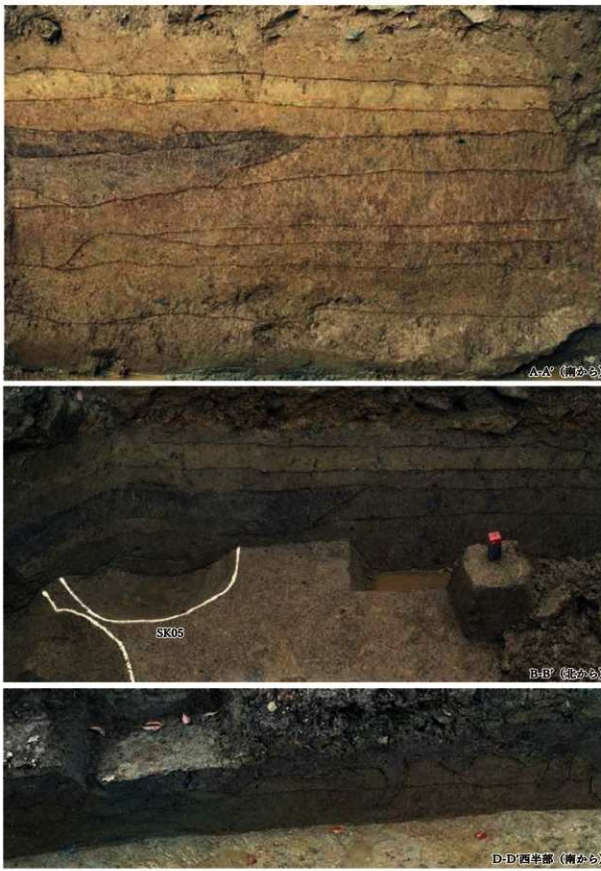
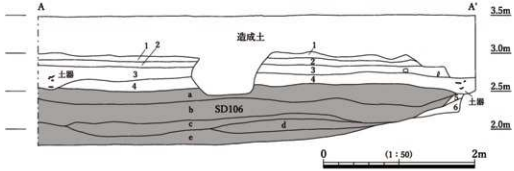


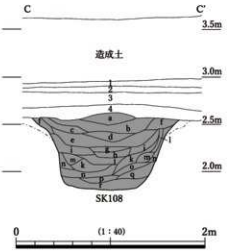
図 2-13　排水管地点土層断面写真（1）

図 2-14　排水管地点土層断面写真（2）



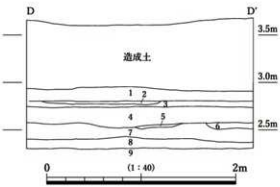
[A-A']
1 灰オリーブ色（7.5Y4/2）シルト
2 黄褐色（2.5Y5/3）シルト，鉄分含む
3 黒褐色（2.5Y3/2）シルト，鉄分・マンガン・土器片含む
4 暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト（１～３層より粘性強い），鉄分・マンガン・土器片含む
5 黄褐色（2.5Y5/3）シルト，鉄分・マンガン多量含む
6 黄褐色（2.5Y5/3）シルト，鉄分・マンガン5層より少量含む

[SD106]
a 暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト質粘土(4層より灰色強い)，細砂・鉄分・マンガン含む
b 灰オリーブ色（5Y4/2）シルト質粘土，細砂・鉄分含む
c オリーブ褐色（2.5Y4/4）細砂，粘土・鉄分含む
d 暗オリーブ灰色（2.5GY4/1）粘土，極細砂含む
e 暗緑灰色（7.5GY4/1）粘土，極細砂含む



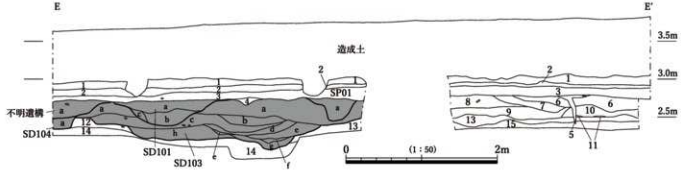
[C-C']
1 青灰色　土性記録なし
2 灰オリーブ色（5Y5/3）シルト質粘土，鉄分含む
3 暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）シルト，土器片少量含む
4 黄灰色（2.5Y4/1）シルト

[SK108]
a 灰オリーブ色（5Y4/2）砂，マンガン多量含む
b 灰色（5Y4/1）砂，マンガン多量含む
c 暗灰黄色（2.5Y4/2）砂質土
d 褐灰色（10YR4/1）細砂
e 黄灰色（2.5Y4/1）粘性砂質土，マンガン・炭化物・焼土含む
f 灰オリーブ色（5Y5/3）粘性砂質土，鉄分含む
g 暗灰黄色（2.5Y4/2）細砂，マンガン・炭化物含む
h 暗灰黄色（2.5Y4/2）細砂
i 黄灰色（2.5Y4/1）細砂，炭化物含む
j 暗灰黄色（2.5Y5/2）粘性砂質土
k オリーブ褐色（2.5Y4/3）細砂，粘性あり
l 灰色（5Y4/1）細砂，粘性あり
m 褐灰色（10YR4/1）細砂，マンガン含む
n 暗灰黄色（2.5Y5/2）粘性砂質土
o 灰オリーブ色（5Y4/2）細砂
p 暗オリーブ色（5Y4/3）粘質土
q 灰色（5Y4/1）細砂
r オリーブ褐色（2.5Y4/3）粘質土，鉄分含む



[D-D']
1 暗オリーブ灰色（5GY3/1）粘質土
2 オリーブ灰色（10Y4/2）粘質土
3 灰オリーブ色（7.5Y4/2）粘質土
4 黄灰色（2.5Y4/1）シルト
5 黒褐色（2.5Y3/1）シルト
6 黒褐色（2.5Y3/1）シルト
7 黄褐色（2.5Y5/3）砂質シルト
8 オリーブ褐色（2.5Y4/3）粘質シルト，炭化物・土器片含む
9 暗灰黄色（2.5Y4/2）粘質シルト

図 2-15　南側溝地点土層断面図（1）



[E-E']
1 灰色（10Y4/1）シルト，鉄分・マンガン含む
2 灰オリーブ色（5Y5/2）シルト，鉄分・マンガン含む
3 暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト，鉄分・マンガン含む
4 灰オリーブ色（5Y5/3）シルト質粘土，鉄分・マンガン含む
5 黒褐色（2.5Y3/2）シルト質粘土，鉄分・マンガン含む
6 灰オリーブ色（5Y5/3）シルト質粘土，鉄分・マンガン含む
7 暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト質粘土，鉄分・マンガン含む
8 黄褐色（2.5Y5/4）シルト質粘土，鉄分塊少量含む，マンガン含む
9 灰オリーブ色（5Y5/3）シルト質粘土，鉄分・マンガン含む
10 オリーブ褐色（2.5Y4/3）シルト質粘土，鉄分・マンガン含む
11 オリーブ黄色（5Y6/3）シルト質粘土，鉄分・マンガン含む
12 暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）シルト質粘土，鉄分・マンガン含む
13 暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト質粘土，鉄分・マンガン・炭化物含む
14 暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）シルト質粘土，鉄分・マンガン含む
15 暗灰黄色（2.5Y5/2）シルト質粘土，鉄分・マンガン含む

[SP01]
a 灰オリーブ色（5Y5/2）シルト質粘土，細砂含む

[SD101]
a 暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト質粘土，鉄分・マンガン含む
b 暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト質粘土，鉄分・マンガン含む
c 暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト質粘土，細砂・鉄分・マンガン含む

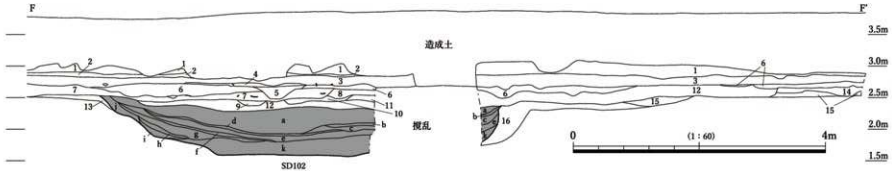
[SD103]
a 灰オリーブ色（5Y5/2）シルト質粘土，鉄分・マンガン含む
b 灰オリーブ色（5Y5/2）シルト質粘土，鉄分・マンガン含む
c 黄褐色（2.5Y5/3）シルト質粘土，鉄分・マンガン含む
d 黄褐色（2.5Y5/3）シルト質粘土（c層より黄味強い），鉄分・マンガン含む
e 灰オリーブ色（5Y5/2）シルト質粘土，a層土少量含む，鉄分・マンガン・炭化物含む
f 暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト質粘土，鉄分・マンガン・炭化物・焼土含む
g 黄褐色（2.5Y5/3）シルト質粘土，鉄分・マンガン含む
h オリーブ褐色（2.5Y4/3）シルト質粘土，鉄分・マンガン・炭化物含む

[SD104]
a 暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト質粘土，細砂・鉄分・マンガン・炭化物・土器片含む

[不明遺構]
a 暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト質粘土，細砂・鉄分・マンガン含む，炭化物少量含む

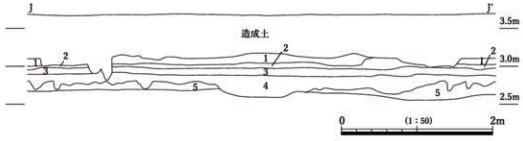
SD101付近（南から）

図 2-16　南側溝地点土層断面図（2）



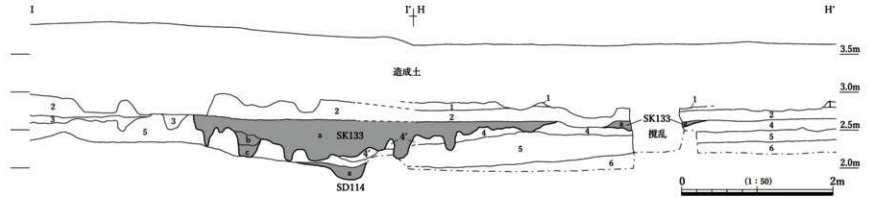
[F-F']
1 灰色（10Y4/1）シルト
2 灰オリーブ色（5Y5/2）シルト，鉄分含む
3 暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト，鉄分・マンガン含む
4 灰オリーブ色（5Y4/2）シルト，鉄分・マンガン含む
5 暗灰黄色（2.5Y5/2）シルト，鉄分・マンガン含む
6 黄褐色（2.5Y5/3）シルト，鉄分・マンガン含む
7 黄褐色（2.5Y5/3）シルト（6層より明るい），鉄分・マンガン含む
8 暗灰黄色（2.5Y5/2）シルト，鉄分・マンガン含む
9 黄褐色（2.5Y5/3）細砂，鉄分・マンガン粒含む
10 黄褐色（2.5Y5/3）シルト質粘土，細砂・鉄分・マンガン含む
11 オリーブ褐色（2.5Y4/3）シルト，鉄分・マンガン含む
12 灰オリーブ色（5Y4/2）シルト質粘土，細砂・鉄分・マンガン・炭化物含む
13 黄褐色（2.5Y5/3）シルト，鉄分・マンガン含む
14 灰黄褐色（10YR4/2）シルト質粘土
15 暗褐色（10YR3/3）粘土
16 暗褐色（10YR3/4）粘土

[SD102]
a 暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）シルト質粘土，細砂・鉄分含む
b 暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）シルト質粘土（a層より暗い），細砂・鉄分含む
c オリーブ褐色（2.5Y4/3）粘土，細砂多量含む
d 黄褐色（2.5Y5/3）シルト質粘土，微砂・鉄分含む
e オリーブ褐色（2.5Y4/3）粘土（灰色かかる），微砂含む，鉄分含む
f 黄褐色（2.5Y5/3）粘土，細砂・鉄分含む
g 暗灰黄色（2.5Y4/2）粘土，微砂・鉄分含む
h 黄褐色（2.5Y5/3）シルト質粘土，鉄分・マンガン含む
i 灰オリーブ色（5Y4/2）シルト質粘土，微砂・鉄分含む
j 黄褐色（2.5Y5/3）シルト，鉄分・マンガン含む
k 暗緑灰色（7.5GY4/1）粘土，細砂含む



[J-J']
1 暗灰黄色（2.5Y5/2）シルト，鉄分含む
2 黄褐色（2.5Y5/3）シルト，鉄分含む
3 暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト，鉄分・マンガン含む
4 黒褐色（2.5Y3/2）シルト，1～3層より粘性あり，鉄分・土器片含む
5 にぶい黄色（2.5Y6/3）シルト，1～3層より粘性あり，鉄分・マンガン含む

図 2-17　南側溝地点土層断面図（3）

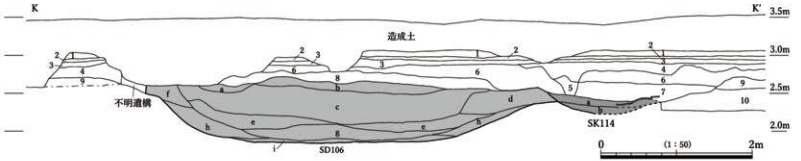


[I-I']
1 灰オリーブ色（7.5Y4/2）粘土
2 にぶい黄色（2.5Y6/3）粘土，上面に鉄分含む
3 黒褐色（10YR3/2）シルト質粘土，鉄分・マンガン・炭化物・土器片含む
4 黄褐色（2.5Y5/3）シルト，細砂含む
4' オリーブ褐色（2.5Y4/3）シルト，土器片含む
5 黄褐色（2.5Y5/4）シルト，鉄分・マンガン・土器片含む
6 オリーブ褐色（2.5Y4/4）シルト質粘土

[SD114]
a 暗緑灰色（7.5GY4/1）粘土，砂・鉄分含む

[SK133]
a 暗褐色（10YR3/4）シルト，マンガン含む
b 黄褐色（2.5Y5/4）シルト
c 暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト質粘土

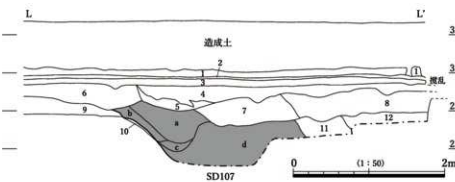
図 2-18　南側溝地点土層断面図（4）



K-K'
1 灰オリーブ色（5Y5/2）シルト質粘土
2 暗灰黄色（2.5Y5/2）シルト質粘土，鉄分含む
3 暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト質粘土
4 黒褐色（10YR3/2）シルト質粘土
5 黒褐色（10YR3/2）シルト質粘土，黄褐色（2.5Y5/3）シルトブロック含む
6 黒褐色（10YR3/2）シルト質粘土，黄褐色（2.5Y5/3）シルトブロック含む
7 暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト質粘土，黄褐色（2.5Y5/3）シルトブロック少量含む
8 黄褐色（2.5Y5/3）シルト，黒褐色（10YR3/2）シルト質粘土少量含む
9 黄褐色（2.5Y5/4）シルト質粘土，やや粘性あり
0 オリーブ褐色（2.5Y4/3）シルト質粘土，粘性強い

[SK114]
a 暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト質粘土，黄褐色（2.5Y5/3）シルトブロック少量含む，炭化物含む
b オリーブ褐色（2.5Y4/3）シルト質粘土，暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト質粘土ブロック・黄褐色（2.5Y5/3）シルトブロック少量含む

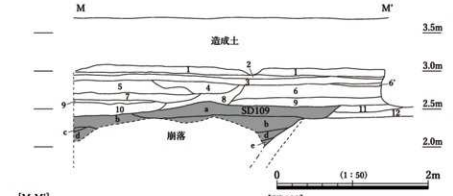
[SD106]
a オリーブ褐色（2.5Y4/3）砂質土
b 黄褐色（2.5Y5/3）シルト，黒褐色（10YR3/2）シルト質粘土ブロック・灰オリーブ色（5Y4/2）中粒砂ブロック少量含む，鉄分多量含む
c 灰オリーブ色（5Y4/2）中粒砂
d 黄褐色（2.5Y5/3）シルト質粘土，砂少量含む
e 暗灰黄色（2.5Y5/2）細砂，やや粘性あり
f 黄褐色（2.5Y5/4）シルト質粘土，砂少量含む
g 暗灰黄色（2.5Y5/2）微細粒，上面に鉄分含む
h オリーブ褐色（2.5Y4/3）粘質土，砂少量含む
i 暗オリーブ灰色（5GY4/1）粘質土，微細砂少量含む



[L-L']
1 灰色（7.5Y4/1）シルト
2 灰オリーブ色（7.5Y4/2）シルト
3 オリーブ褐色（2.5Y4/3）シルト
4 暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト，鉄分・マンガン含む
5 オリーブ褐色（2.5Y4/3）シルト質粘土，細砂多量含む
6 暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト，鉄分・マンガン含む
7 オリーブ灰色（10Y4/2）シルト質粘土，細砂含む
8 黄褐色（2.5Y5/3）シルト質粘土，細砂・鉄分・マンガン含む
9 黄褐色（2.5Y5/3）シルト，鉄分・マンガン含む
10 灰オリーブ色（5Y5/3）シルト，鉄分含む
11 灰オリーブ色（5Y5/3）粘土，ややしまりあり，微砂少量含む，鉄分・マンガン・炭化物含む
12 にぶい黄色（2.5Y6/3）シルト質粘土，鉄分・マンガン含む

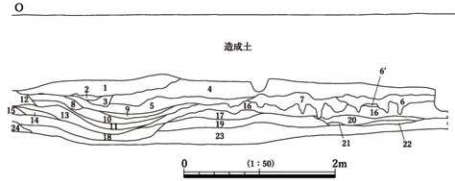
[SD107]
a 暗オリーブ灰色（2.5GY4/1）粘土，粘性強い，細砂・鉄分含む
b オリーブ灰色（10Y5/2）粘土，粘性強い，細砂含む
c 緑灰色（7.5GY5/1）粘土，鉄分含む
d オリーブ灰色（5GY5/1）粘土，ややしまりあり，微砂少量含む，鉄分・マンガン・炭化物含む

図 2-19　南側溝地点土層断面図（5）



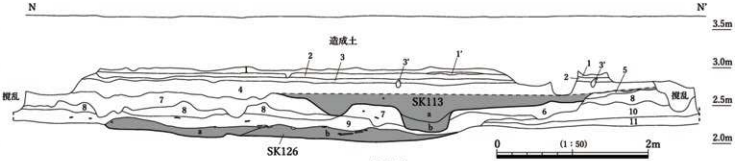
[M-M']
1 灰色（7.5Y4/1）シルト質粘土
2 灰オリーブ色（7.5Y4/2）シルト質粘土
3 オリーブ褐色（2.5Y4/3）シルト質粘土
4 灰オリーブ色（5Y5/2）シルト，土器片少量含む
5 黒褐色（2.5Y3/2）シルト質粘土
6 暗灰黄色（2.5Y5/2）シルト，鉄分・マンガン含む
6' 暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）シルト，マンガン含む
7 黄灰色（2.5Y4/1）粘性砂質土
8 灰オリーブ色（5Y4/2）粘質土
9 黄褐色（2.5Y5/3）粘性砂質土
10 灰色（5Y4/1）砂質土
11 灰オリーブ色（5Y4/2）粘性砂質土
12 灰オリーブ色（5Y5/3）シルト

[SD109]
a 灰オリーブ色（5Y4/2）砂，マンガン含む
b 灰黄褐色（10YR4/2）細砂，鉄分・マンガン含む
c 暗灰黄色（2.5Y4/2）砂，マンガン含む
d 灰オリーブ色（5Y4/2）粘性砂質土
e 暗緑灰色（5G4/1）極細砂



[O-O']
1 暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト，鉄分・マンガン多量含む，炭化物・土器片含む，径1cm礫微量含む
2 黄褐色（2.5Y5/3）シルト質粘土，微砂・鉄分・マンガン含む
3 オリーブ褐色（2.5Y4/3）シルト質粘土，2層より粘性強い，微砂・鉄分含む，2層よりマンガン多量含む
4 暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト，鉄分・土器片含む，マンガン多量含む
5 灰オリーブ色（5Y4/2）粘土，微砂多量含む，鉄分・マンガン含む
6 暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト質粘土（6'より灰色強い），微砂少量含む，黄褐色（2.5Y5/3）土斑状に含む，鉄分・マンガン・炭化物・土器片含む
6' 暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト質粘土（7層より灰色強い），細砂・鉄分含む
7 暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト質粘土，黄褐色土斑状に含む，鉄分・マンガン・土器片含む
8 灰オリーブ色（5Y5/3）粘土，微砂多量含む，鉄分・マンガン含む
9 黄褐色（2.5Y5/3）シルト質粘土，灰色（7.5Y4/1）微砂・粘土・鉄分・マンガン含む
10 オリーブ褐色（2.5Y4/3）粘土，微砂多量含む，鉄分・マンガン含む
11 黄褐色（2.5Y5/3）粘土（9層より黄褐色味強い），微砂少量含む，鉄分・マンガン含む
12 黄褐色（2.5Y5/3）シルト質粘土（灰色かかる），鉄分・マンガン含む
13 オリーブ褐色（2.5Y4/3）粘土，微砂・鉄分・マンガン・炭化物含む
14 オリーブ褐色（2.5Y4/3）粘土，微砂・鉄分・マンガン・炭化物含む
15 黄褐色（2.5Y5/3）粘土，微砂・鉄分・マンガン含む
16 黄褐色（2.5Y5/3）シルト，微砂多量含む，灰オリーブ色（5Y4/2）粘土ブロック・鉄分・マンガン含む
17 黄褐色（2.5Y5/3）シルト（16層より褐色味強い），鉄分・マンガン含む
18 黄褐色（2.5Y5/3）粘土，微砂・鉄分・マンガン・炭化物含む
19 黄褐色（2.5Y5/3）シルト（17層よりやや暗い），鉄分・炭化物含む，マンガン多量含む
20 オリーブ褐色（2.5Y4/3）シルト質粘土（やや明るい），細砂ごく少量含む，鉄分・マンガン・炭化物含む
21 暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト質粘土，細砂ごく少量含む，鉄分・マンガン・炭化物含む
22 暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト質粘土（黄味強い），細砂ごく少量含む，鉄分・マンガン・炭化物含む
23 暗灰黄色（2.5Y5/2）粘土，細砂ごく少量含む，ややしまりあり，鉄分・マンガン・炭化物含む
24 暗灰黄色（2.5Y5/2）粘土，細砂ごく少量含む，鉄分・マンガン・炭化物含む

図 2-20　南側溝地点土層断面図（6）

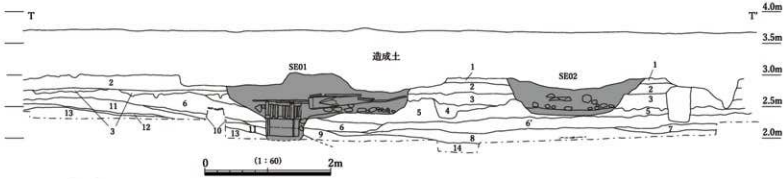


[N-N']
1　灰色（7.5Y5/1）シルト
1'　灰オリーブ色（5Y5/2）シルト，鉄分含む
2　黄褐色（2.5Y5/3）シルト，マンガン・鉄分多量含む
3　暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト，鉄分・マンガン含む
3'　灰黄色（2.5Y7/2）シルト
4　黒褐色（10YR3/1）シルト，鉄分・マンガン・土器片含む
5　暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト，鉄分・マンガン含む
6　黄灰色（2.5Y4/1）シルト，鉄分・マンガン・炭化物・土器片含む
7　黄灰色（2.5Y4/1）シルト質粘土，微砂少量含む，鉄分・マンガン・土器片含む
8　黄褐色（2.5Y5/3）シルト，鉄分・マンガン・炭化物・土器片含む
9　オリーブ褐色（2.5Y4/3）シルト質粘土，細砂ごく少量含む，鉄分・マンガン・炭化物・土器片含む
10　オリーブ褐色（2.5Y4/3）シルト質粘土，細砂ごく少量含む，鉄分・マンガン含む
11　暗灰黄色（2.5Y5/2）シルト質粘土，細砂ごく少量含む，鉄分・マンガン含む

[SK113]
a　黒褐色（10YR3/1）シルト，鉄分・マンガン・土器片含む
b　黒褐色（10YR3/1）シルト質粘土，鉄分・マンガン多量含む

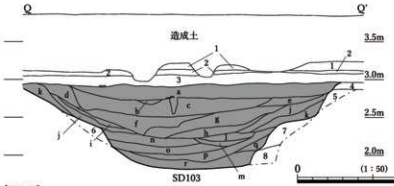
[SK126]
a　オリーブ褐色（2.5Y4/3）粘土，細砂ごく少量含む，鉄分・マンガン・土器片含む，炭化物多量含む
b　暗灰黄色（2.5Y4/2）粘土，細砂ごく少量含む

図 2-21　南側溝地点土層断面図（7）



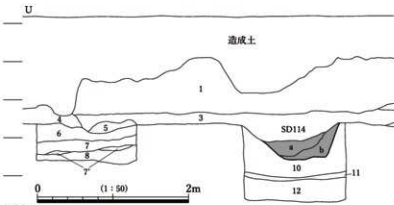
[T-T']
1 記録なし
2 灰オリーブ色（5Y5/3）シルト質粘土
3 オリーブ褐色（2.5Y4/3）シルト
4 暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）シルト，オリーブ色（5Y5/4）シルトブロック含む
5 黄褐色（2.5Y5/4）シルト，細砂含む
6 灰オリーブ色（5Y5/3）シルト，パウダー状の部分が目立つ
6' 灰オリーブ色（5Y5/3）シルト，特にパウダー状の箇所
7 記録なし
8 オリーブ灰色（10Y5/2）シルト質粘土
9 暗オリーブ灰色（5GY4/1）中粒砂，細砂ラミナ状に含む
10 オリーブ褐色（2.5Y4/3）細砂，中粒砂含む
11 灰オリーブ色（5Y5/3）シルト
12 オリーブ褐色（2.5Y4/6）シルト，粘性やや強い
13 オリーブ褐色（2.5Y4/3）シルト質粘土
14 中粒砂

図 2-22　南側溝地点土層断面図（8）



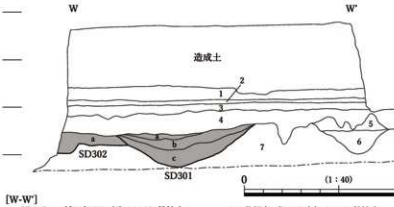
[Q-Q']
1　灰色（7.5Y5/1）シルト質粘土
2　灰オリーブ色（5Y5/2）シルト質粘土
3　暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト質粘土
4～7 記録なし
8　黄褐色（2.5Y5/4）粘土

[SD103]
a　灰オリーブ色（5Y4/2）シルト，鉄分・マンガン・土器片含む
b　暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）シルト
c　灰オリーブ色（5Y5/2）粘性砂質土，鉄分・マンガン含む
d　灰オリーブ色（5Y4/2）粘性砂質土，土器片少量含む
e　記録なし
f　灰オリーブ色（7.5Y4/2）細砂，a層土斑状に含む，マンガン粒・炭化物，土器片含む
g　オリーブ褐色（2.5Y4/3）粘性砂質土，砂多量含む，炭化物少量含む
h　灰オリーブ色（7.5Y4/2）細砂
i　オリーブ褐色（2.5Y4/4）細砂，粘土少量含む，マンガン・炭化物含む
j　黄褐色（2.5Y5/3）粘土，細砂・鉄分・マンガン含む
k　黄褐色（2.5Y5/4）シルト質粘土，鉄分・マンガン含む
l　暗灰黄色（2.5Y4/2）極細砂，h層土少量含む
m　灰オリーブ色（5Y4/2）極細砂，鉄分含む
n　暗オリーブ色（5Y4/3）極細砂，鉄分多量含む
o　灰色（10Y4/1）極細砂，炭化物少量含む
p　灰オリーブ色（5Y5/2）粘土，砂ブロック含む
q　黄褐色（2.5Y5/3）粘土，マンガン含む
r　暗緑灰色（7.5GY4/1）粘土，炭化物少量含む



[SD114]
a　灰色（7.5Y4/1）粘土
b　オリーブ灰色（10Y4/2）細砂，中粒砂含む

[U-U']
1 灰オリーブ色（7.5Y4/2）シルト質粘土
2 オリーブ褐色（2.5Y4/4）シルト
3 オリーブ黒色（7.5Y3/2）シルト質粘土
4 灰色（7.5Y4/1）シルト，鉄分含む
5 オリーブ黒色（7.5Y2/2）粘土
6 オリーブ黒色（10Y3/2）シルト，細砂含む
7 暗オリーブ灰色（2.5GY4/1）細砂
7 暗オリーブ灰色（2.5GY4/1）粘土
8 暗オリーブ灰色（2.5GY4/1）細砂，中粒砂含む
9 灰オリーブ色（7.5Y5/2）シルト
10 記録なし
11 砂利
12 砂



[SD301]
a　暗オリーブ色（5Y4/4）シルト質粘土
b　暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）シルト
c　暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト質粘土

[SD302]
a　暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト質粘土

[W-W']
1 灰オリーブ色（7.5Y5/2）シルト質粘土
2 黄褐色（2.5Y5/4）シルト質粘土
3 黄褐色（2.5Y5/3）シルト質粘土
4 暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）シルト
5 黄褐色（2.5Y5/3）シルト
6 オリーブ褐色（2.5Y4/3）シルト
7 オリーブ褐色（2.5Y4/6）シルト質粘土

図 2-23　南側溝地点土層断面図（9）

図 2-24　南側溝地点土層断面写真（1）

図 2-25　南側溝地点土層断面写真（2）

図 2-26　南側溝地点土層断面写真（3）

周辺地点での層位学的所見（中村 2000 ほか）をふまえると，3 層が弥生時代前期末・中期初頭～中世の土壌化層（黒褐色土層），4 層が弥生時代前期末・中期初頭の洪水起源砂層（黄褐色シルト層），5 層が弥生時代前期前葉～中葉に属する遺構の基盤層である暗褐色粘質土層とみなせる．調査にあたっては，3 層上面を第 1 遺構面，4 層上面を第 2 遺構面，5 層上面を第 3 遺構面として，遺構を検出した．

4．遺　構

A　排水管地点第 1・2 遺構面

(1) 溝

SD01（図 2-9・27）

X950-955・Y1050-1055 と X950-955・Y1055-1060 の二か所で検出された溝である．検出面の高さは標高 2.55 m で，東西方向に走る．最大幅 0.4 m，深さ 0.3 m を測り，長さは 6 m 以上と推定される．埋土は B-B' 断面で 3 層確認されており，a 層は暗オリーブ褐色シルト，b 層は暗灰黄色シルト質粘土，c 層はオリーブ褐色シルト質粘土からなる．遺物は，このうちの b 層より出土しており，突帯文土器，弥生時代 I 様式の壺・甕形土器の小片がある．本遺構の所属時期は検出層位と出土遺物からみて，弥生時代前期末・中期初頭と判断される．

SD02（図 2-27）

X955-960・Y1050-1055 で検出された溝である．黄褐色シルト層の上面で検出され，検出面の高さは標高約 2.7m である．東西方向に走り，長さ 1.3 m，幅 0.2 m を測る．出土遺物はない．本遺構の所属時期は検出層位からみて，弥生時代前期末・中期初頭であろうか．

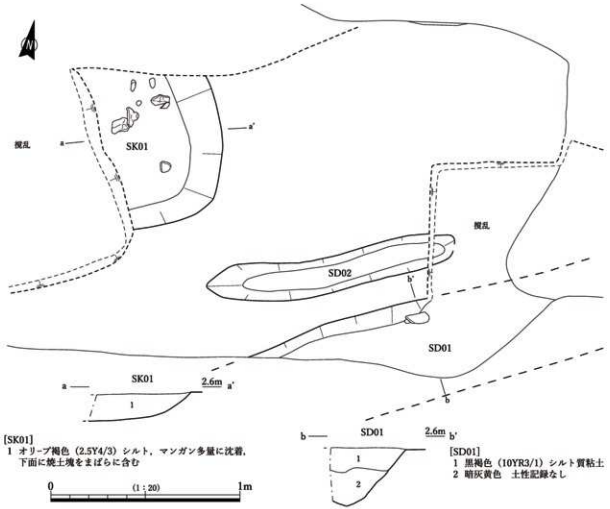
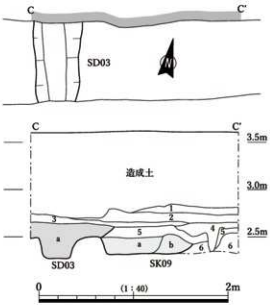


図 2-27　SD01・SD02・SK01



[C-C']
1 灰オリーブ色（5Y5/2）シルト質粘土，下面に鉄分沈着
2 黄褐色（2.5Y5/4）粘土
3 オリーブ褐色（2.5Y4/4）シルト質粘土，マンガン付着
4 暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト
5 オリーブ褐色（2.5Y4/4）シルト・細砂，マンガン含む
6 オリーブ褐色（2.5Y4/3）細砂・中粒砂

[SD03]
a オリーブ褐色（2.5Y4/3）シルト，左半分グライ化

[SK09]
a オリーブ褐色（2.5Y4/3）細砂，暗灰黄色（2.5Y4/2）シルトブロック含む
b 暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト

図 2-28　SD03

SD03（図 2-10・28）

X955-960・Y1040-1055 で検出された溝である．C-C' 断面では，検出面の高さは標高約 2.6 m で，黄褐色シルト層に該当する 5 層の上面で確認されている．南北方向に 0.9 m分検出し，最大幅 0.5 m，深さ 0.4 m を測る．断面は U 字形を呈している．埋土はオリーブ褐色シルトの 1 層からなる．出土遺物はない．本遺構の所属時期は，検出層位からみて，弥生時代前期末・中期初頭であろうか．

SD44（図 2-12・29）

X985-990・Y1010-1015 で検出された溝である．I-I' 断面では 6 層上面で検出され，上部に 4 層が堆積していた．北東－南西方向に 1.5 m分を検出し，幅 0.9 m を測る．断面形は V 字形を呈し，深さ 0.5m を測る．埋土は黒褐色シルト質粘土の 2 層からなる．内部から出土した弥生土器は，いずれも小片で，Ⅰ様式，Ⅴ～Ⅵ様式に該当する．本遺構の所属時期は，検出層位と出土遺物からみて，弥生時代後期～終末であろうか．

SD46（図 2-12・29）

X985-990・Y1010-1015 で検出された溝である．I-I' 断面では 6 層上面で検出され，上部に 4 層が堆積していた．東西方向に 1.3 m分を検出し，幅 0.6 m を測る．断面形は箱形を呈し，深さ 0.3m を測る．埋土は暗灰黄色シルト質粘土の 1 層からなる．出土遺物はない．本遺構の所属時期は，検出層位からみて，弥生時代前期末・中期初頭であろうか．

SD59（図 2-12・29）

X980-985・Y1010-1015 で検出された溝である．I-I' 断面では 5 層上面で検出され，上部に 2 層が堆積していた．東西方向に 1.2 m分を検出し，幅 3.5m，深さ 0.5m を測る．東側に位置する東側溝 1 地点でも，本遺構の続きが確認された．内部からは弥生土器の破片が出土した．これらのうち，細かな時期を確定できるものには，Ⅰ－1 様式の壺，Ⅰ様式の甕がある．本遺構の所属時期は，検出層位からみて，古代～中世であろうか．

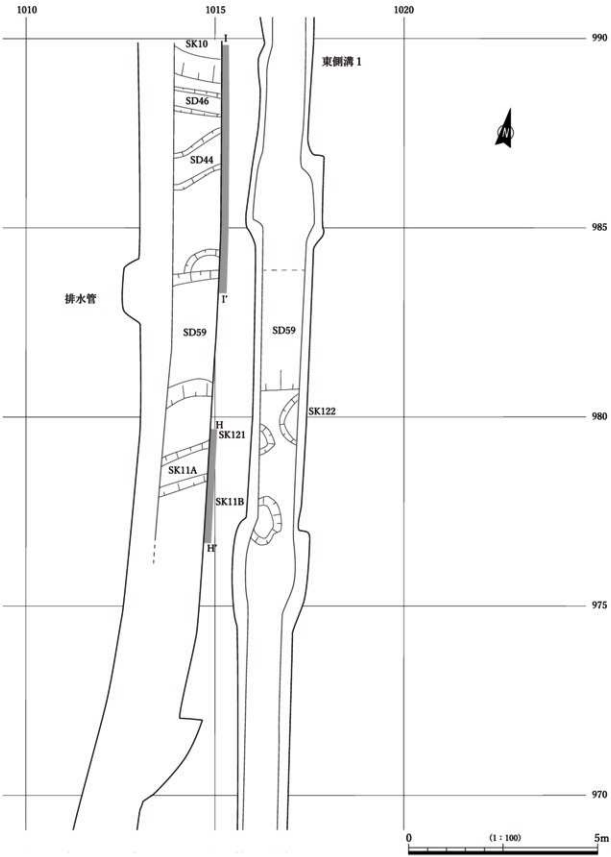


図 2-29　排水管・東側溝１地点北西部の遺構

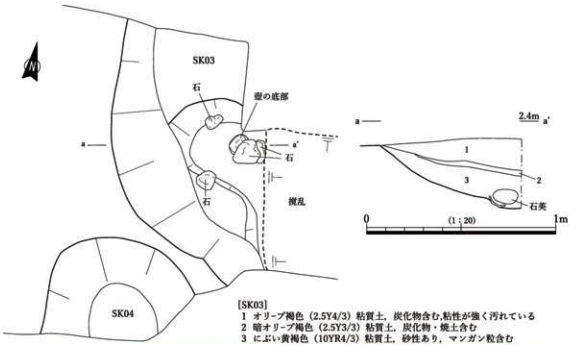


図 2-30　SK03・SK04

(2) 土坑

SK01（図 2-27）

X955-960・Y1050-1055 で検出された土坑である．北側と西側は大きく破壊され，平面形を正確に知ることはできないが，隅丸方形であろうか．南北残存長 0.85 m，東西残存長 0.75 m，深さ 0.15 m を測る．埋土はオリーブ褐色シルトの 1 層からなる．遺物は I－1・2 様式の弥生土器・壺の小片 2 点と古代の須恵器・壺 1 点が出土した．本遺構の所属時期は，検出層位と出土遺物からみて，古代と判断される．

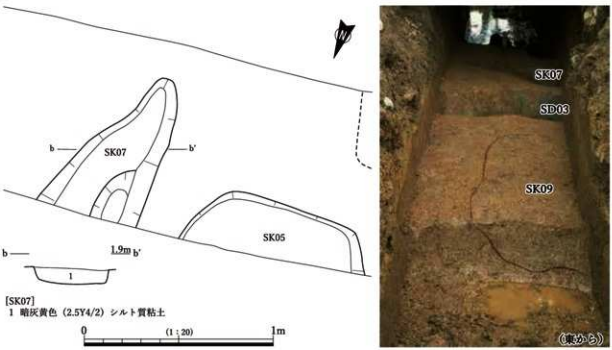


図 2-31　SK05・SK07

SK03（図 2-30）

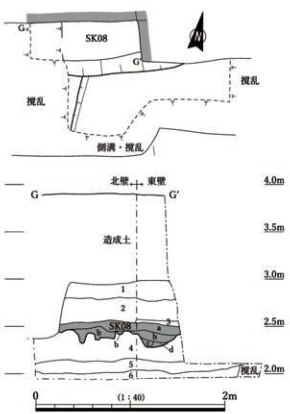
X950-960・Y1050-1055 で検出された土坑である．遺構の東側は撹乱を受け，北側は調査区外までのびて未検出であることから，平面形全体は把握できない．南北長 1.3 m分，東西長 0.8 m分が検出された．底面で南北長 0.9 m，東西長 0.5m の不整形な窪みが検出されており，遺構は二段掘り状を呈している．断面はレンズ形になるかと思われ，深さ 0.35 mを測る．埋土は，オリーブ褐色粘質土，暗オリーブ褐色粘質土，にぶい黄褐色粘質土の３層からなる．遺物は最下層から弥生土器の底部が，10 ～ 15 ㎝大の石数個とともに出土した．そのほか，弥生土器・甕の破片，底部２点も出土した．甕は弥生時代Ⅰ－３・４様式に該当する．本遺構の所属時期は，検出層位と出土遺物からみて，弥生時代前期末・中期初頭と判断される．

SK04（図 2-9・30）

X950-960・Y1050-1055 で検出された土坑である．B-B' 断面で黄褐色シルト層に該当する５・６層を切ってつくられており，検出面の高さは標高約 2.35 mである．上部は SD01 により切られ，南側は調査区外までのびている．平面形は円形になろうか．南北長 0.5 m，東西長 0.8 mを測る．断面形はレンズ形を呈し，深さは 0.2m を測る．埋土は，オリーブ褐色シルト，黒色炭化物層，暗オリーブ褐色中粒砂の３層からなる．出土遺物は弥生土器の壺片２点を図化し得た．そのうちの１点はⅠ－１様式に該当する．本遺構の所属時期は，検出層位と出土遺物からみて，弥生時代前期であろうか．

SK05（図 2-10・31）

X955-960・Y1040-1045 で検出された土坑である．D-D' 断面では，黄褐色シルト層に該当する５層の上面で検出され，上部に黒褐色土層に該当する３層が堆積していた．検出面の高さは標高約 2.6 mで，深さ 0.5m を測る．断面形は楕形を呈する．埋土は灰オリーブ色細砂の１層からなる．遺物はⅠ様式と思われる弥生土器・壺の小片１点が出土した．本遺構の所属時期は，検出層位と出土遺物からみて，弥



[G-G']
1 灰オリーブ色（5Y5/3）シルト質粘土
2 黄褐色（2.5Y5/3）シルト質粘土，やや粘性強い，鉄分含む
3 オリーブ褐色（2.5Y4/3）シルト質粘土
4 にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト，マンガンを非常に多く含む
5 オリーブ褐色（2.5Y4/4）シルト・細砂・粘土，4層より粘性強い
6 オリーブ褐色（2.5Y4/3）シルト・細砂，下面は粘性極めて強い

[SK08]
a 暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト質粘土
b 暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト質粘土
c b層土にd層土が混入
d 灰オリーブ色（5Y5/2）シルト，マンガン含む

図 2-32　SK08

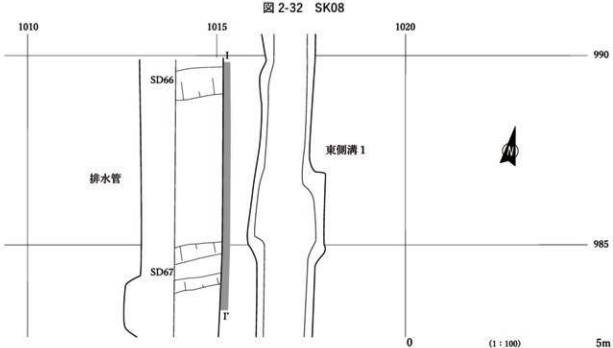


図 2-33　SD66・SD67

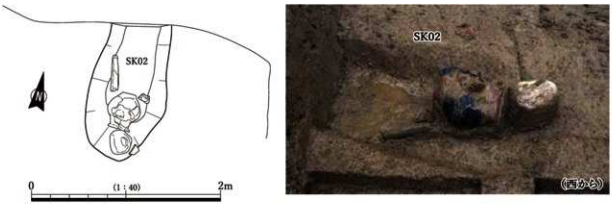


図2-34　SK02

生時代前期末・中期初頭であろうか．

SK07（図2-31）

X955-960・Y1035-1040で検出された土坑である．平面形は南端部が角張った不整形を呈する．検出部位で南北長0.8 m，東西長0.5 m，深さ0.1 mを測る．断面は浅い箱形を呈する．埋土は暗灰黄色シルトの1層からなる．出土遺物はない．本遺構の所属時期は，検出層位からみて，弥生時代前期末・中期初頭であろうか．

SK08（図2-32）

X955-960・Y1030-1035で検出された土坑である．黄褐色シルト層に該当する4層上面で検出され，検出面の高さは標高約2.5 mである．検出部位で南北長0.6m，東西長1.2 m，深さ0.25 mを測る．G-G′断面において，断面は東壁でレンズ形，北壁で不整形を呈する．埋土は暗灰黄色シルト質粘土や灰オリーブ色シルトの4層からなる．遺物はⅠ様式の弥生土器・胴部の小片が1点出土した．本遺構の所属時期は，検出層位と出土遺物からみて，弥生時代前期末・中期初頭と判断される．

SK10（図2-12・29）

X985-990・Y1010-1015で検出された土坑である．排水管地点西側の最北端に位置する．平面形は不明であるが，検出部分で南北長1.1 m，東西長1.2 mを測る．出土遺物には弥生土器の壺・甕があり，これはⅠ－2～4様式に該当する．本遺構の所属時期は，出土遺物からみて，弥生時代前期中葉～中期初頭に該当する．

SK11A（図2-11・29）

X975-985・Y1010-1015で検出された土坑である．H-H′断面では，5層の上面で検出され，検出面の高さは標高約2.4 mである．上部に4層が堆積していた．平面形は部分的な検出にとどまり，不正確であるが，長軸を北東－南西方向にとる細長い隅丸長方形となろうか．検出部分で長さ3.4 m，幅1.0 mを測る．断面形は逆台形を呈し，深さ0.7 mを測る．埋土は灰オリーブ色・細砂・中粒砂，暗灰黄色シルト質粘土・細砂，暗オリーブ灰色粘土・シルト，オリーブ褐色粗砂・中粒砂を基本とする8層からなり，自然堆積層とみられる．とくにa′層から多くの遺物が出土した．遺物には，弥生土器の壺・甕・鉢・底部，敲石，スクレイパーがある．弥生土器はⅠ－1～4様式に該当する．本遺構の所属時期は，検出層位と出土遺物からみて，弥生時代前期末・中期初頭と判断される．

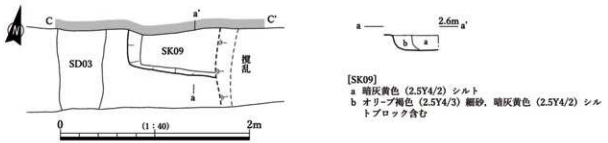


図 2-35　SK09

B　排水管地点第 3 遺構面

(1) 溝

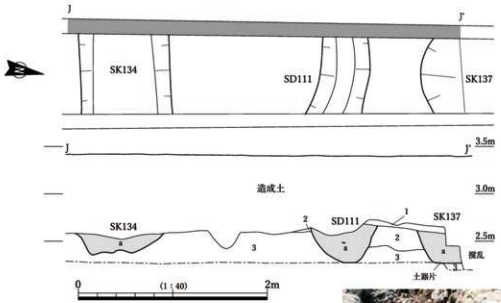
SD66（図 2-12・33）

X985-990・Y1010-1015 で検出された溝である．I-I' 断面では，10 層上面で検出され，検出面の高さは標高約 1.8 mである．上部に 7 層が堆積し，SK10 に切られる．東西方向に 1.2 m分を検出し，幅は 1.4 m以上である．断面形は逆台形と思われ，深さは 0.7 mを測る．埋土は，オリーブ褐色シルト質粘土，暗灰黄色シルト質粘土，灰オリーブ色細砂，暗緑灰色細砂の 5 層からなる．出土遺物はない．本遺構の所属時期は，検出層位からみて，弥生時代前期前葉～中葉と判断される．

SD67（図 2-12・33）

X980-985・Y1010-1015 で検出された溝である．I-I' 断面では，9 層上面で検出され，検出面の高さは標高約 2.0 mである．上部に 7 層が堆積し，「不明遺構」に切られる．東西方向に 1.2 m分を検出し，幅 1.2 mを測る．断面形は浅い椀形と思われ，深さ 0.4 m以上となろうか．埋土は，オリーブ褐色シルト質粘土の 1 層からなる．出土遺物はない．本遺構の所属時期は，検出層位からみて，弥生時代前期前葉～中葉と判断される．

(2) 土坑



[J-J']
1 灰オリーブ色（5Y4/2）粘土
2 灰オリーブ色（5Y5/3）シルト，オリーブ褐色（2.5Y4/3）シルトブロック，黄褐色（2.5Y5/3）シルトブロックを斑状に含む
3 黄褐色（2.5Y5/3）シルト，マンガン含む

[SK134]
a 暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト，黄褐色（2.5Y5/3）シルトブロック斑状に少量含む，マンガン含む

[SD111]
a オリーブ褐色（2.5Y4/3）シルト，土器片・マンガン含む

[SK137]
a 暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト，マンガン含む

図2-36　SD111・SK134・SK137

SK02（図2-34）

X955-960・Y1050-1055で検出された土坑である．平面形は北側が未検出のため，正確にはわからないが，長楕円形に近い隅丸方形になろうか．最大幅は0.42 mを測り，長さは0.72 m以上になる．調査日誌には，黄褐色シルト層の掘り下げ時に土器が出土し，その周辺で炭化物と焼土塊が検出されたとある．土坑の南側からは，完形の弥生土器・壺が，10 cm大の円礫，長さ約20 cmの棒状石とともに出土した．出土遺物にはこのほかに壺の小片2点があるが，本遺構への帰属が確実な遺物は完形の壺であろう．完形壺は弥生時代Ⅰ－1様式に該当する．本遺構の所属時期は，検出層位と出土遺物からみて，弥生時代前期前葉と判断される．墓の可能性がある．

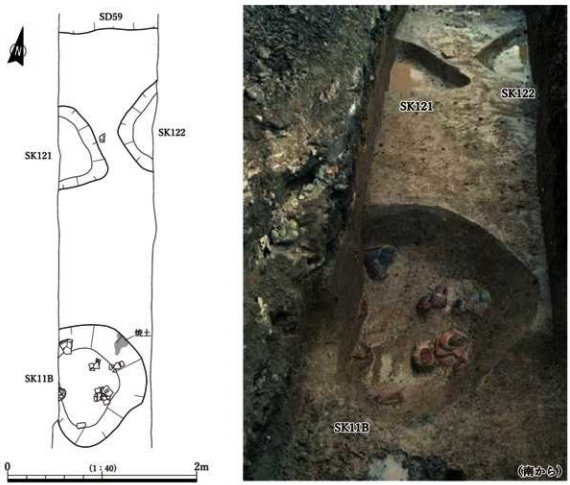


図 2-37　SD59・SK11B・SK121・SK122

SK09（図 2-35）

X955-960・Y1040-1050 で検出された土坑である．遺構の東側が攪乱を受けているが，平面形は長方形になるかと思われ，南北長 0.5 m以上，東西長 0.95 mを測る．断面形は箱形になろうか．深さは 0.16 mを測る．埋土は，オリーブ褐色細砂，暗灰黄色シルトの２層からなる．内部からはⅠ様式かと思われる弥生土器・口縁部の小片が出土した．本遺構の所属時期は，検出層位と出土遺物からみて，弥生時代前期と判断される．墓の可能性がある．

C　東側溝１地点

（1）溝

SD59（図 2-37）

X980-985・Y1015-1020 で検出された溝である．東西方向に 1.1 m分を検出した．北側の肩が確認できなかったが，東側の排水管地点で確認された本遺構の続きの幅からみて，幅 3.5 m程度と推定される．内部からは，弥生土器の壺・甕・底部の破片が出土した．このうち，壺３点はⅠ－３・４様式に，甕１点はⅠ様式に該当する．本遺構の所属時期は，検出層位からみて，古代～中世であろうか．

SD111（図 2-36）

X950-955・Y1015-1020で検出された溝である．J-J'断面では，2層上面で検出され，検出面の高さは標高約2.6 mである．上部に1層が堆積していた．東西方向に約0.8m分を検出し，幅0.6m を測る．断面形はU字形を呈し，深さ0.4 mを測る．埋土は，オリーブ褐色シルトの1層からなる．内部からは，弥生土器の甕が出土した．本遺構の所属時期は，検出層位と出土遺物からみて，弥生時代前期末・中期初頭と判断される．

SK134（図2-36）

X945-950・Y1015-1020で検出された溝である．J-J'断面では，検出面の高さは標高約2.6 mで，上部に近世の水田層とみられる1層が堆積していた．東西方向に0.9 m分を検出し，幅1.0 mを測る．東側溝2地点で確認されたSD112と同一遺構と考えられる．断面形はやや不整なU字形を呈し，深さ0.3 mを測る．埋土は暗灰黄色シルトの1層からなる．内部からは，弥生土器の小片が出土した．本遺構の所属時期は，検出層位と出土遺物からみて，弥生時代前期末以降と判断される．

(2) 土坑

SK11B（図2-37）

X975-980・Y1015-1020で検出された土坑である．検出面の高さは標高約2.3 mで，西側の一部が未検出であるものの，おおむね不整な円形を呈するとみてよい．南北長1.3 m，東西長0.9 mを測る．埋土からは，Ⅰ－1～4様式に該当する弥生土器の壺・甕が出土した．本遺構の所属時期は，検出層位と出土遺物からみて，弥生時代前期末・中期初頭と判断される．

SK121（図2-37）

X975-980・Y1015-1020で検出された土坑である．検出面は標高約2.25 mで，平面形は部分的な検出にとどまり，不正確であるが，隅丸方形であろうか．南北長0.9 m，東西長0.5 mを測る．出土遺物はない．本遺構の所属時期は，検出層位からみて，弥生時代前期と思われるが，確定しがたい．

SK122（図2-37）

X975-985・Y1015-1020で検出された土坑である．検出面の高さは標高約2.2m で，平面形は部分的な検出にとどまり，不正確であるが，隅丸長方形であろうか．南北長1.0 m，東西長0.4 mを測る．出土遺物はない．本遺構の所属時期は，検出層位からみて，弥生時代前期末以降と判断される．

SK137（図2-36）

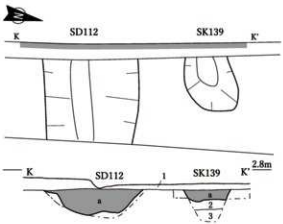
X950-955・Y1015-1020で検出された土坑である．J-J'断面では，2層上面で検出され，検出面の高さは標高約2.6 mである．上部に1層が堆積していた．南側の一部だけの検出にとどまり，平面形は不明である．検出部位で南北長0.4 mを測る．断面形は逆台形かと思われ，深さ0.3 mを測る．埋土は暗灰黄色シルトの1層からなる．埋土には土器片が含まれていたが，図示し得るものはない．本遺構の所属時期は，検出層位からみて，弥生時代前期末以降と判断される．

D　東側溝2地点

(1) 溝

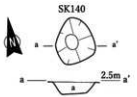
SD112（図2-38）

X945-955・Y1020-1025で検出された溝である．K-K'断面では，2層上面で検出され，検出面の高さは標高約2.6 mである．東西方向に0.8 m分を検出し，幅1.0 mを測る．断面形はやや不整な皿形を呈し，深さ0.2 mを測る．東側溝1地点で検出されたSK134と同一遺構と考えられる．埋土は黒褐色

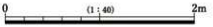


[SD112]
a 黒褐色（10YR3/2）シルト，暗オリーブ色（5Y4/3）シルトブロック斑状に少量含む，マンガン含む

[SK139]
a SD112のa層に同じ



[SK140]
a 黒褐色（10YR3/2）シルト，オリーブ褐色（2.5Y4/3）シルトブロック斑状に少量含む，マンガン含む



[K-K']
1 灰オリーブ色（7.5Y4/2）シルト・粘土
2 オリーブ褐色（2.5Y4/3）シルト，黄褐色（2.5Y5/4）シルトロックをほぼ半分の割合で斑状に含む，マンガン含む
3 暗オリーブ色（5Y4/3）シルト，細砂混じりの粘質土，マンガン含む

図 2-38　SD112・SK139・SK140

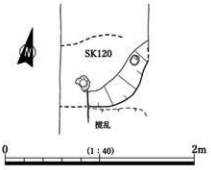


図 2-39　SK120

シルトの1層からなる．出土遺物はない．本遺構の所属時期は，検出層位からみて，弥生時代前期末以降と判断される．

(2) 土坑

SK120（図2-39）

X965-975・Y1020-1025で検出された土坑である．検出面の高さは標高約2.45 mである．東南部のみ残存していた．平面形は不明であり，東西長0.9 mを測る．内部から弥生土器の底部が出土した．本遺構の所属時期は，検出層位と出土遺物からみて，弥生時代前期であろうか．

SK138（図2-2）

X945-950・Y1020-1025で検出された土坑である．検出面の高さは標高約2.55mで，平面形は直径0.2 mの不整円形を呈する．内部から石器1点が出土した．本遺構の所属時期は，検出層位と出土遺物からみて，弥生時代前期であろうか．

SK139（図2-38）

X950-955・Y1020-1025で検出された土坑である．検出面の高さは標高約2.45 mである．上部に1層が堆積していた．西側の一部が未検出であるが，平面形はおおむね不整な長楕円形とみてよい．検出部位で南北長0.6 m，東西長0.6 mを測る．断面形は逆台形を呈し，深さ0.1 mを測る．埋土は黒褐色シルトの1層からなる．本遺構の所属時期は，検出層位からみて，弥生時代前期末以降と判断される．

SK140（図2-38）

X950-955・Y1020-1025で検出された土坑である．黄褐色シルト層上面で検出され，検出面の高さは標高約2.5 mである．平面形は不整な円形を呈し，南北長0.5 m，東西長0.4 mを測る．断面形は逆台形を呈し，深さ0.1 mを測る．埋土は黒褐色シルトの1層からなる．本遺構の所属時期は，検出層位からみて，弥生時代前期末以降と判断される．

E　南側溝1地点

(1) 住居跡

SI01（図2-45）

X940-945・Y990-1000で検出された住居跡である．検出面の高さは標高約2.6 mを測る．平面形は隅丸方形になるかと思われ，検出部位で東西長2.4 m，南北長0.6 m，深さ0.3mを測る．埋土は黄褐色シルト，暗灰黄色シルト質粘土，オリーブ褐色シルト質粘土の3層からなる．床面では，東西長0.6 m，南北長（検出部位）0.6 mの炉跡が検出された．住居跡の内部からは，Ⅰ－1（新）～4様式の時期幅に収まる弥生土器の壺・甕・底部が出土した．本遺構の所属時期は，検出層位と出土遺物からみて，弥生時代前期末・中期初頭と判断される．

(2) 溝

SD101（図2-6・2-16）

X940-945・Y965-975で検出された溝である．E-E'断面で，検出面の高さは標高約2.8mを測る．南北方向に0.8 m分を検出し，幅1.0 mを測る．断面形はレンズ形を呈し，深さ0.3 mを測る．埋土は暗灰黄色シルト質粘土の3層からなる．内部からは，Ⅰ－3・4様式の弥生土器の壺が出土した．本遺構の所属時期は，検出層位と出土遺物からみて，弥生時代前期末・中期初頭であろうか．

SD102（図2-17・40）

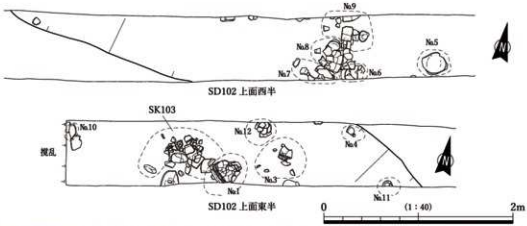


図 2-40　SD102 上面

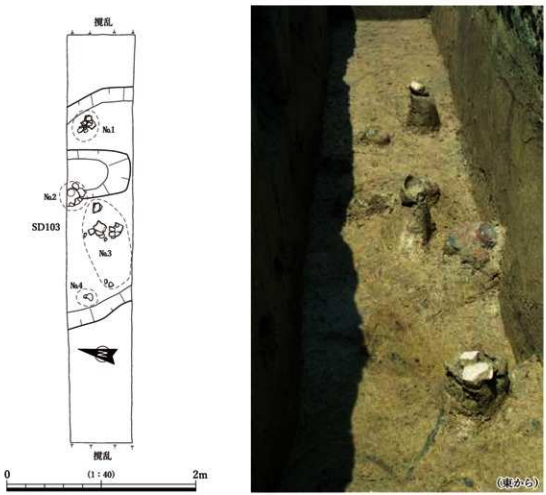
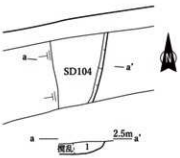


図 2-41　SD103

X940-945・Y975-990 で検出された溝である．南東－北西方向に 2.0 m分検出し，幅 8.5 mを測る．南側に位置する南側溝２地点でも，本遺構の続きが確認された．南側溝２地点での埋土は，オリーブ色系の細砂・シルトからなる上層，オリーブ色シルトと灰色中粒砂からなる中層，黄褐色・オリーブ色シルトと灰色粘土層・灰色粗砂・中粒砂の互層からなる下層に大別される．上層からは，Ⅰ－１（新）～４様式の時期幅に収まる弥生土器，擬朝鮮系無文土器[1]の可能性がある甕，打製石斧が出土した．中層からは，Ⅰ－３・４様式に該当する弥生土器が出土した．下層からは，Ⅰ－１（新）・２様式に該当する弥生土器の壺が出土した．本遺構は，弥生時代前期前葉に掘削され，前期中葉から前期末～中期初頭にかけて，埋没したものと考えられる．第 15・34 次調査，1996 年度立会の各地点で確認された二条大溝のうちの外溝の一部にあたる．

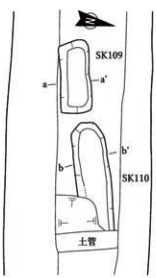
SD103（図 2-16・41・51）

X940-945・Y965-975 で検出された溝である．南東－北西方向に 0.7 m分検出し，幅 2.2 mを測る．南側に位置する南側溝２地点でも，本遺構の続きが確認された．南側溝２地点での埋土は，灰オリーブ色系のシルト，粘性砂質土などからなる上層，オリーブ色系・黄褐色系の極細砂などからなる中層，灰オリーブ色・黄褐色・暗緑灰色の粘土からなる下層に大別される．内部からは，Ⅰ－２～４様式の時期幅に収まる弥生土器が出土した．本遺構は，第 15・34 次調査，1996 年度立会の各地点で確認された二条大溝のうちの内溝の一部にあたり，その調査所見によれば，弥生時代前期中葉に掘削され，前期末



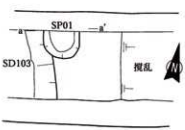
[SD104]
1 黄灰色（2.5Y4/1）砂

[SD104]
1 黄灰色（2.5Y4/1）砂



[SK109]
1 黒褐色（2.5Y3/2）シルト質粘土
2 黄褐色（2.5Y5/3）シルト質粘土

[SK110]
1 黒褐色（2.5Y3/2）シルト質粘土
2 黄褐色（2.5Y5/3）シルト質粘土、1層土含む



[SP01]
1 灰オリーブ色（5Y4/2）砂質土
2 オリーブ褐色（2.5Y4/3）粘質土

0 (1：40) 1m

図 2-42　SD104・SK109・SK110・SP01

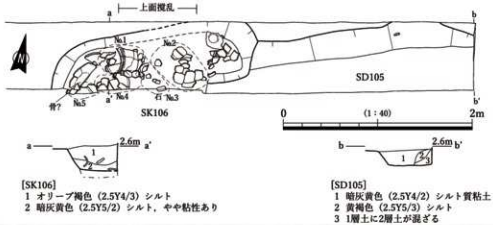
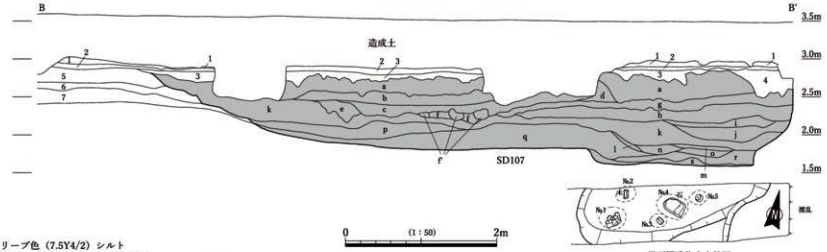


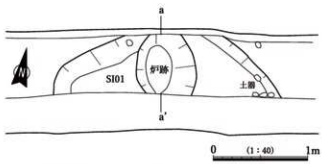
図 2-43　SD105・SK106



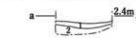
[B-B']
1 灰オリーブ色（7.5Y4/2）シルト
2 黄褐色（2.5Y5/3）シルト，鉄分含む
3 黒褐色（2.5Y3/2）シルト，鉄分・マンガン・土器片含む
4 灰黄褐色（10YR4/2)シルト，鉄分・マンガン・土器片含む
5 黄褐色（2.5Y5/3）シルト，鉄分・マンガン含む
6 黄褐色（2.5Y5/3）シルト，5層より黄み強い，鉄分・マンガン含む
7 暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト質粘土，鉄分・マンガン含む

[SD107]
a 暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト，鉄分・マンガン含む
b 灰オリーブ色（5Y4/2）シルト質粘土，微砂・鉄分・マンガン含む
c 暗オリーブ灰色（2.5GY4/1）シルト質粘土，微砂含む，鉄分・マンガン含む
d オリーブ褐色（2.5Y4/4）シルト，微砂含む，全体鉄分含む
e 黄褐色（2.5Y5/3）シルト，暗灰黄色（2.5Y4/2）微砂・シルト・鉄分・マンガン含む
f 暗オリーブ灰色（2.5GY4/1）粘土，細砂含む
f' 暗オリーブ灰色（5GY4/1）シルト質粘土，微砂少量含む
g 黄褐色（2.5Y5/3）シルト，鉄分・マンガン含む
h オリーブ褐色（2.5Y4/3）シルト質粘土，微砂・鉄分・マンガン含む
i オリーブ褐色（2.5Y4/3）シルト質粘土，鉄分・マンガン含む
j 黄褐色（2.5Y5/3）粘土
k オリーブ褐色（2.5Y4/3）シルト質粘土，鉄分・マンガン含む
l 灰オリーブ色（5Y4/2）粘土，オリーブ灰色（10Y6/2）シルト質粘土ブロック・鉄分含む
mオリーブ褐色（2.5Y4/3）粘土，鉄分含む
n 崩落のため不明
o 灰オリーブ色（5Y4/2）粘土，鉄分含む
p 暗灰黄色（2.5Y4/2）土性記録なし
q 灰オリーブ色（5Y4/2）シルト質粘土，粘性強い，鉄分含む
r 灰色（10Y4/1）粘土
s 暗オリーブ灰色（5GY4/1）粘土，鉄分含む

図 2-44　SD107



[SI01]
1 黄褐色（2.5Y5/3）シルト，マンガン含む
2 暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト質粘土
3 2層に4層が混ざる，炭化物多く含む
4 オリーブ褐色（2.5Y4/3）シルト質粘土



[炉跡]
1 オリーブ褐色（2.5Y4/3）シルト，炭化物含む
2 黄褐色（2.5Y5/3）シルト，炭化物含む

図 2-45　SI01

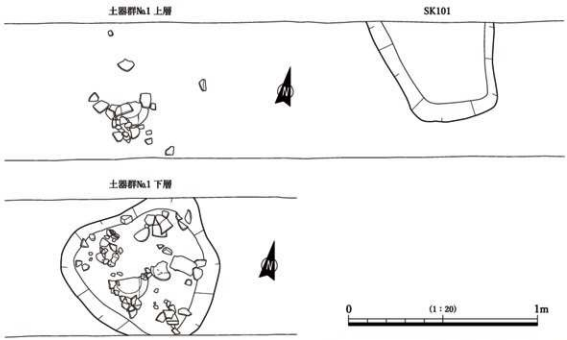


図 2-46　SK101・土器群 No.1

～中期初頭までに埋没したものと考えられる．

SD104（図2-16・42）

X940-945・Y965-970で検出された溝である．E-E'断面で，検出面の高さは標高約2.5 mを測る．南北方向に0.8 m分を検出したが，西側の肩が未検出であるため，幅は不明である．断面形は逆台形を呈すると思われ，深さ0.15 mを測る．埋土は暗灰黄色シルト質粘土の1層からなる．内部からは，Ⅰ－3・4様式の弥生土器の壺と底部の破片が出土した．本遺構の所属時期は，検出層位と出土遺物からみて，弥生時代前期末・中期初頭であろうか．

SD105・106（図2-15・43）

X940-950・Y910-920で検出された溝である．検出面の高さは標高約2.5 mを測る．南西－北東方向に0.7 m分検出し，幅3.0 mを測り，SK106に切られる．南側に位置する南側溝2地点でも，本遺構の続きが確認された．断面形は皿形を呈し，深さ0.8 mを測る．埋土は，暗灰黄色・灰オリーブ色のシルト質粘土からなる上層（a・b），オリーブ褐色細砂からなる中層（c），暗オリーブ灰色・暗緑灰色の粘土からなる下層（d・e）に大別される．上層からは，Ⅰ－1（新）～4様式の時期幅に収まる弥生土器の甕が出土した．内部からは，スクレイパーも出土した．本遺構は，第15・34次調査，1996年度立会の各地点で確認された二条大溝のうちの外溝の一部にあたり，その調査所見によれば，弥生時代前期前葉に掘削され，前期中葉から前期末～中期初頭にかけて，堆積したものと考えられる．

SD107（図2-19・44）

X940-945・Y920-930で検出された溝である．B-B'断面で，検出面の高さは標高約2.6 mを測る．南側に位置する南側溝2地点でも，本遺構の続きが確認された．北東－南西方向に0.8 m分を検出し，幅7.5mを測る．断面形は高台付坏形を呈し，深さ1.1 mを測る．埋土は，黄褐色系のシルトやシルト質粘土を主体とする上層（a～k）と灰色系の粘土からなる下層（l～s）に大別される．内部からは，Ⅰ－1（新）～4様式の時期幅に収まる弥生土器の甕・壺・底部の破片，砥石かと思われる石製品が出土した．本遺構は，第15・34次調査，1996年度立会の各地点で確認された二条大溝のうちの内溝の一部にあたる可能性がある．もしそうであるならば，本遺構は弥生時代前期中葉に掘削され，前期末～中期初頭までに埋没したものとみられる．

SD114（図2-7・18）

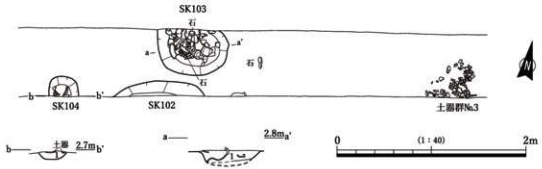
X940-945・Y1020-1030で検出された溝である．検出面の高さは標高約2.1 mを測る．南東－北西方向に1.5 m分検出し，幅1.0 mを測る．南側に位置する南側溝2地点でも，本遺構の続きが確認された．断面形は不整なU字形を呈し，深さ0.2 mを測る．埋土は，暗緑灰色粘土の1層からなる．内部からは，弥生土器の底部片が出土した．本遺構の所属時期は，南側溝2地点で出土した須恵器・土師器の破片からみて，古代であろうか．

(3) 土坑・ピット

SP01（図2-42）

X940-945・Y970-975で検出されたピットである．検出面の高さは標高約2.5 mを測る．平面形は円形あるいは楕円形であろうか．検出部位で東西長0.4 m，南北長0.3 mを測る．断面形は鉢形を呈し，深さ0.3 mを測る．埋土は，灰オリーブ色砂質土とオリーブ褐色粘質土の2層からなる．出土遺物はない．本遺構の所属時期は，検出層位からみて，弥生時代前期末・中期初頭であろうか．

SK101（図2-46）



[SK104]
1 灰オリーブ色（5Y5/3）シルト，マンガン・土器片含む

[SK103]
1 暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト質粘土

図 2-47　SK102・SK103・SK104・土器群 No.3

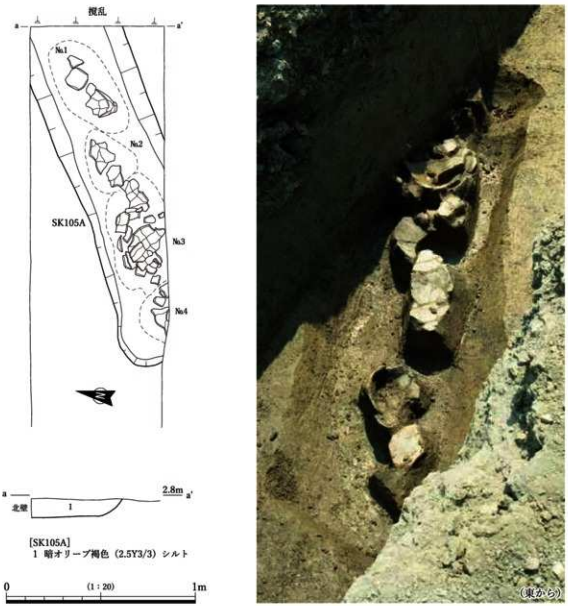


図2-48　SK105A

X940-945･Y980-985で検出された土坑である．SD102の上層で確認された．平面形は長方形であろうか．検出部位で東西長0.7 m，南北長0.5 mを測る．内部からは，弥生土器の底部片が出土した．本遺構の所属時期は，検出層位と出土遺物からみて，弥生時代前期末・中期初頭であろうか．

SK102（図2-47）

X940-945・Y985-990で検出された土坑である．SD102の上層で確認された．平面形は楕円形であろうか．検出部位で東西長1.0 m，南北長0.15 mを測る．出土遺物はない．本遺構の所属時期は，検出層位からみて，弥生時代前期末・中期初頭であろうか．

SK103（図2-47）

X940-945・Y985-990で検出された土坑である．検出面の高さは標高約2.7 mであり，SD102の上層で確認された．平面形は楕円形であろうか．東西長0.75 m，南北長（検出部位）0.5 mを測る．断面形

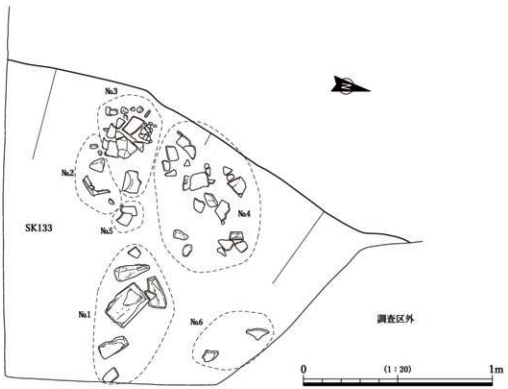


図 2-49　SK133

はレンズ形を呈し，深さ0.1 m以上を測る．埋土は暗灰黄色シルト質粘土の1層からなる．内部からは，Ⅰ－1（新）～4様式の時期幅に収まる弥生土器の壺・甕・底部の破片と砥石が出土した．弥生土器にはⅠ－3・4様式の壺が含まれる．本遺構の所属時期は，検出層位と出土遺物からみて，弥生時代前期末・中期初頭と判断される．

SK104（図2-47）

X940-945・Y985-990で検出された土坑である．検出面の高さは標高約2.7 mであり，SD102の上層で確認された．平面形は楕円形であろうか．検出部位で東西長0.3 m，南北長0.2 mを測る．断面形はレンズ形を呈し，深さ0.1 mを測る．埋土は灰オリーブ色シルトの1層からなる．内部からは，弥生土器の底部片が出土した．本遺構の所属時期は，検出層位と出土遺物からみて，弥生時代前期末・中期初頭であろうか．

SK105A（図2-48）

X945-950・Y880-890で検出された土坑である．検出面の高さは標高約2.8 mを測る．平面形は長方形を呈し，検出部位で長さ1.8m，幅0.55mを測る．断面形は坏形と思われ，深さ0.1 mを測る．埋土は暗オリーブ褐色シルトの1層からなる．内部からは，弥生土器の甕・高杯・底部の破片が出土した．そのうち高坏は脚部の破片で，Ⅴ－2～4様式の時期幅に収まる．本遺構の所属時期は，検出層位と出土遺物からみて，弥生時代後期と判断される．

SK106（図2-43）

X940-945・Y905-910で検出された土坑である．検出面の高さは標高約2.6 mを測り，SD106を切る．平面形は隅丸長方形と思われ，検出部位で長さ2.2 m，幅0.6 mを測る．断面形は短軸で坏形と思われ，深さ0.25mを測る．埋土はオリーブ褐色シルトと暗灰黄色シルトの2層からなる．内部からは，Ⅰ－3・4様式に該当する弥生土器の壺・甕などが出土した．本遺構の所属時期は，検出層位と出土遺物からみて，弥生時代前期末・中期初頭と判断される．

SK107（図2-5）

X940-945・Y930-935で検出された土坑である．平面形は不明で，主軸を南北方向にとる．検出部位で東西長1.0 m，南北長0.8 mを測る．内部からは，Ⅰ様式とⅤ・Ⅵ様式に該当する弥生土器の甕，古墳時代～古代の所産と思われる須恵器の破片などが出土した．本遺構の所属時期は，出土遺物からみて，古墳時代～古代と判断される．

SK108（図2-5・15）

X940-945・Y930-935で検出された土坑である．検出面の高さは標高約2.6 mを測る．平面形はやや不整な円形と思われ，検出部位で東西長1.8 m，南北長0.7 mを測る．断面形は逆台形を呈し，深さ0.75 mを測る．埋土は，灰色・黄褐色系の砂・細砂・砂質土・粘性砂質土・粘質土18層からなる．内部からは，弥生土器の壺・甕の破片，敲石などが出土した．図化した弥生土器2点のうち，甕はⅠ－2～4様式の時期幅に収まる．本遺構の所属時期は，検出層位と出土遺物からみて，弥生時代前期末・中期初頭と判断される．

SK109（図2-42）

X940-945・Y935-940で検出された土坑である．検出面の高さは標高約2.5 mを測る．平面形は長方形で，長さ0.8 m，幅0.3 mを測る．断面形は逆台形を呈し，深さ0.1 mを測る．埋土は，黒褐色シルト質粘土，黄褐色シルト質粘土の2層からなる．出土遺物は，弥生土器の壺2点と底部1点を図化した．

壺はⅠ－1（新）・2様式に該当するかと思われるものと，Ⅰ－3様式に該当するものである．本遺構の所属時期は，検出層位と出土遺物からみて，弥生時代前期末・中期初頭と判断される．

SK110（図2-42）

X940-945・Y935-940で検出された土坑である．検出面の高さは標高約2.5 mを測る．平面形は隅丸長方形と思われ，残存長1.15 m，幅0.4 mを測る．断面形は逆台形を呈し，深さ0.2 mを測る．埋土は，黒褐色シルト質粘土の2層からなる．出土遺物は，弥生土器の壺・甕各1点を図化した．両方とも，Ⅰ様式の範疇に収まる．本遺構の所属時期は，検出層位と出土遺物からみて，弥生時代前期末・中期初頭と判断される．

SK133（図2-18・49）

X940-945・Y1020-1030で検出された土坑である．検出面の高さは標高約2.7 mを測り，黄褐色シルト層で検出された．検出部位が限られるため，平面形全体は不明で，西側と東側の肩だけが確認された．断面形は不整なレンズ形を呈し，深さ0.5 mを測る．埋土は，暗褐色シルト，黄褐色シルト，暗灰黄色シルト質粘土の3層からなる．内部からは，Ⅰ－1（新）～4様式の時期幅に収まる弥生土器の甕・壺などが出土した．本遺構の所属時期は，検出層位と出土遺物からみて，弥生時代前期末・中期初頭と判断される．

F　南側溝2地点

(1) 井戸

SE01（図2-7・22）

X935-940・Y1015-1020で検出された井戸である．検出面の高さは標高約3.0 mを測る．掘り方の平面形は円形と思われ，検出部位で東西長2.5 m，南北長0.5 mを測る．断面形は逆凸字形を呈し，深さ1.1 mを測る．内部に直径0.6 mの井戸枠と積石の一部が遺存していた．出土遺物はない．本遺構の所属時期は，検出層位からみて，近世～近代と判断される．

SE02（図2-7・22）

X935-940・Y1020-1025で検出された井戸である．検出面の高さは標高約3.0 mを測る．掘り方の平面形は円形と思われ，検出部位で東西長1.5 m，南北長0.25 mを測る．断面形は坏形を呈し，深さ0.6 mを測る．内部に積石の一部が遺存していた．出土遺物はない．本遺構の所属時期は，検出層位からみて，近世～近代と判断される．

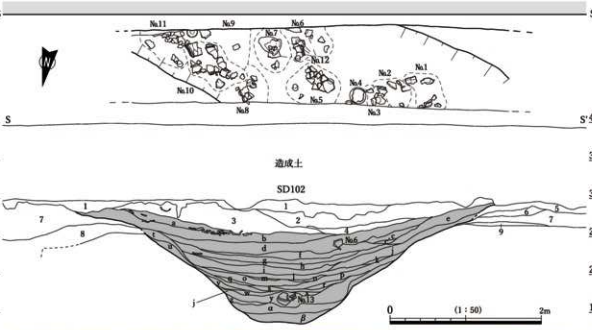
(2) 溝

SD59（図2-4）

X935-945・Y860-870で検出された溝である．南西－北東方向に1.0m分検出し，幅4.0 mを測る．内部は未掘である．

SD102（図2-50）

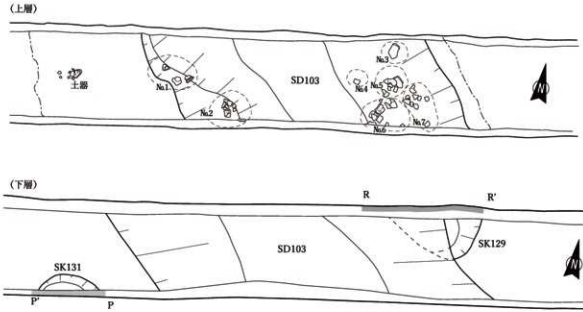
X935-940・Y985-995で検出された溝である．北側に位置する南側溝1地点でも，本遺構の続きが確認された．検出面の高さは標高2.5～2.6 mを測る．南東－北西方向に2.0 m分検出し，幅2.0 mを測る．断面形はV字形に近く，深さ1.5 mを測る．埋土は，崩落のため一部情報が欠落しているが，オリーブ色系の細砂・シルトからなる上層（a～g），オリーブ色シルトと灰色中粒砂からなる中層（h・i），黄褐色・オリーブ色シルトと灰色粘土層・灰色粗砂・中粒砂の互層からなる下層（j・kなど）に大

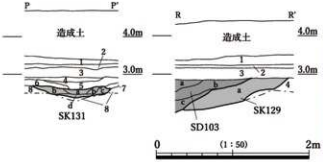


[S-S']
1 オリーブ褐色（2.5Y4/3）シルト
2 暗オリーブ色（5Y4/3）シルト
3 暗オリーブ色（5Y4/4）シルト，細砂含む
4 オリーブ色（5Y5/4）細砂，シルト含む
5 オリーブ褐色（2.5Y4/3）シルト
6 オリーブ褐色（2.5Y4/4）シルト，粘土含む
7 灰オリーブ色（5Y5/3）シルト，粘土含む
8 オリーブ褐色（2.5Y4/3）シルト質粘土
9 記録なし

[SD102]
a 暗オリーブ色（5Y4/3）細砂,シルト含む,土器多量含む
b 暗オリーブ色（5Y4/3）シルト，黒細砂ブロック・炭化物・器片含む
c 暗オリーブ色（5Y4/4）細砂，黒シルトブロック含む
c' 記録なし
d 灰オリーブ色（5Y5/3）黒細砂，中粒砂含む
e オリーブ色（5Y5/4）シルト
f 灰オリーブ色（5Y5/2）シルト，中粒砂含む
g オリーブ色（5Y5/4）シルト，細砂含む
h 灰色（10Y5/1）中粒砂
i オリーブ色（5Y5/4）シルト，細砂含む
j～z 崩落のため詳細不明，黄褐色・オリーブ色シルトと灰色砂（粗砂・中粒砂）の互層
ɣ 灰色粘土，凝明鮮系無文土器含む
α 記録なし
β 暗灰色粗砂，粒子が極めて粗い

図 2-50　SD102





[P-P']
1 灰オリーブ色（7.5Y5/2）粘土
2 灰オリーブ色（5Y5/3）粘土.鉄分・マンガン含む
3 灰黄褐色（10YR4/2）シルト質粘土
4 黄褐色（2.5Y5/3）シルト質粘土
5 暗オリーブ色（5Y4/3）シルト質粘土，マンガン含む
6 黄褐色（2.5Y5/3）シルト質粘土
7 黄褐色（2.5Y5/3）シルト質粘土
8 オリーブ褐色（2.5Y4/3）シルト質粘土

[R-R']
1 灰オリーブ色（7.5Y5/2）粘土
2 灰オリーブ色（5Y5/3）粘土
3 灰黄褐色（10YR4/2）シルト質粘土.土器片少量含む
4 オリーブ褐色（2.5Y4/3）土性記録なし

[SK131]
a 暗灰黄色（2.5Y4/2）土性記録なし，焼土多量含む
b 暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト質粘土，焼土・炭化物・マンガン含む
c 暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト質粘土，土器片少量含む
d 黄褐色（2.5Y5/3）シルト質粘土，礫土・マンガン少量粒含む

[SD103]
a 灰オリーブ色（7.5Y4/2）砂質土
b 灰オリーブ色（5Y5/3）シルト
c 暗オリーブ色（5Y4/3）シルト質粘土

[SK129]
a 暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト質粘土，土器片・炭化物・マンガン少量含む

図 2-51　SD103・SK129・SK131

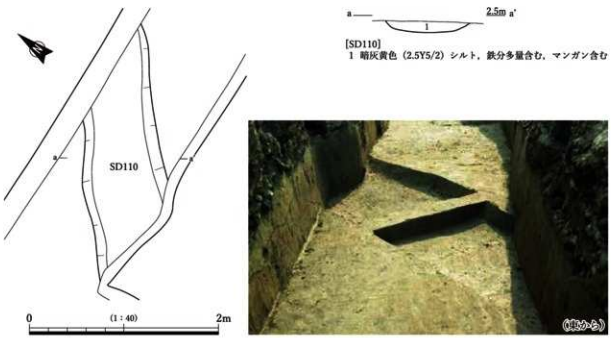


図2-52　SD110

別される．上層からは，縄文晩期土器，Ⅰ－1（新）～4様式の時期幅に収まる弥生土器，打製石庖丁，磨製石庖丁，蛤刃石斧未成品（？）が出土した．中層からは，Ⅰ－1（新）～4様式の時期幅に収まる弥生土器，敲石が出土した．下層からは，Ⅰ－1（新）・2様式，Ⅰ－3・4様式に該当する弥生土器の甕，擬朝鮮系無文土器の甕，縄文時代晩期後半の氷Ⅰ式土器，敲石（？）が出土した．中・下層では，擬朝鮮系無文土器の可能性がある甕も出土した．本遺構は，弥生時代前期前葉に掘削され，前期中葉から前期末～中期初頭にかけて，埋没したものと考えられる．第15・34次調査，1996年度立会の各地点で確認された二条大溝のうちの外溝の一部にあたる．

SD103（図2-23・51）

X935-940・Y975-980で検出された溝である．北側に位置する南側溝1地点でも，本遺構の続きが確認された．検出面の高さは標高約2.9mを測る．南東－北西方向に1.1m分検出し，幅3.5～3.8mを測り，SK129を切る．断面形は逆台形を呈し，深さ1.1mを測る．埋土は，オリーブ色系のシルト・粘性砂質土などからなる上層（a～f），オリーブ色系・暗灰黄色・灰色の極細砂などからなる中層（g～o），灰オリーブ色・黄褐色・暗緑灰色の粘土からなる下層（p～r）に大別される．上層からは縄文晩期土器，Ⅰ－1（新）～4様式の時期幅に収まる弥生土器，スクレイパー・砥石・敲石・打製石庖丁未成品といった石器，下層からはⅠ様式の弥生土器が出土した．本遺構は，第15・34次調査，1996年度立会の各地点で確認された二条大溝のうちの内溝の一部にあたり，その調査所見によれば，弥生時代前期中葉に掘削され，前期末～中期初頭までに埋没したものと考えられる．

SK105B（図2-4）

X935-940・Y875-880で検出された溝である．南北方向に1.0m分検出し，幅1.0mを測る．出土遺物はない．本遺構の所属時期は不明である．

SD106（図2-4・5・19）

X935-940・Y900-910で検出された溝である．検出面の高さは標高約2.6 mを測る．南西－北東方向に1.0 m分検出し，幅4.5 mを測り，SK114に切られる．北側に位置する南側溝1地点でも，本遺構の続きが確認された．断面形は皿形を呈し，深さ0.9 mを測る．埋土は，オリーブ褐色・黄褐色・灰オリーブ色の砂質土・シルト・中粒砂からなる上層（a～c），黄褐色・オリーブ色系のシルト質粘土・粘質土などからなる下層（d～i）に大別される．本遺構は，第15・34次調査，1996年度立会の各地点で確認された二条大溝のうちの外溝の一部にあたり，その調査所見によれば，弥生時代前期前葉に掘削され，前期中葉から前期末～中期初頭にかけて，堆積したものと考えられる．

SD107（図2-5・19）

X935-940・Y915-920で検出された溝である．検出面の高さは標高約2.5 mを測る．南西－北東方向に1.0 m分検出し，幅4.5 mを測る．北側に位置する南側溝1地点でも，本遺構の続きが確認された．断面形は逆台形と思われ，深さ0.9 mを測る．埋土は灰色系の粘土の4層からなる．出土遺物はない．本遺構は，第15・34次調査，1996年度立会の各地点で確認された二条大溝のうちの内溝の一部にあたる可能性がある．もしそうであるならば，本遺構は弥生時代前期中葉に掘削され，前期末～中期初頭までに埋没したものとみられる．

SD114（図2-7・18・23）

X930-940・Y1025-1030で検出された溝である．検出面の高さは標高約2.1 mを測る．南東－北西方向に1.0 m分検出し，幅1.3 mを測る．北側に位置する南側溝1地点でも，本遺構の続きが確認された．断面形は逆台形を呈し，深さ0.4 mを測る．埋土は，灰色粘土・オリーブ灰色細砂の2層からなる．内部からは，弥生土器，須恵器，土師器の破片と凹石，敲石が出土した．本遺構の所属時期は，出土遺物からみて，古代であろうか．

SD108（図2-4）

X935-940・Y890-900で検出された溝である．南西－北東方向に1.0m分検出し，幅1.0 mを測る．内部からは弥生土器と敲石の破片が出土した．弥生土器はⅠ－3・4様式に該当する壺と，底部を図化した．本遺構の所属時期は，出土遺物からみて，弥生時代前期末～中期初頭と判断される．

SD109（図2-5・20）

X935-940・Y925-935で検出された溝である．南西－北東方向に1.0 m分検出し，幅3.5～4 mを測る．内部からは弥生土器が出土し，Ⅰ－2～4様式と思われる土器を図化した．本遺構は，第15・34次調査，1996年度立会の各地点で確認された二条大溝のうちの内溝の一部にあたる可能性がある．もしそうであるならば，本遺構は弥生時代前期中葉に掘削され，前期末～中期初頭までに埋没したものとみられる．

SD110（図2-52）

X935-940・Y1005-1010で検出された溝である．検出面の高さは標高約2.4 mを測る．南西－北東方向に1.2 m分検出し，幅0.9 mを測る．断面形はレンズ形を呈し，深さ0.1 mを測る．埋土は暗灰黄色シルトの1層からなる．内部からは弥生土器が出土し，Ⅰ－1（新）～4様式の時期幅に収まる土器を図化した．本遺構の所属時期は，出土遺物からみて，弥生前期前葉～中期初頭のどこかに求められる．

(3) 土坑

SK112（図2-4・5）

X935-940・Y900-905で検出された土坑である．平面形は円形か楕円形と思われ，検出部位で東西長0.6 m，南北長0.2 mを測る．出土遺物はない．本遺構の所属時期は不明である．

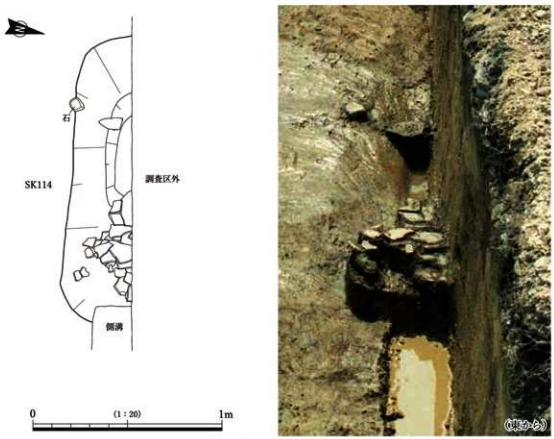


図 2-53　SK114

SK113（図 2-5・21）

X935-940・Y930-940 で検出された土坑である．検出面の高さは標高約 2.7 mを測る．平面形の全体は不明であり，検出部位で東西長 4.5 m，南北長 1.0 mを測る．断面形は不整な逆凸字形を呈し，深さ 0.5 mを測る．埋土は，黒褐色系のシルト・シルト質粘土の２層からなる．内部からは，Ⅰ－３・４様式に該当する弥生土器の壺・甕などが出土した．本遺構の所属時期は，検出層位と出土遺物からみて，弥生時代前期末・中期初頭と判断される．

SK114（図 2-19・53）

X935-940・Y905-910 で検出された土坑である．検出面の高さは標高約 2.5 mを測る．平面形は楕円形と思われ，検出部位で東西長 1.5 m，南北長 0.3 mを測り，SD106 を切る．断面形はレンズ形を呈し，深さ 0.2 mを測る．埋土は，暗灰黄色シルト質粘土・オリーブ褐色シルト質粘土の２層からなる．内部からは，Ⅰ－１（新）～４様式の時期幅に収まる弥生土器の甕などが出土した．本遺構の所属時期は，切り合い関係，出土遺物からみて，弥生時代前期末～中期初頭と判断される．

SK115（図 2-54）

X935-940・Y940-950 で検出された土坑である．平面形は円形と思われ，検出部位で東西長 1.9 m，南北長 0.8 mを測る．周辺からは，Ⅰ－１（新）～４様式の時期幅に収まる弥生土器の甕が出土した．本遺構の所属時期は不明である．

SK116（図 2-54）

X935-940・Y940-945 で検出された土坑である．平面形の全体は不明であり，検出部位で東西長 1.1 m，

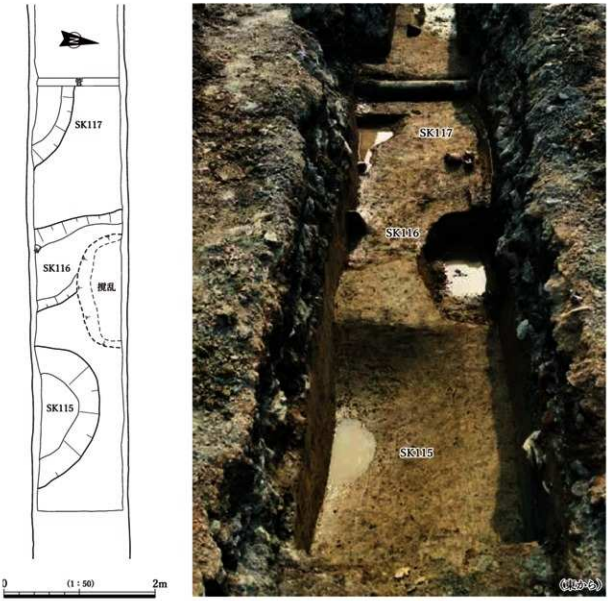


図 2-54　SK115・SK116・SK117

南北長 1.2 mを測る．内部からは，Ⅰ－3様式に該当する弥生土器の壺が出土した．東側の肩付近からは，動物の歯牙が出土した．本遺構の所属時期は，出土遺物からみて，弥生時代前期末と判断される．

SK117（図 2-54）

X935-940・Y940-945 で検出された土坑である．平面形の全体は不明であり，検出部位で東西長 1.0 m，南北長 0.5 mを測る．出土遺物はない．本遺構の所属時期は不明である．

SK118（図 2-6）

X935-940・Y965-975 で検出された土坑である．平面形は楕円形と思われ，検出部位で東西長 1.1 m，南北長 0.3 mを測る．内部からは，Ⅰ－2～4様式の時期幅に収まる弥生土器の甕などが出土した．本遺構の所属時期は，弥生時代前期中葉～中期初頭のどこかに求められる．

SK123（図 2-55）

X935-940・Y990-995 で検出された土坑である．平面形の全体は不明で，南北に長い楕円形であろうか．

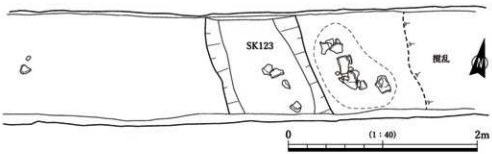


図 2-55　SK123

検出部位で東西長 1.0 m，南北長 1.1 mを測る．内部からは，Ⅰ－３・４様式に該当する弥生土器の壺などが出土した．本遺構の東側からは，Ⅰ－３・４様式に該当する弥生土器の蓋をはじめ，Ⅰ－１（新）～４様式の時期幅に収まる弥生土器の破片と敲石が出土した．本遺構の所属時期は，出土遺物からみて，弥生時代前期末・中期初頭と判断される．

SK125（図 2-56）

X935-940・Y945-950 で検出された土坑である．平面形の全体は不明であり，検出部位で東西長 0.8 m，南北長 1.1 mを測る．断面形の全体も不明で，深さ 0.1 mを測る．埋土は暗灰黄色粘土の１層からなる．内部からは，Ⅰ－２～４様式の時期幅に収まる弥生時代の甕が出土した．本遺構の所属時期は，出土遺物からみて，弥生時代前期中葉～中期初頭のどこかに求められる．

SK126（図 2-21・57）

X935-940・Y930-940 で検出された土坑である．検出されたのは北側の肩だけで，平面形の全体は不明である．検出部位で東西長 4.5 m，南北長 0.5 mを測る．内部からは，弥生土器，打製石庖丁の破片と敲石が出土した．弥生土器の時期幅はⅠ－１（新）～４様式に収まり，細かな時期が確定できるもの

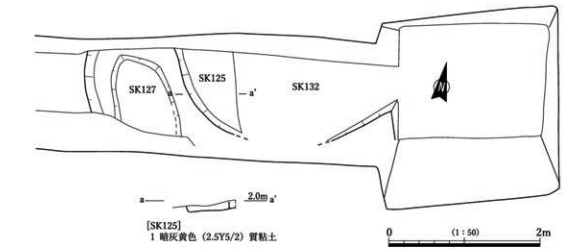


図 2-56　SK125・SK127・SK132

には，Ⅰ－1（新）・2様式の壺がある．直上からは，敲石が出土した．本遺構の所属時期は，弥生時代前期前葉～中期初頭のどこかに求められる．

SK127（図 2-56）

X935-940・Y940-945 で検出された土坑である．二段掘りで，一段目は西側の肩だけが確認された．二段目の平面形は楕円形と思われ，検出部位で東西長 0.8 m，南北長 1.1 mを測る．内部からは，Ⅰ様式の範疇に収まる弥生土器が出土した．細かな時期を確定できるものには，Ⅰ－1（新）・2様式に該当する壺がある．本遺構の所属時期は，弥生時代前期前葉～中期初頭のどこかに求められる．

SK128（図 2-58）

X935-940・Y980-985 で検出された土坑である．平面形は不明であり，検出部位で東西長 0.5 m，南北長 0.6 mを測る．内部には，10 ～ 30 ㎝大の石が 5 個以上配されていた．Ⅰ－1（新）～4様式の時

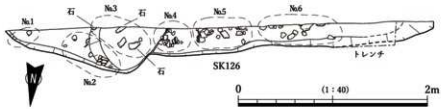


図 2-57　SK126

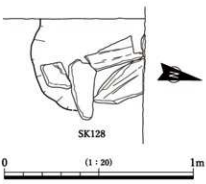


図 2-58　SK128

期幅に収まる弥生土器の胴部片が出土した．本遺構の所属時期は，弥生時代前期前葉～中期初頭のどこかに求められる．

SK129（図 2-51）

X935-940・Y975-985 で検出された土坑である．検出面の高さは標高約 2.9 m を測り，SD103 に切られる．平面形は不明で，検出部位で東西長 0.4 m，南北長 0.5 m を測る．断面形はレンズ形と思われ，深さ 0.4 m を測る．埋土は暗灰黄色シルト質粘土の１層からなる．内部からは，Ⅰ－２～４様式の時期幅に収まる弥生土器の甕が出土した．本遺構の所属時期は，検出層位と切り合い関係，出土遺物からみて，弥生時代前期中葉と判断される．

SK131（図 2-51）

X935-940・Y970-980 で検出された土坑である．検出面の高さは標高約 2.9 m を測る．検出されたのは北側の肩だけで，平面形の全体は不明である．検出部位で東西長 0.8 m，南北長 0.2 m を測る．断面形はレンズ形を呈し，深さ 0.1 m を測る．埋土は暗灰黄色焼土，暗灰黄色・黄褐色シルト質粘土の４層からなる．出土遺物はない．

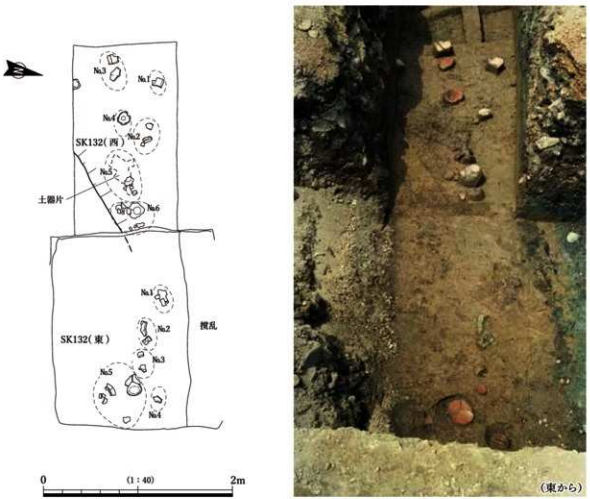


図 2-59　SK132

SK132（図 2-56・59）

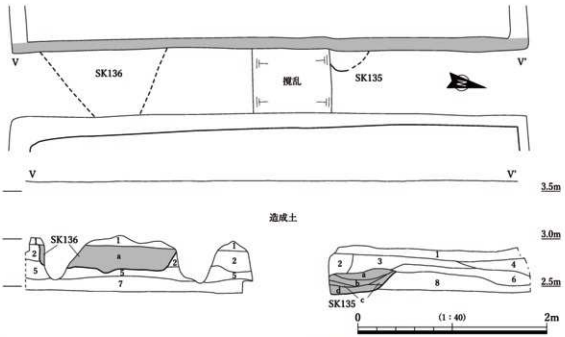
X935-940・Y945-950 で検出された土坑である．検出されたのは南側の肩の一部だけで，平面形の全体は不明である．肩の一部が検出された西側と平面プランが未検出の東側とに分けて遺物が取り上げられた．内部からは，Ⅰ－1（新）～4 様式の時期幅に収まる弥生土器が多数出土した．細かな時期を確定できるものには，Ⅰ－1（新）・2 様式の壺，Ⅰ－2 様式の蓋がある．本遺構の所属時期は，出土遺物からみて，弥生前期中葉と判断される．

SK135（図 2-60）

X935-945・Y1000-1005 で検出された土坑である．掘り込み面の高さは標高約 2.6 m を測る．検出されたのは東側の肩だけで，平面形の全体は不明である．検出部位で東西長 0.2 m，南北長 0.4 m を測る．断面形は逆台形と思われ，深さ 0.2 m を測る．埋土は，灰オリーブ色・暗灰黄色・黄褐色シルト質粘土の 4 層からなる．出土遺物はない．本遺構の所属時期は，層位学的にみて，弥生時代前期末～中世のどこかに求められる．

SK136（図 2-60）

X935-940・Y1000-1010 で検出された土坑である．掘り込み面の高さは標高約 2.9 m を測る．平面形は不明で，東西長 0.7 m，南北長 1.3 m を測る．断面形はやや不整な逆台形を呈し，深さ 0.2 m を測る．

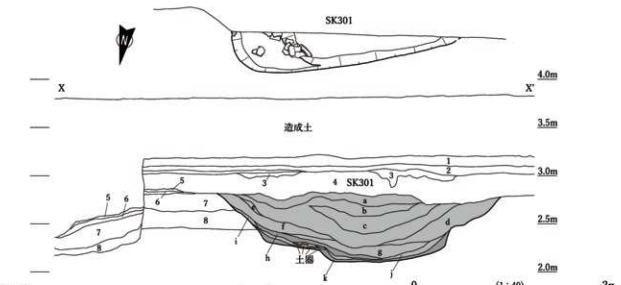


[V-V']
1 灰オリーブ色（7.5Y4/2）シルト，鉄分含む
2 暗灰黄色（2.5Y5/2）シルト，鉄分・マンガン含む
3 灰オリーブ色（5Y5/3）シルト，鉄分・マンガン含む
4 黒褐色（2.5Y3/2）シルト，黄褐色（2.5Y5/3）シルトブロック斑状に含む，鉄分・マンガン含む
黄褐色（2.5Y5/3）シルト，鉄分・マンガン含む
6 オリーブ褐色（2.5Y4/3）シルト，鉄分・マンガン含む
7 黄褐色（2.5Y5/3）シルト質粘土，微砂・鉄分・マンガン含む
8 黄褐色（2.5Y5/3）シルト，鉄分・マンガン含む

[SK135]
a 灰オリーブ色（5Y5/2）シルト質粘土，微砂・鉄分・マンガン・炭化物・土器片含む
b 暗灰黄色（2.5Y5/2）シルト質粘土，鉄分・マンガン多量含む，炭化物含む
c 黄褐色（2.5Y5/3）シルト質粘土，鉄分・マンガン・炭化物含む
d 灰オリーブ色（5Y5/2）シルト質粘土，砂・鉄分・マンガン・炭化物含む

[SK136]
a 黒褐色（2.5Y3/2）シルト，鉄分・マンガン・土器片含む

図2-60　SK135・SK136



[X-X']
1 灰色粘土
2 淡黄色シルト質粘土
3 暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト
4 灰オリーブ色（5Y5/3）シルト
5 灰オリーブ色（7.5Y5/2）シルト，焼土含む
6 オリーブ褐色（2.5Y4/4）シルト質粘土，炭化物含む
7 暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト，細砂・遺物含む
8 オリーブ褐色（2.5Y4/3）シルト質粘土

[SK301]
a オリーブ黄色（5Y6/4）シルト
b 暗オリーブ色（5Y4/4）中粒砂
c オリーブ色（5Y5/4）シルト，細砂含む
d 暗オリーブ灰色（5GY4/1）中粒砂，細砂含む
e 記録なし
f オリーブ黄色（5Y6/4）シルト
g 灰オリーブ色（7.5Y4/2）細砂・中粒砂
h 記録なし
i オリーブ色（5Y5/4）シルト，細砂含む
j オリーブ色（5Y5/4）シルト，土器片含む
k 黒色炭化物

図 2-61　SK301

埋土は黒褐色シルトの1層からなる．出土遺物はない．本遺構の所属時期は層位学的にみて，弥生時代前期末以降と考えられる．

G　南側溝3地点

(1) 溝

SD301（図2-8・23）

X915-920・Y955-960で検出された溝である．検出面の高さは標高約2.8mを測る．南北方向に約2.5m分を検出し，幅1.5mを測る．SD302を切りつつ，それに平行する．断面形はレンズ形を呈し，深さ0.4mを測る．埋土は，暗オリーブ色シルト質粘土・暗オリーブ褐色シルト・暗灰黄色シルト質粘土の3層からなる．内部からは，弥生土器が出土し，細かな時期を確定できるものには，Ⅰ－4様式に該当する甕がある．本遺構の埋没時期は，検出層位と切り合い関係，出土遺物からみて，中世であろうか．

SD302（図2-8・23）

X915-920・Y955-960で検出された溝である．検出面の高さは標高約2.8mを測る．南北方向に約2.5m分を検出し，幅1.2mを測る．SD301に切られつつ，それに平行する．断面形は不整形で，深さ0.2mを測る．埋土は，暗灰黄色シルト質粘土の1層からなる．内部からは，弥生土器の底部片，中世の所産と思われる土師器片が出土した．本遺構の所属時期は，検出層位と出土遺物からみて，中世であろうか．

(2) 土坑

SK301（図2-61）

X910-915・Y945-950で検出された土坑である．掘り込み面の高さは標高約2.8mを測る．検出されたのは北側の肩だけで，平面形の全体は不明である．検出部位で東西長2.4m，南北長0.4mを測る．断面形は不整なレンズ形を呈し，深さ0.7mを測る．埋土は，オリーブ色系のシルト・中粒砂，黒色炭化物層などの11層からなる．黒色炭化物層は底面付近に2層堆積し，間に弥生土器片を含むシルト層を挟む．内部からは，Ⅰ－1（新）～4様式の時期幅に収まる弥生土器の破片が出土した．細かな時期を確定できるものには，Ⅰ－1（新）・2様式の壺がある．本遺構の所属時期は，層位と出土遺物からみて，弥生時代前期前葉～中葉と判断される．

SK302（図2-8）

X910-915・Y945-950で検出された土坑である．平面形は隅丸長方形で，長さ1.0m，幅0.7mを測る．内部からは，弥生土器の壺の破片が出土した．本遺構の所属時期は，出土遺物からみて，弥生時代の可能性があるが，確定し得ない．

5．遺　物

A　土器（図2-62～103，表2-1～14）

(1) 排水管・東側溝1・2地点

1～3はSD01から出土した．1は弥生土器の甕の口縁部片，2は弥生土器の壺の肩部片で，両方ともⅠ様式の範疇に収まる．3は刻目突帯文土器の口縁部片で，Ⅰ－1（古）様式に該当するか．4～6はSK01から出土した．4・5は弥生土器の壺の肩部片で，Ⅰ－1・2様式に該当する．6は須恵器の壺の頸部から肩部にかけての破片で，時期は古代である．7～9はSK02から出土した．7は弥生土器

の壺の胴部片で，Ⅰ－3・4様式に該当する．8は弥生土器の壺の頸部・肩部の境界付近の破片で，Ⅰ－1様式に該当する．9は完形の弥生土器の壺で，Ⅰ－1様式に該当する．10～13はSK03から出土した．10は弥生土器の甕の口縁部から胴部上半の破片で，Ⅰ－3・4様式に該当する．11～13は弥生土器の底部片である．14はSK09から出土した弥生土器の口縁部片で，Ⅰ様式に該当するか．15～18，20・21はSD44から出土した．15は弥生土器の壺の頸部から肩部にかけての破片で，Ⅰ様式の範疇に収まる．16は弥生土器の甕の口縁部片で，Ⅰ－2～4様式に該当する．17は弥生土器の甕の口縁部片で，Ⅰ様式の範疇に収まる．18は弥生土器の底部片である．20は弥生土器の高坏の脚部片で，Ⅴ～Ⅵ様式に該当する．21は器種不明の弥生土器片で，Ⅰ－4様式に該当する．19・23はSD67から出土した．19は弥生土器の壺の胴部片で，Ⅰ－1・2様式に該当する．23は弥生土器の甕の胴部上半の破片で，Ⅰ様式の範疇に収まる．22はSD66から出土した弥生土器の壺の肩部片で，Ⅰ－3・4様式に該当する．24・25はSK10から出土した．24は弥生土器の甕で，Ⅰ－2～4様式に該当する．25は弥生土器の壺の頸部片で，Ⅰ－3・4様式に該当する．26・28はSK04から出土した．26は弥生土器の壺の肩部片である．28は弥生土器の壺の頸部・肩部の境界付近の破片で，Ⅰ－1様式に該当する．27・29・30・32・34～38はSK11Aから出土した．27は完形の弥生土器の鉢で，Ⅰ－1・2様式に該当する．29は弥生土器の甕の口縁部から胴部上半にかけての破片で，Ⅰ－2～4様式に該当する．30は弥生土器の甕の口縁部片で，Ⅰ様式の範疇に収まる．32は弥生土器の甕の口縁部片で，Ⅰ様式の範疇に収まる．34は弥生土器の甕の口縁部から胴部上半にかけての破片で，Ⅰ－2～4様式に該当する．35は弥生土器の壺の肩部片で，Ⅰ－3・4様式に該当する．36は弥生土器の壺の口縁部から肩部にかけての破片で，Ⅰ－3・4様式に該当する．37・38は弥生土器の底部片である．31はSK05から出土した弥生土器の壺の肩部片で，Ⅰ様式に該当するか．33はSK08から出土した弥生土器の胴部片で，Ⅰ様式の範疇に収まる．39・41・43・45～47・49・52～54・57～59・73～75は黄褐色シルト層から出土した．39は弥生土器の壺の肩部片で，Ⅰ－1（新）様式に該当する．41は弥生土器の壺の口縁部片で，Ⅰ－1・2様式に該当する．43は弥生土器の壺の口縁部片で，Ⅰ様式の範疇に収まる．45は弥生土器の甕の口縁部から胴部にかけての破片で，Ⅰ－2～4様式に該当する．46・47は弥生土器の甕の口縁部片で，Ⅰ－1（新）～4様式に該当する．49は弥生土器の壺の口縁部片である．52・53は弥生土器の底部片である．54は古代の土師器の坏である．57・58は弥生土器の甕の口縁部片で，両方ともⅠ様式の範疇に収まる．59は弥生土器の口縁部片である．73は弥生土器の壺の口縁部片である．74は弥生土器の口縁部片である．75は弥生土器の壺の肩部片で，Ⅰ－1様式に該当する．40・44・48・55は暗褐色細砂層から出土した．40は弥生土器の壺の肩部片で，Ⅰ－1様式に該当する．44は弥生土器の甕の口縁部から胴部にかけての破片で，Ⅰ－1（新）～4様式に該当する．48は弥生土器の甕の口縁部片で，Ⅰ様式の範疇に収まる．55は弥生土器の底部片である．42は出土遺構・層位不明の弥生土器の壺の頸部・肩部の境界付近の破片で，Ⅰ－1様式に該当する．50は黄灰色粘土層から出土した弥生土器の甕の口縁部片で，Ⅰ様式の範疇に収まる．51は土器群No.1から出土した弥生土器の壺の口縁部から胴部上半にかけての破片で，Ⅰ－3・4様式に該当する．56は黒褐色土層から出土した弥生土器の口縁部片である．60は黒色シルト層から出土した須恵器の坏の底部片で，時期は古代である．61～68はSD59から出土した．61は弥生土器の壺の肩部片で，Ⅰ－1様式に該当する．62は弥生土器の壺の頸部片で，Ⅰ－3・4様式に該当する．63は弥生土器の壺の口縁部片で，Ⅰ－3・4様式に該当する．64は弥生土器の壺の頸部片で，Ⅰ－3・4様式に該当する．65は弥生土器の甕の

口縁部片で，Ⅰ様式の範疇に収まる．66は弥生土器の甕の口縁部片で，Ⅰ様式の範疇に収まる．67は弥生土器の底部片である．68は弥生土器の蓋の破片であろうか．69はSD111から出土した弥生土器の甕の口縁部片である．70はSK134から出土した弥生土器片で，器種は蓋あるいは高坏とみられる．71・72・76～84はSK11Bから出土した．71は弥生土器の底部片である．72は弥生土器の甕の口縁部片で，Ⅰ様式の範疇に収まる．76は弥生土器の壺の胴部片で，Ⅰ－1様式に該当する．77は弥生土器の壺の肩部片で，Ⅰ－1・2様式に該当する．78は弥生土器の甕の口縁部から胴部にかけての破片で，Ⅰ－3・4様式に該当する．79は弥生土器の甕の口縁部から胴部にかけての破片で，Ⅰ－1（新）～4様式に該当する．80は弥生土器の甕の口縁部片で，Ⅰ－3・4様式に該当する．81は弥生土器の甕で，Ⅰ－1（新）・2様式に該当する．82は弥生土器の甕で，Ⅰ－3・4様式に該当する．83は弥生土器の壺の胴部片で，Ⅰ－3・4様式に該当するか．84は弥生土器の壺の口頸部片で，Ⅰ－3・4様式に該当する．

(2) 南側溝1～3地点

85～90はSI01から出土した．85・86は弥生土器の壺の胴部片で，85はⅠ－1（新）～4様式，86はⅠ－1（新）様式に該当する．87は弥生土器の甕の口縁部片で，Ⅰ様式に該当する．88は弥生土器の壺の口縁部片で，Ⅰ－3様式に該当する．89・90は弥生土器の底部片である．91はSD59から出土した弥生土器片で，Ⅰ－3・4様式に該当するか．92はSD101から出土した弥生土器の壺の頸部片で，Ⅰ－3・4様式に該当する．93～217はSD102から出土した．93～119は弥生土器の壺で，Ⅰ様式の範疇に収まる．120は縄文土器（突帯文土器）の深鉢の口縁部片で，Ⅰ－1様式に該当する．121は擬朝鮮系無文土器の可能性がある甕で，口縁部に断面長方形の粘土帯を貼り付ける．122～157は弥生土器の甕で，Ⅰ様式の範疇に収まる．158～163は弥生土器の鉢で，Ⅰ様式の範疇に収まる．164は縄文土器の浅鉢の口縁部片で，縄文晩期中葉に属するか．165～181は弥生土器の底部片である．182～184は弥生土器の蓋の破片である．182・183はⅠ－2様式に該当する．184はⅠ－3・4様式に該当するか．185～187は弥生土器の壺の破片で，185・187はⅠ－3・4様式，186はⅠ－1（新）～4様式に該当する．188は弥生土器の甕の破片で，口縁部に粘土帯を貼り付ける点は特異で，擬朝鮮系無文土器の可能性がある．189～191は弥生土器の甕の破片で，189～190はⅠ－1（新）～4様式に該当する．191は弥生土器の甕の胴部から底部にかけての破片である．192～195は弥生土器の底部片である．196は弥生土器の蓋で，Ⅰ－2様式に該当するか．197は弥生土器の壺で，Ⅰ－3・4様式に該当する．198は弥生土器の底部片である．199は弥生土器の高坏の坏部から脚部にかけての破片である．200・201は弥生土器の壺の破片で，200はⅠ－1（新）・2様式，201はⅠ様式に該当する．202は擬朝鮮系無文土器の甕で，口縁部に断面楕円形の粘土帯を貼り付ける．203～208は弥生土器の壺で，Ⅰ－1（新）様式～Ⅰ－4様式の範疇に収まる．209は弥生土器の底部片である．210～212は弥生土器の甕で，210・211はⅠ－2～4様式，212はⅠ－1（新）～4様式に該当する．213～217は弥生土器の底部片である．218～233はSD103から出土した．218・219は弥生土器の壺である．218はⅠ－1（新）・2様式に該当する．219はⅠ－1（新）・2様式に該当するか．220は弥生土器の甕で，Ⅰ－2～4様式に該当する．221は縄文土器（突帯文土器）の深鉢の口縁部片で，Ⅰ－1様式に該当する．222は弥生土器の甕の口縁部片で，Ⅰ様式に該当する．223は弥生土器の壺の頸部から肩部にかけての破片で，Ⅰ－1（新）・2様式に該当するか．224は弥生土器の底部片である．225～228は弥生土器の甕で，Ⅰ－2～4様式に該当する．229は弥生土器の底部片，230は弥生土器の鉢である．231

は弥生土器の甕の口縁部から胴部にかけての破片で，Ⅰ様式に該当する．232・233は弥生土器の鉢で，233はⅠ様式に該当する．234・235はSD104から出土した．234は弥生土器の壺の頸部から肩部にかけての破片で，Ⅰ－3・4様式に該当する．235は弥生土器の底部片である．236はSD105から出土した弥生土器の底部片である．237はSD106から出土した弥生土器の甕の胴部片で，Ⅰ－1（新）～4様式に該当する．238・240はSD108から出土した．238は弥生土器の壺の肩部片で，Ⅰ－3・4様式に該当する．240は弥生土器の底部片である．239はSD110から出土した弥生土器の甕か壺の破片で，Ⅰ－1（新）～4様式に該当する．241はSD109から出土した．弥生土器の甕の胴部片か，Ⅰ－2～4様式に該当するか．242はSD113から出土した弥生土器の底部片である．243～247はSD114から出土した．243は弥生土器の壺の口縁部片か．244は須恵器の壺の胴部片で，時期は古代か．245・246は弥生土器の底部片である．247は土師器の坏の底部片か．時期は古代か．248・249はSD302から出土した．248は弥生土器の底部片である．249は土師器の小皿の破片か．時期は中世か．250～258はSD107から出土した．250～252は弥生土器の壺で，250・251はⅠ－1（新）・2様式，252はⅢ－3様式に該当する．253～255は弥生土器の甕で，253はⅠ－1（新）～4様式，254はⅠ－2～4様式に該当する．256～258は弥生土器の底部片である．259～263はSD301から出土した．259は弥生土器の甕の口縁部片で，Ⅰ－4様式に該当する．260～263は弥生土器の鉢の口縁部片である．264はSK101から出土した弥生土器の底部片である．265～268はSK107から出土した．265・266は弥生土器の甕で，265はⅠ様式，266はⅤ・Ⅵ様式に該当する．267は弥生土器の底部片である．268は須恵器の胴部で，時期は古墳時代から古代か．269・272はSK108から出土した．269は弥生土器の壺の肩部片で，Ⅰ様式に該当するか．272は弥生土器の甕の口縁部片で，Ⅰ－2～4様式に該当する．270・271・273はSK109から出土した．270・271は弥生土器の壺の肩部片である．270はⅠ－1（新）・2様式に該当するか．271はⅠ－3様式に該当する．273は弥生土器の底部片である．274・275はSK110から出土した．274は弥生土器の壺の肩部片で，Ⅰ－3・4様式に該当するか．275は弥生土器の甕の口縁部片で，Ⅰ様式に該当する．276～285はSK113から出土した．276・277は弥生土器の壺の胴部片で，276がⅠ－3・4様式，277はⅠ－4様式に該当する．278～281は弥生土器の甕の口縁部片で，278・279はⅠ様式，280・281はⅠ－3・4様式に該当する．282～284は弥生土器の底部片である．285は弥生土器の鉢の口縁部から胴部にかけての破片である．286はSK103から出土した弥生土器の壺で，Ⅰ－3・4様式に該当する．287・288はSD102から出土した弥生土器の壺で，287はⅠ－3・4様式，288はⅠ様式に該当する．289～294はSK103から出土した．289は弥生土器の壺の胴部から底部にかけての破片で，Ⅰ－3・4様式に該当するか．290・291は弥生土器の甕で，290はⅠ－2～4様式，291はⅠ様式に該当する．292は弥生土器の底部片である．293・294は弥生土器の甕で，293はⅠ－4様式，294はⅠ－1（新）～4様式に該当する．295～305はSK105から出土した．295は弥生土器の甕の口縁部から胴部にかけての破片で，Ⅴ・Ⅵ様式に該当する．296は弥生土器の鉢の口縁部から胴部にかけての破片で，Ⅴ・Ⅵ様式に該当する．297～299は弥生土器の甕で，297はⅤ・Ⅵ様式に該当する．300は弥生土器の鉢の口縁部から胴部にかけての破片で，Ⅴ・Ⅵ様式に該当する．301は弥生土器の甕の胴部から底部にかけての破片である．302は弥生土器の鉢か高坏の口縁部片で，Ⅴ・Ⅵ様式に該当する．303は弥生土器の高坏で，Ⅴ－2～4様式に該当する．304は弥生土器の底部片である．305は弥生土器の鉢で，Ⅴ－2～4様式に該当する．306～335はSK106から出土した．306～309は弥生土器の甕で，306はⅠ－1（新）～4様式，307・309はⅠ－3・4様式，

308はⅠ－2～4様式に該当する．310は弥生土器の胴部片である．311・312は弥生土器の甕で，311はⅠ－3様式，312はⅠ－2～4様式に該当する．313～315は弥生土器の壺で，313・314はⅠ－3・4様式，315はⅠ－4様式に該当する．316は弥生土器の底部片である．317～321は弥生土器の壺で，317～319・321はⅠ－3・4様式，320はⅠ－4様式に該当する．322・323は弥生土器の底部片である．324は弥生土器の壺の胴部片で，Ⅰ－3・4様式に該当する．325～330は弥生土器の底部片である．331は弥生土器の壺の胴部片である．332は弥生土器の甕の口縁部から胴部にかけての破片で，Ⅰ－3・4様式に該当する．333・334は弥生土器の鉢である．335は弥生土器の脚部である．336～341はSK 111から出土した．336～340は弥生土器の甕で，336・339はⅠ－1（新）～4様式，337・338はⅠ－2～4様式に該当する．340はⅠ様式か．341は弥生土器の蓋の摘み部から胴部にかけての破片で，Ⅰ－2様式に該当する．342～345はSK114から出土した．342～344は弥生土器の甕で，342・343はⅠ－1（新）～4様式，344はⅠ－2～4様式に該当する．346はSK115・周辺清掃・排土から出土した弥生土器の甕の胴部片で，Ⅰ－1（新）～4様式に該当する．347はSK116から出土した弥生土器の壺の口頸部片で，Ⅰ－3様式に該当する．348～350はSK118から出土した．348・350は弥生土器の甕で，348はⅠ様式，350はⅠ－2～4様式に該当する．349は弥生土器の底部片である．351・353はSK119から出土した弥生土器の甕で，351はⅠ様式に該当する．352はSK123から出土した弥生土器の壺の口頸部片で，Ⅰ－3・4様式に該当する．354～358はSK123から出土した．354・355・358は弥生土器の甕である．354・355はⅠ－1（新）～4様式に該当する．385はⅠ様式に該当するか．356は弥生土器の底部片である．357は弥生土器の蓋で，Ⅰ－3・4様式に該当する．359はSK125から出土した弥生土器の甕の口縁部片で，Ⅰ－2～4様式に該当する．360～373はSK126から出土した．360～363は弥生土器の壺である．360・361はⅠ－1（新）・2様式に該当する．362・363はⅠ－3・4様式に該当するか．364～369・371は弥生土器の甕で，364・371はⅠ様式，365～367はⅠ－1（新）～4様式，368・369はⅠ－2～4様式に該当する．370・372は弥生土器の底部片である．373は弥生土器の胴部片である．374～376はSK127から出土した．374・375は弥生土器の壺である．374はⅠ－1（新）・2様式に該当する．375はⅠ－3・4様式に該当するか．376は弥生土器の甕の口縁部片で，Ⅰ様式に該当する．377はSK128から出土した弥生土器の胴部片で，Ⅰ－1（新）～4様式に該当する．378はSK129から出土した弥生土器の甕の口縁部から胴部にかけての破片で，Ⅰ－2～4様式に該当する．379はSK130から出土した弥生土器の底部片である．380～391はSK132から出土した．380・381・383・385は弥生土器の甕で，380・381・383はⅠ－1（新）～4様式，385はⅠ様式に該当する．382・384・386・387は弥生土器の底部片である．388・390・391は弥生土器の壺で，388はⅠ－1（新）・2様式に該当する．389は弥生土器の蓋で，Ⅰ－2様式に該当する．392～399はSK133から出土した．392は弥生土器の壺の肩部片で，Ⅰ－1（新）・2様式に該当するか．393～396は弥生土器の甕で，393はⅠ－1（新）～4様式，394・396はⅠ－2～4様式，395はⅠ様式に該当する．397～399は弥生土器の底部片である．400～404はSK301から出土した．400は弥生土器の壺の口縁部片で，Ⅰ－1（新）・2様式に該当する．401・402は弥生土器の甕で，401はⅠ－2～4様式，402はⅠ－1（新）～4様式に該当する．403は弥生土器の底部片である．404は弥生土器の鉢の口縁部から胴部にかけての破片で，Ⅰ－2～4様式に該当するか．405はSK302から出土した弥生土器の壺の頸部片である．406は土器群No.3から出土した弥生土器の甕の口縁部から胴部にかけての破片で，Ⅰ－1（新）～4様式に該当する．407は土器群No.4から出土した弥生土器の甕

の口縁部片で，Ⅰ－2～4様式に該当する．408は土器群No.6から出土した弥生土器の甕で，Ⅰ－3・4様式に該当するか．409～411は土器群No.1から出土した．409は弥生土器の壺の胴部片．410・411は弥生土器の底部片である．412～459は包含層などから出土した遺物で，縄文土器の深鉢，弥生土器の壺・甕・高坏・鉢・底部片，土師器の坏・埦・小皿，須恵器の壺などからなる．縄文土器はⅠ－1（古）様式に該当する突帯文土器である．弥生土器はⅠ様式の範疇に収まるものがほとんどで，Ⅱ様式，Ⅴ・Ⅵ様式に該当する可能性をもつものもある．土師器・須恵器は古代～中世にかけてのものである．460･461はSD102から出土した縄文土器の浅鉢で，縄文時代晩期後半の浮線文土器，氷Ⅰ式である．

B　石器・土製品・木器（図2-104～110，表2-15）

(1) 排水管・東側溝1・2地点

462はSK138から出土した石器で，石庖丁の未成品か．463・464はSK11Aから出土した敲石，スクレイパーである．465はSD59より北から出土した土製紡錘車である．466は黄褐色シルト層から出土した土製円盤である．467は黄褐色シルト層の下層から出土した磨製石錐である．

(2) 南側溝1～3地点

468はSD104から出土したスクレイパーである．469～476はSD102から出土した．469は打製石斧，470・471は打製石庖丁，472磨製石庖丁，474は敲石，476は木製網枠である．473は敲石，475は蛤刃石斧の未成品か．477～479・483はSD103から出土した．477は砥石，478はスクレイパー，479は打製石庖丁の未成品，483は敲石である．480はSD106から出土したスクレイパーである．481はSD107から出土した石器で，砥石の小片か．482はSD108から出土した敲石の小片である．484はSD113から出土した磨製石庖丁である．485・486はSD114から出土した．485は凹石，486は敲石である．487がSK103から出土した砥石である．488はSK108から出土した敲石である．489はSK123から出土した敲石である．490～492はSK126から出土した．490・492は敲石，491は打製石庖丁である．493・495・496は黄褐色シルト層から出土した．493は砥石，495・496はスクレイパーである．494は黄褐色シルト層土器群No.3下から出土した敲石である．497～500・502・503は黒褐色シルト層から出土した．497は鏃状石器，498・500は打製石庖丁，502・503は敲石である．499は石槍か．501は黒褐色シルト層まで掘り下げ時に出土した打製石庖丁である．

6．ま と め

本報告地点では，縄文時代晩期～中世にかけての遺構・遺物が多数確認された．なかでも，弥生時代前期に関する成果は特筆に値するので，以下，詳述する．

遺構では，弥生時代前期前葉～中葉の居住域を囲む大溝の一部と，弥生時代前期の墓の可能性がある土坑が検出された．南側溝1・2地点のSD102・SD103・SD105・SD106はこれまで第15・34次調査地点，1996年度立会地点で確認された二重大溝の一部で，SD102・SD105・SD106は外溝，SD103は内溝にそれぞれ該当する．南側溝1・2地点のSD107・SD109も内溝の一部に該当する可能性がある．排水管地点で確認されたSK02・SK09[註2)]は墓の可能性がある土坑で，とくにSK02からは弥生時代Ⅰ－1様式に該当する完形の壺が出土しており，その可能性は高い．近接するボイラータンク地点，第22次調査地点，南蔵本遺跡県立中央病院地点では，石棺墓や墓の可能性がある土坑が確認されており，

この辺り一帯は弥生時代前期前葉～中葉において墓域であったと考えられる（端野編 2018）．

注目される遺物としては，弥生時代最古段階の突帯文土器・壺形土器，浮線網状文系土器，擬朝鮮系無文土器とその可能性がある土器がある．41は口頸部境界に段をもつ壺，8・9・39・40・42・61・75は頸胴部境界に段をもつ壺で，北部九州の板付Ⅰ式土器に類似する．Ⅰ－1様式でも古い要素をもつ土器である．こうした特徴をもつ土器は，第22次調査地点SK02下層でも出土している（中村 2010，端野編 2018）．120・221・428は突帯文土器の小片で，これらもこの時期に属する可能性が高い．第22次調査地点SK03でも，同時期の突帯文土器が出土している（端野編 2018）．460・461は縄文土器の浅鉢の小片で，中部高地に分布する浮線網状文系土器の離山式段階に位置づけられている（小林編 1999）．この土器はSD102下層から出土し，Ⅰ－2様式の土器と共伴しているから，その所属時期は弥生時代前期中葉とみなせる．後述する擬朝鮮系無文土器とも共伴している点は興味深い．浮線網状文系土器は，第9次調査地点旧河道でも出土しており（北條編 1998），こちらは氷Ⅰ式中段階に位置づけられている（小林 1998，小林編 1999）．これらの土器はそうした地域と徳島平野との間のつながりを示す貴重な資料である．121・188・202は，擬朝鮮系無文土器あるいはその可能性がある土器で，このうち188・202については，すでに報告されている（橋本 2001）．202は口縁部に断面円形あるいは楕円形の粘土帯を貼り付け，無文土器時代後期前半の水石里式（円形粘土帯）土器に類似した特徴をもつが，胴部や底部の形態は水石里式に通有なそれとは異なり，胎土も在地の弥生土器と変わらない．188は弥生土器の範疇に収まる器形をもつが，口縁部に粘土帯を貼り付ける点で，水石里式（系）土器の影響を受けた可能性があろうか．202はSD102最下層，188はSD102中・下層から出土し，Ⅰ－2様式の土器と共伴しているから，その所属時期は弥生時代前期中葉とみなせる．弥生前期中葉のⅠ－2様式は，北部九州土器編年の板付Ⅱa式期～板付Ⅱb式期に併行すると考えられるので，北部九州での水石里式系土器の上限が板付Ⅱa式期である事実と矛盾しない（武末 2011，端野 2018）．水石里式系土器は，北部九州での出現からさほど時をおかずして，徳島平野に伝わったのであろうか．121は，口縁部以外の器形・調整・胎土については在地の弥生土器に通有な特徴をもつが，口縁部に断面長方形の粘土帯を貼り付けた点は，明らかに特異である．徳島平野以外の四国地方では，高知県田村遺跡で断面円形の粘土帯を巻き込んで口縁を成形し，その上面を横ナデで平坦面をつくる土器が確認されており（片岡 1991），異論はあるであろうが，こうした例を水石里式系土器の在地変異型と認めるならば，本例も擬朝鮮系無文土器の可能性はなかろうか．121はSD102上面から出土し，Ⅰ－3様式土器と共伴することから，弥生時代前期末に属する可能性が高い．そのほか，水石里式系土器の可能性がある土器は第9次調査地点の旧河道からも出土しており（北條編 1998），今後も類例が増加する可能性がある．

なお本稿は，脇山の作成した草稿をもとに，端野が大幅に加筆・修正を行い仕上げたものである．

註

1．用語の定義は，片岡（1990）に従う．片岡のいう「朝鮮系無文土器」「擬朝鮮系無文土器」それぞれの定義を改めて筆者の言葉に直すと，前者は朝鮮半島の無文土器との形態的・技術的な違いが認められない列島出土土器，後者は朝鮮半島の無文土器，あるいは朝鮮系無文土器の形態的・技術的要素を有しつつも，弥生土器的要素を含め，無文土器とは異なる要素が認められる列島出土土器となる．これらを製作者の観点からみると，「朝鮮系無文土器」は朝鮮半島からの搬入品（無文土器人による製作品），あるいは朝鮮半島からの渡来人による製作品，「擬朝鮮系無文土器」は弥生人と接触した渡来人やその子孫，あるいは渡来人と接触した弥生人などによる製作品となろうか．

最近，これまで「朝鮮系無文土器」「擬朝鮮系無文土器」と呼ばれてきた土器を，無文土器か弥生土器のいずれかに区別しようとする研究（山崎 2021）も提出された．こうした試みが妥当かどうかはともかく，「擬朝鮮系無文土器」の中には，無文土器的要素が優勢な例と，弥生土器的要素が優勢な例の二者があるのは確かである．このうち，弥生土器的要素が優勢な例は，研究者によっては「擬朝鮮系無文土器」の範疇に入れたり，入れなかったりと差異が認められる．本稿では，在来の土器製作伝統からは説明のつかない要素をもち，それが無文土器的要素との類似性を有する例についても，「擬朝鮮系無文土器」の可能性を探りつつ，報告する．

2．端野（2018）では，整理作業の過程で，SK02 を「土坑 3」，SK09 を「土坑 11」と変更して報告したが，今後の公開の便宜を考慮し，本稿では調査時の遺構名に戻して報告した．

文献

片岡宏二，1990．日本出土の朝鮮系無文土器．西谷 正（編），古代朝鮮と日本．名著出版，東京，pp.75-116.

片岡宏二，1991．日本出土の無文土器系土器．小田 富士雄・韓 炳三(編)，日韓交渉の考古学　弥生時代篇．六興出版，東京，pp.181-188.

小林青樹，1998．中国・四国地方の浮線網状文系土器．永峯光一・氷遺跡発掘調査資料図譜刊行会（編），氷遺跡発掘調査資料図譜第 3 分冊．氷遺跡発掘調査資料図譜刊行会，東京，pp.339-342.

小林青樹編，1999．縄文・弥生移行期の東日本系土器．国立歴史民俗博物館　春成研究室，千葉．

武末純一，2011．弥生時代前半期の暦年代再論．高倉 洋彰・田中 良之（編），AMS 年代と考古学．学生社，東京，pp.89-130.

中村豊，2000．阿波地域における弥生時代前期の土器編年．田崎博之(編)，突帯文と御賀川．土器持寄論文集刊行会，松山，pp.417-498.

中村豊，2010．庄・蔵本遺跡・西病棟新営その他電気設備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査．年報 2，11-21.

端野晋平，2018．庄・蔵本遺跡一帯における弥生時代前期墓制の検討．徳島大学埋蔵文化財調査室（編），庄・蔵本遺跡 3．国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室，徳島，pp.91-116.

端野晋平編，2018．庄・蔵本遺跡 3 －ボイラータンク地点（1998 年度立会）・第 22・30 次調査地点－．国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室，徳島．

橋本達也，2001．弥生時代前期朝鮮系無文土器の展開と徳島．青山考古 18，167-176.

北條芳隆編，1998．庄・蔵本遺跡 1．徳島大学埋蔵文化財調査室，徳島．

山崎頼人，2021．無文土器・弥生土器の変容過程について．考古学研究 268，49-58.

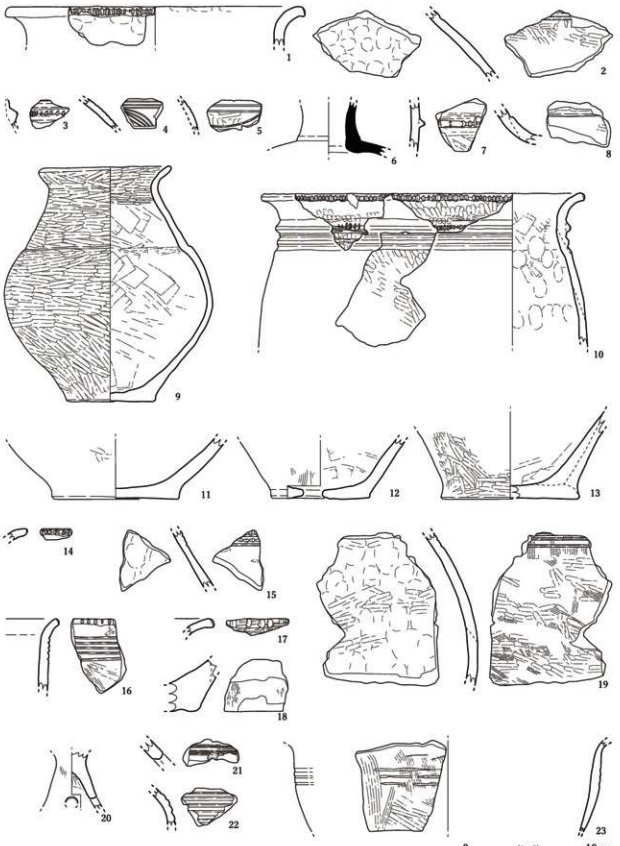


図 2-62　土器（1）

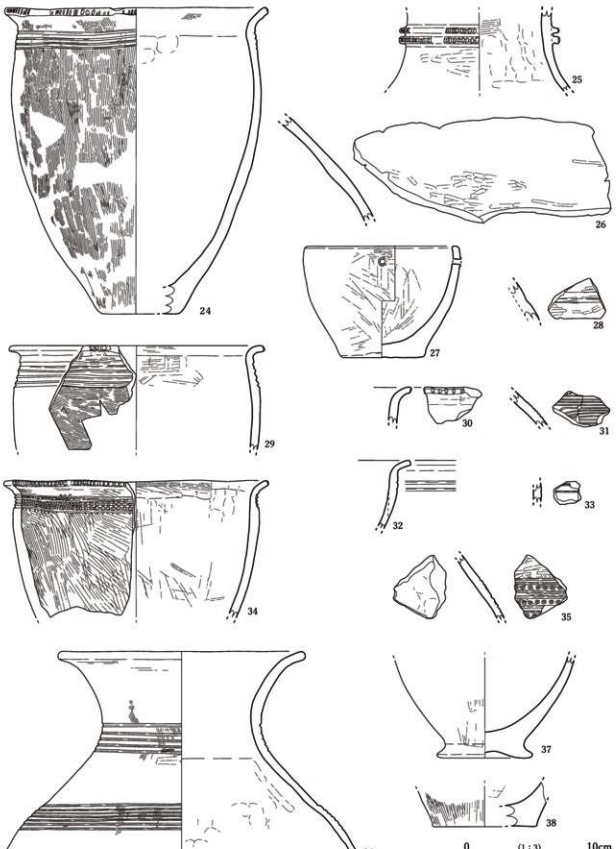


図 2-63　土器 (2)

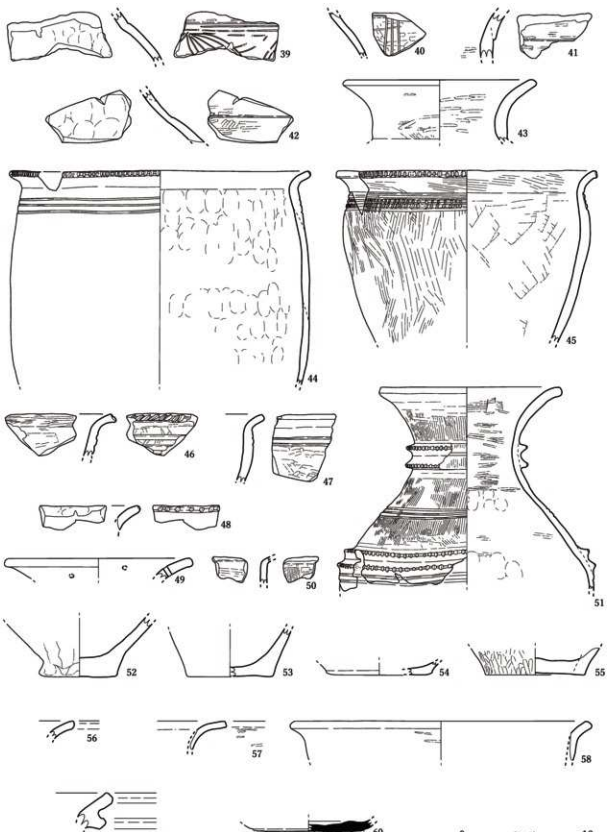

39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
0 (1:3) 10cm

図2-64　土器（3）

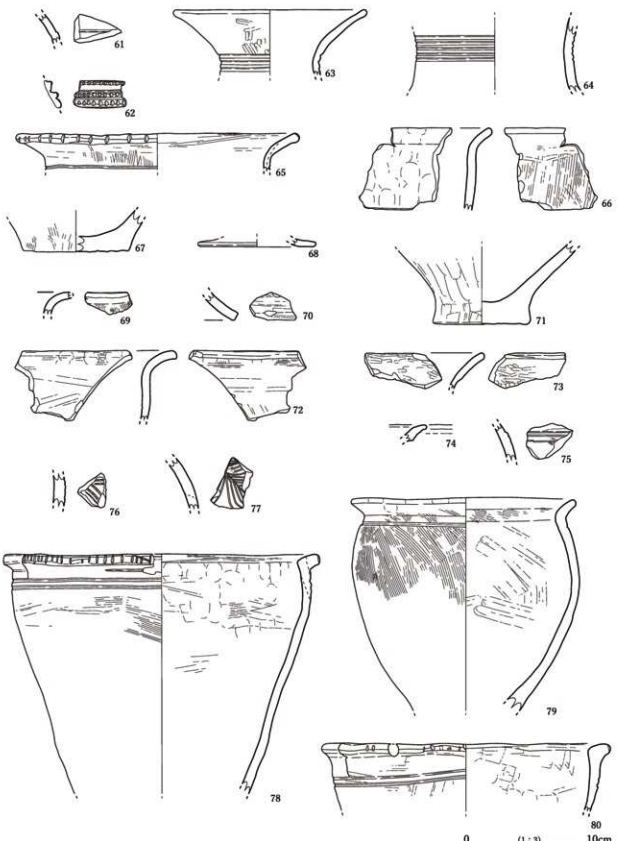


図 2-65　土器（4）

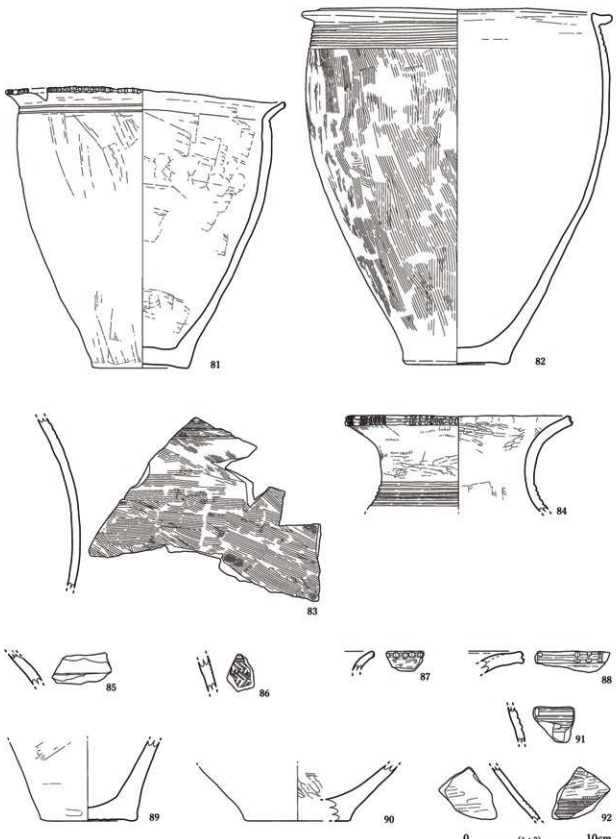


図2-66　土器（5）

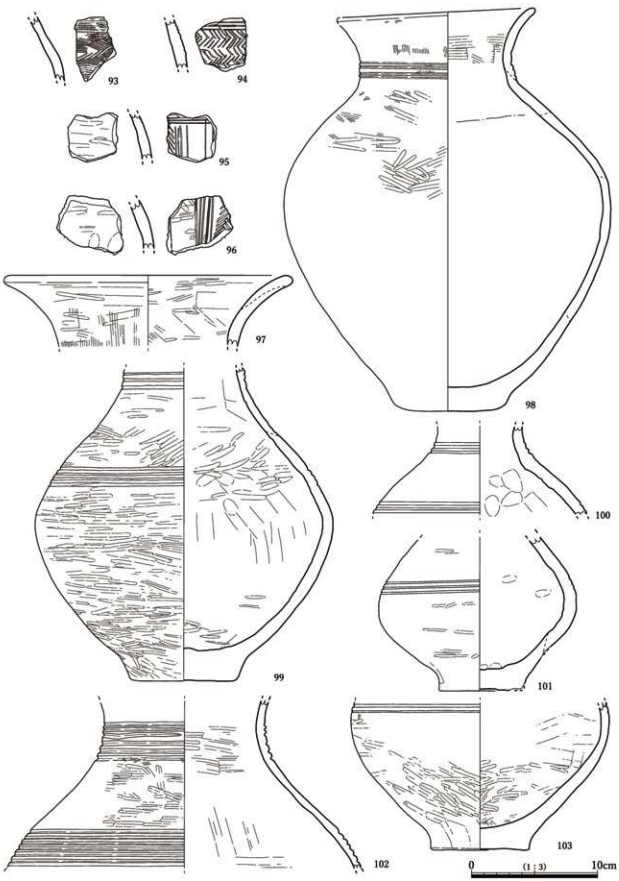


図 2-67　土器（6）

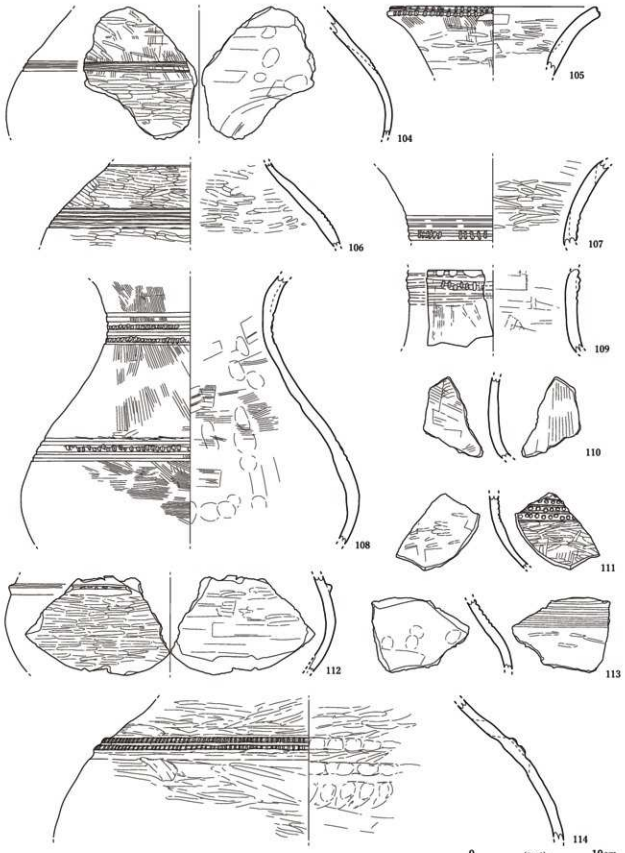


図 2-68　土器（7）

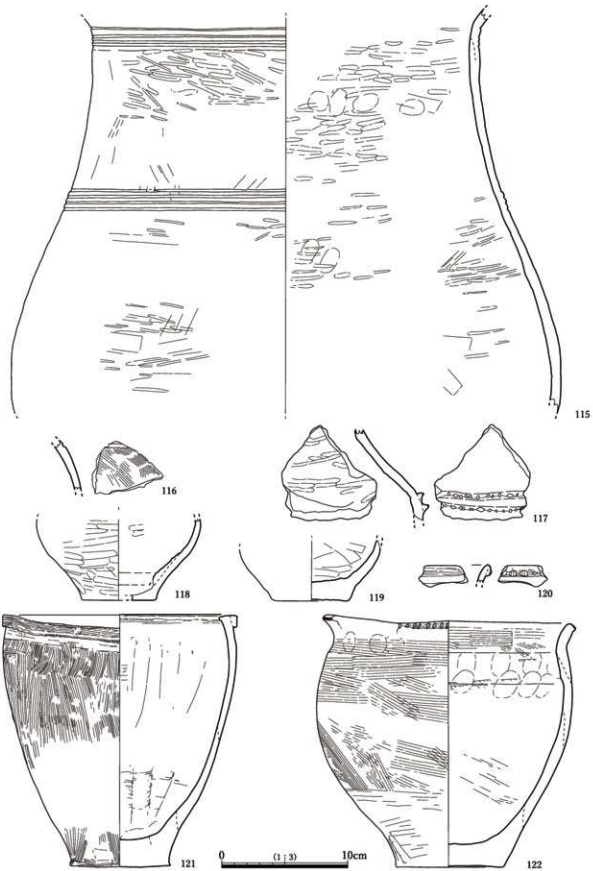


図 2-69　土器（8）

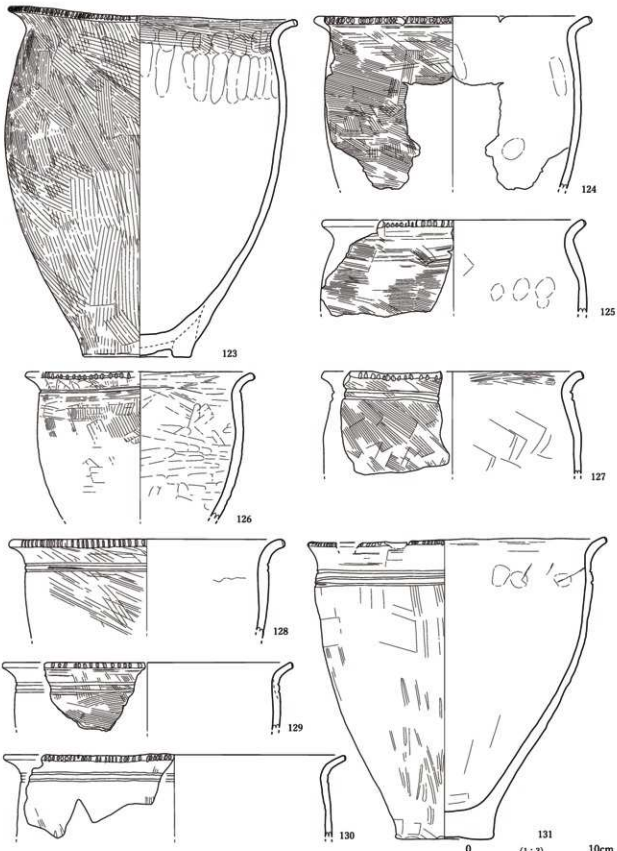


図 2-70　土器（9）

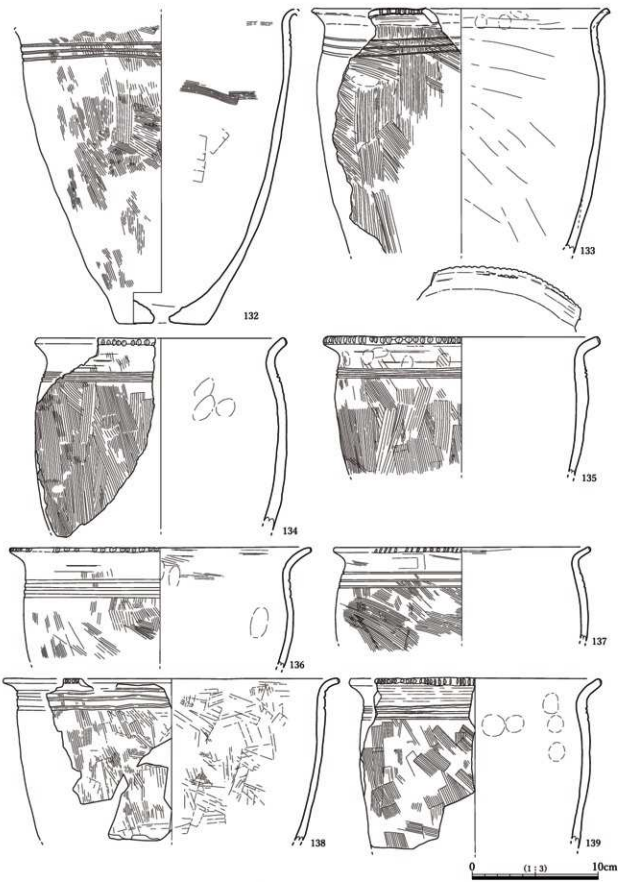


図 2-71　土器（10）

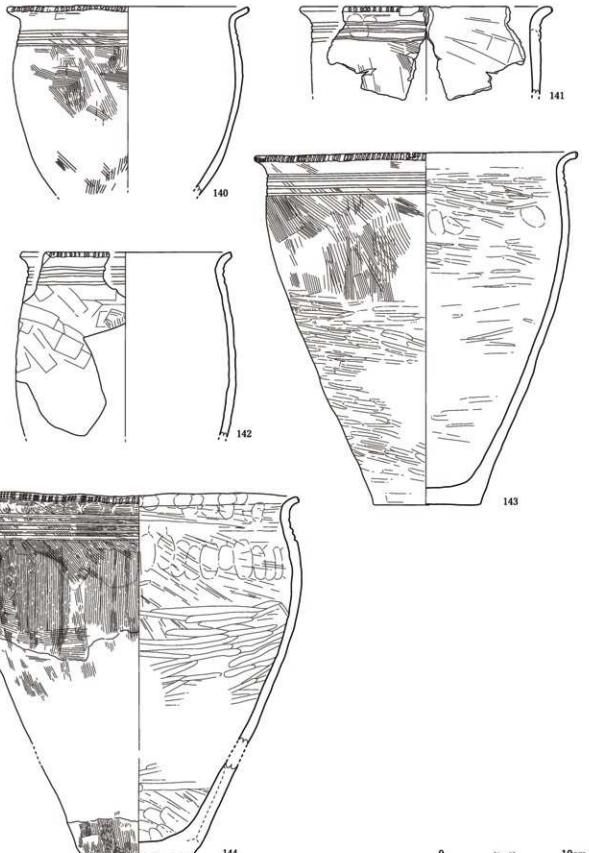


図2-72　土器（11）

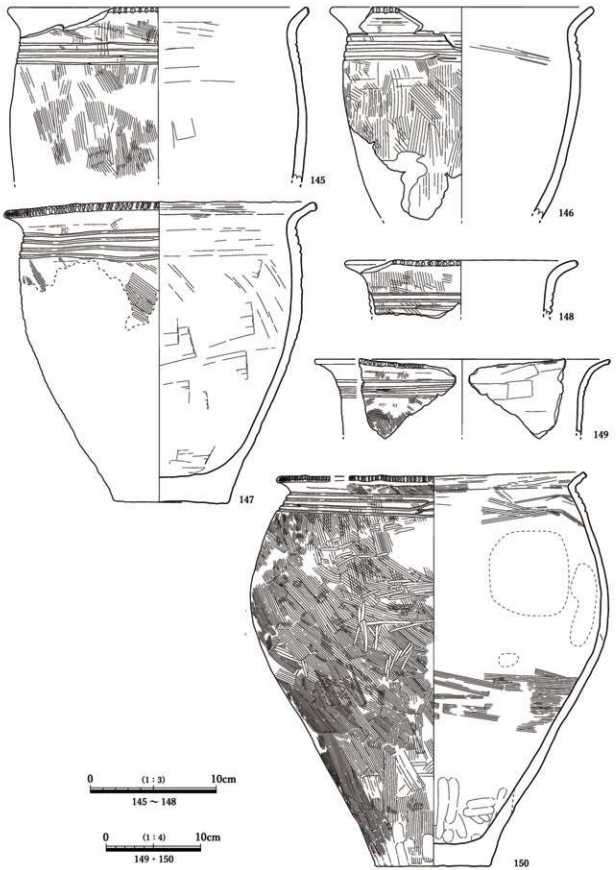


図 2-73 土器 (12)

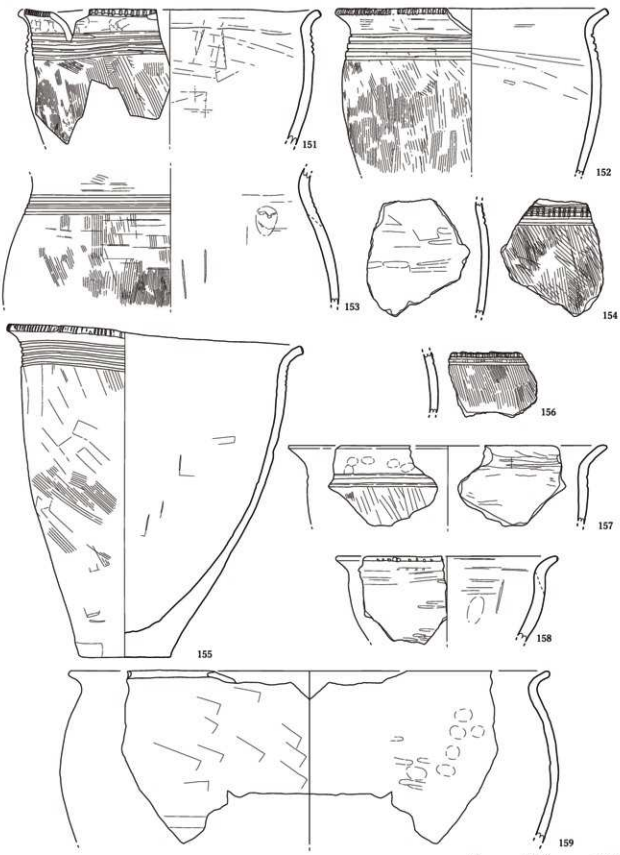


図 2-74　土器（13）

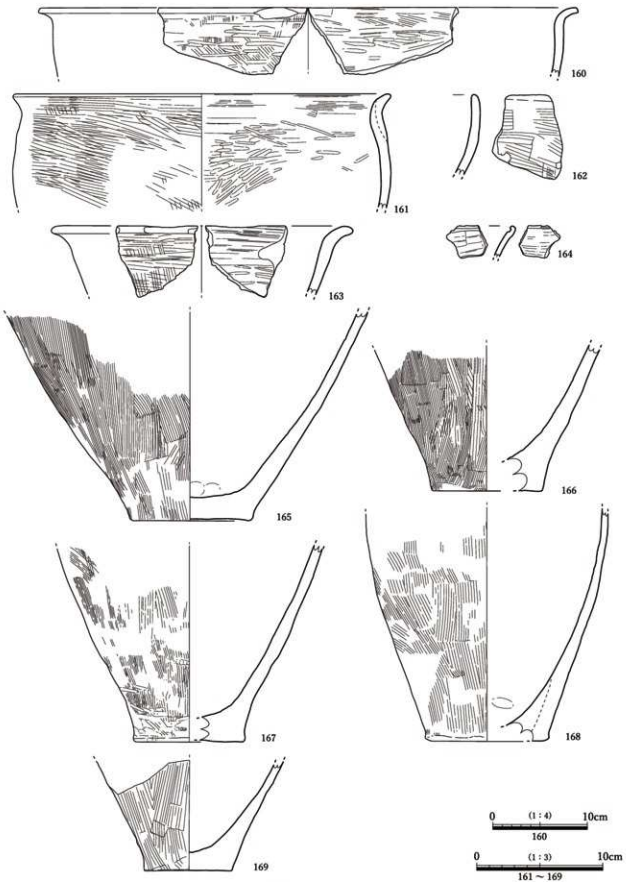

160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
0 (1:4) 10cm
160
0 (1:3) 10cm
161 ～ 169

図 2-75 土器（14）

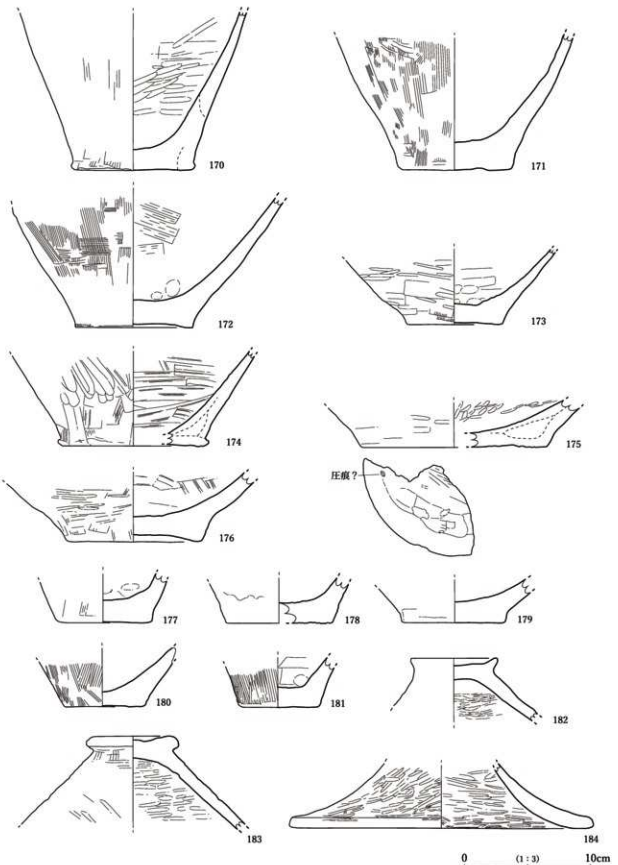

170
171
172
173
174
175
圧痕？
176
177
178
179
180
181
182
183
184
0
(1：3)
10cm

図 2-76　土器（15）

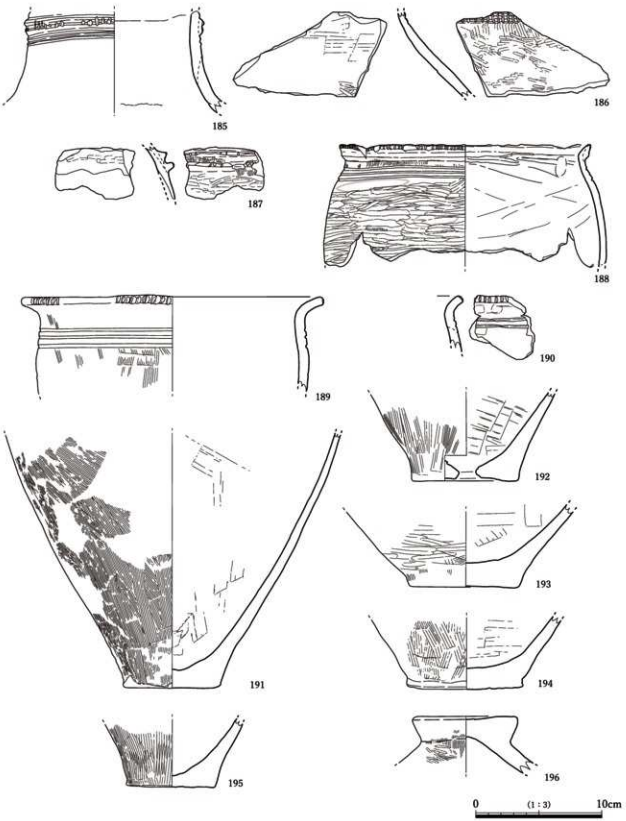


図 2-77 土器 (16)

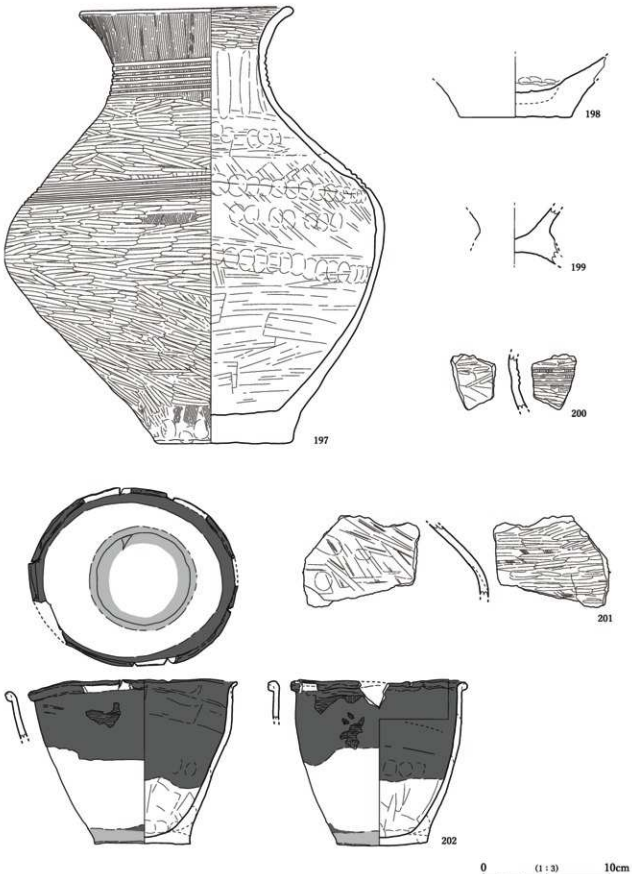


図 2-78　土器（17）

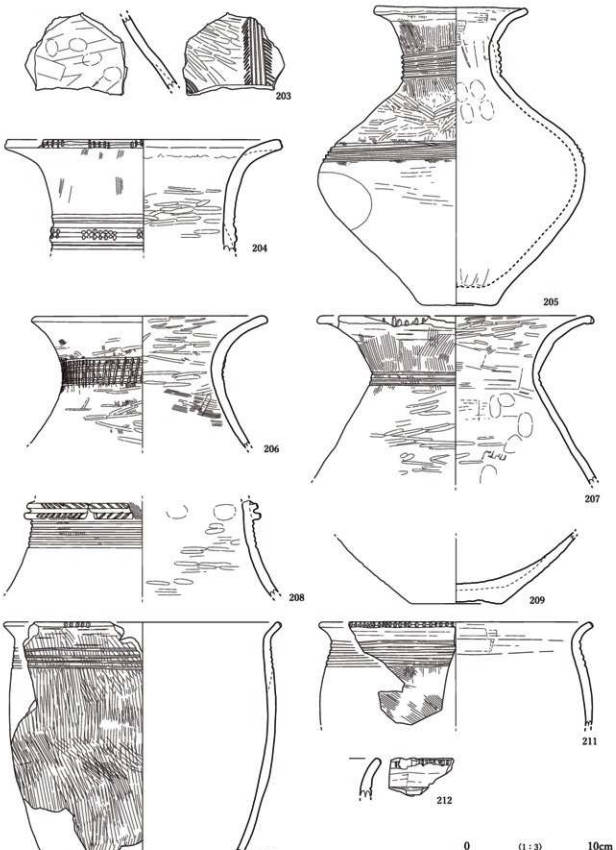


図 2-79　土器（18）

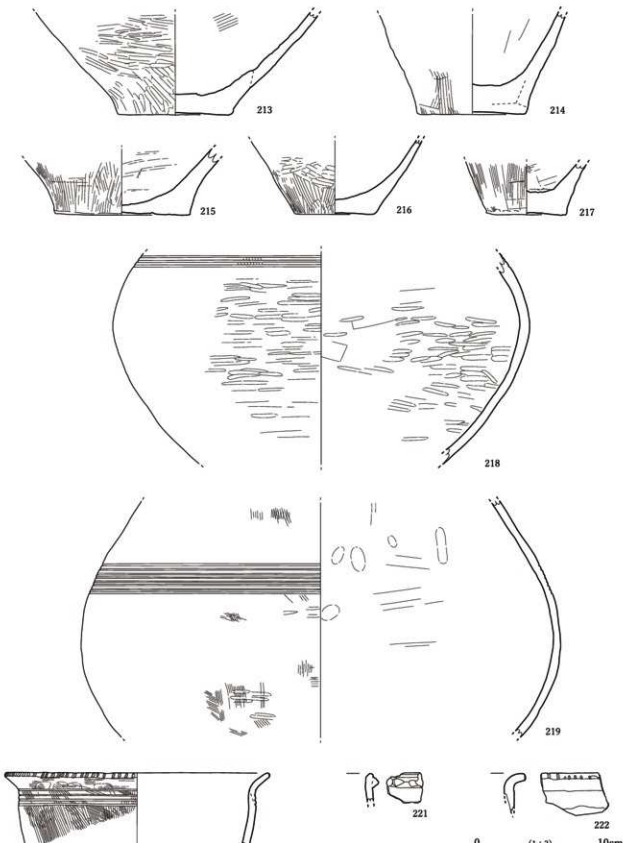


図2-80　土器（19）

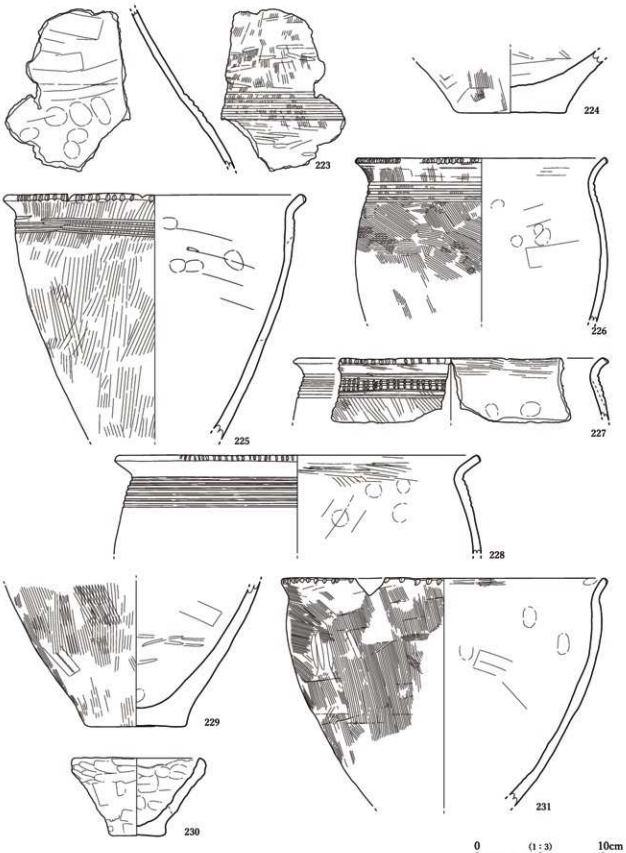


図 2-81　土器（20）

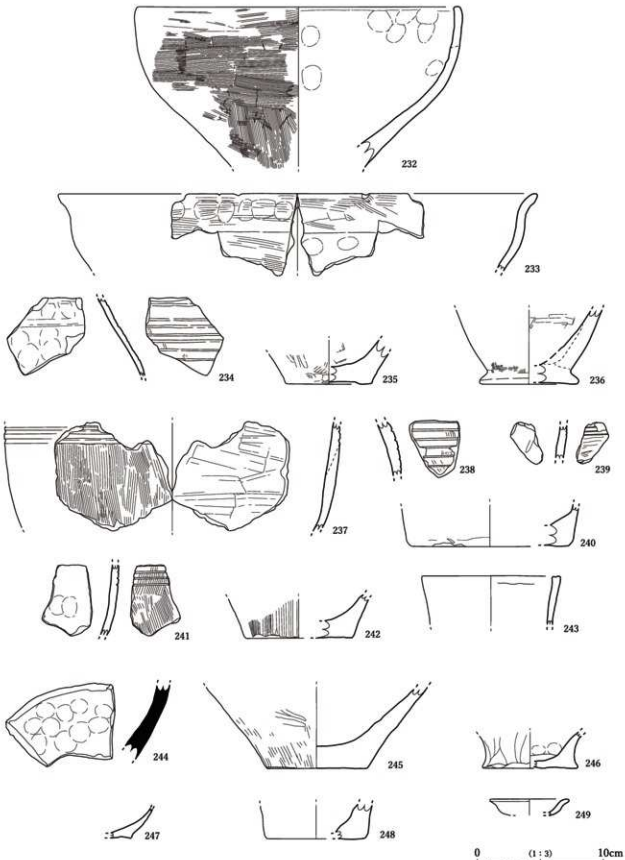

232
233
234
235
236
237
238
239
240
241
242
243
244
245
246
247
248
249
0
(1:3)
10cm

図2-82　土器（21）

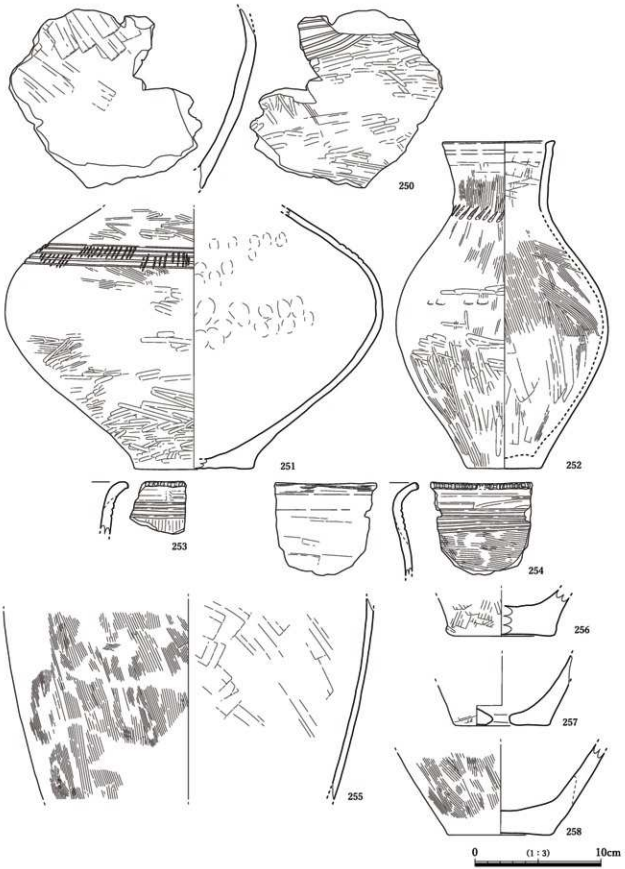


図 2-83　土器（22）

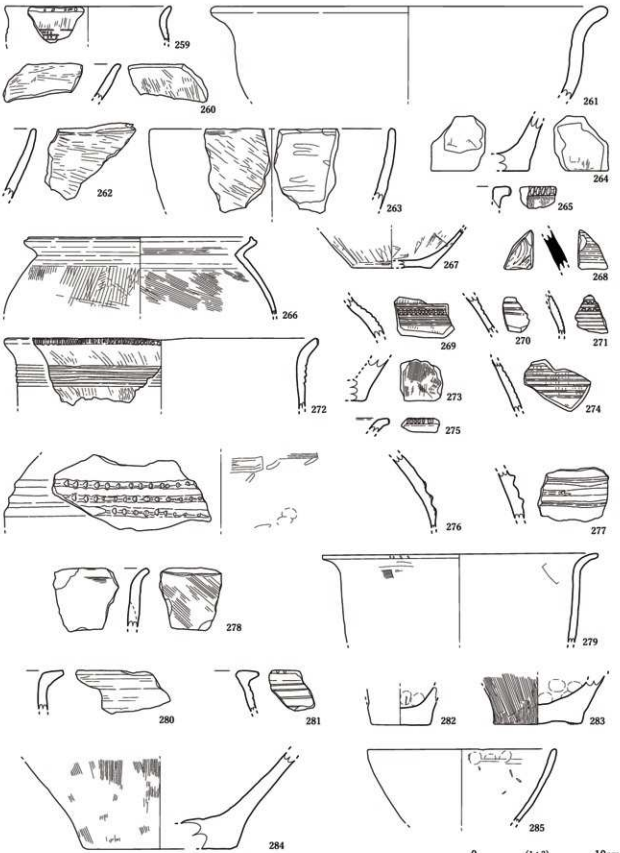

259
260
261
262
263
264
265
266
267
268
269
270
271
272
273
274
275
276
277
278
279
280
281
282
283
284
285
0
(1:3)
10cm

図2-84　土器（23）

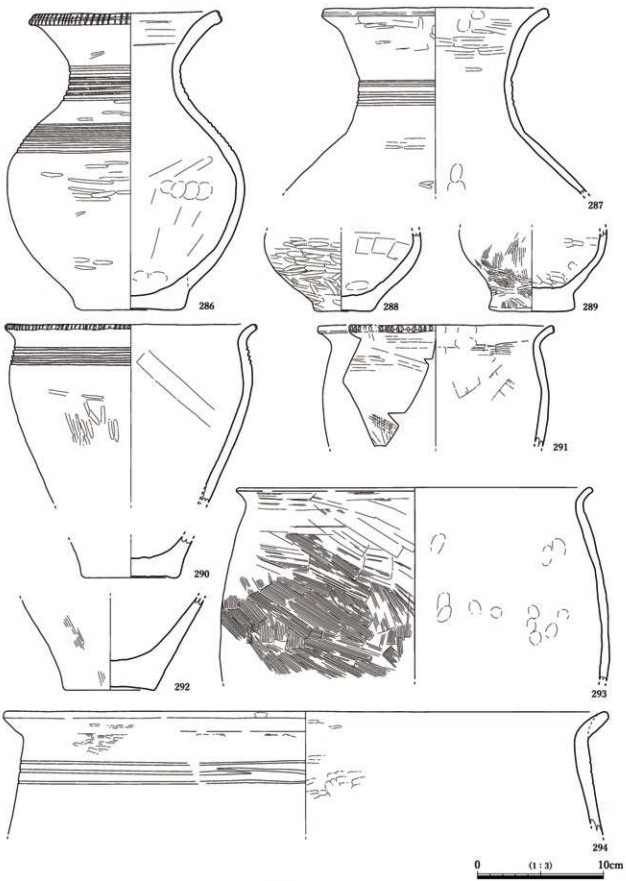


図 2-85　土器（24）

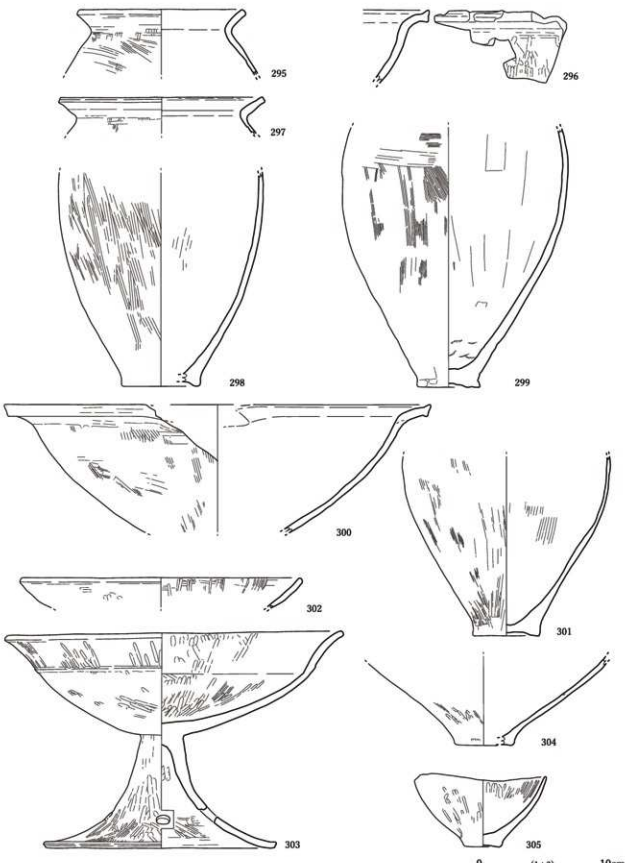


図 2-86　土器（25）

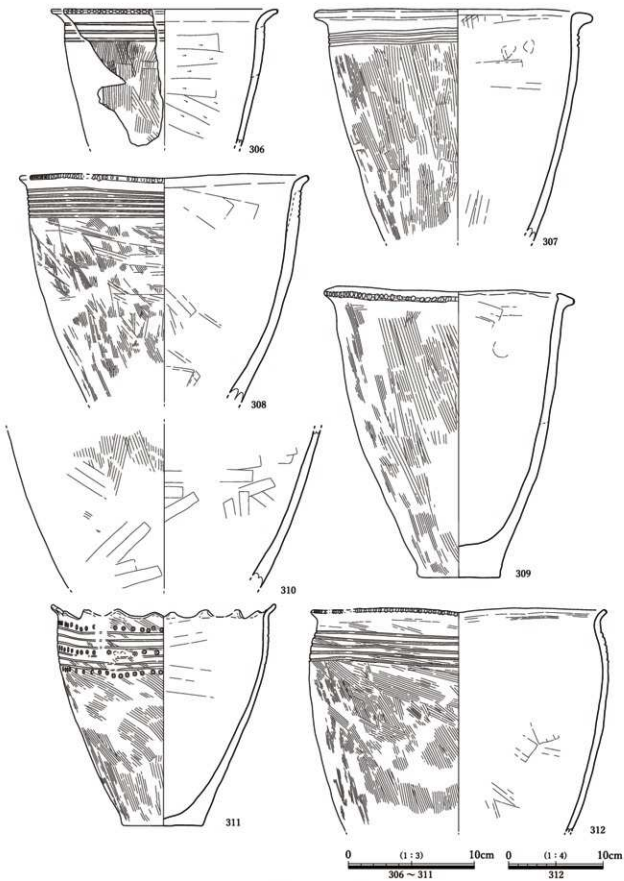


図 2-87　土器（26）

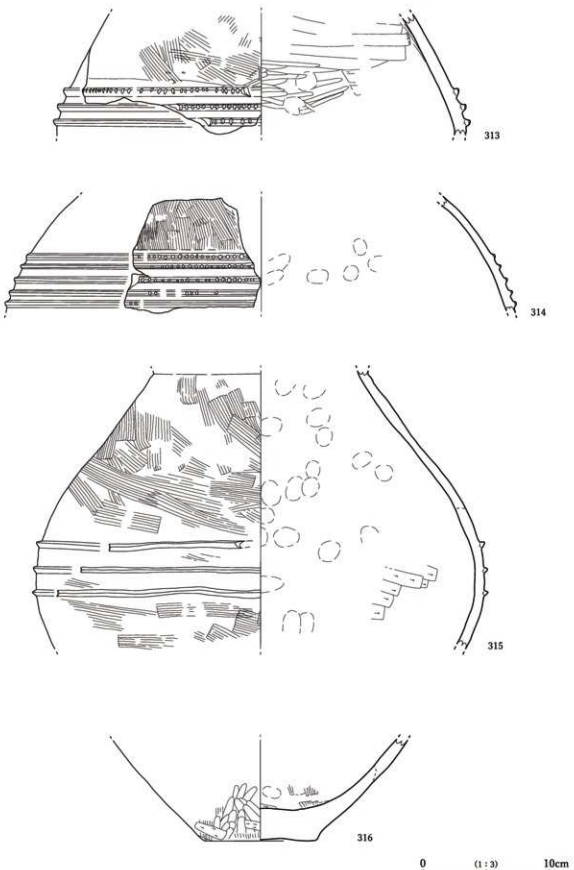


図2-88　土器（27）

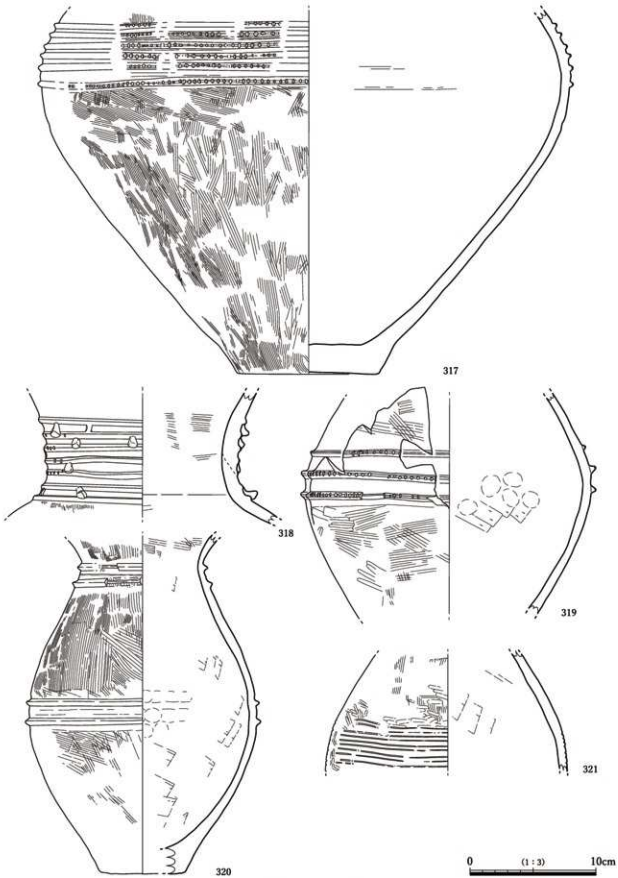


図 2-89　土器 (28)

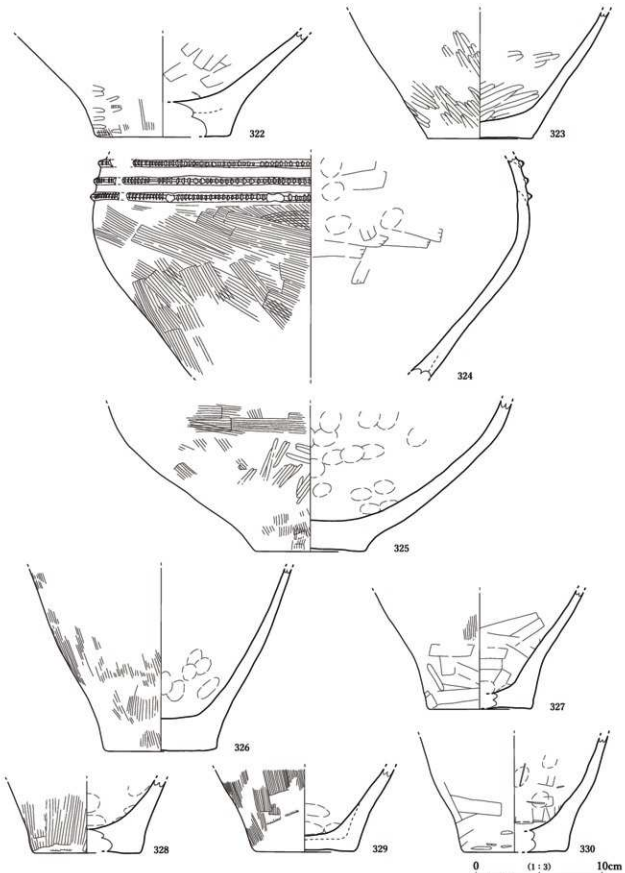


図 2-90　土器（29）

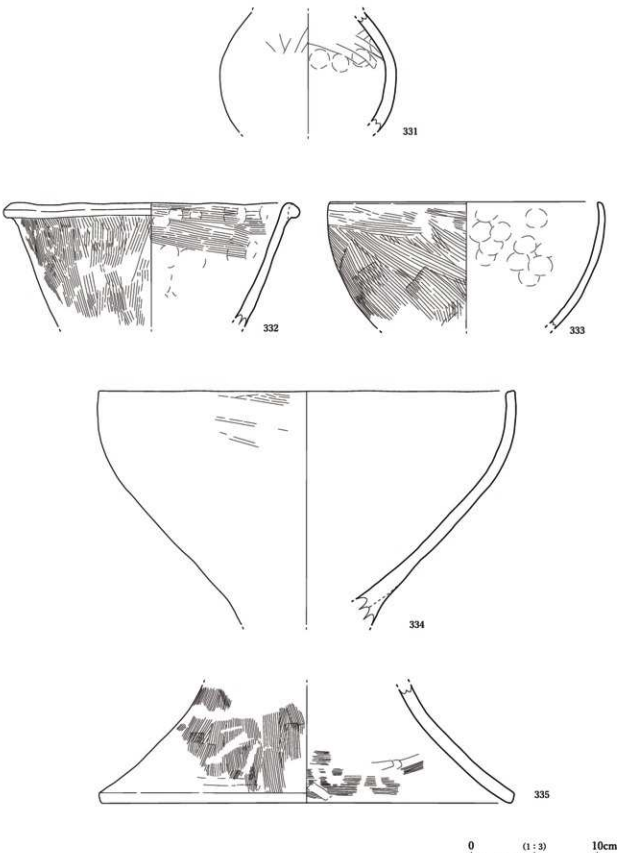


図 2-91　土器（30）

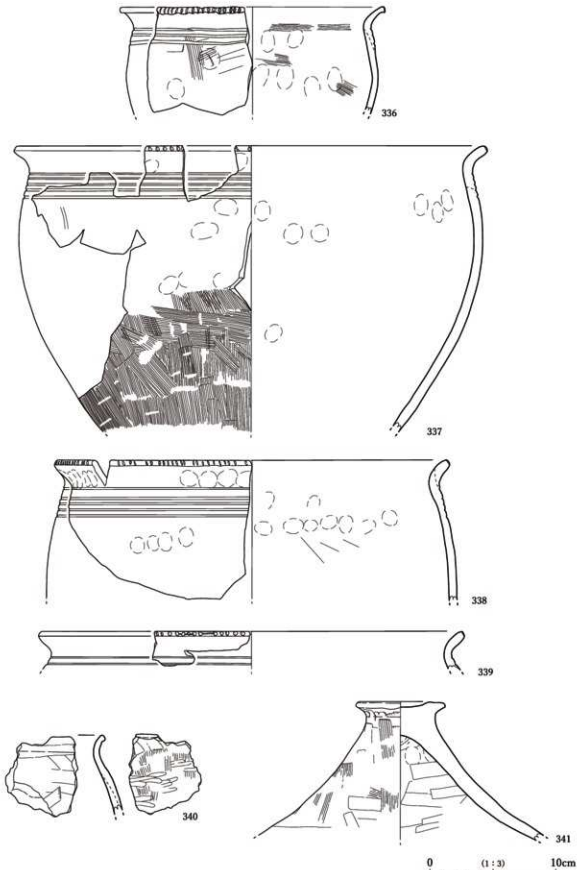


図2-92　土器（31）

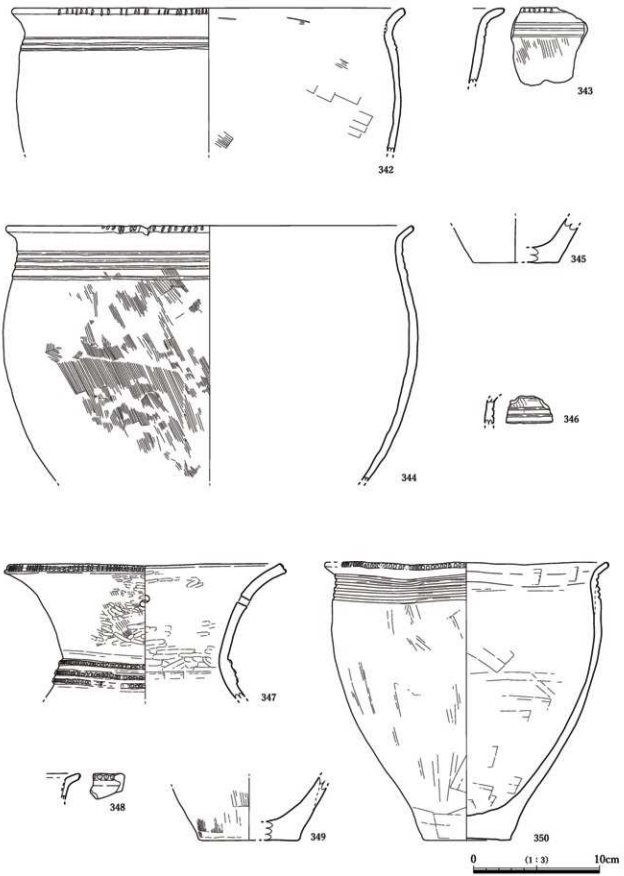


図 2-93　土器 (32)

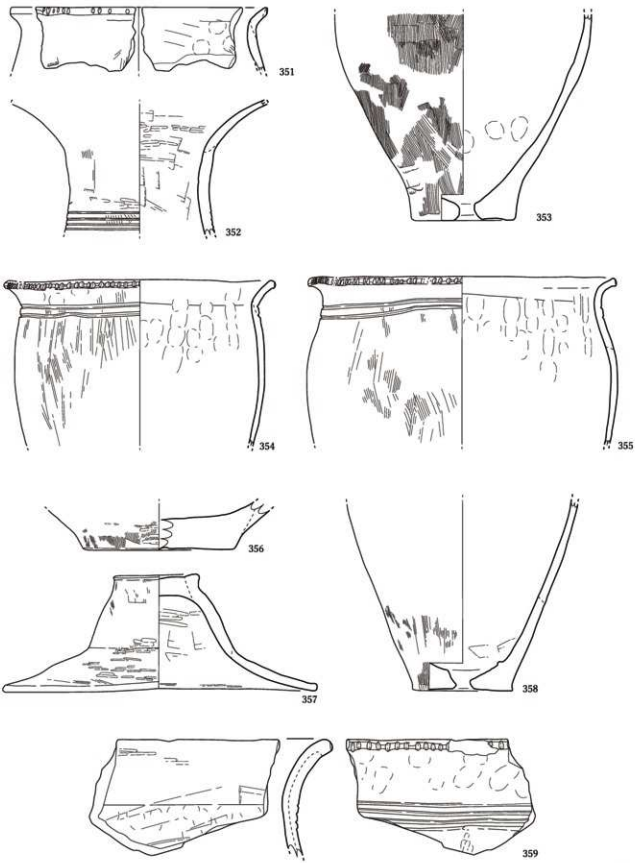


図 2-94　土器（33）

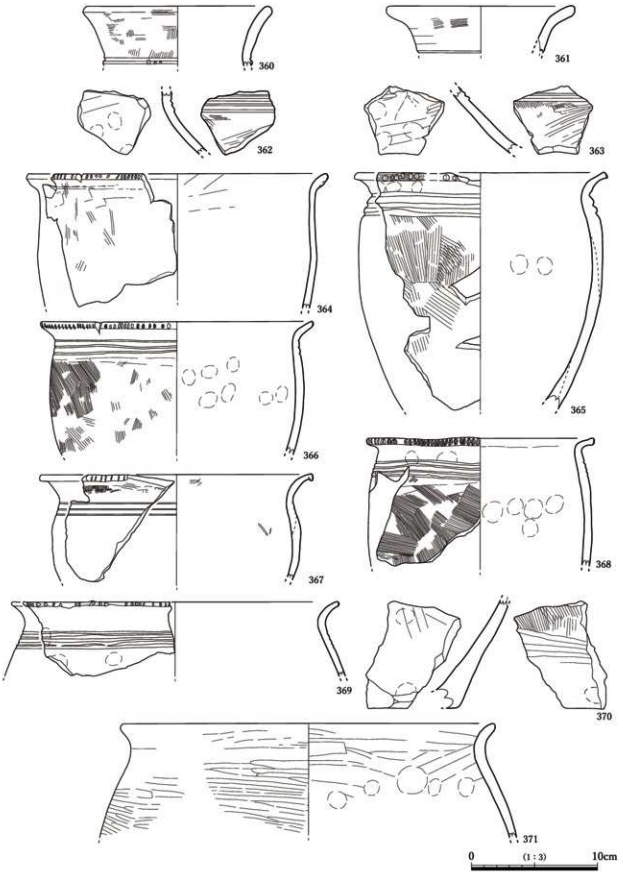


図 2-95 土器 (34)

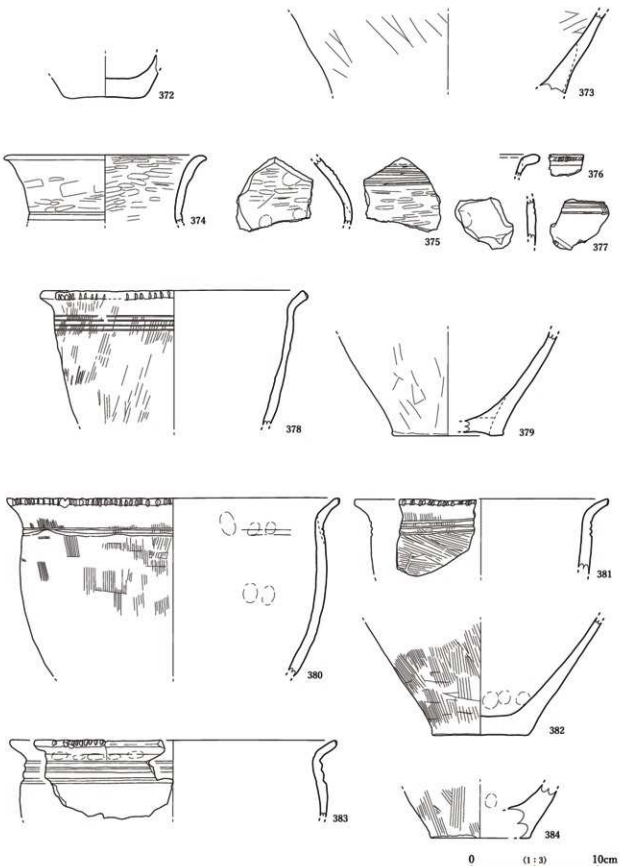


図 2-96　土器（35）

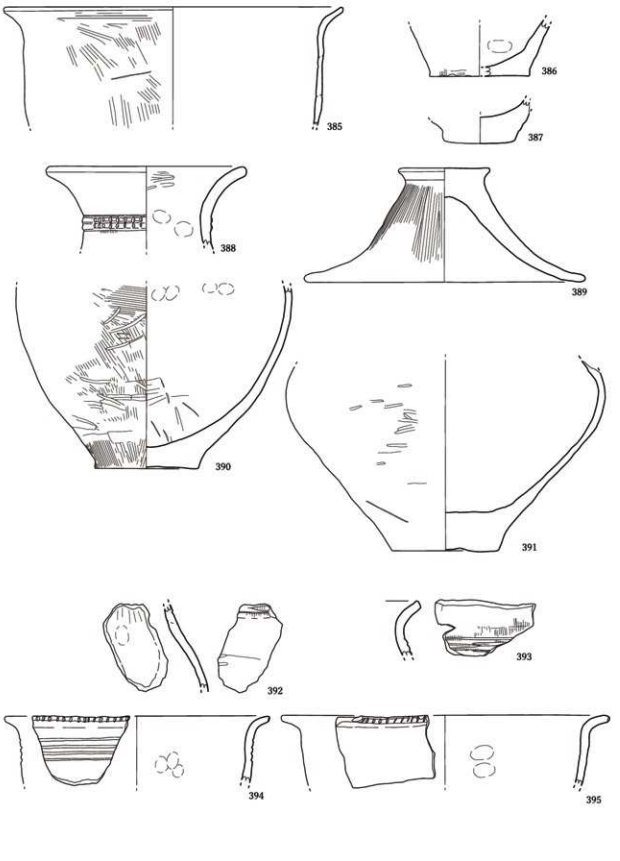


図 2-97 土器 (36)

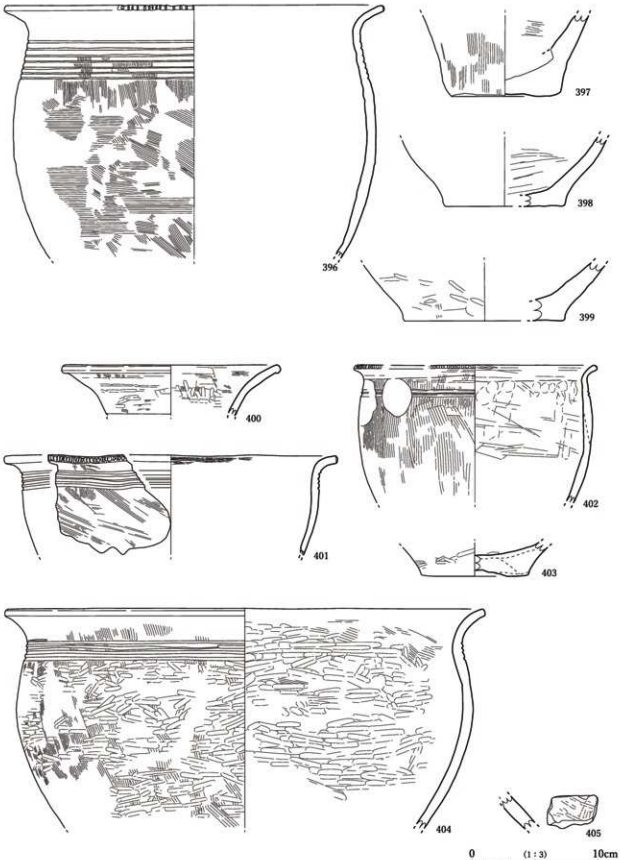
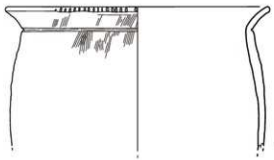
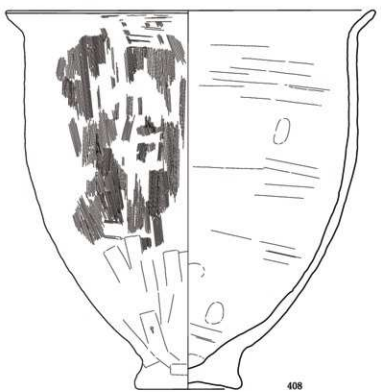


図2-98　土器（37）





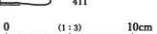


図 2-99 土器 (38)

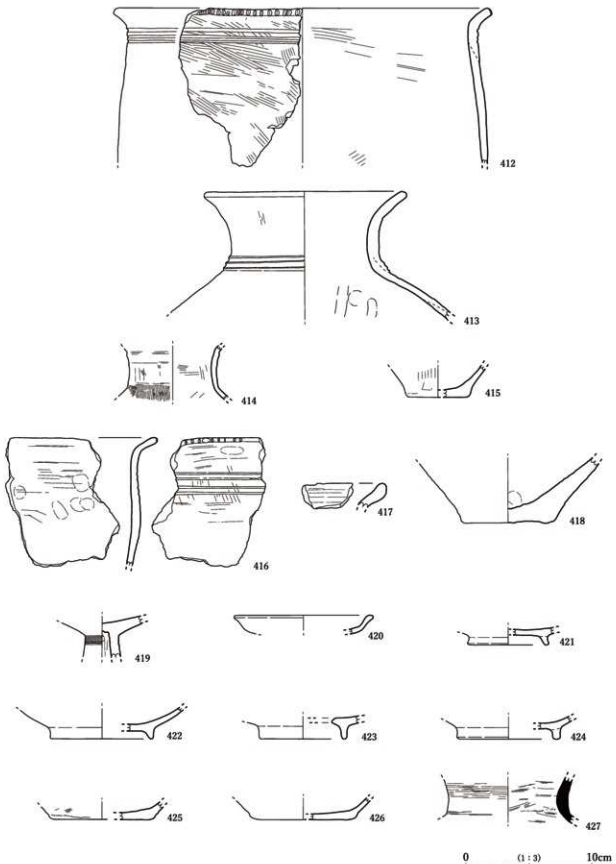

412
413
414
415
416
417
418
419
420
421
422
423
424
425
426
427
0
(1:3)
10cm

図 2-100　土器（39）

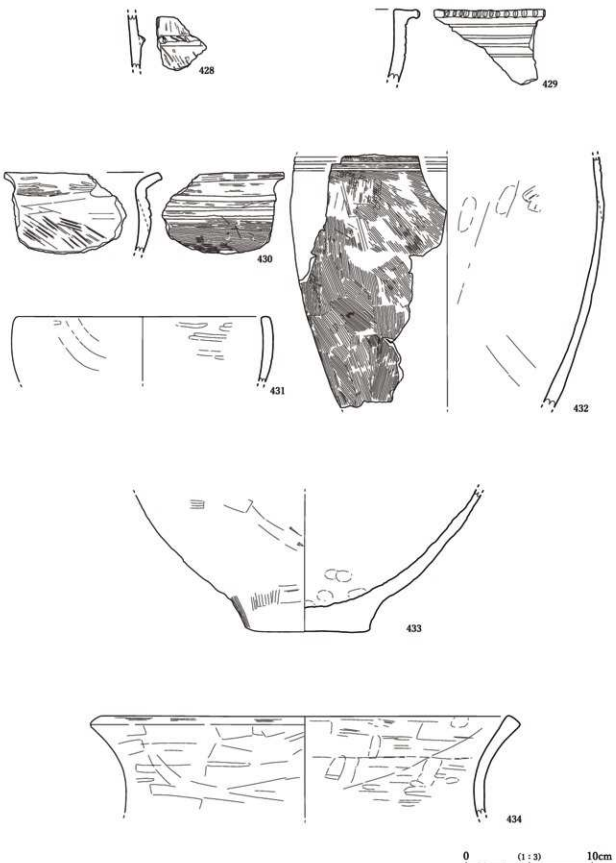


図 2-101　土器（40）

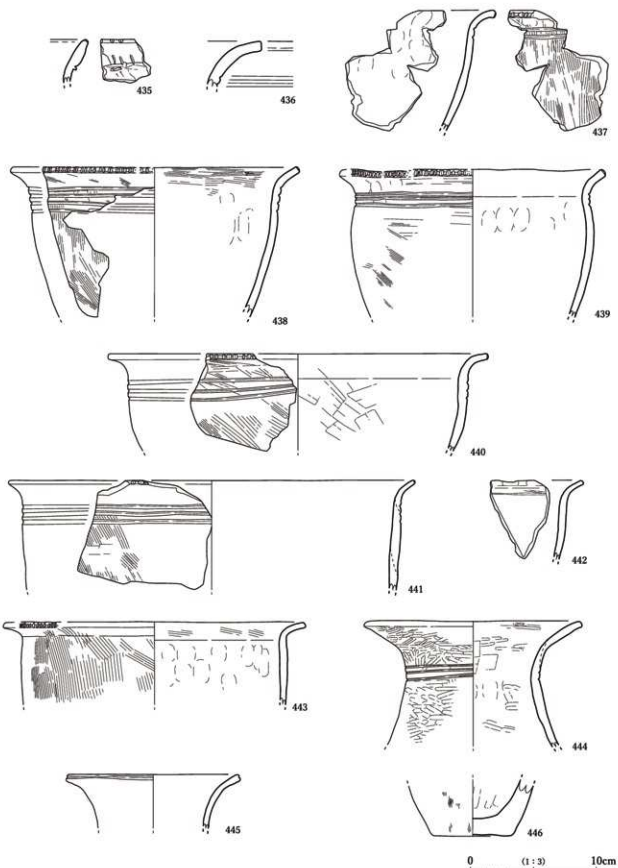


図 2-102　土器（41）

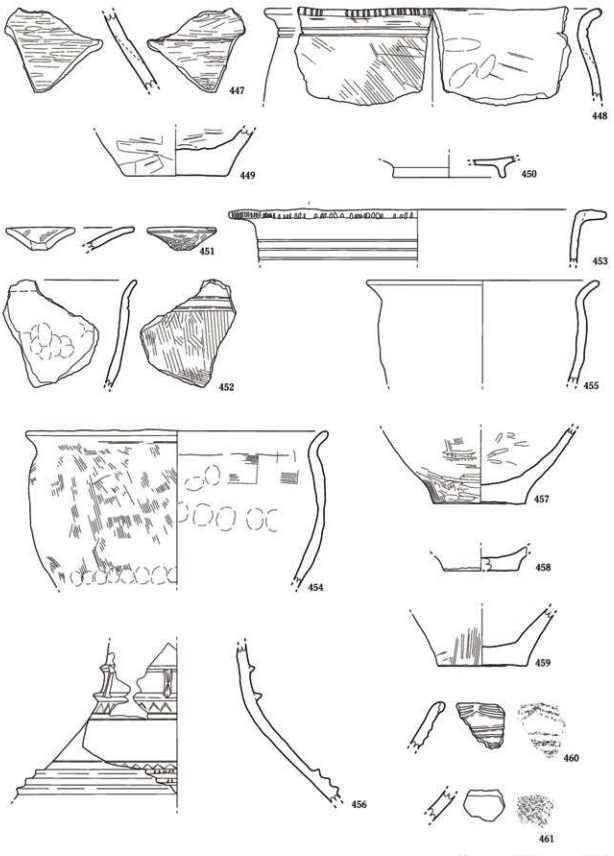

447
448
449
450
451
453
452
455
454
457
458
459
456
460
461
0
(1:3)
10cm

図 2-103　土器（42）

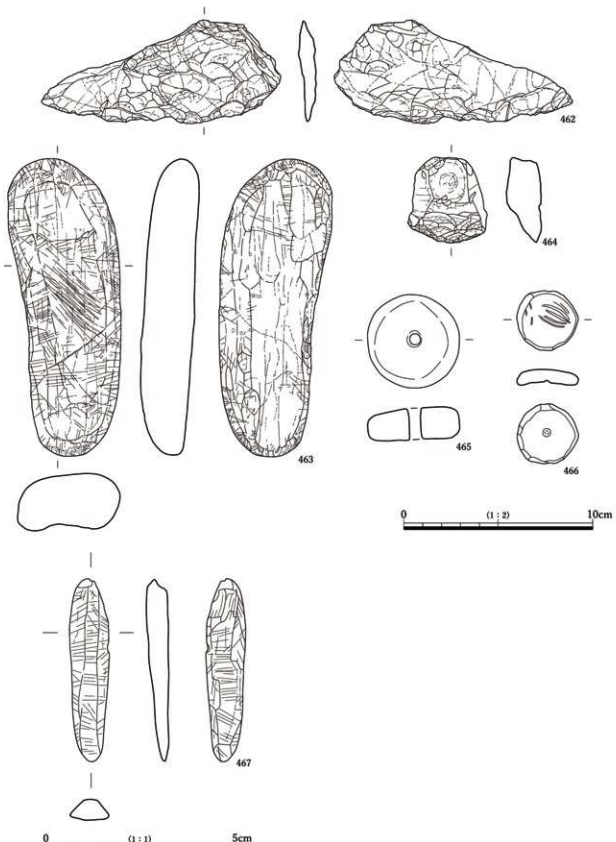


図 2-104　石器・土製品・木器（1）

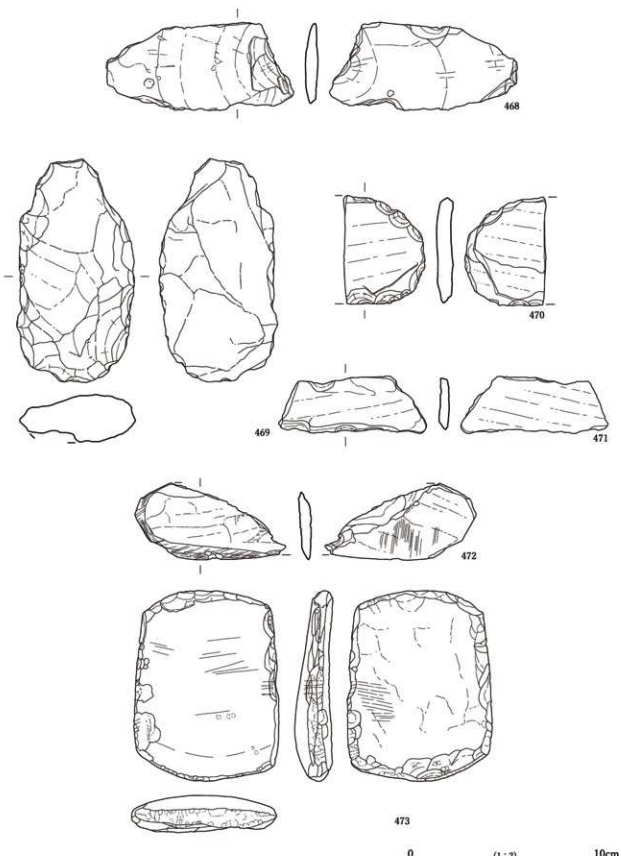


図 2-105　石器・土製品・木器（2）

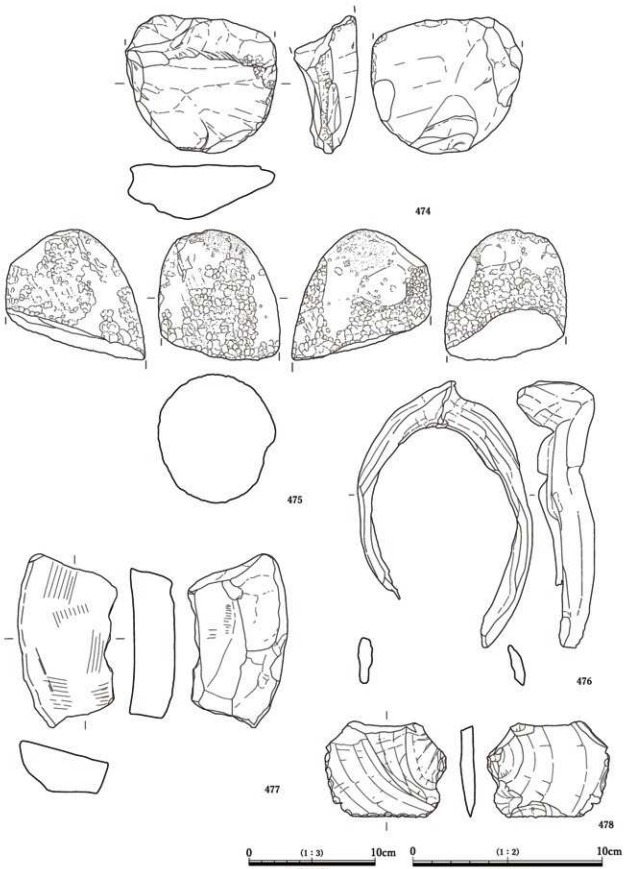


図2-106　石器・土製品・木器（3）

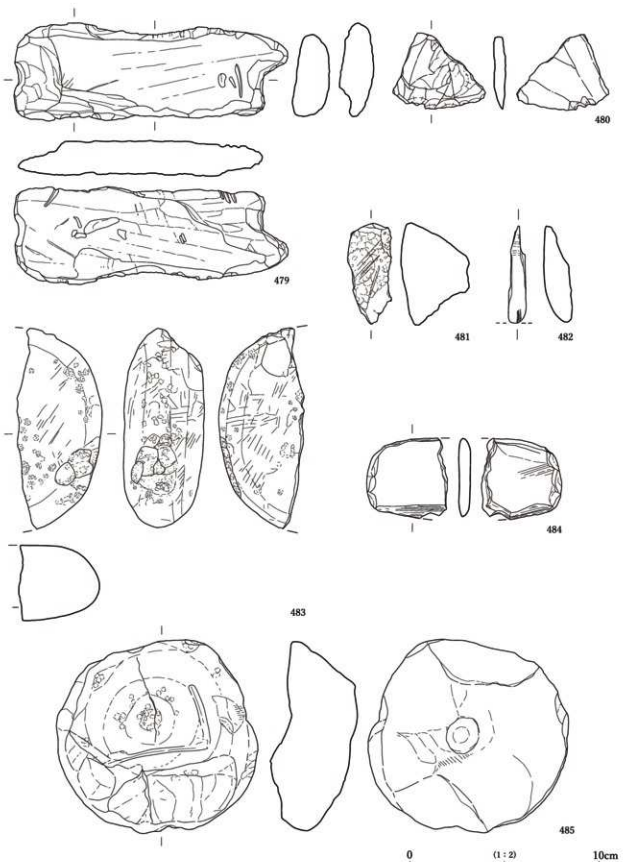


図 2-107　石器・土製品・木器（4）

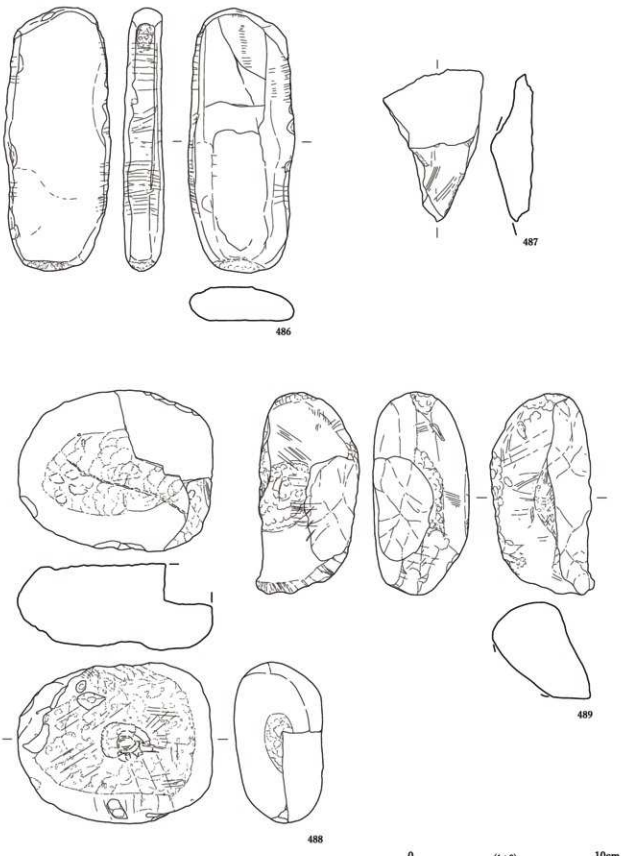


図2-108　石器・土製品・木器（5）

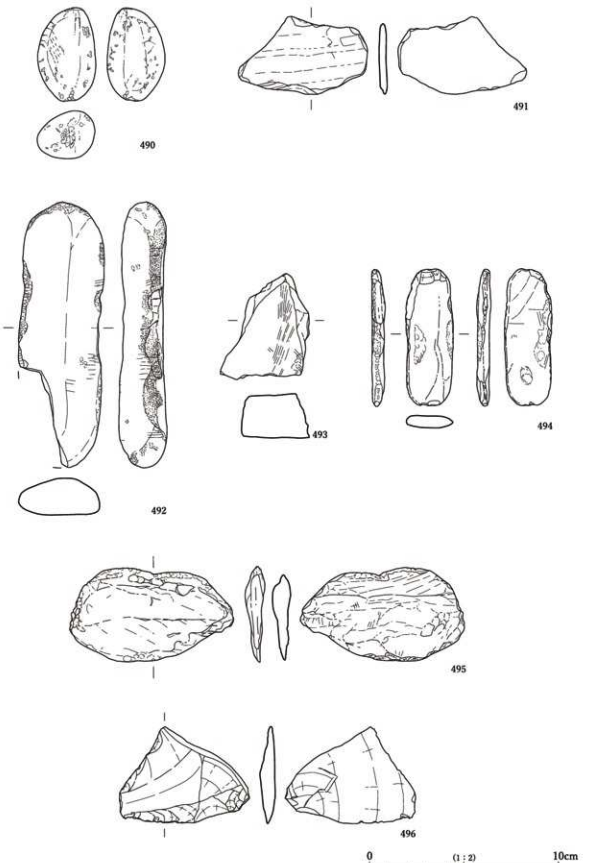


図 2-109　石器・土製品・木器（6）

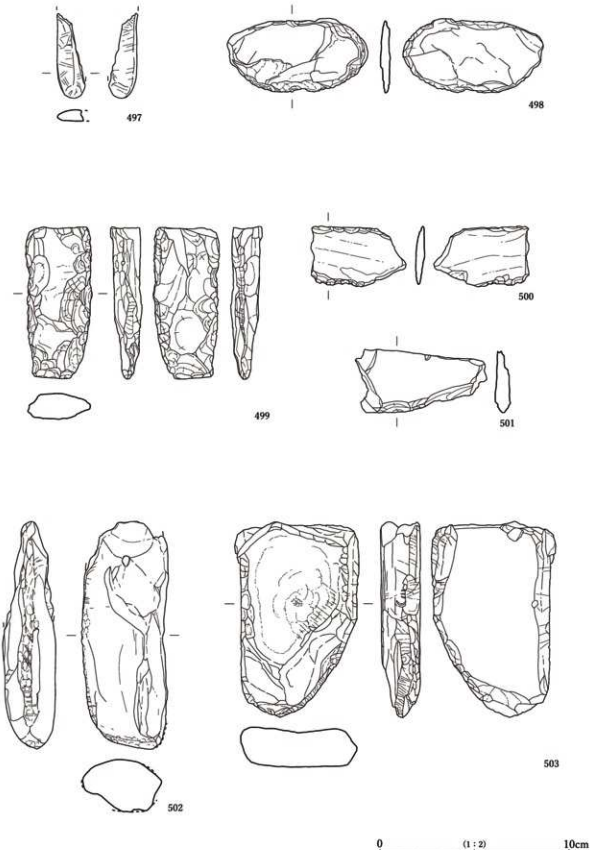


図 2-110　石器・土製品・木器（7）

表 2-1　土器観察表（1）

No.	地点	遺構・層位	種類・器種	法量（cm）			文様・調整（外／内）	色調（外／内）	胎土	時期	備考
				口径	底径	器高					
1	排水管	SD01下層	弥生土器・壺	(23.2)			オサエ・ナデ／オサエ・ナデ	10YR 6/3において黄橙／7.5YR 6/4において橙	石英・輝石	I	
2	排水管	SD01下層	弥生土器・壺				1条沈線・ナデ・ミガキ・風化／オサエ・ナデ	10YR 5/2において黄灰／10YR 6/3において黄橙	石英・輝石	I	
3	排水管	SD01下層	縄文土器・深鉢？				1条貼目突帯・ヨコナデ／剥離	7.5YR 5/3において黒／10YR 6/3において黄橙	石英・輝石	I－1（古）？	
4	排水管	SK01	弥生土器・壺				木葉文／剥離・ナデ？	10YR 7/2において黄橙／7.5YR 7/3において橙	石英・輝石	I－1・2	
5	排水管	SK01	弥生土器・壺				ミガキ？垂弧文？／剥離	10YR 7/2において黄橙／10YR 5/1褐灰	石英・輝石	I－1・2	
6	排水管	SK01	須恵器・壺				回転ナデ／回転ナデ・粗いナデ？	N 6/ 灰／N 5/ 灰	長石	古代	
7	排水管	SK02	弥生土器・壺				1条貼付須目突帯・下地1条沈線・ナデ・ヨコナデ／ナデ	7.5YR 6/4において橙／7.5YR 6/6橙	石英・輝石	I－3・4	
8	排水管	SK02	弥生土器・壺				風化・ミガキ／ナデ	5YR 6/4において橙／10YR 6/3において黄橙	石英・輝石	I－1	外面に段
9	排水管	SK02	弥生土器・壺	10.1	6.7	18.7	口頸部ヨコ・ナナメミガキ、胴部ヨコミガキ、底部ナナメミガキ／口縁部ヨコミガキ、胴無調整ナデ	7.5YR 6/3において黄橙／7.5YR 6/3において褐	石英・輝石	I－1	外面に段、肩部に黒斑
10	排水管	SK03	弥生土器・壺	(25.2)			口縁端部須目・口縁部ヨコナデ・ミガキ、胴部1条貼付須目突帯・2条沈線・ミガキ／口縁部ナデ、胴部オサエのちナデ	10YR 5/3において黄褐／10YR 6/3において黄橙	石英・輝石	I－3・4	
11	排水管	SK03	弥生土器・底部		9.8		風化・ミガキ／ナデ	5YR 6/6橙／7.5YR 6/6橙	輝石・石英	弥生	壺、黒斑
12	排水管	SK03	弥生土器・底部		7.8		ナデ・ハケメ／風化・板ナデ	10YR 6/3において黄橙／10YR 7/3において黄橙	石英・輝石	弥生	底面焼成後穿孔
13	排水管	SK03？	弥生土器・底部		(10.8)		ミガキ・ナデ／板ナデ	2.5Y 8/1灰白／7.5YR 7/3において橙	石英・輝石	弥生	
14	排水管	SK09	弥生土器・口縁部				口縁端部須目・ナデ／ナデ	7.5YR 6/4において橙／7.5YR 6/4において橙	石英	I？	
15	排水管	SD44	弥生土器・壺				2条沈線・刺突文・ミガキ／オサエ	7.5YR 7/4において橙／7.5YR 6/4において橙	石英・輝石	I	
16	排水管	SD44	弥生土器・壺				口縁端部須目・5条沈線・板ナデ・ハケメ／ヨコナデ、板ナデ？	10YR 6/2灰黄褐／10YR 5/2灰黄褐	長石・輝石	I－2～4	
17	排水管	SD44	弥生土器・壺				口縁端部須目・ハケメ／風化	7.5YR 5/4において橙／7.5YR 6/4において橙	石英・輝石	I	
18	排水管	SD44	弥生土器・底部				風化・ハケメ／風化・ナデ	10YR 5/3において黄褐／7.5YR 7/4において橙	石英・輝石	弥生	
19	排水管	SD67	弥生土器・壺				3条沈線・ハケメ・ミガキ・ナデ／オサエ・ミガキ・ナデ	7.5YR 7/4において橙／7.5YR 7/4において橙	石英・輝石	I－1・2	
20	排水管	SD44	弥生土器・底部				風化・ハケメ／絞り痕	5YR 7/6橙／5YR 6/4において橙	長石	V～VI	透かし孔1ヶ所残存
21	排水管	SD44	弥生土器・壺				2条擬縄文・ナデ／ナデ	7.5YR 6/4において橙／7.5YR 7/6橙	雲母	I－4	透かし孔1ヶ所
22	排水管	SD66北側土層No.1	弥生土器・壺				5条沈線・ナデ／ナデ	10YR 6/2灰黄褐／10YR 6/3において黄橙	石英・輝石	I－3・4	
23	排水管	SD67	弥生土器・壺				3条沈線のちヘケメ・粗いハケメ／ナデ	7.5YR 6/3において橙／7.5YR 7/3において橙	石英・輝石	I	沈線一部消される
24	排水管	SK10床面直上	弥生土器・壺	(20.6)	(6.1)	24.3	口縁端部須目・4条沈線・ハケメ／口縁部ヘケメ・ナデ、胴部オサエ・ナデ	10YR 6/3において黄橙／7.5YR 6/3において褐	石英・輝石	I－2～4	
25	排水管	SK10土器群No.1	弥生土器・壺				2条貼付須目突帯・ミガキ／ハケメ・オサエ・ナデ	7.5YR 6/3において褐／10YR 6/2灰黄褐	石英・輝石	I－3・4	
26	排水管	SK04	弥生土器・壺				ミガキ・風化／風化・剥離	7.5YR 7/6橙／10YR 7/3において黄橙	長石・輝石	弥生	
27	排水管	SK11A No.2	弥生土器・鉢	(11.9)	6.5	8.8	板ナデ／板ナデ	10YR 7/3において黄橙／2.5Y 7/2灰黄	石英・輝石	I－1・2	焼成前穿孔1ヶ所
28	排水管	SK04	弥生土器・壺				ナデ・ミガキ／剥離	10YR 7/3において黄橙／5YR 6/6橙	石英・輝石	I－1	
29	排水管	SK11A	弥生土器・壺	(20.1)			口縁端部須目・オサエ、胴部5条沈線・ハケメ／板ナデ・ハケメ	10YR 6/3において黄橙／10YR 6/2灰黄褐	石英・輝石	I－2～4	
30	排水管	SK11A砂質土層	弥生土器・壺				口縁端部須目・ヨコナデ／風化・ナデ？	7.5YR 4/2灰褐／10YR 6/2灰黄褐	長石・輝石	I	
31	排水管	SK05	弥生土器・壺				ナデ？流水文？／ナデ？	7.5YR 6/4において橙／7.5YR 6/4において橙	石英・輝石	I？	
32	排水管	SK11A砂質土層	弥生土器・壺				2条沈線・ヨコナデ／ナデ？	7.5YR 6/4において橙／7.5YR 6/4において橙	石英・輝石	I	接合面2.1cm
33	排水管	SK08	弥生土器・胴部				2条沈線・ナデ／ナデ？	5YR 6/6橙／5YR 6/6橙	石英	I	
34	排水管	SK11A	弥生土器・壺	(20.8)			口縁端部須目、胴部4条沈線のち須目・ハケメ／口縁部ハケメ、胴部オサエ・板ナデ・ケズリ	10YR 6/3において黄橙／10YR 7/3において黄橙	石英・輝石	I－2～4	
35	排水管	SK11A	弥生土器・壺				6条沈線・3列竹管文・ミガキ・ハケメ／オサエ・ナデ	10YR 7/4において黄橙／10YR 7/2において黄橙	石英・輝石	I－3・4	
36	排水管	SK11A No.4	弥生土器・壺	(19.1)			ナデ・ハケメ、胴部5条沈線、肩部7条沈線／風化・ナデ？、肩部オサエ	10YR 7/3において黄橙／10YR 5/2灰黄褐	石英・輝石	I－3・4	

表 2-2　土器観察表（2）

No.	地点	遺構・層位	種類・器種	法量（cm）			文様・調整（外／内）	色調（外／内）	胎土	時期	備考
				口径	底径	器高					
37	排水管	SK11A No.1	弥生土器・底部		(7.3)		板ナデ・風化／ナデ	10YR 7/2 にぶい黄橙／10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・輝石	弥生	
38	排水管	SK11A砂質土層	弥生土器・底部		(8.2)		ハケメ／板ナデ	7.5YR 6/4 にぶい橙／7.5YR 6/2灰褐	石英・輝石	弥生	
39	排水管	黄褐色シルト層	弥生土器・壺				ミガキ・非常に浅い３条沈線・木葉文・重弧文／オサエ・ナデ	10YR 8/3浅黄橙／10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・輝石	１－１（新）	外面に沈線によるやや低い段、内面に接合痕
40	排水管	暗褐色細砂層	弥生土器・壺				3条タテ沈線・ナデ・ミガキ／ナデ	5YR 7/6橙／5YR 7/6橙	石英・輝石	１－１	外面に段
41	排水管	黄褐色シルト層	弥生土器・壺				ナデ・ミガキ／ナデ・ミガキ	10YR 7/2 にぶい黄橙／10YR 7/2 にぶい黄橙	石英・輝石	１－１・２	外面に段
42	排水管	不明	弥生土器・壺				ミガキ・風化／オサエ	7.5YR 7/4 にぶい橙／7.5YR 7/4 にぶい橙	石英・輝石	１－１	外面に段
43	排水管	SD59より北黄褐色シルト層	弥生土器・壺	(14.7)			ナデ・ミガキ・ハケメ／ナデ・ナデのちミガキ	5YR 6/4 にぶい橙／5YR 6/4 にぶい橙	石英・輝石	I	
44	排水管	暗褐色細砂層	弥生土器・壺	(23.8)			口縁端部刻目、制部3条沈線・風化／口縁部ヨコナデ、制部オサエ・風化	7.5YR 7/3 にぶい橙／7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・輝石	１－１（新）～４	
45	排水管	SD59より南黄褐色シルト層	弥生土器・壺	(20.4)			口縁端部刻目、制部4条沈線のち刺目・ハケメ／口縁部ハケメ、制部板ナデ	10YR 7/3 にぶい黄橙／7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・輝石	１－２～４	
46	排水管	SD59より南黄褐色シルト層	弥生土器・壺				口縁端部刻目、制部3条沈線・ハケメ／口縁部ハケメ、制部ナデ	7.5YR 6/3 にぶい褐／5YR 6/4 にぶい橙	石英・輝石	１－１（新）～４	
47	排水管	SD59より南黄褐色シルト層	弥生土器・壺				口縁部ヨコナデ、制部2条沈線・ミガキ／ナデ	7.5YR 6/4 にぶい橙／7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・輝石	１－１（新）～４	
48	排水管	暗褐色細砂層	弥生土器・壺				口縁端部刻目・ヨコナデ／オサエ・ヨコナデ	5YR 6/6橙／5YR 6/6橙	石英・輝石	I	
49	排水管	SD59より北黄褐色シルト層	弥生土器・壺	(14.4)			ヨコナデ／ナデ	7.5YR 6/4 にぶい橙／7.5YR 7/4 にぶい橙	石英・輝石	弥生	穿孔1ヶ所残存
50	排水管	黄灰色粘土層（近世水田層）	弥生土器・壺				ヨコナデ・ハケメ／ヨコナデ・板ナデ？	5YR 5/6明赤褐／7.5YR 7/3 にぶい橙	石英・輝石	I	
51	排水管	土器群No.1	弥生土器・壺	14.2			口縁部ヨコナデ・ハケメ、制部2条粘付刺目突帯・下地1条沈線・ハケメ、肩部3条沈線・ハケメ、制部2条粘付刺目突帯・2条沈線・下地ハケメ／口縁部ハケメのちヨコナデ、制部ハケメのちミガキ、肩部オサエ・ハケメのちナデ	10YR 7/3 にぶい黄橙／10YR 7/3 にぶい黄橙	輝石	１－３・４	
52	排水管	黄褐色シルト層	弥生土器・底部		6.2		ナデ・オサエ／風化	7.5YR 6/4 にぶい橙／7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・輝石	弥生	置の可能性あり
53	排水管	黄褐色シルト層	弥生土器・底部		(6.9)		風化・板ナデ？／風化・板ナデ？	10YR 7/3 にぶい黄橙／7.5YR 7/3 にぶい橙	石英	弥生	
54	排水管	黄褐色シルト層	土師器・坏		(8.4)		風化／風化	5YR 6/4 にぶい橙／5YR 6/3 にぶい橙	長石・輝石・雲母	古代	
55	排水管	暗褐色細砂層	弥生土器・底部		(7.9)		ミガキ・ナデ／調整	2.5YR 6/4 にぶい橙／7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・輝石	弥生	
56	排水管	黒褐色土層	弥生土器・壺				ナデ・ミガキ？／ナデ・ミガキ？	7.5YR 6/4 にぶい橙／7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・輝石	弥生	
57	排水管	黄褐色シルト層	弥生土器・壺				ヨコミガキ／ナデ？	7.5YR 6/4 にぶい橙／7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・輝石	I	
58	排水管	黄褐色シルト層	弥生土器・壺	(23.0)			ヨコナデ・ミガキ／ナデ	7.5YR 6/4 にぶい橙／7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・輝石	I	接合面20.5㎝
59	排水管	黄褐色シルト層	弥生土器・口縁部				風化・ナデ？／風化・ナデ？	10YR 8/3浅黄橙／10YR 8/3浅黄橙	長石	弥生	
60	排水管	黒色シルト層上面	須恵器・坏		(8.0)		回転ナデ／回転ナデ	N 7/灰白／2.5Y 7/1 灰白	長石	古代	高台、底面回転ヘラ切り
61	東側溝１	SD59	弥生土器・壺				1条の沈線・ナデ／ナデ	7.5YR 6/3 にぶい褐／7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・輝石	１－１	外面に段
62	東側溝１	SD59	弥生土器・壺				3条粘付刺目突帯・ナデ／調整	10YR 6/4 にぶい黄橙／10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・輝石	１－３・４	
63	東側溝１	SD59	弥生土器・壺	(15.1)			口縁部ナデ・ミガキ、頸部3条沈線／ナデ	5YR 6/4 にぶい橙／5YR 6/4 にぶい橙	石英・輝石	１－３・４	
64	東側溝１	SD59	弥生土器・壺				5条沈線・風化／風化	7.5YR 7/4 にぶい橙／7.5YR 7/4 にぶい橙	石英・輝石	１－３・４	
65	東側溝１	SD59	弥生土器・壺	(22.0)			口縁端部刻目、制部1条沈線・ハケメ・板ナデ／ハケメ・板ナデ？	10YR 5/1褐灰／7.5YR 5/2灰褐	石英・輝石	I	
66	東側溝１	SD59	弥生土器・壺				口縁部ヨコナデ、制部ハケメ／口縁部オサエ・ヨコナデ、制部オサエ	10YR 7/2 にぶい黄橙／10YR 7/2 にぶい黄橙	石英・輝石	I	
67	東側溝１	SD59	弥生土器・底部		(8.3)		ハケメのちナデ／ナデ	5YR 6/4 にぶい橙／5YR 5/3 にぶい赤褐	輝石・石英	弥生	
68	東側溝１	SD59	弥生土器・底？		(9.0)		ナデ／ナデ	2.5YR 7/4 にぶい橙／7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・輝石	弥生	
69	東側溝１	SD111	弥生土器・壺				ハケメ・ナデ／ナデ	7.5YR 7/4 にぶい橙／10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・輝石	弥生	
70	東側溝１	SK134	弥生土器・底か高坏				板ナデ？／板ナデ？	7.5YR 6/2灰褐／7.5YR 6/3 にぶい褐	石英	弥生	
71	東側溝１	SK11B	弥生土器・底部		7.4		板ナデ／ナデ	7.5YR 6/2灰褐／7.5YR 6/2灰褐	石英・輝石	弥生	

表 2-3　土器観察表（3）

No.	地点	遺構・層位	種類・器種	法量（cm）			文様・調整（外／内）	色調（外／内）	胎土	時期	備考
				口径	底径	器高					
72	東側溝 1	SK11B	弥生土器・甕				口縁部オサエ・ヨコナデ、胴部ナデ／口縁部オサエ・ヨコナデ、胴部ナデ	10YR 6/3にぶい黄橙／10YR 7/2にぶい黄橙	石英・輝石	Ⅰ	
73	東側溝 1	黄褐色シルト層	弥生土器・壺				ミガキ・ハケメ／ミガキ	7.5YR 6/3にぶい褐／7.5YR 6/3にぶい褐	石英・輝石	弥生	
74	東側溝 1	黄褐色シルト層	弥生土器・口縁部				ナデ／ナデ	10YR 8/2灰白／10YR 8/2灰白	石英・輝石	弥生	
75	東側溝 1	黄褐色シルト層	弥生土器・壺				2条沈線・ナデ・ハケメ／ナデ	10YR 7/3にぶい黄橙／2.5YR 6/2灰黄	石英・輝石	Ⅰ－1	外面に段
76	東側溝 1	SK11B	弥生土器・壺				山形文・ナデ／ナデ	7.5YR 7/4にぶい橙／5YR 7/4にぶい橙	石英・輝石	Ⅰ－1	
77	東側溝 1	SK11B下層	弥生土器・壺				木葉文・ナデ／風化	7.5YR 6/4にぶい橙／7.5YR 6/4にぶい橙	石英・輝石	Ⅰ－1・2	
78	東側溝 1	SK11B下層	弥生土器・甕	(24.6)			口縁端部刻目、胴部2～3条沈線・板ナデ・ハケメ？・風化／口縁部ハケメ・板ナデ？、胴部オサエのち板ナデ	7.5YR 6/3にぶい褐／7.5YR 6/3にぶい褐	石英・輝石	Ⅰ－3・4	
79	東側溝 1	SK11B下層	弥生土器・甕	17.6			口縁部ヨコナデ・刻目・オサエ、胴部1条沈線・ハケメ下半剥離激しい／口縁部ヨコナデ・ハケメ、胴部板ナデ	10YR 7/3にぶい黄橙／10YR 7/3にぶい黄橙	石英・輝石	Ⅰ－1（新）～4	
80	東側溝 1	SK11B下層	弥生土器・甕	(22.5)			口縁端部刻目、胴部2条沈線・板ナデ／板ナデ・オサエ	5YR 6/4にぶい橙／7.5YR 6/4にぶい橙	石英・輝石	Ⅰ－3・4	
81	東側溝 1	SK11B下層	弥生土器・甕	22.0	7.6	22.3	口縁端部刻目、胴部2条沈線・板ナデ・風化／オサエ・板ナデ	10YR 5/2灰黄褐／10YR 5/2灰黄褐	石英・輝石	Ⅰ－1（新）・2	
82	東側溝 1	SK11B	弥生土器・甕	21.7	8.3	28.2	口縁部ヨコナデ、胴部5条沈線・ハケメ、底部ナデ／ナデ	2.5YR 5/4にぶい赤褐／2.5YR 5/6明赤褐	石英・輝石	Ⅰ－3・4	
83	東側溝 1	SK11B	弥生土器・壺				3条沈線・ハケメ／ナデ	7.5YR 7/3にぶい橙／7.5YR 7/3にぶい橙	石英・輝石	Ⅰ－3・4か	黒斑
84	東側溝 1	SK11B	弥生土器・壺	(17.8)			口縁端部1条沈線のち刻目、口縁部ナデ・ハケメ、頸部5条沈線・ミガキ／口縁部オサエ・ミガキ・ハケメ、頸部板ナデ	7.5YR 7/4にぶい橙／7.5YR 7/4にぶい橙	石英・輝石	Ⅰ－3・4	
85	南側溝 1	SI01	弥生土器・壺				1条沈線・風化／ナデ	7.5YR 6/3にぶい褐／10YR 6/1褐灰	石英・輝石	Ⅰ－1（新）～4	
86	南側溝 1	SI01	弥生土器・壺				綾杉文／ナデ	7.5YR 6/4にぶい橙／7.5YR 6/4にぶい橙	石英・輝石	Ⅰ－1（新）	
87	南側溝 1	SI01(東)	弥生土器・甕				口縁端部刻目、口縁部ナデ・ハケメ／ナデ	7.5YR 7/3にぶい橙／7.5YR 7/4にぶい橙	石英・輝石	Ⅰ	
88	南側溝 1	SI01(東)	弥生土器・壺				口縁端部1条沈線一部刻目、口縁部ヨコナデ／ヨコナデ	7.5YR 7/4にぶい橙／10YR 7/3にぶい黄橙	石英・輝石	Ⅰ－3	
89	南側溝 1	SI01(東)	弥生土器・底部		7.5		風化／風化・ナデ	5YR 6/4にぶい橙／7.5YR 6/4にぶい橙	石英・輝石	弥生	
90	南側溝 1	SI01	弥生土器・底部		(8.3)		風化／ミガキ・ナデ	10YR 7/3にぶい黄橙／2.5Y 7/2灰黄	石英・輝石	弥生	
91	南側溝 2	SD59	弥生土器・壺？				4条沈線／ナデ	7.5YR 7/4にぶい橙／10YR 7/2にぶい黄橙	石英・輝石	Ⅰ－3・4？	
92	南側溝 1	SD101	弥生土器・壺				ハケメのちミガキ・6条沈線／風化・ミガキ	10YR 6/3にぶい黄橙／10YR 6/2灰黄褐	石英・輝石	Ⅰ－3・4	
93	南側溝 2	SD102上層№11壁面	弥生土器・壺				綾杉文／ナデ	10YR 6/2灰黄褐／10YR 5/1褐灰	石英・輝石	Ⅰ－1（新）	
94	南側溝 2	SD102 №11	弥生土器・壺				沈線・綾杉文・ナデ・ミガキ／ミガキ・ナデ・オサエ	7.5YR 5/4にぶい褐／5YR 6/4にぶい橙	雲母・石英	Ⅰ－1（新）	95・96と同一個体？赤色顔料残存
95	南側溝 2	SD102 №11	弥生土器・壺				沈線・綾杉文・ナデ・ミガキ／ナデ・ミガキ	7.5YR 5/4にぶい褐／5YR 6/4にぶい橙	雲母・石英	Ⅰ－1（新）	94・96と同一個体？
96	南側溝 2	SD102 №11	弥生土器・壺				沈線・綾杉文／ナデ・オサエ	7.5YR 5/4にぶい褐／5YR 6/4にぶい橙	雲母・石英	Ⅰ－1（新）	94・95と同一個体？
97	南側溝 1	SD102上層	弥生土器・壺	(20.2)			ハケメ・ナデ・ミガキ／ナデ・ミガキ	7.5YR 6/6橙／7.5YR 7/6橙	石英・長石・輝石	Ⅰ	
98	南側溝 1	SD102上面№7	弥生土器・壺	(15.5)	8.7	31.9	口縁部ハケメのちナデ、頸部4～5条螺旋状沈線、胴部上半ハケメのちミガキ、下半剥離・ナデ／口縁部ナデ・ヨコハケメ、胴部ナデ	7.5YR 6/4にぶい橙／7.5YR 6/4にぶい橙	石英・輝石	Ⅰ－2・3	内面接合痕
99	南側溝 1	SD102上面№5	弥生土器・壺		8.4		頸部3条沈線、胴部4条沈線・ナデ・ミガキ／ミガキ・ナデ・オサエ	5YR 6/6橙／5YR 6/6橙	石英・緑石片岩	Ⅰ－1（新）・2	外面黒斑
100	南側溝 1	SD102上面№3・下含む	弥生土器・壺				摩滅・ナデ？、頸部・肩部3条沈線／頸部ヨコナデ・肩部板ナデ・オサエ	10YR 6/4にぶい黄橙／2.5Y 6/1黄灰	石英・長石・輝石	Ⅰ－1（新）・2	
101	南側溝 1	SD102 上面№10下の下(№13含む)	弥生土器・壺		6.6		摩滅・ミガキ、肩部3条沈線、底部ナデ／ナデ・オサエ	2.5Y 6/3にぶい黄／10YR 5/1褐灰	石英・輝石	Ⅰ－1（新）・2	
102	南側溝 2	SD102上層南壁	弥生土器・壺				頸部ヨコナデ・6条沈線・ハケメ、肩部ミガキ・7条沈線／頸部ヨコナデ・ミガキ、肩部ナデ	10YR 5/3にぶい黄褐／10YR 5/4にぶい黄褐	石英・長石・輝石・雲母	Ⅰ－3・4	
103	南側溝 2	SD102上層№11壁面	弥生土器・壺		(7.6)		2条沈線・ミガキ・ナデ、下位ナデ／上半板ナデ、下半ミガキ	10YR 6/2灰黄褐／7.5YR 5/1褐灰	石英・長石・輝石・雲母	Ⅰ－1（新）・2	
104	南側溝 2	SD102 №10	弥生土器・壺				ハケメのちミガキ・肩部3条沈線／ナデ・オサエ	10YR 7/2にぶい黄橙／10YR 8/2灰白	石英・角閃石	Ⅰ－1（新）・2	
105	南側溝 2	SD102砂層上層	弥生土器・壺	(15.3)			口縁端部1条沈線のち刻目、口縁部ハケメのちナデ・ミガキ／ナデ・ミガキ	7.5YR 6/4にぶい橙／7.5YR 5/4にぶい褐	石英・角閃石・輝石	Ⅰ－3	内面接合痕

表2-4　土器観察表（4）

No.	地点	遺構・層位	種類・器種	法量（cm）			文様・調整（外／内）	色調（外／内）	胎土	時期	備考
				口径	底径	器高					
106	南側溝2	SD102 №10	弥生土器・壺				頸部1条沈線、肩部6条沈線・ミガキ・ナデ／ミガキ・ナデ	10YR 4/1褐灰／10YR 5/2灰黄褐	石英・輝石	Ⅰ－1（新）・2	朱付着
107	南側溝2	SD102 №5	弥生土器・壺				摩滅、頸部4条沈線・刻目／ナデ・ミガキ	5YR 6/6橙／5YR 5/6明赤褐	石英・輝石・雲母	Ⅰ－3・4	
108	南側溝1	SD102上面№10の下	弥生土器・壺				頸部ハケメ・5条沈線・2列刻目、胴部ハケメ・ミガキ、肩部4条沈線・1列刻目／頸部ナデ、胴部ハケメのちナデ・オサエ	7.5YR 6/4にぶい橙／2.5Y 4/1黄灰	石英・輝石	Ⅰ－3・4	
109	南側溝2	SD102 №11	弥生土器・壺				2条貼付刻目突帯・1条沈線・ハケメ／板ナデ	5YR 6/6橙／5YR 6/6橙	石英・輝石	Ⅰ－3・4	97と同一個体？
110	南側溝1	SD102上層	弥生土器・壺				ハケメ／ハケメ・ナデ	7.5YR 6/4にぶい橙／10YR 5/4にぶい黄褐	輝石	弥生	
111	南側溝2	SD102上層	弥生土器・壺				5条沈線間に竹管文・ミガキ・ナデ／ミガキ・ナデ	7.5YR 6/4にぶい橙／7.5YR 7/4にぶい橙	石英・輝石	Ⅰ－3・4	
112	南側溝1	SD102上層	弥生土器・壺				1条貼付突帯・ミガキ／ミガキ・ナデ	5YR 5/4にぶい赤褐／10YR 4/1褐灰	石英・輝石	Ⅰ－4	
113	南側溝1	SD102上層	弥生土器・壺				6条沈線・ナデ・ミガキ？／ナデ・オサエ	5YR 6/4にぶい橙／7.5YR 6/4にぶい橙	石英・輝石	Ⅰ－3・4	
114	南側溝2	SD102 №1	弥生土器・壺				ミガキ・2条貼付突帯に上下段同時刻目・ナデ／ミガキ・オサエ・ナデ	10YR 6/3にぶい黄橙／10YR 7/2にぶい黄橙	石英・輝石	Ⅰ－3・4	
115	南側溝2	SD102 №5	弥生土器・壺				ミガキ・ナデ、頸部・肩部4条沈線／ミガキ・ナデ・オサエ	7.5YR 6/4にぶい橙／10YR 6/2灰黄褐	石英・輝石	Ⅰ－3・4	
116	南側溝1	SD102上層	弥生土器・壺				1条沈線・ハケメ・ナデ／ナデ	10YR 5/3にぶい黄褐／10YR 6/3にぶい黄橙	石英・輝石	Ⅰ－1（新）～4	
117	南側溝2	SD102砂層上層	弥生土器・壺				ナデ・2条貼付刻目突帯／ナデ・ミガキ	5YR 5/4にぶい赤褐／7.5YR 5/3にぶい褐	石英・輝石	Ⅰ－3・4	外面に朱付着？
118	南側溝1	SD102上面№11	弥生土器・壺		(5.8)		ミガキ・ナデ／ミガキ・剥離	7.5YR 5/2灰褐／10YR 5/2灰黄褐	石英・輝石	Ⅰ－1～3	
119	南側溝1	SD102上面№11	弥生土器・壺		6.0		剥離／板ナデ	10YR 7/2にぶい黄橙／5YR 7/6橙	石英・輝石	Ⅰ－1～3	
120	南側溝2	SD102上層	縄文土器・深鉢				口縁部刻目突帯・ナデ／条痕	7.5YR 5/4にぶい褐／5YR 5/4にぶい赤褐	輝石	Ⅰ－1（古）？	
121	南側溝1	SD102上面 №9	弥生土器・甕	18.5	7.9	20.0	口縁部粘土帯貼付、口縁端面ハケメ、胴部ヨコナデ・ハケメ・剥離／口縁部ヨコナデ、胴部上半タテナデ、下半ヨコ板ナデ	10YR 6/2 灰黄褐／7.5YR 6/3にぶい褐	石英・長石・輝石		擬朝鮮系無文土器？
122	南側溝1	SD102上面№6	弥生土器・甕	19.4	8.4	20.0	口縁端部刻目、胴部上位オサエのちヨコハケメ、中位ナナメハケメ、下位ヨコ板ナデ／口縁部ヨコハケメ、胴部上位オサエ	10YR 7/3にぶい黄橙／10YR 7/3にぶい黄橙	輝石	Ⅰ	外面黒斑
123	南側溝2	SD102 №7	弥生土器・甕	22.6	8.4	27.7	口縁端部刻目、上半ハケメ、下半粗いハケメ／口縁部オサエのちハケメ、胴部上位オサエ、中下位	7.5YR 6/2灰褐／10YR 7/2にぶい黄橙	石英・輝石	Ⅰ	外面黒斑、内外面スス付着、ドーナツ底
124	南側溝1	SD102上面	弥生土器・甕	(21.4)			口縁端部刻目、ハケメ・ナデ／ナデ・オサエ	10YR 5/2灰黄褐／10YR 6/2灰黄褐	石英・輝石	Ⅰ	
125	南側溝1	SD102上面№3	弥生土器・甕	(20.4)			口縁端部刻目、ハケメ・ナデ／ナデ・オサエ	7.5YR 6/4にぶい橙／7.5YR 6/4にぶい橙	石英・輝石	Ⅰ	
126	南側溝2	SD102 №11・上層壁面	弥生土器・甕	(17.9)			口縁端部刻目、口縁部ヨコナデ・板ナデ、胴部上半1条沈線・ハケメ、下半板ナデ／口縁部ヨコナデ、胴部上半板ナデ、下半ミガキ	10YR 6/2灰黄褐／10YR 6/3にぶい黄橙	石英・輝石	Ⅰ－1（新）～4	
127	南側溝2	SD102上層	弥生土器・甕	(20.4)			口縁端部刻目、胴部2条沈線・ハケメ／口縁部ハケメ、胴部板ナデ	7.5YR 6/3にぶい褐／7.5YR 6/4にぶい橙	石英・輝石	Ⅰ－1（新）～4	
128	南側溝2	SD102上層	弥生土器・甕	(21.2)			口縁端部に刻目、胴部2条沈線・ハケメ・板ナデ／ナデ	10YR 6/3にぶい黄橙／7.5YR 6/4にぶい橙	石英・長石・輝石	Ⅰ－1（新）～4	
129	南側溝2	SD102 №5	弥生土器・甕	(22.6)			口縁端部刻目、ナデ・ハケメ、胴部2条沈線／ナデ	7.5YR 6/3にぶい褐／5YR 6/4にぶい橙	石英・輝石・雲母	Ⅰ－1（新）～4	
130	南側溝2	SD102 №8	弥生土器・甕	26.9			口縁端部刻目、胴部2条沈線・ナデ・ハケメ／ナデ	5YR 6/4にぶい橙／5YR 6/6橙	石英・輝石	Ⅰ－1（新）～4	
131	南側溝1	SD102上面№8	弥生土器・甕	23.4	7.8	23.8	口縁端部刻目、口縁部ヨコナデ、胴部上半3条沈線・ハケメのち板ナデ、下半ナデのちミガキ、底部ケズリのちヨコナデ・底面ナデ／口縁部ヨコナデ、胴部ナデ、上位オサエ	10YR 5/4にぶい黄褐／10YR 6/4にぶい黄橙	輝石・石英	Ⅰ－1（新）～4	沈線は不規則な線、口縁部の歪み著しい
132	南側溝2	SD102上層南壁	弥生土器・甕		6.9		ハケメ、胴部上位3条沈線／上半ヨコナデ・ハケメ、下半板ナデ	10YR 6/2灰黄褐／10YR 6/3にぶい黄橙	石英・輝石	Ⅰ－1（新）～4	底部焼成後穿孔、口縁端部欠損
133	南側溝2	SD102 №1	弥生土器・甕	(23.2)			口縁端部刻目、口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ・3条沈線／口縁部オサエ・ナデ、胴部ナデ	7.5YR 4/2灰褐／7.5YR 6/4にぶい橙	石英・輝石	Ⅰ－1（新）～4	
134	南側溝1	SD102上面№10	弥生土器・甕	(19.4)			口縁端部刻目、口縁部ハケメのちナデ、胴部3条沈線・ハケメ／ナデ・オサエ	10YR 5/3にぶい黄褐／10YR 7/3にぶい黄橙	石英・長石・輝石・雲母	Ⅰ－1（新）～4	
135	南側溝1	SD102上面	弥生土器・甕	(21.4)			口縁端部刻目、口縁部ハケメのちヨコナデ・オサエ、胴部3条沈線・ハケメ・ナデ／ナデ、口縁部工具痕	10YR 4/2灰黄褐／10YR 6/3にぶい黄橙	石英・輝石・雲母	Ⅰ－1（新）～4	
136	南側溝2	SD102上層	弥生土器・甕	23.7			口縁端部刻目、口縁部ハケメのちヨコナデ、胴部3条沈線・ハケメ／ハケメのちナデ・オサエ	10YR 6/3にぶい黄橙／2.5Y 6/3にぶい黄	石英・輝石	Ⅰ－1（新）～4	

表 2-5　土器観察表（5）

No.	地点	遺構・層位	種類・器種	法量（cm）			文様・調整（外／内）	色調（外／内）	胎土	時期	備考
				口径	底径	器高					
137	南側溝 2	SD102上層南壁	弥生土器・甕	(20.0)			口縁端部刻目、口縁部ハケメのちヨコナデ、胴部3条沈線・ハケメ／ナデ	5YR 5/4にぶい赤褐／7.5YR 6/4にぶい橙	石英・長石・輝石	1−1（新）〜4	
138	南側溝 2	SD102 №11	弥生土器・甕	(26.3)			口縁端部刻目、胴部3条沈線・ハケメ・板ナデ／板ナデ	7.5YR 6/4にぶい橙／7.5YR 6/3にぶい褐	石英・輝石	1−1（新）〜4	
139	南側溝 2	SD102 №10	弥生土器・甕	(19.7)			口縁端部刻目、口縁部ナデ、胴部3条沈線・ハケメ／ナデ・オサエ	5YR 6/4にぶい橙／10YR 7/2にぶい黄橙	石英・輝石	1−1（新）〜4	
140	南側溝 2	SD102上層南壁	弥生土器・甕	(19.0)			口縁端部刻目、口縁部ハケメのちヨコナデ、胴部3条沈線・ハケメ・ナデ・摩滅／ナデ	7.5YR 5/4にぶい褐／5YR 5/6明赤褐	石英・長石・輝石	1−1（新）〜4	
141	南側溝 2	SD102上層	弥生土器・甕	(18.7)			口縁端部刻目、胴部3条沈線・ハケメのちナデ／ナデ	7.5YR 6/4にぶい橙／5YR 6/4にぶい橙	石英・長石・輝石	1−1（新）〜4	
142	南側溝 2	SD102 №10	弥生土器・甕	(16.5)			口縁端部刻目、口縁部ナデ、胴部3条沈線・板ナデ・ハケメ／ナデ	7.5YR 6/4にぶい橙／7.5YR 6/3にぶい褐	石英・輝石	1−1（新）〜4	
143	南側溝 2	SD102上層南壁	弥生土器・甕	25.5	8.5	27.9	口縁端部刻目、胴部上半4条沈線・ハケメのちナデ、下半ハケメのちミガキ・ナデ／口縁部ヨコナデ、胴部ミガキのちナデ・上位オサエ	10YR 5/4にぶい黄褐／7.5YR 6/4にぶい橙	石英・輝石	1−2〜4	
144	南側溝 2	SD102 №10	弥生土器・甕	25.0	8.9	(29.0)	口縁端部刻目、口縁部オサエのちハケメ、胴部ハケメ・上位4条沈線、中位剥離／口縁部オサエのちヨコナデ、胴部上位オサエのちナデ、中位ナデのち粗いミガキ、下位ケズリ	10YR 6/3にぶい黄橙／10YR 6/3にぶい黄橙	石英・輝石	1−2〜4	内外面スス付着
145	南側溝 1	SD102上面№3	弥生土器・甕	(23.6)			口縁端部刻目、胴部4条沈線・ハケメ／ナデ・板ナデ	10YR 5/3にぶい黄褐／7.5YR 6/4にぶい橙	石英・輝石	1−2〜4	
146	南側溝 2	SD102上層	弥生土器・甕	(20.5)			口縁端部刻目、口縁部ヨコナデ、胴部4条沈線・ハケメ・ナデ／ナデ	10YR 4/2灰黄褐／7.5YR 6/4にぶい橙	石英・長石・輝石・雲母	1−2〜4	
147	南側溝 2	SD102 №4	弥生土器・甕	24.2	9.1	23.9	口縁端部刻目、胴部上位4条沈線・ヨコナデ・ハケメ、中下位剥離／上位ヨコナデ、中下位板ナデ	10YR 6/2灰黄褐／10YR 7/2にぶい黄橙	石英・輝石	1−2〜4	
148	南側溝 1	SD102上面№12	弥生土器・甕	(16.4)			口縁端部刻目、ハケメ・ナデ・胴部4条沈線／ナデ	7.5YR 6/4にぶい橙／7.5YR 6/4にぶい橙	石英・長石・輝石・雲母	1−2〜4	外面口縁部スス付着
149	南側溝 1	SD102上面№3	弥生土器・甕	(31.0)			口縁端部刻目、口縁部ハケメのちナデ、胴部4条沈線・ハケメ／ナデ	7.5YR 7/4にぶい橙／10YR 7/4にぶい黄橙	石英	1−2〜4	
150	南側溝 2	SD102 №11	弥生土器・甕	32.1	12.0	41.6	口縁端部刻目、口縁部ハケメ・ヨコナデ、胴部4条沈線一部交差・ハケメのちミガキ、下半ハケメ・板ナデ／口縁・胴部上位板ナデ・粗いハケメ、上・中位ナデ、中・下位ヨコハケメ、下位ナデ	10YR 6/2灰黄褐／10YR 4/1褐灰	石英・輝石	1−2〜4	内面スス付着
151	南側溝 2	SD102 №11	弥生土器・甕	(23.4)			口縁端部刻目、口縁部オサエ・板ナデ、胴部4条沈線・ハケメ・板ナデ／板ナデ・オサエ	10YR 6/2灰黄褐／10YR 7/4にぶい黄橙	石英・輝石	1−2〜4	
152	南側溝 2	SD102 №3	弥生土器・甕	(21.2)			口縁端部刻目、口縁部ハケメのちヨコナデ、胴部4条沈線・ハケメのちナデ／ナデ・板ナデ	10YR 4/1褐灰／7.5YR 5/4にぶい褐	石英・長石・輝石	1−2〜4	
153	南側溝 2	SD102 №10	弥生土器・甕				4条沈線・ハケメ・ナデ／ナデ・オサエ	7.5YR 6/4にぶい橙／10YR 6/3にぶい黄橙	石英・長石・輝石	1−2〜4	
154	南側溝 1	SD102上層	弥生土器・甕				4条沈線・刻目・ハケメ／ナデ・ミガキ	7.5YR 6/3にぶい褐／7.5YR 5/4にぶい褐	石英・輝石	1−2〜4	
155	南側溝 1	SD102上面№1	弥生土器・甕	23.1	7.3	26.3	口縁端部刻目、口縁部ヨコナデ、胴部5条沈線・ハケメのち板ナデ・摩滅／ナデ・板ナデ	10YR 5/4にぶい黄褐／7.5YR 6/4にぶい橙	石英・輝石	1−2〜4	
156	南側溝	SD102上層砂北壁	弥生土器・甕				3条沈線・刻目・ハケメ／ナデ	7.5YR 5/3にぶい褐／7.5YR 7/4にぶい橙	石英・長石・輝石・雲母	1−1（新）〜4	
157	南側溝 2	SD102上層	弥生土器・甕	(25.2)			口縁部オサエ・ナデ、胴部二条沈線・ハケメ／ナデ・工具痕？	5YR 6/6橙／5YR 6/6橙	石英・輝石	1−1（新）〜4	
158	南側溝 1	SD102上面№4	弥生土器・鉢	(15.8)			口縁端部刻目、ナデ・ミガキ／ナデ・オサエ	10YR 5/3にぶい黄褐／10YR 5/3にぶい黄褐	石英・長石・輝石	1	
159	南側溝 2	SD102砂層上層	弥生土器・鉢	(38.0)			板ナデ／ナデ・ミガキ・オサエ	7.5YR 6/4にぶい橙／7.5YR 6/3にぶい褐	石英・長石・輝石	1−2〜4	
160	南側溝 2	SD102 №2	弥生土器・鉢	(56.2)			口縁部ヨコナデ、胴部ハケメのちナデ・ミガキ／ハケメのちナデ・ミガキ	5YR 6/4にぶい橙／10YR 7/3にぶい黄橙	石英・長石・輝石	1−2〜4	
161	南側溝 2	SD102上層南壁	弥生土器・鉢	(29.5)			ハケメ／口縁部ハケメ、胴部ナデ・ミガキ	7.5YR 6/4にぶい橙／7.5YR 6/6橙	石英・長石・輝石	1−2〜4	
162	南側溝 2	SD102上層№6壁面	弥生土器・鉢				ハケメ／ナデ	7.5YR 7/2明褐灰／10YR 6/2灰黄褐	石英・輝石	1−1・2？	
163	南側溝 2	SD102の上層	弥生土器・鉢	(22.6)			粗いハケメ・ナデ／上半ナデ、下半ナデのちミガキ	7.5YR 6/4にぶい橙／7.5YR 6/6橙	石英・長石・輝石・雲母	1−1〜3？	
164	南側溝 2	SD102 №11	縄文土器・浅鉢				ヨコナデ・条痕？／ヨコナデ・ケズリ？、口縁部1条沈線	2.5Y 4/1黄灰／10YR 6/1褐灰	輝石	縄文晩期中葉？	
165	南側溝 2	SD102 №5	弥生土器・底部		9.6		ハケメ・ナデ、底面ナデ／オサエ・ナデ、底部オサエ	10YR 6/4にぶい黄橙／10YR 6/3にぶい黄橙	石英・輝石	弥生	

表 2-6　土器観察表（6）

No.	地点	遺構・層位	種類・器種	法量（cm）			文様・調整（外／内）	色調（外／内）	胎土	時期	備考
				口径	底径	器高					
166	南側溝	SD102上半シルト層	弥生土器・底部		(8.8)		ハケメ、底面ナデ／ナデ	7.5YR 6/4にぶい橙／7.5YR 6/2灰褐	石英・長石・輝石	弥生	甕
167	南側溝2	SD102 №11・上層壁面	弥生土器・底部		(8.6)		ハケメ・ヨコナデ・ミガキ／風化	10YR 7/2にぶい黄橙／10YR 7/3にぶい黄橙	石英・輝石	弥生	甕
168	南側溝2	SD102上層南壁	弥生土器・底部		(9.8)		ハケメ／ナデ・オサエ	5YR 5/4にぶい赤褐／5YR 4/6赤褐	石英・輝石	弥生	甕
169	南側溝2	SD102 №8	弥生土器・底部		6.8		ハケメ、底面ナデ／ナデ	5YR 7/4にぶい橙／5YR 6/6橙	石英・輝石	弥生	甕
170	南側溝1	SD102上面№3	弥生土器・底部		9.6		摩滅・ハケメ、底面ナデ／ナデ・ミガキ	5YR 6/6橙／10YR 5/2灰黄褐	石英・長石・輝石・雲母	弥生	甕
171	南側溝2	SD102 №8	弥生土器・底部		8.7		ハケメ、底面ナデ／ナデ	5YR6/4にぶい橙／7.5YR 7/4にぶい橙	石英・輝石	弥生	甕
172	南側溝2	SD102 №6	弥生土器・底部		9.2		ハケメのちナデ・ミガキ、底面板ナデ／板ナデ・オサエ	5YR 6/3にぶい橙／7.5YR 6/2にぶい灰褐	石英・輝石	弥生	甕
173	南側溝2	SD102上層砂	弥生土器・底部		7.5		ハケメのちナデ・ミガキ、底部ナデ／ナデ・オサエ	2.5YR 5/6明赤褐／2.5YR 5/6明赤褐	石英・長石・輝石	弥生	壺
174	南側溝2	SD102壁面№6	弥生土器・底部		(11.2)		粗いミガキ・板ナデ、底面板ナデ／板ナデ	10YR 6/2灰黄褐／10YR 4/1褐灰	石英・輝石・雲母	弥生	
175	南側溝2	SD102 №1	弥生土器・底部		(13.8)		ナデ・ミガキ、底面ケズリ・板ナデ／ナデ・ミガキ	10YR 6/3にぶい黄橙／10YR 5/1褐灰	石英・輝石	弥生	壺、底部外面種実圧痕？
176	南側溝2	SD102上層南壁	弥生土器・底部		10.6		板ナデのちミガキ、底面ナデ／ミガキ・板ナデ	7.5YR 6/4にぶい橙／7.5YR 5/2灰褐	石英・長石・輝石	弥生	壺
177	南側溝1	SD102上面№3	弥生土器・底部		7.6		板ナデ、底面ナデ／ナデ・オサエ	7.5YR 5/2灰褐／7.5YR 6/4にぶい橙	石英・輝石	弥生	壺？
178	南側溝1	SD102上面№8	弥生土器・底部		(7.8)		ナデ／ナデ	10YR 5/2灰黄褐／10YR 5/3にぶい黄褐	石英・長石・輝石	弥生	
179	南側溝	SD102上半シルト層	弥生土器・底部		8.2		ナデ／ナデ	5YR 6/6橙／5YR 6/6橙・10YR 6/4にぶい黄橙	石英・長石・輝石	弥生	壺
180	南側溝2	SD102 №5	弥生土器・底部		6.4		ハケメ、底面ナデ／ナデ	10YR 5/3にぶい黄褐／10YR 5/3にぶい黄褐	石英・輝石	弥生	
181	南側溝1	SD102上面№11	弥生土器・底部		6.2		ハケメ、底面ナデ／板ナデ・オサエ	7.5YR 6/4にぶい橙／7.5YR 7/4にぶい橙	石英・輝石	弥生	甕
182	南側溝2	SD102 №6	弥生土器・蓋	摘み径 6.8			剥離／ミガキ	5YR 6/6橙／5YR 7/6橙	石英・輝石	Ⅰ－2	
183	南側溝	SD102上層北壁	弥生土器・蓋	摘み径 6.5			ハケメのちミガキ、摘み部ナデ／ナデ・ミガキ	10YR 7/2にぶい黄橙／7.5YR 7/4にぶい橙	石英・長石・輝石・角閃石	Ⅰ－2	
184	南側溝2	SD102上層砂	弥生土器・蓋		(24.0)		ハケメのちナデ・ミガキ／ハケメのちナデ・ミガキ	5YR 6/6橙／5YR 6/6橙	石英・長石・輝石	Ⅰ－3・4？	
185	南側溝2	SD102中層	弥生土器・壺				2条貼付刻目突帯・1条沈線？・風化／風化	5YR 6/4にぶい橙／5YR 6/6橙	石英・輝石・角閃石	Ⅰ－3・4	外傾接合、71と同一個体？
186	南側溝2	SD102中層	弥生土器・壺				3条沈線・刻目・ハケメのちミガキ／板ナデ・ミガキ	7.5YR 6/4にぶい橙／10YR 6/3にぶい黄橙	石英・輝石	Ⅰ－1（新）～4	
187	南側溝2	SD102中層	弥生土器・壺				2条貼付刻目突帯・下地ハケメ・ナデ・ミガキ／ナデ・ミガキ	5YR 6/3にぶい橙／7.5YR 4/1褐灰	石英・輝石・雲母	Ⅰ－3・4	朱付着
188	南側溝2	SD102中・下層の砂層壁面	弥生土器・甕	19.8			口縁部粘土帯貼付、口縁端部刻目、口縁部ハケメのちナデ、胴部3条沈線・ハケメのちミガキ／口縁部ナデ・ミガキ、胴部板ナデ	10YR 4/2灰黄褐／7.5YR 5/2灰褐	石英・輝石	Ⅰ－1（新）～4	外面スス付着、擬朝鮮系無文土器？
189	南側溝1	SD102(東)中層	弥生土器・甕	(23.4)			口縁端部刻目、口縁部ハケメのちヨコナデ、胴部3条沈線・ハケメ／ナデ	5YR 5/4にぶい赤褐／5YR 5/6明赤褐	石英・輝石	Ⅰ－1（新）～4	
190	南側溝2	SD102中層	弥生土器・甕				口縁端部刻目、ナデ、胴部2条沈線／ナデ	5YR 5/4にぶい赤褐／5YR 6/4にぶい橙	石英・長石・輝石	Ⅰ－1（新）～4	
191	南側溝2	SD102中層	弥生土器・甕		7.6		ハケメ／板ナデ	7.5YR 6/3にぶい褐／7.5YR 6/4にぶい橙	石英・輝石	弥生	
192	南側溝1	SD102(東)中層	弥生土器・底部		8.4		ハケメ、底面ナデ／板ナデ	5YR 6/3にぶい橙／7.5YR 7/3にぶい橙	石英	弥生	甕、底面穿孔
193	南側溝1	SD102(東)中層	弥生土器・底部		8.6		ハケメのちミガキ、底面板ナデ／板ナデ	7.5YR 6/4にぶい橙／10YR 5/2灰黄褐	石英	弥生	壺、内面に漆？付着
194	南側溝2	SD102中層	弥生土器・底部		9.0		ハケメ・板ナデ／板ナデ	10YR 6/2灰黄褐／10YR 6/3にぶい黄橙	石英・長石・輝石・角閃石・雲母	弥生	壺
195	南側溝2	SD102中層	弥生土器・底部		7.0		ハケメ／板ナデ	10YR 6/2灰黄褐／10YR 7/3にぶい黄橙	石英・輝石	弥生	甕
196	南側溝2	SD102中層	弥生土器・蓋	摘み径 8.2			ハケメのちナデ・ミガキ／ナデ	10YR 6/2灰黄褐／10YR 7/3にぶい黄橙	石英・輝石・角閃石	Ⅰ－2？	
197	南側溝2	SD102 №13最下層	弥生土器・壺	16.4	10.6	34.4	口頸部ハケメ、頸部6条沈線、胴部5条沈線・ミガキ・ハケメ、底部ハケメ・オサエ／口縁部ヨコミガキ、頸部オサエのちナデ、胴部上半オサエのち板ナデ、下半ヨコ板ナデ	7.5YR 4/2灰褐／10YR 5/3にぶい黄褐	石英・輝石・雲母	Ⅰ－3・4	
198	南側溝2	SD102最下層	弥生土器・底部		(8.8)		ナデ／ナデ・オサエ	7.5YR 6/3にぶい褐／7.5YR 6/3にぶい褐	石英・輝石	弥生	
199	南側溝1	SD102上層	弥生土器・高杯				摩滅／摩滅	10YR 7/4にぶい黄橙／10YR 5/1褐灰	石英・輝石	弥生	
200	南側溝2	SD102最下層	弥生土器・壺				3条削出突帯・ハケメのちナデ・ミガキ／ナデ・ミガキ・オサエ	7.5YR 7/4にぶい橙／10YR 7/2にぶい黄橙	石英・長石・雲母	Ⅰ－1（新）・2	
201	南側溝2	SD102最下層	弥生土器・壺				ハケメのちミガキ／ナデ・オサエ	10YR 5/2灰黄褐／2.5Y 7/1灰白	石英・長石・角閃石・雲母	Ⅰ	
202	南側溝2	SD102最下層	擬朝鮮系無文土器・甕	長16.4・短14.1	7.5	13.1	口縁部粘土帯貼付一部剥離・ヨコナデ、胴部上半粗いハケメ、下半剥離／口縁部ナデ、胴部ナナメ板ナデ、底部オサエ	10YR 4/1褐灰／10YR5/2灰黄褐	輝石・石英		内外面スス付着、底面リング状粘土
203	南側溝	SD102排土	弥生土器・壺				綾杉文・木葉文？・ナデ・ミガキ／ナデ・オサエ	5YR 6/6橙／5YR 6/4にぶい橙	石英・長石・輝石・雲母	Ⅰ－1（新）・2	

表 2-7　土器観察表（7）

No.	地点	遺構・層位	種類・器種	法量（cm）			文様・調整（外／内）	色調（外／内）	胎土	時期	備考
				口径	底径	器高					
204	南側溝	SD102排土砂層	弥生土器・壺	(21.4)			口縁端部1条沈線・5個1組頭目、口縁部ヘケメ・風化、頸部2条沈線・2条貼付突帯・7～8個1組頭目・2条沈線／口縁部ナデ・調整、頸部ミガキ	5YR 6/6橙／5YR 6/4にぶい橙	石英・輝石・雲母	Ⅰ－3	内面口縁部貼付突帯が剥離？
205	南側溝 1	SD102 №12	弥生土器・壺	11.8	5.8	23.7	口縁端ヨコナデ、頸部5条沈線（刺突突帯状）・ハケメ／口縁部ヨコ板ナデ、肩部ナサエ、胴部ナデ・ケズリ	10YR 7/2にぶい黄橙／10YR 7/2にぶい黄橙	石英・長石・輝石	Ⅰ－3・4	外面黒斑
206	南側溝 1	SD102	弥生土器・壺	(18.0)			ハケメのちミガキ・ナデ、頸部5条沈線上に頭目／口頸部ナデ・ミガキ、胴部上位ハケメのちナデ	7.5YR 6/4にぶい橙／10YR 7/3にぶい黄橙	輝石	Ⅰ－3・4	
207	南側溝	SD102排土黄色シルト層	弥生土器・壺	(21.2)			口縁端部頭目、口頸部ヘケメのちナデ、頸部5条沈線、胴部ナデ・ミガキ／口縁部ナデ・ミガキ、頸・胴部ナデ・ナエ・ミガキ	7.5YR 6/3にぶい褐／10YR 5/3にぶい黄褐	石英・長石・輝石・雲母	Ⅰ－1（新）～3	
208	南側溝	SD102排土黄色シルト層	弥生土器・壺				2条貼付頭目突帯・下地ヘケメ・5条沈線・ハケメのちナデ／ナデ・ナサエ・ミガキ	7.5YR 6/4にぶい橙／10YR 7/3にぶい黄橙	石英・長石・輝石・雲母	Ⅰ－3・4	
209	南側溝 2	SD102 №12	弥生土器・底部		(7.2)		ナデ・風化／ナデ・風化	2.5YR 6/6橙／5YR 6/6橙	石英・長石・角閃石	弥生	壺
210	南側溝	SD102排土	弥生土器・甕	(21.5)			口縁端部一部頭目、口縁部ハケメのちナデ、胴部4条沈線・ハケメ／ナデ	7.5YR 6/4にぶい橙／10YR 5/3にぶい黄褐	石英・長石・輝石・雲母	Ⅰ－2～4	
211	南側溝 2	SD102 №12	弥生土器・甕	(21.3)			口縁端部頭目、口縁部ヨコナデ、胴部3条沈線・ハケメ／板ナデ	7.5YR 6/3にぶい褐／7.5YR 6/3にぶい褐	石英・輝石	Ⅰ－2～4	
212	南側溝 2	SD102 №12	弥生土器・甕				口縁端部頭目、口縁部ヨコナデ、胴部2条沈線／ヨコナデ	7.5YR 6/3にぶい褐／7.5YR 6/4にぶい橙	石英・輝石	Ⅰ－1（新）～4	
213	南側溝 1	SD102 №10下の下(№13かセ)	弥生土器・底部		9.1		ミガキ、底面ナデ／剥離・ハケメ	7.5Y 6/3にぶい褐／2.5Y 6/1黄灰	石英・輝石	弥生	
214	南側溝 1	SD102 №10下の下(№13かセ)	弥生土器・底部		8.6		摩滅・ハケメ／ナデ	10YR 5/3にぶい黄褐／10YR 6/4にぶい黄橙	石英・輝石	弥生	
215	南側溝 2	SD102 №12	弥生土器・底部		10.7		ハケメ・板ナデ／板ナデ	10YR 6/2灰黄褐／10YR 5/1褐灰	石英・輝石	弥生	壺
216	南側溝 2	SD102 №12	弥生土器・底部		6.3		上半ミガキ・ナデ、下半ハケメ／板ナデ	10YR 7/2にぶい黄橙／10YR 7/2にぶい黄橙	石英・輝石	弥生	壺
217	南側溝 1	SD102	弥生土器・底部		6.3		ハケメ、底面板ナデ／ナデ・板ナデ	5YR 5/2灰褐／7.5YR 5/2灰褐	石英	弥生	甕、内面接合痕
218	南側溝 2	SD103 №2	弥生土器・壺				肩部3条沈線、ハケメのちミガキ・ナデ／ナデ・ミガキ	10YR 6/4にぶい黄橙／2.5Y 6/2灰黄	石英・長石・輝石・角閃石	Ⅰ－1（新）・2	
219	南側溝 2	SD103 №3	弥生土器・壺				風化・ハケメ・ナデ・ミガキ、肩部8条沈線／ナデ・オサエ	5YR 7/6橙／10YR 8/3浅黄橙	石英・長石・輝石・角閃石	Ⅰ－1（新）・2？	
220	南側溝 1	SD103	弥生土器・壺	(20.7)			口縁端部頭目、オサエ・ナデ・ハケメ、胴部4条沈線／ナデ	7.5YR 5/3にぶい褐／7.5YR 7/4にぶい橙	石英・長石・輝石・角閃石・雲母	Ⅰ－2～4	
221	南側溝 2	SD103	縄文土器・深鉢				口縁端部頭目突帯文、ナデ／ナデ	10YR 6/3にぶい黄橙／7.5YR 6/3にぶい褐	輝石	Ⅰ－1（古）	
222	南側溝 2	SD103下層粘土	弥生土器・壺				口縁端部頭目・ナデ／ナデ	5YR 6/4にぶい橙／5YR 6/4にぶい橙	石英・長石・輝石・雲母	Ⅰ	
223	南側溝 2	SD103	弥生土器・壺				ハケメのちナデ・ミガキ、肩部6条沈線／ナデ・オサエ	7.5YR 6/4にぶい橙／7.5YR 5/4にぶい橙	石英・長石・輝石・雲母	Ⅰ－1（新）・2？	
224	南側溝 2	SD103 №1	弥生土器・底部		8.5		ハケメ・ナデ、底面板ナデ／ナデ・ミガキ	2.5YR 6/6橙／7.5YR 7/4にぶい橙	石英・輝石・角閃石・雲母	弥生	壺
225	南側溝 2	SD103	弥生土器・壺	(23.2)			口縁端部頭目、ハケメ・胴部4条沈線／ナデ・オサエ	7.5YR 5/3にぶい褐／10YR 6/3にぶい黄橙	石英・長石・輝石・雲母	Ⅰ－2～4	
226	南側溝 2	SD103 №6	弥生土器・壺	(19.6)			口縁端部頭目、ハケメ・ナデ、胴部8条沈線・頭目／口縁部ハケメ、胴部ナデ・オサエ	7.5YR 5/4にぶい褐／7.5YR 6/4にぶい橙	石英・長石・輝石・雲母	Ⅰ－2～4	
227	南側溝 2	SD103	弥生土器・壺	(24.0)			口縁端部頭目、ハケメ・ナデ、胴部5条沈線・頭目／口頸部ハケメ、胴部ナデ・オサエ	7.5YR 6/4にぶい橙／7.5YR 6/4にぶい橙	石英・長石・輝石・雲母	Ⅰ－2～4	
228	南側溝 2	SD103 №1	弥生土器・壺	(28.4)			口縁端部頭目、胴部6条沈線・風化／口縁部ハケメ、胴部ナデ・オサエ	7.5YR 7/4にぶい橙／7.5YR 5/2灰褐	石英・長石・輝石・角閃石・雲母	Ⅰ－2～4	内面スス付着
229	南側溝 1	SD103 №2	弥生土器・底部		7.9		ハケメ・ナデ、底面ナデ／ナデ・ミガキ・オサエ	7.5YR 6/4にぶい橙／10YR 7/4にぶい黄橙	石英・輝石・角閃石・雲母	弥生	
230	南側溝 2	SD103	弥生土器・鉢	(10.0)	4.4	6.1	ナデ・板ナデ?／ナデ・オサエ	5YR 7/4にぶい橙／7.5YR 6/4にぶい橙	石英・輝石・雲母	弥生	
231	南側溝 1	SD103 №1	弥生土器・壺	(25.5)			口縁端部頭目、ハケメ・ナデ／ナデ・オサエ	5YR 5/4にぶい赤褐／7.5YR 6/3にぶい褐	石英・輝石・角閃石・雲母	Ⅰ	
232	南側溝 2	SD103 №1	弥生土器・鉢	(25.5)			ハケメ・ナデ／ナデ・オサエ	7.5YR 7/6橙／2.5Y 6/2灰黄	石英・輝石・雲母	弥生	外面口縁部一部スス付着
233	南側溝 2	SD103	弥生土器・鉢	(37.8)			ハケメ・ナデ・オサエ／ハケメ・ナデ・オサエ	7.5YR 6/4にぶい橙／7.5YR 6/4にぶい橙	石英・長石・輝石・角閃石	Ⅰ	
234	南側溝 1	SD104	弥生土器・壺				7条沈線・風化・ハケメ／オサエ・ナデ	10YR 6/2灰黄褐／5YR 6/6橙	石英・輝石	Ⅰ－3・4	
235	南側溝 1	SD104	弥生土器・底部		(6.9)		ミガキ・ハケメ・板ナデ／板ナデ	7.5YR 6/3にぶい褐／7.5YR 6/4にぶい橙	石英・輝石	弥生	

表 2-8　土器観察表（8）

No.	地点	遺構・層位	種類・器種	法量（cm）			文様・調整（外／内）	色調（外／内）	胎土	時期	備考
				口径	底径	器高					
236	南側溝1	SD105	弥生土器・底部		(7.8)		風化・ハケメ／板ナデ	10YR 7/2にぶい黄橙／10YR 7/2にぶい黄橙	石英・輝石	弥生	
237	南側溝1	SD106上層	弥生土器・甕				3条沈線・ハケメ／板ナデ	7.5YR 7/4にぶい橙／7.5YR 7/3にぶい橙	石英・輝石	Ⅰ－1（新）～4	
238	南側溝2	SD108	弥生土器・壺				ハケメのちナデ・5条沈線／ナデ	5YR 6/4にぶい橙／5YR 6/6橙	雲母	Ⅰ－3・4	
239	南側溝2	SD110	弥生土器・甕か壺				3条沈線・ナデ／ナデ・ミガキ	7.5YR 6/4にぶい橙／7.5YR 7/4にぶい橙	長石	Ⅰ－1（新）～4	
240	南側溝2	SD108	弥生土器・底部		(12.4)		ナデ／ナデ	5YR 6/6橙／7.5YR 6/4にぶい橙	石英・長石・輝石・雲母	弥生	
241	南側溝1	SD109上層砂中	弥生土器・甕？				4条沈線・ハケメ／ナデ・オサエ	7.5YR 5/3にぶい褐／7.5YR 5/3にぶい褐	石英・輝石	Ⅰ－2～4？	
242	南側溝2	SD113	弥生土器・底部		(8.5)		ハケメ、底面ナデ／摩滅	7.5YR 5/4にぶい褐／7.5YR 5/6明褐	石英・長石・輝石・雲母	弥生	
243	南側溝2	SD114	弥生土器・壺？	(10.8)			ナデ／ナデ	10YR 6/2灰黄褐／10YR 7/3にぶい黄橙	長石・輝石・雲母	弥生	
244	南側溝2	SD11	須恵器・壺				ナデ／ナデ・オサエ	5Y 6/1灰／5Y 5/1灰	石英・長石	古代？	
245	南側溝1	SD114	弥生土器・底部		(8.0)		ハケメ・ミガキ、底面ナデ／ナデ	10YR 7/3にぶい黄橙／10YR 7/2にぶい黄橙	石英・輝石	弥生	
246	南側溝2	SD114	弥生土器・底部		(7.5)		板ナデ、底部ナデ／ナデ・オサエ	10YR 7/2にぶい黄橙／2.5Y 7/2灰黄	長石・輝石・角閃石	弥生	
247	南側溝2	SD114	土師器・坏？				ナデ／ナデ	7.5YR 7/4にぶい橙／7.5YR 2/1黒	雲母	古代？	
248	南側溝3	SD302	弥生土器・底部		(7.8)		ナデ／ナデ	7.5YR 6/4にぶい橙／7.5YR 6/3にぶい褐	石英・輝石	弥生	
249	南側溝3	SD302	土師器・小皿？	(6.2)			ナデ／ナデ	5YR 6/6橙／5YR 6/6橙	雲母	中世？	
250	南側溝1	SD107粘土	弥生土器・壺				ミガキ一部ハケメ・ナデ・重弧文／板ナデ	10YR 4/2灰黄褐／10YR 5/3にぶい黄褐	石英・輝石	Ⅰ－1（新）・2	
251	南側溝1	SD107南壁	弥生土器・壺		(9.5)		ミガキ・風化、肩部5条沈線・10個前後1組刻目／オサエ・ナデ・風化	5YR 6/6橙／2.5Y 5/2暗灰黄	石英・輝石	Ⅰ－1（新）・2	
252	南側溝1	SD107土器群№1	弥生土器・壺	8.8	5.9	25.9	口縁部ナデ、頸部ハケメ・羽状列点文、胴部ハケメ・ナデのち中位ヨコミガキ・下位タテミガキ、底面ナデ／口頸部ナデ、胴部上半ハケメ・ナデ、下半板ナデ・ケズリ	7.5YR 6/3にぶい褐／7.5YR 6/2灰褐	石英・輝石	Ⅲ－3	
253	南側溝1	SD107最下層	弥生土器・甕				口縁端部刻目、口縁部ヨコナデ、胴部3条沈線・ハケメ／ナデ	10YR 4/2灰黄褐／10YR 6/3にぶい黄橙	石英・輝石	Ⅰ－1（新）～4	
254	南側溝1	SD107粘土	弥生土器・甕				口縁端部刻目、口縁部板ナデ、胴部4条沈線・ヨコハケメ／口縁部ハケメ、胴部板ナデ	7.5YR 6/3にぶい褐／10YR 4/2灰黄褐	石英・輝石	Ⅰ－2～4	
255	南側溝1	SD107 №1	弥生土器・甕				ハケメ／板ナデ	10YR 5/1褐灰／10YR 5/2灰黄褐	石英・輝石	弥生	
256	南側溝1	SD107下層粘土	弥生土器・底部		8.6		ハケメ・ナデ／ナデ	10YR 6/2灰黄褐／10YR 5/2灰黄褐	石英・輝石	弥生	
257	南側溝1	SD107 №5	弥生土器・底部		7.5		風化・板ナデ／風化	10YR 6/3にぶい黄橙／7.5YR 6/3にぶい褐	石英・輝石	弥生	底面穿孔
258	南側溝1	SD107粘土	弥生土器・底部		8.4		ハケメ・ナデ／ナデ	10YR 5/3にぶい黄褐／10YR 6/2灰黄褐	石英・輝石	弥生	
259	南側溝3	SD301	弥生土器・甕	(13.0)			摩滅・口縁端部刻目、口縁部ハケメ、胴部3条沈線・刺突文／ナデ	5YR 6/8橙／5YR 6/8橙	石英	Ⅰ－4	
260	南側溝3	SD301上層黒褐色シルト層	弥生土器・鉢				ハケメ・ナデ／ハケメ・ナデ	7.5YR 6/4にぶい橙／10YR 7/3にぶい黄橙	石英・輝石	弥生	
261	南側溝3	SD301	弥生土器・鉢	(18.8)			ナデ／ナデ・剥離	7.5YR 8/4浅黄橙／7.5YR 8/4浅黄橙	石英・輝石	Ⅰ－2～4？	
262	南側溝3	SD301上層黒褐色シルト層	弥生土器・鉢				ハケメ・ナデ／ナデ	7.5YR 7/3にぶい橙／5YR 6/4にぶい橙	石英・輝石	弥生	
263	南側溝3	SD301	弥生土器・鉢	(19.4)			ハケメ・ナデ／ナデ・ミガキ	5YR 6/4にぶい橙／5YR 6/3にぶい橙	石英・輝石	弥生	
264	南側溝1	SK101	弥生土器・底部				風化・ハケメ／風化・板ナデ	10YR 7/3にぶい黄橙／5YR 5/4にぶい赤褐	石英・輝石	弥生	
265	南側溝1	SK107黒褐色土	弥生土器・甕				口縁端部刻目、口縁部ハケメ／ヨコナデ	7.5YR 6/4にぶい橙／7.5YR 6/4にぶい橙	石英・輝石	Ⅰ	
266	南側溝1	SK107	弥生土器・甕	(17.6)			口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ・ナデ／口縁部ヨコナデ・ハケメ、胴部ハケメ	7.5YR 6/3にぶい褐／7.5YR 7/3にぶい橙	石英	Ⅴ・Ⅵ	
267	南側溝1	SK107	弥生土器・底部		(6.2)		ミガキ・ヨコナデ、底面ナデ／板ナデ・ケズリ	10YR 7/3にぶい黄橙／7.5YR 7/2明褐灰	石英	弥生	
268	南側溝1	SK107	須恵器・胴部				タタキ／タタキ	N 6/ 灰／N 6/ 灰	長石	古墳～古代？	
269	南側溝1	SK108砂層上層	弥生土器・壺				ハケメ・6条沈線に1列刻目／板ナデ	5YR 6/4にぶい橙／5YR 5/4にぶい赤褐	石英・輝石	Ⅰ？	
270	南側溝1	SK109	弥生土器・壺				3条沈線・風化・ミガキ？／風化・ナデ	7.5YR 7/3にぶい橙／10YR 7/3にぶい黄橙	石英・輝石	Ⅰ－1（新）・2？	
271	南側溝1	SK109	弥生土器・壺				10条沈線・2列刺突文・ナデ？／ナデ・剥離	5YR 7/6橙／5YR 6/4にぶい橙	石英・輝石	Ⅰ－3	
272	南側溝1	SK108砂層上層	弥生土器・甕	(24.5)			口縁端部刻目、口縁部ハケメのちヨコナデ、胴部4条沈線・ハケメ／口縁部ヨコナデ、胴部ナデ	7.5YR 6/3にぶい褐／5YR 6/6橙	石英・輝石	Ⅰ－2～4	
273	南側溝1	SK109	弥生土器・底部				ハケメ・ナデ／剥離	7.5YR 5/2灰褐／7.5YR 6/3にぶい褐	石英・輝石	弥生	

表 2-9　土器観察表（9）

No.	地点	遺構・層位	種類・器種	法量（cm） 口径	底径	器高	文様・調整（外／内）	色調（外／内）	胎土	時期	備考
274	南側調 1	SK110	弥生土器・壺				6条沈線・ハケメ／風化	5YR 6/6橙／7.5YR 6/4にぶい橙	石英・輝石	1－3・4？	
275	南側調 1	SK110	弥生土器・甕				口縁端部刻目、風化／風化	5YR 6/4にぶい橙／7.5YR 6/4にぶい橙	石英・輝石	1	
276	南側調 2	SK113	弥生土器・壺				ナデ・3条貼付頭目突帯／ナデ・ミガキ・オサエ	2.5YR 5/6明赤褐／5YR 6/6橙	石英・輝石	1－3・4	
277	南側調 2	SK113	弥生土器・壺				ナデ・3条貼付突帯、ナデ	5YR 6/6橙／2.5YR 5/8明赤褐	石英・輝石	1－4	
278	南側調 2	SK113土壁	弥生土器・甕				ハケメ／ナデ・ハケメ	7.5YR 5/3にぶい褐／7.5YR 6/6橙	石英	1	
279	南側調 2	SK113	弥生土器・甕	(22.0)			口縁端部刻目、風化・ナデ・ハケメ／ナデ	5YR 6/8橙／7.5YR 6/6橙	石英・輝石	1	
280	南側調 2	SK113	弥生土器・甕				ナデ／ナデ	5YR 6/6橙／7.5YR 6/6橙	石英・輝石	1－3・4	
281	南側調 2	SK113	弥生土器・甕				口縁端部刻目、胴部4条沈線・ナデ／ナデ	7.5YR 7/4にぶい橙／7.5YR 7/4にぶい橙	石英・輝石	1－3・4	
282	南側調 2	SK113土壁	弥生土器・底部		(4.8)		ナデ・調整／ナデ・オサエ・工具痕	10YR 6/3にぶい黄橙／10YR 5/3にぶい黄褐	石英・輝石	弥生	
283	南側調 2	SK113	弥生土器・底部		7.0		ハケメ、底面ナデ／オサエ・ナデ	2.5YR 5/6明赤褐・5YR 6/4にぶい橙／7.5YR 6/6橙	石英・輝石	弥生	
284	南側調 2	SK113土壁	弥生土器・底部		(12.2)		ハケメ、底面ナデ／ナデ・工具痕？	7.5YR 6/6橙／5YR 5/8明赤褐	石英	弥生	
285	南側調 2	SK113土壁	弥生土器・鉢	(14.9)			ナデ／ナデ・オサエ	5YR 6/6橙／5YR 6/6橙	石英・輝石	弥生	
286	南側調 1	SK103 №1	弥生土器・壺	14.7	8.5	23.5	口縁端部1条沈線・刻目・ナデ・ミガキ、頸部7条沈線、胴部8条沈線／口縁部ヨコナデ、胴部ナデ・オサエ	10YR 7/3にぶい黄橙／7.5YR 7/3にぶい橙	石英・長石	1－3・4	
287	南側調 1	SD102上面№2	弥生土器・壺	(17.4)			口縁端部浅い沈線、摩滅・ナデ・ミガキ、頸部5条沈線／口縁部ミガキ・ナデ・オサエ、頸・胴部ナデ・オサエ	5YR 5/4にぶい赤褐／2.5Y 6/2灰黄	石英・輝石	1－3・4	
288	南側調 1	SD102上面№2下	弥生土器・壺		4.8		ミガキ・ナデ／ナデ・オサエ	7.5YR 6/4にぶい橙／10YR 7/4にぶい黄橙	石英・輝石	1	
289	南側調 1	SK103 №2	弥生土器・壺		6.6		ハケメのちミガキ／板ナデ	10YR 7/2にぶい黄橙／10YR 7/3にぶい黄橙	石英・輝石	1－3・4？	
290	南側調 1	SK103（SD102 面№2）	弥生土器・鉢	(19.8)	(7.6)	(20.0)	口縁端部刻目、口縁部ヨコナデ、胴部4条沈線・ナデ、ミガキ、底部ナデ／ナデ	10YR 5/3にぶい黄褐／10YR 6/3にぶい黄橙	石英・輝石	1－2～4	
291	南側調 1	SK103 №3	弥生土器・甕	(18.5)			口縁端部刻目、口縁部ヨコナデ、胴部板ナデ・ハケメ／口縁部オサエ・ハケメ、胴部ナデ	10YR 7/3にぶい黄橙／7.5YR 7/3にぶい橙	石英・輝石	1	
292	南側調 1	SK103 №3	弥生土器・甕		7.2		調整・ハケメ／風化・ナデ	5YR 6/3にぶい橙／10YR 7/3にぶい黄橙	石英・輝石	弥生	
293	南側調 1	SK103（SD102 面№2）	弥生土器・鉢	(28.0)			ナデ・ハケメ／ナデ・オサエ	2.5YR 5/6明赤褐／2.5YR 5/8明赤褐	石英・輝石	1－4	
294	南側調 1	SK103 №2	弥生土器・甕	(47.6)			口縁部ナデ・ハケメ・ミガキ、胴部3条沈線・風化／ナデ・ミガキ	10YR 6/2灰黄褐／10YR 5/1褐灰	石英・輝石	1－1（新）～4	大型品
295	南側調 1	SK105 №3	弥生土器・甕	(12.9)			板ナデ・ハケメ／風化	10YR 6/2灰黄褐／10YR 7/3にぶい黄橙	石英・輝石	V・VI	
296	南側調 1	SK105 №3	弥生土器・鉢				口縁部ヨコナデ、胴部ミガキ／口縁部ナデ、胴部剥離	10YR 5/1褐灰／10YR 6/1褐灰	石英・輝石	V・VI	
297	南側調 1	SK105 №3	弥生土器・甕	(16.0)			口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ／風化	10YR 6/3にぶい黄橙／10YR 6/3にぶい黄橙	石英・輝石	V・VI	
298	南側調 1	SK105 №2	弥生土器・甕		(6.2)		ハケメ・板ナデ／調整・風化・板ナデ	10YR 7/3にぶい黄橙／10YR 5/1褐灰	石英・輝石	弥生	
299	南側調 1	SK105 №3	弥生土器・甕		5.0		摩滅・ハケメ・板ナデ、底面ヌメリ／ケズリ・ナデ	7.5YR 5/3にぶい褐／10YR 6/3にぶい黄橙	輝石	弥生	
300	南側調 1	SK105 №3	弥生土器・鉢	(33.8)			口縁部ヨコナデ、胴部ナデ・ハケメ・ミガキ／口縁部ヨコナデ、胴部風化・調整	7.5YR 6/3にぶい褐／7.5YR 6/3にぶい褐	石英・輝石	V・VI	片口？304と同一個体？
301	南側調 1	SK105 №1	弥生土器・甕		5.2		風化・板ナデ・ハケメ？／風化・ハケメ？	10YR 6/2灰黄褐／10YR 6/3にぶい黄橙	石英・輝石	弥生	
302	南側調 1	SK105 №3	弥生土器・鉢か高杯	(22.1)			ナデ・ミガキ／ナデ・ミガキ	10YR 5/2灰黄褐／10YR 5/3にぶい黄褐	輝石	V・VI	
303	南側調 1	SK105 №3	弥生土器・高杯	(26.5)	18.0	17.2	杯部すぼのちミガキ・風化、脚部ミガキ、脚端部1条凹沈線／杯部すぼのちミガキ・ハケメ、脚部板ナデ	10YR 6/2灰黄褐／10YR 6/3にぶい黄橙	石英・輝石	V－2～4	脚部透かし孔4ヶ所（高さ一定ではない）
304	南側調 1	SK105 №3	弥生土器・底部		(4.5)		ナデ・ミガキ・ハケメ／調整・ナデ？	10YR 6/2灰黄褐／10YR 6/1褐灰	石英・輝石	弥生	300と同一個体？
305	南側調 1	SK105 №3	弥生土器・鉢	10.3	2.9	5.8	ナデ・ミガキ／ナデ・ミガキ	10YR 6/2灰黄褐／10YR 6/2灰黄褐	石英・輝石	V－2～4	
306	南側調 1	SK106 №5	弥生土器・甕	(18.0)			口縁端部刻目、口縁部ヨコナデ、胴部3条沈線・ハケメ・ナデ／板ナデ	7.5YR 4/1褐灰／7.5YR 5/3にぶい褐	石英	1－1（新）～4	
307	南側調 1	SK106 №1	弥生土器・甕	21.5			口縁端部ヨコナデ、胴部3条沈線・ハケメ／板ナデ→一部オサエ	10YR 6/3にぶい黄橙／7.5YR 6/3にぶい褐	石英・輝石	1－3・4	
308	南側調 1	SK106 №5	弥生土器・甕	(22.6)			口縁端部刻目、口縁部ヨコナデ、胴部6条沈線・ハケメ・ナデ／口縁部ヨコナデ、胴部板ナデ・風化	7.5YR 6/3にぶい褐／7.5YR 6/4にぶい橙	石英・輝石	1－2～4	
309	南側調 1	SK106 №1	弥生土器・甕	(17.8)	6.5	23.0	口縁下端部に刻目、胴部ハケメ・ナデ／ナデ・風化	7.5YR 6/3にぶい褐／5YR 6/6橙	石英・輝石	1－3・4	

表 2-10　土器観察表（10）

No.	地点	遺構・層位	種類・器種	法量（cm） 口径	底径	器高	文様・調整（外／内）	色調（外／内）	胎土	時期	備考
310	南側溝 1	SK106 №2	弥生土器・甕				ハケメ・板ナデ・風化／板ナデ	2.5YR 5/6明赤褐／10YR 6/3にぶい黄橙	石英・輝石	弥生	内面にコゲ
311	南側溝 1	SK106 №4	弥生土器・甕	(17.6)	6.3	17.5	波状口縁、側部3列竹管文間に3条沈線・ハケメ／風化・板ナデ	7.5YR 6/3にぶい褐／7.5YR 5/2灰褐	石英・輝石	1－3	
312	南側溝 1	SK106 №1	弥生土器・甕	(30.8)			口縁端部刻目、口縁部ヨコナデ、側部5条沈線・ハケメ／口縁部ヨコナデ、側部ナデ・板ナデ	10YR 6/3にぶい黄橙／10YR 7/3にぶい黄橙	石英・輝石	1－2～4	
313	南側溝 1	SK106(東)	弥生土器・壺				ハケメ・ナデ・ミガキ・3条貼付刻目突帯／板ナデ・オサエ・ミガキ	7.5YR 5/4にぶい橙／2.5Y 4/3オリーブ褐	石英	1－3・4	
314	南側溝 1	SK106 №1	弥生土器・壺				ハケメ・ナデ・5条貼付刻目突帯／オサエ	5YR 6/6橙／2.5Y 6/3にぶい黄	石英・輝石	1－3・4	
315	南側溝 1	SK106 №2	弥生土器・壺				上半タテ・下半ヨコハケメ・ナデ・3条貼付突帯／オサエ・ナデ、下位ケズリ	7.5YR 5/6明褐／10YR 6/3にぶい黄橙	石英	1－4	316と同一個体
316	南側溝 1	SK106 №2	弥生土器・底部		8.8		ハケメ・ケズリ・ミガキ・ナデ／オサエ・ナデ	7.5YR 5/6明褐／10YR 6/3にぶい黄橙	石英	弥生	315と同一個体
317	南側溝 1	SK106 №1	弥生土器・壺		11.2		6条貼付刻目突帯・ハケメ／ナデ	10YR 6/3にぶい黄橙／2.5Y 6/3にぶい黄	石英・輝石	1－3・4	
318	南側溝 1	SK106 №4	弥生土器・壺				7条貼付突帯に一部頭目・浮文・ハケメ／ハケメ・ナデ	5YR 6/6橙／5YR 6/6橙	石英	1－3・4	
319	南側溝 1	SK106 №2	弥生土器・壺				ハケメ・ナデ・ミガキ・3条貼付刻目突帯／オサエ・板ナデ	5YR 5/4にぶい赤褐／2.5Y 7/4浅黄	石英	1－3・4	突帯付近に赤色顔料付着？
320	南側溝 1	SK106(西)	弥生土器・壺		(6.8)		ハケメ、側部・胴部2条貼付突帯・下端2条沈線・ハケメ／口縁部ハケメ、胴部板ナデ・オサエ	7.5YR 6/3にぶい褐／7.5YR 6/4にぶい橙	石英・輝石	1－4	
321	南側溝 1	SK106 №1	弥生土器・壺				上半ハケメ0.5、ミガキ・ナデ、下半10条沈線・ミガキ・ナデ／板ナデ	10YR 5/3にぶい黄褐／7.5YR 6/4にぶい橙	石英・輝石	1－3・4	
322	南側溝 1	SK106 №1	弥生土器・底部		(10.6)		ハケメ・ミガキ・ナデ／板ナデ	7.5YR 6/6橙／10YR 6/3にぶい黄橙	石英	弥生	
323	南側溝 1	SK106休底上	弥生土器・底部		8.4		ミガキ・ハケメ、底面ミガキ／ミガキ・ハケメ	10YR 6/4にぶい黄橙／7.5YR 6/4にぶい橙	石英	弥生	壺
324	南側溝 1	SK106(西)	弥生土器・壺				3条貼付刻目突帯・ハケメ・ナデ／オサエ・ナデ	7.5YR 5/4にぶい褐／2.5Y 6/3にぶい黄	石英	1－3・4	
325	南側溝 1	SK106(東)	弥生土器・底部		8.8		ハケメ・ミガキ・ナデ／オサエ・ナデ	7.5YR 5/4にぶい褐／10YR 7/4にぶい橙	石英	弥生	壺
326	南側溝 1	SK106 №4	弥生土器・底部		8.8		ハケメ／ナデ・オサエ	7.5YR 7/6橙／10YR 6/4にぶい黄橙	石英	弥生	甕
327	南側溝 1	SK106(東)	弥生土器・底部		(8.2)		ハケメ・板ナデ／オサエ・板ナデ	5YR 6/6橙／10YR 6/3にぶい黄橙	石英	弥生	
328	南側溝 1	SK106 №1	弥生土器・底部		(8.4)		ハケメ・ナデ、底面ミガキ／オサエ	7.5YR 6/6橙／10YR 6/3にぶい黄橙	石英	弥生	
329	南側溝 1	SK106 №5	弥生土器・底部		(7.8)		ハケメ・ナデ／オサエ・ナデ	5YR 5/6明赤褐／5YR 6/6橙	石英	弥生	
330	南側溝 1	SK106 №4	弥生土器・底部		(8.1)		板ナデ、底面オサエ・オサエ・板ナデ	5YR 6/6橙／10YR 6/3にぶい黄橙	石英	弥生	
331	南側溝 1	SK106(東)	弥生土器・壺				ナデ／オサエ・板ナデ	5YR 6/6橙／7.5YR 6/6橙	石英	弥生	
332	南側溝 1	SK106 №1	弥生土器・甕	(22.2)			口縁部ナデ、胴部ハケメ／上半オサエ・ハケメ、下半ナデ・オサエ	10YR 6/3にぶい黄橙／10YR 6/4にぶい黄橙	石英・輝石	1－3・4	
333	南側溝 1	SK106休底上	弥生土器・鉢	(21.3)			ハケメ・ナデ／オサエ・ナデ	7.5YR 6/4にぶい橙／10YR 6/3にぶい黄橙	石英・輝石	弥生	
334	南側溝 1	SK106 №1	弥生土器・鉢	(32.9)			風化・ハケメ・ナデ？／風化・ナデ？	10YR 7/2にぶい黄橙／7.5YR 6/3にぶい橙	石英・輝石	弥生	
335	南側溝 1	SK106	弥生土器・胴部		(32.6)		ハケメ・ナデ・風化／ハケメ・ナデ・風化	5YR 6/6橙／7.5YR 6/6橙	石英	弥生	
336	南側溝 1	SK111	弥生土器・甕	(20.8)			口縁端部刻目、胴部3条沈線・ハケメ・ナデ／オサエ・ナデ	2.5YR 7/4にぶい橙／7.5YR 7/4にぶい橙	石英	1－1（新）～4	
337	南側溝 1	SK111	弥生土器・甕	(37.2)			口縁端部刻目、口縁部オサエ、胴部上半5条沈線・オサエ・ナデ、下半ハケメ／ナデ・オサエ	10YR 6/3にぶい黄橙／10YR 7/3にぶい黄橙	石英・輝石	1－2～4	外面下半スス付着
338	南側溝 1	SK111	弥生土器・甕	(31.0)			口縁端部刻目、オサエ・ナデ・風化、胴部5条沈線／オサエ・ナデ・風化	5YR 6/6橙／7.5YR 6/4にぶい橙	石英	1－2～4	
339	南側溝 1	SK111	弥生土器・甕	(33.4)			口縁端部刻目、風化・ナデ、胴部2条沈線／ナデ、風化	5YR 6/4にぶい橙／7.5YR 6/4にぶい橙	石英	1－1（新）～4	
340	南側溝 1	SK111	弥生土器・甕				ハケメ・ミガキ／ナデ	5YR 6/6橙／5YR 7/6橙	石英	1？	
341	南側溝 1	SK111	弥生土器・蓋		(6.8)		横ハ面オサエ、側部ハケメ・ナデ／板ナデ・ケズリ・オサエ	5YR 6/6橙／5YR 7/4にぶい橙	石英	1－2	
342	南側溝 2	SK114	弥生土器・甕	(31.0)			口縁端部刻目、ナデ、胴部3条沈線・ナデ・工具痕	5YR 6/4にぶい橙／7.5YR 7/4にぶい橙	石英・輝石	1－1（新）～4	
343	南側溝 2	SK114	弥生土器・甕				口縁端部刻目、口縁部ナデ、胴部3条沈線・ハケメ／ナデ・ハケメ	10YR 7/2にぶい黄橙／10YR 7/2にぶい黄橙	石英・輝石	1－1（新）～4	
344	南側溝 2	SK114	弥生土器・甕	(32.0)			口縁端部刻目、口縁部ナデ、胴部4条沈線・ハケメ・風化／ナデ・板ナデ	7.5YR 7/4にぶい橙／7.5YR 7/6橙	石英・輝石	1－2～4	
345	南側溝 2	SK114	弥生土器・底部		(6.7)		ナデ／ナデ	5YR 5/8明赤褐／5YR 6/6橙	石英・輝石・小石	弥生	
346	南側溝 2	SK115・周辺清掃・掘土	弥生土器・甕				ナデ・ハケメ・3条沈線／ナデ	7.5YR 6/3にぶい褐／7.5YR 6/2灰褐	石英	1－1（新）～4	

表 2-11　土器観察表（11）

No.	地点	遺構・層位	種類・器種	法量（cm）			文様・調整（外／内）	色調（外／内）	胎土	時期	備考
				口径	底径	器高					
347	南側溝2	SK116	弥生土器・壺	(21.5)			口縁端部1条沈線・刻目、口縁部ミガキ・ハケメ痕、頸部ヨコナデ・3条貼付刻目突帯・風化／ミガキ・ナデ	7.5YR 7/4にぶい橙／10YR 7/3にぶい黄橙	石英・輝石	Ⅰ－3	口縁部1ヶ所穿孔
348	南側溝2	SK118	弥生土器・甕				口縁端部刻目、ナデ／ヨコナデ・剥離	7.5YR 7/4にぶい橙／7.5YR 7/4にぶい橙	石英・輝石	Ⅰ	
349	南側溝2	SK118	弥生土器・底部		(8.0)		板ナデ・ハケメ／ナデ	10YR 4/1褐灰／7.5YR 6/4にぶい橙	石英・輝石	弥生	
350	南側溝2	SK118	弥生土器・甕	(22.2)	6.9	22.0	口縁端部刻目、胴部5条沈線・板ナデ・風化／口縁部ヨコナデ・板ナデ、胴部板ナデ	10YR 7/2にぶい黄橙／5YR 6/6橙	石英・輝石	Ⅰ－2～4	
351	南側溝2	SK119	弥生土器・甕	(19.8)			口縁端部刻目、ナデ・オサエ／ナデ	5YR 7/6橙／5YR 6/6橙	石英	Ⅰ	
352	南側溝2	SK123	弥生土器・壺				風化、頸部ハケメ・ミガキ・4条沈線／口縁部板ナデ・ミガキ、頸部板ナデ	10YR 5/2灰黄褐／10YR 6/3にぶい黄橙	石英・輝石	Ⅰ－3・4	
353	南側溝2	SK119	弥生土器・甕		7.8		ハケメ・ナデ、底面オサエ・ナデ／風化・オサエ・ナデ	5YR 6/6橙／7.5YR 5/4にぶい褐	石英・輝石	弥生	底面焼成後穿孔
354	南側溝2	SK123東肩付近土器群	弥生土器・甕	(20.6)			口縁端部刻目、口縁部オサエ・ヨコナデ、胴部2条沈線・板ナデ・ハケメ／ナデ、上半オサエ	7.5YR 6/3にぶい褐／10YR 7/3にぶい黄橙	石英・輝石	Ⅰ－1（新）～4	358と同一個体？
355	南側溝2	SK123東肩付近土器群	弥生土器・甕	(23.6)			口縁端部刻目、胴部2条沈線・風化・板ナデ・ハケメ／風化・オサエ・ナデ	10YR 7/3にぶい黄橙／10YR 7/2にぶい黄橙	石英・輝石	Ⅰ－1（新）～4	
356	南側溝2	SK123	弥生土器・底部		(11.7)		ハケメ・ミガキ／風化	10YR 6/3にぶい黄橙／10YR 5/1褐灰	石英・輝石	弥生	
357	南側溝2	SK123肩付近土器群	弥生土器・蓋	摘み径6.5	24.2	9.2	上半ナデ・ハケメ、下半ミガキ・ハケメ・ナデ／板ナデ・ミガキ	7.5YR 6/3にぶい褐／10YR 5/2灰黄褐	石英・輝石	Ⅰ－3・4	
358	南側溝2	SK123東肩付近土器群	弥生土器・甕		(7.8)		風化・ハケメ・ナデ／風化・板ナデ	7.5YR 6/3にぶい褐／10YR 7/2にぶい黄橙	石英・輝石	Ⅰ？	底面穿孔、354と同一個体？
359	南側溝2	SK125	弥生土器・甕				口縁端部刻目、口縁部オサエ・ナデ、胴部4条沈線・ミガキ・風化／口縁部風化・ミガキ、胴部オサエ・板ナデ	5YR 6/6橙／7.5YR 7/4にぶい橙	石英・輝石	Ⅰ－2～4	
360	南側溝2	SK126 №6	弥生土器・壺	(14.2)			ハケメ・ナデ・頸部2条沈線・刻目／ナデ	7.5YR 6/4にぶい橙／7.5YR 6/4にぶい橙	輝石・石英・雲母	Ⅰ－1（新）・2	
361	南側溝2	SK126 №5	弥生土器・壺	(14.6)			ナデ、頸部1条沈線／ナデ	7.5YR 6/4にぶい橙／5YR 6/6橙	石英・輝石	Ⅰ－1（新）・2	
362	南側溝2	SK126 №5 壁	弥生土器・壺				4条沈線・ナデ／ナデ・オサエ	7.5YR 6/4にぶい橙／5YR 6/6橙	石英・輝石	Ⅰ－3・4？	
363	南側溝2	SK126 №5 壁	弥生土器・壺				2条沈線・ハケメ・ナデ／ミガキ・オサエ・ナデ・絞り痕	5YR 5/4にぶい赤褐／7.5YR 5/4にぶい褐	石英・輝石	Ⅰ－3・4？	
364	南側溝2	SK126 №2	弥生土器・甕	(23.6)			口縁端部刻目、ナデ／ナデ	10YR 4/2灰黄褐／7.5YR 5/3にぶい褐	石英	Ⅰ	
365	南側溝2	SK126 №5	弥生土器・甕	(19.6)			口縁端部刻目、口縁部オサエ、胴部3条沈線・ハケメ／オサエ	7.5YR 6/4にぶい橙／7.5YR 7/4にぶい橙	石英	Ⅰ－1（新）～4	
366	南側溝2	SK126 №5 西端掘り残し部	弥生土器・甕	(21.7)			口縁端部刻目、胴部3条沈線・ハケメ・ナデ／オサエ・ナデ	10YR 4/3にぶい黄褐／10YR 6/3にぶい黄橙	石英	Ⅰ－1（新）～4	
367	南側溝2	SK126 №2	弥生土器・甕	(21.4)			口縁端部刻目、口縁部ハケメ、胴部3条沈線／ナデ	7.5YR 6/4にぶい橙／7.5YR 5/4にぶい褐	石英・輝石	Ⅰ－1（新）～4	
368	南側溝2	SK126 №3	弥生土器・甕	(18.0)			口縁端部刻目、胴部オサエ・4条沈線・ハケメ／オサエ	7.5YR 4/2灰褐／7.5YR 6/4にぶい橙	石英	Ⅰ－2～4	
369	南側溝2	SK126直上層 №4付近南壁	弥生土器・甕	(25.7)			口縁端部刻目、胴部4条沈線・オサエ・ナデ・ハケメ／ナデ	5YR 6/4にぶい橙／7.5YR 6/4にぶい橙	石英	Ⅰ－2～4	
370	南側溝2	SK126 №5	弥生土器・底部				ハケメ・ナデ／オサエ・ナデ	5YR 6/6橙／7.5YR 6/3にぶい褐	石英・輝石	弥生	
371	南側溝2	SK126 №5 壁	弥生土器・甕	(30.0)			ミガキ・ナデ／オサエ・ナデ	7.5YR 6/6橙／7.5YR 6/6橙	石英	Ⅰ	
372	南側溝2	SK126 №5 壁	弥生土器・底部		6.5		摩滅／摩滅	7.5YR 5/4にぶい褐／7.5YR 4/1褐灰	石英・輝石	弥生	
373	南側溝2	SK126直上層 №4付近南壁	弥生土器・胴部				ナデ／ミガキ・ナデ	5YR 6/4にぶい橙／5YR 6/4にぶい橙	石英・輝石	弥生	
374	南側溝2	SK127 №1	弥生土器・壺	(15.2)			ナデ・ミガキ・頸部2条沈線／ミガキ	7.5YR 6/4にぶい橙／10YR 6/4にぶい黄橙	輝石・石英・雲母	Ⅰ－1（新）・2	
375	南側溝2	SK127	弥生土器・壺				5条沈線・ミガキ・ナデ／ナデ・ミガキ・オサエ	5YR 6/6橙／2.5Y 4/1黄灰	石英・輝石	Ⅰ－3・4？	
376	南側溝2	SK127	弥生土器・甕				口縁端部刻目、ナデ／ナデ	10YR 3/2黒褐／7.5YR 5/3にぶい褐	石英	Ⅰ	
377	南側溝2	SK128	弥生土器・胴部				3条沈線・ハケメ・ナデ／ナデ・オサエ	5YR 6/4にぶい橙／5YR 6/4にぶい橙	石英・輝石	Ⅰ－1（新）～4	
378	南側溝2	SK129	弥生土器・甕	(20.5)			口縁端部刻目、ナデ・ハケメ、胴部4条沈線／ナデ・摩滅	7.5YR 6/4にぶい橙／7.5YR 6/6橙	石英・輝石	Ⅰ－2～4	
379	南側溝2	SK130黄褐色下層	弥生土器・底部		(8.4)		ナデ・板ナデ／ナデ	10YR 7/4にぶい黄橙／7.5YR 7/4にぶい橙	石英・輝石	弥生	
380	南側溝2	SK132(西) №1	弥生土器・甕	(26.2)			口縁端部刻目、ナデ・ハケメ、胴部2条沈線、下半剥離／ナデ・オサエ	5YR 7/4にぶい橙／10YR 7/3にぶい黄橙	石英・輝石	Ⅰ－1（新）～4	
381	南側溝2	SK132	弥生土器・甕	(20.0)			口縁端部刻目、口縁部ナデ、胴部3条沈線・ハケメ／ナデ	7.5YR 5/3にぶい褐／10YR 7/2にぶい黄橙	石英	Ⅰ－1（新）～4	
382	南側溝2	SK132(西) №6	弥生土器・底部		7.7		ハケメ、底面ナデ／ナデ・オサエ	5YR 6/4にぶい橙／7.5YR 3/3暗褐	石英・輝石	弥生	

表 2-12　土器観察表（12）

No.	地点	遺構・層位	種類・器種	法量（cm） 口径	底径	器高	文様・調整（外／内）	色調（外／内）	胎土	時期	備考
383	南側溝２	SK132(西) №5	弥生土器・甕	(25.6)			口縁端部刻目、口縁部オサエ、胴部３条沈線・ナデ／ナデ	7.5YR 5/2灰褐／7.5YR 6/2灰褐	石英・輝石	Ⅰ－１（新）～４	
384	南側溝２	SK132(西) №2	弥生土器・底部		(7.8)		ナデ・ハケメ／ナデ・オサエ	7.5YR 6/3にぶい褐／7.5YR 5/3にぶい褐	石英・輝石	弥生	
385	南側溝２	SK132(東) №2	弥生土器・甕	(26.6)			ハケメ／ナデ	10YR 7/4にぶい黄橙／5YR 7/4にぶい橙	石英・輝石	Ⅰ	
386	南側溝２	SK132(西) №5	弥生土器・底部		(8.0)		ハケメのちナデ／ナデ・オサエ	7.5YR 6/3にぶい褐／7.5YR 5/3にぶい褐	石英・輝石	弥生	
387	南側溝２	SK132(西) №6	弥生土器・底部		5.6		ナデ／ナデ	5YR 6/6橙／5YR 5/6明赤褐	石英・輝石	弥生	
388	南側溝２	SK132(東) №4	弥生土器・壺	(15.5)			ナデ・ハケメ、頸部2条刻出刻目突帯／ナデ・ミガキ・オサエ	5YR 6/4にぶい橙／5YR 6/6橙	石英・輝石	Ⅰ－１（新）・２	
389	南側溝２	SK132(西) №4	弥生土器・蓋	摘み径 7.1	(21.9)	9.0	摘み部ナデ、胴部ハケメ・ナデ／ナデ	5YR 7/8橙／5YR 7/8橙	石英・輝石	Ⅰ－２	
390	南側溝２	SK132黄褐色シルト層	弥生土器・壺		8.2		ハケメ・ミガキ、底面ナデ／オサエ・ナデ・ミガキ・板ナデ・工具痕	7.5YR 6/4にぶい橙／10YR 7/4にぶい黄橙	石英・輝石	弥生	
391	南側溝２	SK132黄褐色シルト層	弥生土器・壺		8.4		ナデ・ミガキ／ナデ	2.5YR 6/6橙／2.5YR 6/6橙	石英・輝石・1～3㎜小石	弥生	
392	南側溝１	SK133 №3	弥生土器・壺				1条沈線・ナデ・ハケメ・ミガキ？／ナデ・オサエ・絞り痕	7.5YR 6/4にぶい橙／7.5YR 5/1褐灰	石英・長石・輝石	Ⅰ－１（新）・２？	
393	南側溝１	SK133黒褐色シルト層	弥生土器・甕				ナデ・ハケメ、胴部3条沈線／ナデ	7.5YR 5/1褐灰／7.5YR 6/2灰褐	長石・輝石	Ⅰ－１（新）～４	
394	南側溝１	SK133黒褐色シルト層	弥生土器・甕	(21.0)			口縁端部刻目、ナデ、胴部4条沈線／ナデ・オサエ	7.5YR 7/3にぶい橙／7.5YR 7/4にぶい橙	石英・長石・輝石・雲母	Ⅰ－２～４	
395	南側溝１	SK133周辺黄褐色	弥生土器・甕	(26.0)			口縁端部刻目、ナデ・口縁部ナデ、胴部ナデ／オサエ	7.5YR 7/4にぶい橙／10YR 7/2にぶい黄橙	石英・輝石	Ⅰ	
396	南側溝１	SK133 №3	弥生土器・甕	(29.8)			口縁端部刻目、口縁部ナデ、胴部7条沈線・ハケメ／風化	5YR 7/6橙／7.5YR 7/4にぶい橙	石英・輝石	Ⅰ－２～４	
397	南側溝１	SK133 №2	弥生土器・底部		8.6		ハケメ／ナデ・剥離	5YR 6/2灰褐／5YR 6/1褐灰	石英・長石・輝石	弥生	
398	南側溝１	SK133 №3	弥生土器・底部		(9.5)		ナデ／ナデ・ミガキ	5YR 6/4にぶい橙／5YR 6/6橙	石英・輝石	弥生	
399	南側溝１	SK133 №4	弥生土器・底部		(12.6)		ナデ・ミガキ・ハケメ、底面ナデ／ナデ・剥離	7.5YR 6/1褐灰／7.5YR 6/1褐灰	石英・輝石	弥生	
400	南側溝３	SK301	弥生土器・壺	(17.0)			ナデ・ミガキ・ハケメ、頸部1条沈線／ナデ・ハケメのちミガキ	10YR 5/2灰黄褐／10YR 5/2灰黄褐	石英・輝石	Ⅰ－１（新）・２	
401	南側溝３	SK301 №1	弥生土器・甕	(26.1)			口縁端部刻目、胴部4条沈線・ハケメ・風化／口縁部ナデ・ハケメ・ナデ	10YR 4/2灰黄褐／10YR 5/2灰黄褐	石英・輝石	Ⅰ－２～４	
402	南側溝３	SK301 №2	弥生土器・甕	(19.0)			口縁端部刻目、口縁部ナデ、胴部2条沈線・ハケメ・剥離／口縁部ナデ、胴部オサエ・板ナデ、下半ナデ	10YR 4/2灰黄褐／10YR 5/2灰黄褐	石英・輝石	Ⅰ－１（新）～４	
403	南側溝３	SK301	弥生土器・底部		(8.5)		ナデ・ミガキ／ナデ・ケズリ	10YR 5/2灰黄褐／7.5YR 6/2灰褐	石英・輝石	弥生	
404	南側溝３	SK301 №2	弥生土器・鉢	(37.7)			口縁部ナデ・ハケメ、4～5条沈線・ハケメのちミガキ・ナデ／口縁部ナデ、胴部上位ハケメのちミガキ、中下位ミガキ・ナデ	10YR 4/3にぶい黄褐／10YR 4/3にぶい黄褐	石英・輝石	Ⅰ－２～４？	
405	南側溝３	SK302	弥生土器・壺				ミガキ／風化	7.5YR 5/2灰褐／10YR 7/3にぶい黄橙	石英・輝石	弥生	
406	南側溝１	土器群№3	弥生土器・甕	(20.7)			口縁端部刻目、ハケメ・ナデ、胴部1条沈線・風化／ナデ	10YR 6/3にぶい黄橙／10YR 7/3にぶい黄橙	石英・輝石	Ⅰ－１（新）～４	
407	南側溝１	土器群№4	弥生土器・甕				口縁端部刻目、ハケメ・ナデ、胴部4条沈線／ナデ	5YR 5/3にぶい赤褐／7.5YR 5/3にぶい褐	石英・長石・輝石	Ⅰ－２～４	
408	南側溝１	土器群№6	弥生土器・甕	(29.1)	8.2	29.9	上・中位細かなハケメ・ナデ、下位ケズリ・ナデ／ナデ・オサエ	7.5YR 6/4にぶい橙／5YR 5/4にぶい赤褐	石英・長石・輝石	Ⅰ－３・４？	外面スス付着
409	南側溝１	土器群№1	弥生土器・壺				ハケメ／ナデ・オサエ	5YR 6/4にぶい橙／7.5YR 5/2灰褐	石英・輝石	弥生	
410	南側溝１	土器群№1	弥生土器・底部		11.2		ミガキ・ナデ／ナデ・オサエ・風化	10YR 7/3にぶい黄橙／10YR 7/3にぶい黄橙	石英・輝石	弥生	壺
411	南側溝１	土器群№1	弥生土器・底部		7.5		風化・ハケメ・ナデ、底面ケズリのちナデ／ナデ・オサエ	5YR 6/6橙／10YR 6/2灰黄褐	石英・長石・輝石		甕
412	南側溝２	灰オリーブ色シルト層	弥生土器・甕	(29.2)			口縁端部刻目、ハケメ・ナデ、胴部3条沈線／ナデ	5YR 5/6明赤褐／5YR 6/6橙	石英・輝石	Ⅰ－１（新）～４	
413	南側溝２	オリーブ灰色シルト質粘土層	弥生土器・壺	15.6			剥離、頸部3条刻出突帯／口頸部ナデ、胴部ナデ・オサエ	10YR 6/3にぶい黄橙／10YR 6/3にぶい黄橙	石英・輝石	Ⅰ－１（新）・２	
414	南側溝１	黒褐色シルト層	弥生土器・壺				頸部ハケメのちナデ、胴部ハケメ／ナデ	2.5YR 6/6橙／2.5YR 5/6明赤褐・10YR 4/1褐灰	石英・長石・輝石・雲母	Ⅴ・Ⅵ？	
415	南側溝２	黒褐色シルト層	弥生土器・底部		(4.7)		ハケメのちナデ／ナデ	10YR 4/1褐灰／10YR 5/2灰黄褐	長石・雲母	弥生	
416	南側溝２	黒褐色シルト層	弥生土器・甕				口縁端部刻目、口縁部オサエ・ナデ、胴部4条沈線・ハケメのちナデ・剥離／ナデ・オサエ	7.5YR 5/3にぶい褐／7.5YR 7/4にぶい橙	石英・輝石	Ⅰ－２～４	
417	南側溝２	黒褐色シルト層上面まで掘下げ	土師器？・甕？				ナデ／ナデ	7.5YR 5/4にぶい褐／10YR 4/2灰黄褐	石英・長石・輝石	古代？	
418	南側溝１	黒褐色シルト層	弥生土器・底部		7.4		ナデ・剥離／ナデ・オサエ	2.5Y 7/3浅黄/2.5Y 6/2灰黄	石英・輝石	弥生	
419	南側溝２	黒褐色シルト層	弥生土器・高杯				ナデ・脚部4条沈線／ナデ	7.5YR 6/6橙／7.5YR 6/6橙	石英・雲母	弥生	

表 2-13　土器観察表（13）

No.	地点	遺構・層位	種類・器種	法量（cm）			文様・調整（外／内）	色調（外／内）	胎土	時期	備考
				口径	底径	器高					
420	南側調 2	黒褐色シルト層上面まで掘下げ	土師器・小皿	(10.7)			ナデ／ナデ	5YR 6/4 にぶい橙／7.5YR 7/4 にぶい橙	雲母	中世？	
421	南側調 2	黒褐色シルト層まで掘下げ（一部黒褐色含む）	土師器・坏		(6.4)		ナデ／ナデ	2.5Y 3/1 黒褐／2.5Y 3/1 黒褐	石英	古代？	
422	南側調 2	黒褐色シルト層まで掘下げ	土師器・坏		(8.2)		ナデ／ナデ	7.5YR 8/4 浅黄橙／5Y 4/1 灰	石英・長石	古代？	
423	南側調 2	黒褐色シルト層まで掘下げ（一部黒褐色含む）	土師器・坏		(6.8)		ナデ／ナデ	7.5YR 6/4 にぶい橙／10YR 4/1 褐灰	雲母	古代？	底部穿孔
424	南側調 2	黒褐色シルト層上面まで掘下げ	土師器・塊		(8.2)		ナデ／ナデ	10YR 7/4 にぶい黄橙／10YR 7/4 にぶい黄橙	雲母	古代？	
425	南側調 2	黒褐色シルト層上面まで掘下げ	土師器・坏		(8.0)		ナデ／ナデ	7.5YR 6/4 にぶい橙／5YR 6/4 にぶい橙	雲母・石英	古代？	内面に赤色顔料残存
426	南側調 2	黒褐色シルト層	土師器・坏		(8.4)		ナデ／ナデ	7.5YR 7/6 橙／5YR 7/6 橙	雲母	古代？	
427	南側調 2	黒褐色シルト層上面	須恵器・壺				回転ナデ／回転ナデ	5Y 6/1 灰／5Y 6/1 灰	石英	古代？	
428	南側調 1	黄褐色シルト層	縄文土器・深鉢				条痕ナのちナデ・刻目突帯／ナデ	7.5YR 5/4 にぶい褐／7.5YR 6/6 橙	石英・輝石	1－1（古）	
429	南側調 1	黄褐色シルト層	弥生土器・甕				口縁端部刻目、胴部4条沈線・ナデ／ナデ	7.5YR 6/6 橙／7.5YR 5/2 灰褐	石英	1－3・4	
430	南側調 2	黄褐色上面砂層	弥生土器・甕				口縁端ハケメのちナデ、胴部3条沈線・ヨコハケメ／口縁部ナデ・ミガキ、胴部ハケメ	10YR 6/2 灰黄褐・5YR 6/4 にぶい橙／7.5YR 6/3 にぶい褐	石英	1－1（前）～4	
431	南側調 1	黄褐色シルト層	弥生土器・甕	(19.8)			風化・ナデ・ミガキ／風化・ナデ・ミガキ	5YR 6/6 橙／5YR 6/4 にぶい橙	石英・輝石	1－1・2？	外面に3条弧線、スス付着
432	南側調 2	黄褐色シルト層	弥生土器・甕				3条沈線・ハケメ／板ナデ・オサエ	10YR 4/2 灰黄褐／7.5YR 6/4 にぶい橙	石英・輝石	1－1（前）～4	
433	南側調 1	黄褐色シルト層	弥生土器・甕			9.9	風化・ハケメ・ナデ・ケズリ、底面ナデ／風化・ナデ、底面オサエ	7.5YR 7/8 黄橙／10YR 7/6 明黄褐	輝石・石英	弥生	
434	南側調 2	黄褐色シルト層	弥生土器・甕	(32.3)			板ナデ・粗いミガキ？／ナデ・オサエ・ミガキ	7.5YR 7/4 にぶい橙／5YR 7/6 橙	石英・輝石	1－3・4？	
435	南側調 1	暗褐色シルト層	縄文土器・深鉢				風化・ナデ、口縁端部・口縁部中位刻目、下位ケズリ痕／風化・ナデ	7.5YR 5/3 にぶい褐／7.5YR 7/4 にぶい橙	石英・輝石	1－1（古）	
436	南側調 2	暗褐色上面	弥生土器・甕				口縁部風化・ナデ、頸部2条沈線／風化・ナデ	7.5YR 7/4 にぶい橙／7.5YR 7/4 にぶい橙	石英・輝石	1－1（前）・2	
437	南側調 2	暗褐色シルト層	弥生土器・甕				口縁端部刻目、口縁部オサエ・ヨコナデ・ハケメ、胴部2条沈線・ハケメ／オサエ・風化	10YR 7/3 にぶい黄橙／10YR 7/2 にぶい黄橙	石英・輝石	1－1（前）～4	
438	南側調 1	暗褐色シルト層	弥生土器・甕	(22.5)			口縁端部刻目、口縁部ヨコナデ・ハケメ、胴部4条沈線・ハケメ・風化／口縁部ヨコハケメ、胴部オサエ・ナデ	7.5YR 6/4 にぶい橙／7.5YR 7/4 にぶい橙	石英・輝石	1－2～4	
439	南側調 2	暗褐色シルト層	弥生土器・甕	(20.6)			口縁端部刻目、口縁部オサエ・ヨコナデ、胴部3条沈線・風化・ハケメ・ナデ／風化・ナデ・オサエ	10YR 7/2 にぶい黄橙／2.5Y 7/2 灰黄	石英・輝石	1－1（前）～4	
440	南側調 2	黄褐色シルト層下層（暗褐色シルト層）	弥生土器・甕	(29.9)			口縁端部刻目、ハケメ・風化、胴部3条沈線／口縁部ナデ、胴部板ナデ	7.5YR 5/3 にぶい褐／5YR 5/4 にぶい赤褐	石英・輝石	1－1（前）～4	
441	南側調 2	黄褐色シルト層下層（暗褐色シルト層）	弥生土器・甕	(32.0)			口縁端部刻目、口縁部ヨコナデ、胴部3条沈線・ハケメのちナデ・風化／口縁部ヨコナデ、胴部風化・ナデ	7.5YR 6/3 にぶい褐／10YR 4/1 褐灰	石英・輝石	1－1（前）～4	
442	南側調 2	黄褐色シルト層下層（暗褐色シルト層）	弥生土器・甕				風化／口縁部オサエ・ヨコナデ、胴部ナデ	10YR 5/2 灰黄褐／7.5YR 7/4 にぶい橙	石英・輝石	1	
443	南側調 2	黄褐色シルト層下層（暗褐色シルト層）	弥生土器・甕	(23.6)			口縁端部刻目、ナデ・ハケメ／口縁部ナデ・ハケメ、胴部ナデ・オサエ	7.5YR 6/4 にぶい橙／7.5YR 6/3 にぶい褐	石英・輝石	1	
444	南側調 2	黄褐色シルト層下層（暗褐色シルト層）	弥生土器・甕	(17.0)			風化・ミガキ、頸部3条沈線／風化・ミガキ、頸部板ナデ・オサエ	10YR 6/3 にぶい黄橙／10YR 6/3 にぶい黄橙	石英・輝石	1－1（前）・2	
445	南側調 2	黄褐色シルト層下層（暗褐色シルト層）	弥生土器・甕	(13.6)			口縁端部3条沈線、風化・ナデ／風化・ナデ	5YR 6/6 橙／5YR 6/6 橙	石英・輝石	1	
446	南側調 2	黄褐色シルト層下層（暗褐色シルト層）	弥生土器・底部		6.2		風化・ハケメ／風化・ナデ	7.5YR 6/3 にぶい褐／5YR 6/6 橙	石英・輝石	弥生	
447	南側調 2	重機撹乱後清掃	弥生土器・甕				ナデ・ミガキ／ナデ・ミガキ	10YR 5/1 褐灰・10YR 5/2 灰黄褐／10YR 6/4 にぶい黄橙	石英・長石・輝石・雲母	1－1（古）	
448	南側調	不明	弥生土器・甕	(26.6)			口縁端部刻目、ハケメ・ナデ、胴部2条沈線／ナデ・オサエ	10YR 6/3 にぶい黄橙・10YR 4/2 灰黄褐／10YR 5/2 灰黄褐	石英・輝石	1－1（前）～4	
449	南側調 2	灰色シルト層	弥生土器・底部		8.0		ナデ／ナデ・オサエ	5YR 7/4 にぶい橙／10YR 7/3 にぶい黄橙	石英・長石・輝石・角閃石	弥生	
450	南側調 2	排土	土師器・坏		(9.0)		ナデ／ナデ	10YR 7/4 にぶい黄橙／10YR 7/4 にぶい黄橙	雲母・石英	古代？	
451	南側調 1	SK116-SK117 上面	弥生土器・甕				ナデのち一部ミガキ／ナデ・一部ミガキ？	7.5YR 6/2 灰褐／7.5YR 6/3 にぶい褐	輝石・雲母	1－1（前）～4	
452	南側調 1	SK116-SK117 上面	弥生土器・甕				口縁部2条沈線、ヨコナデ・胴部ケメ／ナデ・一部オサエ	7.5YR 6/2 灰褐／7.5YR 5/2 灰褐	石英・輝石・雲母	弥生	
453	南側調 3	黄褐色シルト層直上	弥生土器・甕	(30.0)			口縁端部刻目、口縁部ナデ、胴部3条沈線／ナデ	10YR 7/4 にぶい黄橙／10YR 7/4 にぶい黄橙	石英・輝石	1－3・4	

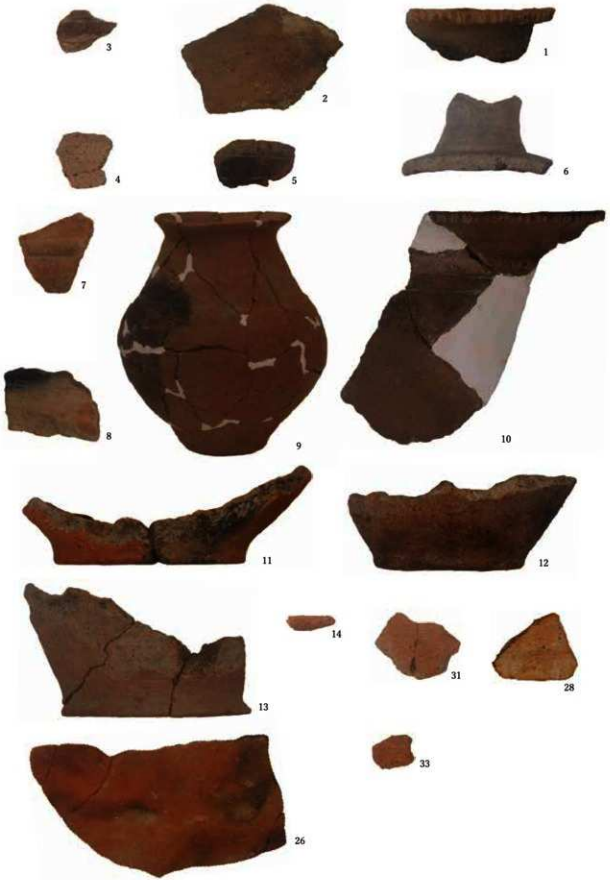
表 2-14　土器観察表（14）

No.	地点	遺構・層位	種類・器種	法量（cm）			文様・調整（外／内）	色調（外／内）	胎土	時期	備考
				口径	底径	器高					
454	南側溝3	黄褐色シルト層直上	弥生土器・甕	(24.0)			口縁部ナデ、胴部ハケメ、下位オサエ／口縁部ナデ、胴部板ナデ・オサエ	7.5YR 6/6橙／7.5YR 6/6橙	石英・輝石	Ⅱ？	
455	南側溝3	黄褐色シルト層直上	弥生土器・甕	(18.3)			ナデ／ナデ	7.5YR 7/4にぶい橙／5YR 6/6橙	石英・輝石	Ⅱ？	
456	南側溝3	黄褐色シルト層直上	弥生土器・壺				ナデ、頸部2条貼付突帯・棒状浮文・山形文・2条沈線、肩部1条沈線・鋸歯文・3条貼付頭目突帯／ナデ	7.5YR 7/4にぶい橙／10YR 7/4にぶい黄橙	石英・輝石	Ⅰ－3・4	
457	南側溝3	黄褐色シルト層直上	弥生土器・底部		7.2		ハケメのちミガキ・ナデ／ナデ・ミガキ	10YR 7/2にぶい黄橙／10YR 6/3にぶい黄橙	石英・輝石	弥生	壺、外面黒斑
458	南側溝3	黄褐色シルト層直上	弥生土器・底部		5.8		ナデ／ナデ	7.5YR 7/4にぶい橙／7.5YR 7/4にぶい橙	石英・輝石	弥生	
459	南側溝3	黄褐色シルト層直上	弥生土器・底部		7.1		ハケメ・ナデ／ナデ	5YR 6/6橙／5YR 6/4にぶい橙	石英・輝石	弥生	
460	南側溝2	SD102下層	縄文土器・浅鉢				ミガキ／ミガキ		石英・兵石・角閃石		浮線網状文系土器（藤山式段階）、461と同一個体
461	南側溝2	SD102下層	縄文土器・浅鉢				ミガキ／ミガキ		石英・兵石・角閃石		浮線網状文系土器（藤山式段階）、460と同一個体

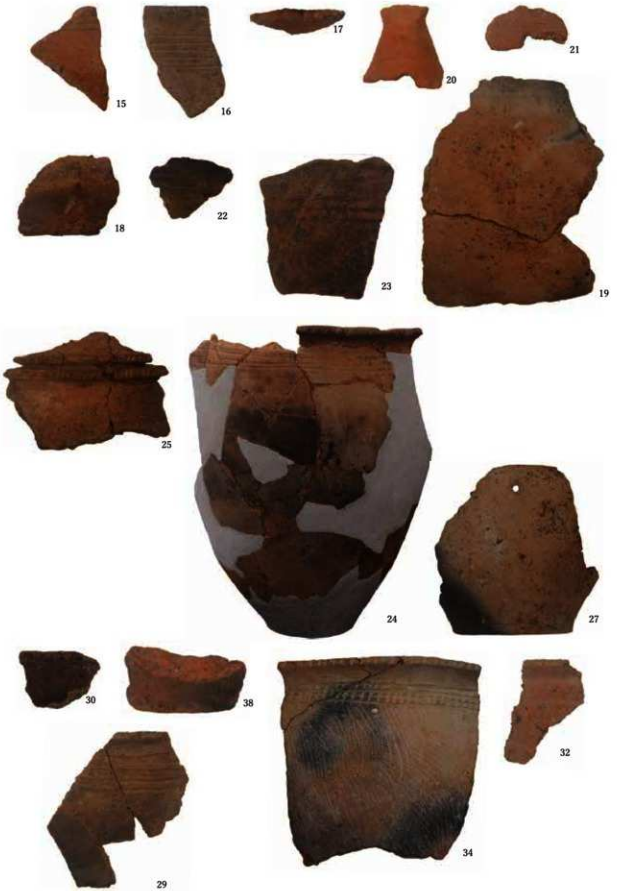
表 2-15　石器・土製品・木器観察表

No.	地点	遺構・層位	種類・器種	計測（cm）			重量（g）	文様・調整（外／内）	色調（外／内）	石材・胎土	備考
				長さ	幅	厚さ					
462	東側溝 2	SK138	石製丁未成品？	12.6	5.4	0.9	57.0			赤色片岩	
463	排水管	SK11A No. 2	敲石	15.8	5.6	3.4	425.0			頁岩	
464	排水管	SK11A	スクレイパー	4.5	4.2	2.0	43.5			石英	
465	排水管	SD59より北	土製紡錘車	5.0	4.9	1.7		ナデ／ナデ	10YR 7/3にぶい黄橙	石英・輝石	
466	排水管	黄褐色シルト層	土製円盤	3.2	3.3	0.7		風化・木葉文？／風化	5YR 6/6橙／5YR 7/6橙	石英・輝石	土器片の二次加工品、中央にくぼみ
467	排水管	黄褐色シルト層の下層	磨製石錐	4.8	1.0	0.6	3.7			頁岩	
468	南側溝 1	SD04	スクレイパー	4.5	9.8	0.7	38.68			頁岩	粗製剥片石器
469	南側溝 1	SD102 №6	打製石斧	11.7	60.5	2.5	215			珪質片岩	
470	南側溝 2	SD102上層南壁（黄褐色シルト層）	打製石鏃丁	5.7	4.3	0.8	30.98			紅簾石-珪質片岩	
471	南側溝 2	SD102砂層上層	打製石鏃丁	2.9	7.8	0.5	17.2			珪質片岩	
472	南側溝 2	SD102 №11	磨製石鏃丁	4.8	8.0	0.6	26.25			青色片岩	
473	南側溝 2	SD102最下層	敲石？	10.0	7.6	1.9	210			硬砂岩	
474	南側溝 2	SD102中層砂	敲石	7.2	8.0	3.4	210			頁岩or泥岩	
475	南側溝 2	SD102壁面№11	軸刃石斧未成品？	10.3	9.5	10.2	1480			緑色岩	
476	南側溝 1	SD102最下層	木製網枠	21.1	13.8	6.1					
477	南側溝 2	SD103	砥石	9.2	5.2	2.2	134.72			砂岩	
478	南側溝 2	SD103	スクレイパー	5.0	6.4	0.7	28.93			サヌカイト	
479	南側溝 2	SD103	打製石鏃丁未成品	14.4	4.9	1.8	195			緑色岩	
480	南側溝 1	SD106	スクレイパー	4.8	3.9	0.6	12.28			頁岩	
481	南側溝 1	SD107	砥石？	6.4	2.3	3.6	45.03			砂岩	
482	南側溝 2	SD108	敲石片	5.3	0.9	1.4	7.73			頁岩	
483	南側溝 2	SD103	敲石	10.2	4.0	3.9	235			硬砂岩	
484	南側溝 2	SD113	磨製石鏃丁	4.2	4.2	0.6	21.84			青色片岩	遺構詳細不明
485	南側溝 2	SD114	団石	9.9	10.4	4.1	545			硬砂岩	
486	南側溝 2	SD114	敲石	13.9	5.5	2.1	260			珪質片岩	
487	南側溝 1	SK103	砥石	7.7	5.1	2.2	69.41			砂岩	
488	南側溝 1	SK108砂層上層	敲石	10.2	8.4	4.3	545			硬砂岩	
489	南側溝 2	SK123	敲石	10.6	5.4	5.0	375			硬砂岩	
490	南側溝 2	SK126直上№4付近南壁	敲石	4.9	3.0	2.5	60.15			緑色岩	
491	南側溝 2	SK126	打製石鏃丁片	3.9	6.8	0.4	16.35			紅簾石-珪質片岩	
492	南側溝 2	SK126 №3	敲石	13.9	4.3	1.9	190			珪質片岩	
493	南側溝 1	黄褐色シルト層	砥石片	5.5	4.3	2.2	72.6			砂岩	
494	南側溝 1	黄褐色シルト層上器群№3下	敲石	5.2	2.5	0.6	21.29			青色片岩	
495	南側溝 2	黄褐色シルト層	スクレイパー	5.0	8.6	1.0	51.37			緑色岩	
496	南側溝 1	黄褐色シルト層	スクレイパー	6.8	5.1	0.8	29.2			サヌカイト	
497	南側溝 2	黒褐色シルト層	盤状石器	4.5	1.4	0.6	4.76			頁岩	
498	南側溝 2	黒褐色シルト層	打製石鏃丁	3.9	7.4	5.5	21.31			珪質片岩	
499	南側溝 2	黒褐色シルト層	石錘？	8.0	3.4	1.5	69.39			緑色岩	
500	南側溝 2	黒褐色シルト層	打製石鏃丁	3.1	5.0	4.5	16.58			珪質片岩	
501	南側溝 2	黒褐色シルト層まで掘下げ（一部黒褐色シルト層）	打製石鏃丁	3.3	6.9	7.5	26.84			珪質片岩	
502	南側溝 1	黒褐色シルト層	敲石	10.1	4.4	2.7	190			頁岩	
503	南側溝 2	黒褐色シルト層	敲石	10.3	6.5	2.0	255			緑色岩	

図版１　排水管地点出土遺物１



図版2　排水管地点出土遺物2

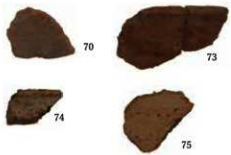


図版3　排水管地点出土遺物3

図版4　排水管地点出土遺物4

図版5　東側溝地点出土遺物1

図版6　東側溝地点出土遺物2



図版7　南側溝地点出土遺物1

図版8　南側溝地点出土遺物2

103

104

105

106

107

108

109

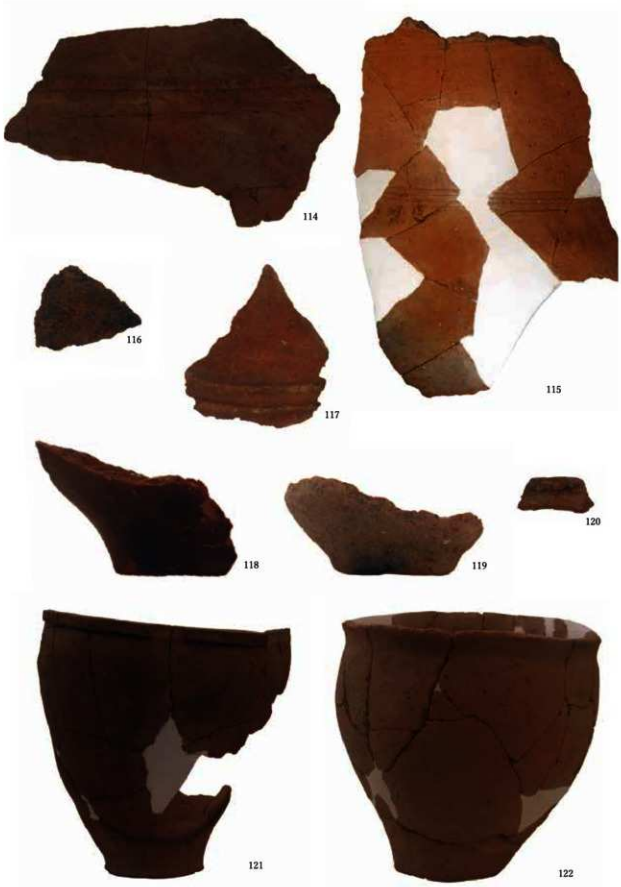
110

111

112

113

図版9　南側溝地点出土遺物3



図版10　南側溝地点出土遺物4

123

124

125

126

126

128

129

130

図版11　南側溝地点出土遺物5

131

132

133

138

135

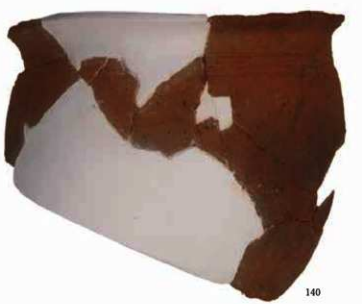
図版12　南側溝地点出土遺物6

136

137

134

139


140

141

図版13　南側溝地点出土遺物７

142

143

147

144

図版14　南側溝地点出土遺物8

図版15　南側溝地点出土遺物9

151

152

153

155

154

156

157

158

図版16　南側溝地点出土遺物10

159

160

161

162

163

164

165

168

167

166

図版17　南側溝地点出土遺物11

169

170

171

172

173

174

175

176

177

図版18　南側溝地点出土遺物12

178

179

180

181

182

183

184

185

186

187

188

189

図版19　南側溝地点出土遺物13

図版20　南側溝地点出土遺物14

図版21　南側溝地点出土遺物15

210

211

212

213

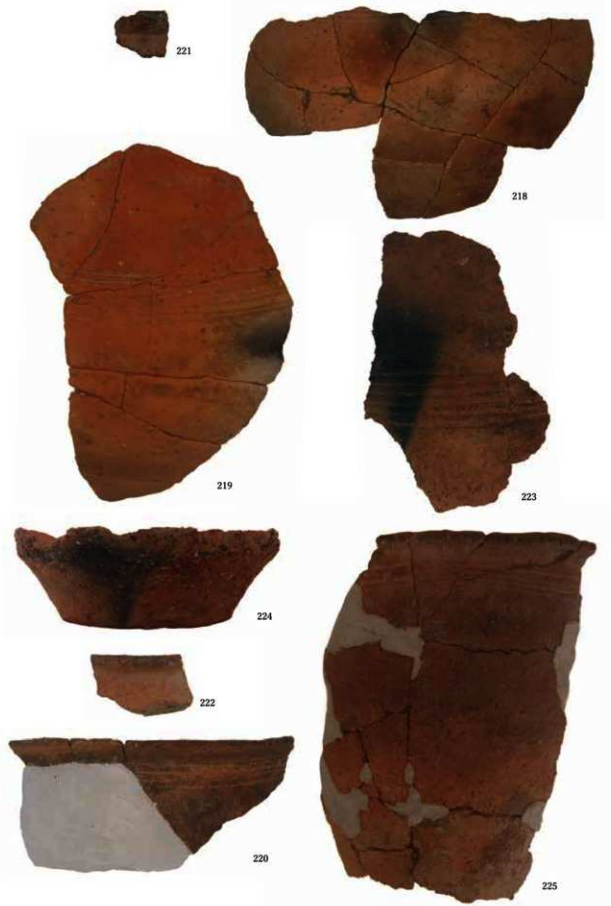
214

215

216

217

図版22　南側溝地点出土遺物16



図版23　南側溝地点出土遺物17

226

228

227

229

230

231

232

233

図版24　南側溝地点出土遺物18

図版25　南側溝地点出土遺物19

図版26　南側溝地点出土遺物20

264

265

266

267

268

272

269

270

271

273

275

274

276

277

278

279

280

281

282

283

284

285

図版27　南側溝地点出土遺物21

286

287

289

288

290

291

293

294

292

図版28　南側溝地点出土遺物22

図版29　南側溝地点出土遺物23

306

312

308

307

309

311

図版30　南側溝地点出土遺物24

310

313

314

315

324

図版31　南側溝地点出土遺物25

317

318

319

320

321

図版32　南側溝地点出土遺物26

322

323

316

325

327

326

330

図版33　南側溝地点出土遺物27

329

328

331

332

333

334

335

図版34　南側溝地点出土遺物28

338

337

336

339

340

341

図版35　南側溝地点出土遺物29

342

344

343

345

346

347

350

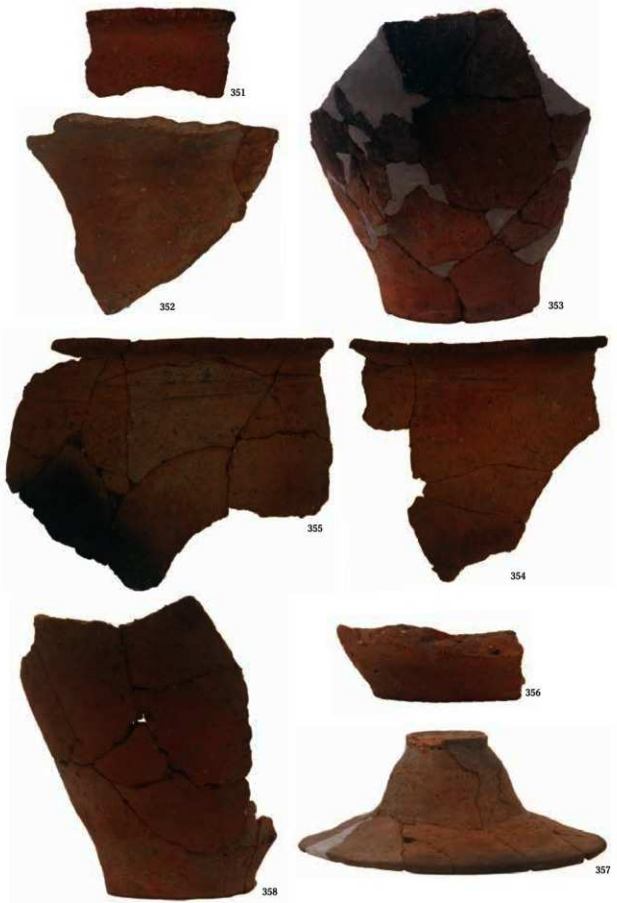
357

359

348

349

図版36　南側溝地点出土遺物30



図版37　南側溝地点出土遺物31

359

360

361

362

363

369

365

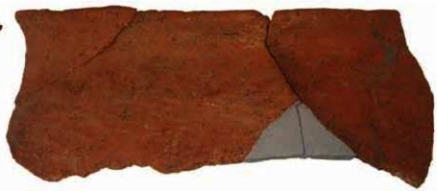
364

366

368

図版38　南側溝地点出土遺物32

367


371

370

373

372

374

375

376

377

378

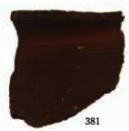
379

図版39　南側溝地点出土遺物33

388

391

390


381

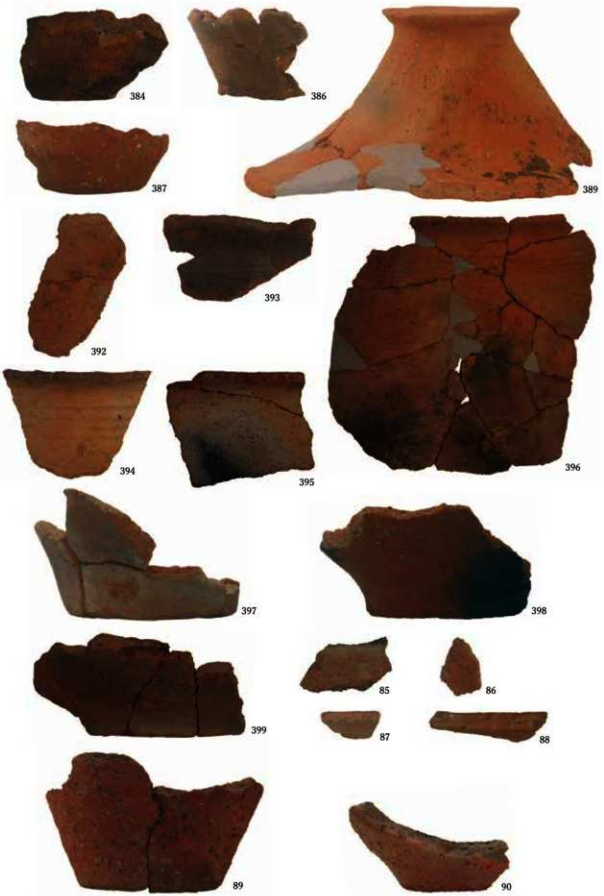
380

383

385

382

図版40　南側溝地点出土遺物34



図版41　南側溝地点出土遺物35

図版42 南側溝地点出土遺物36

図版43　南側溝地点出土遺物37

412

413

447

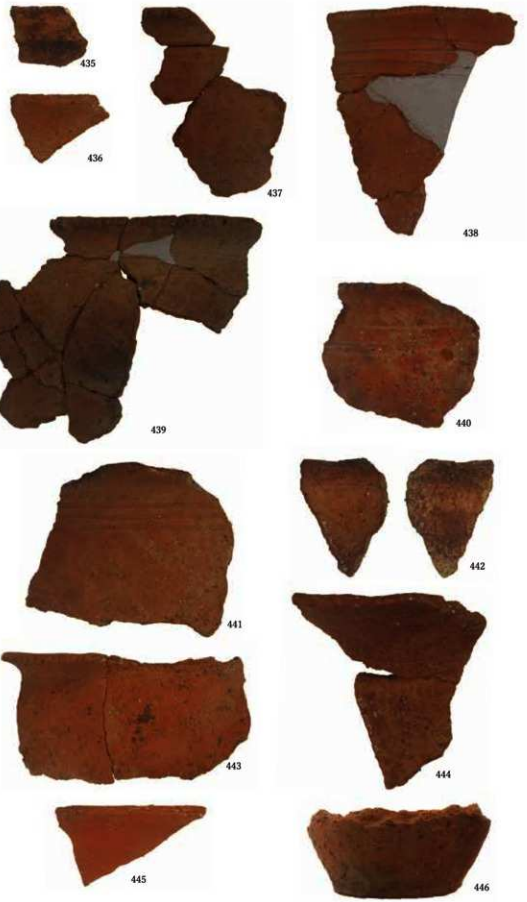
448

449

450

図版44　南側溝地点出土遺物38

図版45　南側溝地点出土遺物39



図版46 南側溝地点出土遺物40

451

452

453

454

455

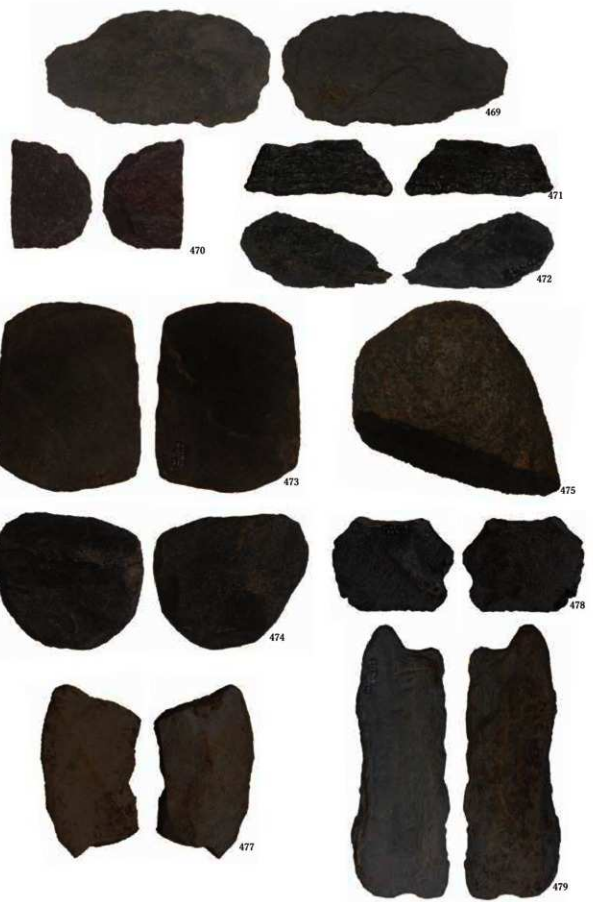
456

457

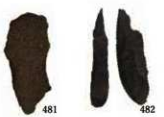
458

459

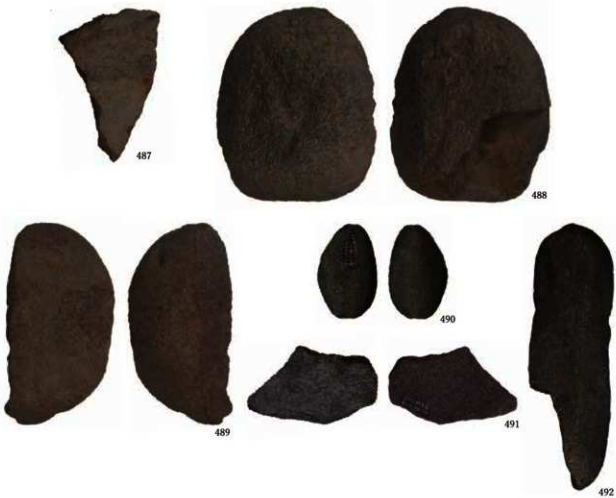
図版47　南側溝地点出土遺物41



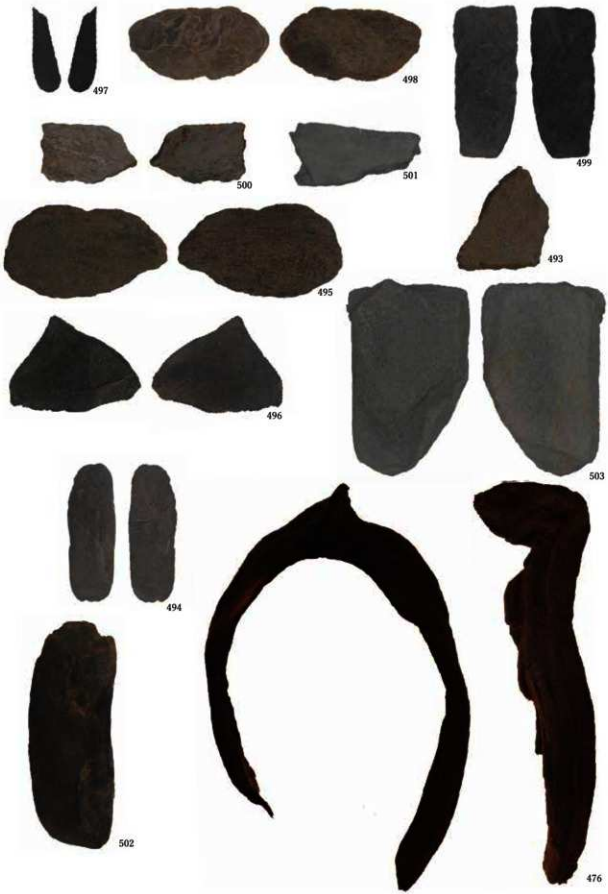
図版48 南側溝地点出土遺物42



図版49　南側溝地点出土遺物43



図版50　南側溝地点出土遺物44



第3章　庄・蔵本遺跡一帯の調査研究成果

端野 晋平

はじめに

徳島大学蔵本キャンパスとその一帯で調査された遺跡群は，日本列島における水稲農耕開始期の代表的な集落跡の一つに数えられ，その成果は日本考古学界に大きく貢献してきた．本稿では，これまでの調査成果を振り返り，徳島平野における弥生時代の始まり，庄・蔵本集落の初期弥生社会について議論する．

1．庄・蔵本遺跡一帯の調査成果

庄・蔵本遺跡は，吉野川の支流である鮎喰川の下流域で，眉山の北側に位置する（図1-1）．現在，徳島大学では，蔵本キャンパスの範囲にある遺跡を，庄町・蔵本町という地名にちなんで「庄・蔵本遺跡」と呼んでいる．1982年から始まった，この遺跡の発掘調査は，初期は徳島県教育委員会が，途中からは徳島大学が担当し，これまで30次以上，実施された．その結果，縄文時代終末から近代にかけての幅広い時代の資料が多数発見され，とくに弥生時代前期（2500～2200年前）のそれは学界でも注目を集めている．

この時期の考古資料に関する調査成果は多岐にわたるが，あえて言えば，①弥生時代初期の集落の全体像が把握可能，②日本列島で最古級の畝跡の発見，③農耕活動の存在を証明する農地＋灌漑施設＋栽培植物＋道具のセットでの確認，④弥生人の生活誌を復元するための土器・石器・木器・金属器などの多様な遺物が数多く出土といった点に集約されようか．

図3-1は，弥生時代前期前葉～中葉[註1)]に属する主要な遺構の分布を示したものである．キャンパスの南側では，居住域と墓域がいくつか確認されており，居住域の一つは二条の大溝に取り囲まれている．南西部では旧河道が東西方向に走っており，そこから北側と東側へとのびる用水路が確認されている．旧河道と用水路の付近では畑が，北東部では水田が確認されている．このように，居住域・墓域・農地のセットが一つの弥生前期遺跡で確認された例は，全国的にみてもまれである．

弥生時代前期中葉の水田は，用水路や井堰といった灌漑施設を伴うもので，1区画は長方形をなし，小さいもので長辺3m，大きいもので長辺8m程度を測る．最近の庄・蔵本遺跡第35次調査（トリアージスペース地点）でも確認された（図3-2）．弥生時代前期中葉の畑は，畝立てするものとしては列島最古級であり（中村2009，端野ほか2015）（図3-3），最近では南蔵本遺跡（徳島県立中央病院ER棟地点）の調査でも確認されている（徳島県・徳島県埋文2021）．イネ・アワ・キビといった栽培植物の炭化種実（佐々木・パンダリ2015，那須2017），木製の鍬・鋤，打製石斧，磨製・打製石庖丁など，当時の農耕の実態に迫るための貴重な資料も出土している（図3-4）．そのほか，イノシシなどの動物骨，木製の弓，石鏃などの狩猟活動を示す遺物，土器に付着した球根類の炭化物（米田・佐々木2017）なども確認されており，灌漑水田農耕を基軸としつつも，多様な食料獲得戦略がうかがえる．

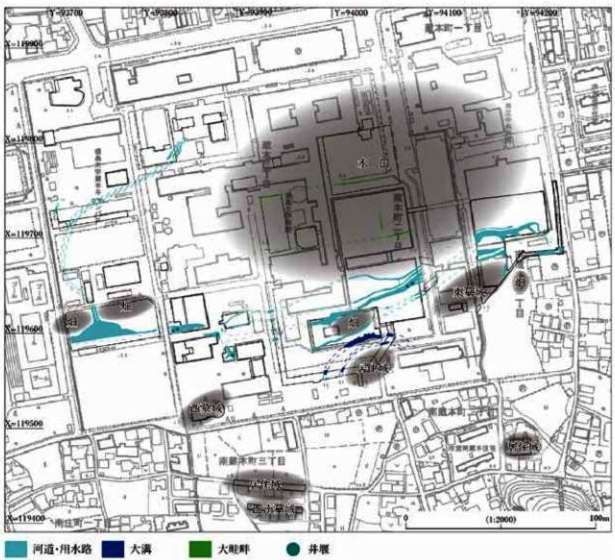


図 3-1　弥生時代前期前葉～中葉における庄・蔵本集落一帯の様相
端野（2018a）より引用・改変.

2．徳島平野における弥生時代の始まり

庄・蔵本遺跡の位置する鮎喰川流域では，弥生時代が始まる前から人びとが居住していたことがこれまでの発掘成果により明らかとなっている．以下，中村豊（1998，2002，2018）の整理に従い，弥生時代が始まるまでの過程を描き出す．鮎喰川の左岸に位置する矢野遺跡では，縄文時代後期初頭の土器や土製仮面，石棒などが出土している．土製仮面については，朝鮮半島南部・九州西北部の貝製仮面が縄文時代中期までさかのぼるとみて，仮面の起源をこうした地域に求める説も提出されている（磯前2008）．これが妥当であれば，矢野遺跡の土製仮面は西から伝わったこととなる．石棒は，主に東日本で盛んに用いられた文物であり，この存在は東日本を源流とする儀礼がこの地に伝わっていたことを示す．鮎喰川の右岸に位置する名東遺跡では，縄文時代晩期後葉の土器や石棒などが出土し，土器からはレプリカ法によりイネとアワの圧痕が検出された．この時期の農耕は畑作であった可能性が高く，縄文文化に伝統的な儀礼を継続しながら，生業は従来からの狩猟・漁労・採集に畑作が加わったものと考え

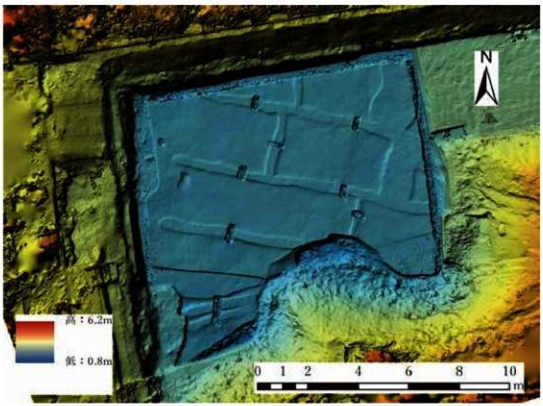


図 3-2　庄・蔵本遺跡第 35 次調査地点の弥生時代前期水田跡 DEM

られる．庄・蔵本遺跡から東に 800 m ほど離れた場所に位置する三谷遺跡では，最後の縄文土器と最初の弥生土器の共存が確認された．土器を時代区分の基準とするならば，この時期から弥生時代となるが，前時期から引き続き，石棒を使った縄文的儀礼を行いつつ，イネ・アワ・キビの栽培を畑作により行ったとみられる．また，同時期に存在した庄・蔵本集落との間で交流があったとみる意見（中村 1998・2002）も提出されている．そして，弥生時代前期中葉になると，庄・蔵本集落では，灌漑施設を伴う水田とともに，列状墓域，石棺墓などの石を用いた墓，弧状大溝，大陸系磨製石器などの弥生的要素が優勢となる．このように，縄文時代から弥生時代への文化の変化は，生業の変化とともに，段階的に起こったと考えられる（図 3-5）．

ところで，弥生文化は徳島平野で発生したわけではなく，外部からもたらされたものであり，そのルーツは北部九州に求められる．弥生文化

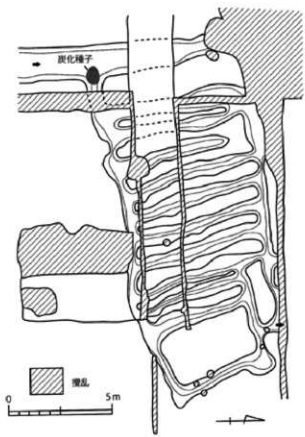
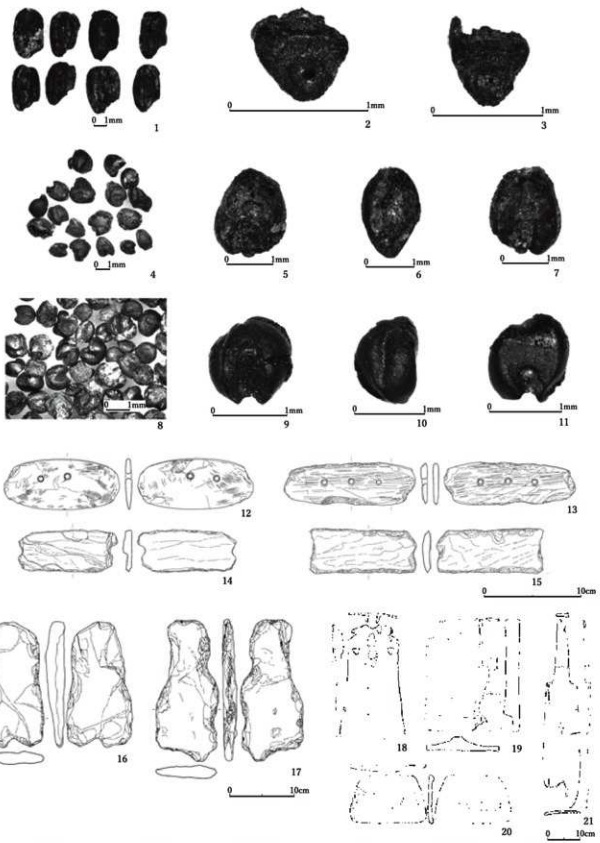


図 3-3　庄・蔵本遺跡第 20 次調査地点の弥生時代前期畑跡
中村（2011）より引用



1～3：イネ炭化種実　4～7：キビ炭化種実　8～11：アワ炭化種実　12・13：磨製石庖丁　14・15：打製石庖丁　16・17：打製石斧　18～21：木製農具（18：広鍬　19：広鍬未成品　20：泥除未成品　21：曲柄平鍬）

図 3-4　庄・蔵本遺跡出土炭化種実と農具

1～11 は那須（2017），12～17 は堀野ほか（2015），18～21 は三阪（2017）より引用・改変。

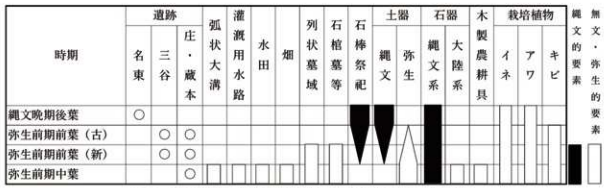


図 3-5　鮎喰川流域における遺跡と縄文・弥生移行期の文化要素の変遷
中村（2002・2018）を参考に作成.

の成立と広がりを物語る良い資料として，弥生土器がある．北部九州で成立した最古の弥生土器，板付Ⅰ式土器は灌漑水田とともに，西日本各地へと広がり，各地の弥生土器の母体となったと考えられる（田中 1986 ほか）．徳島平野もそうした地域の一つであり，板付Ⅰ式土器と類似度の極めて高い土器が出土している（図 3-6）．こうした弥生土器や灌漑水田農耕とともに，他の文化要素も伝わったと考えられる．

墓制はその中の一つで，筆者がこれまで研究対象としてきたので，詳しくみてみる．庄・蔵本集落の弥生前期前葉～中葉に出現する列状墓域，石棺墓・配石墓（木棺墓）・土器棺墓といった多様な墓，土器・石鏃・管玉の副葬習俗の系譜はどこに求められようか（図 3-7・3-8）．これについては，これまでも多くの意見が提出されてきた（河野 1998，北條 1998，中村 1998，橋本 2001，近藤 2002）．結論から言うと，遠くは朝鮮半島南部の無文土器文化に求められる．ただし，「求められる」とは言っても，直接，徳島平野に伝わったというわけではなく，「北部九州を介して」である（図 3-9）．半島南部の灌漑水田とそれと不可分な関係にある文化は，縄文時代晩期後葉に北部九州に伝わった．このときに導入された文化の一つが支石墓などの葬送習俗である．北部九州での導入当初から大きく改変を受けた葬送習俗は，弥生時代前期前葉になるとさらに変化し，墓壙内に石を伴わず，木棺だけを設置した例が多くを占める

図 3-6　庄・蔵本遺跡一帯最古の弥生土器
1．南蔵本住宅 SI02　2．庄・蔵本 1998 年度立会排水管 SK02　3．庄・蔵本 10 次溝 1　4．庄・蔵本 22 次 SK02
1 は勝浦（1999），3 は北條編（1998）よりトレース・改変.

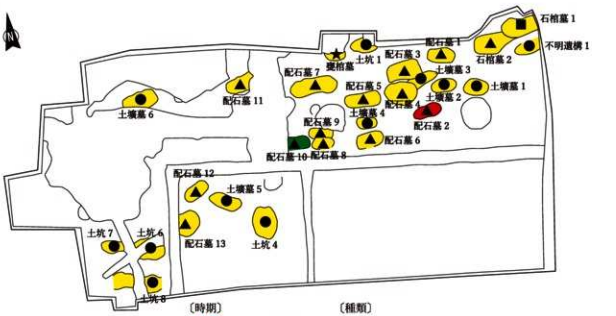


図 3-7　庄・蔵本遺跡第 6 次調査地点の墓域
北條編（1998）をもとに作成.

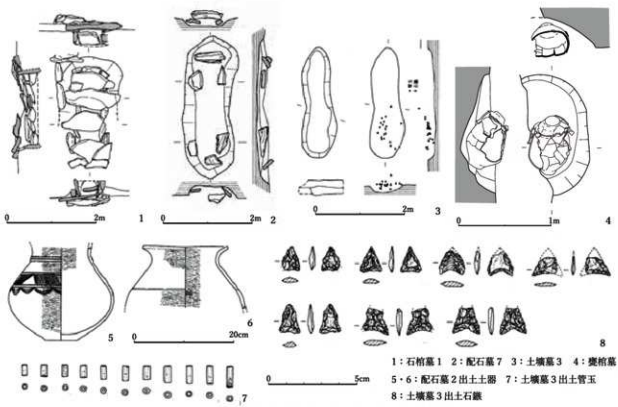
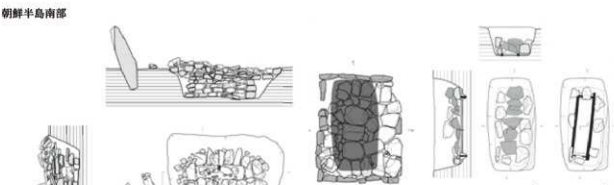


図 3-8　庄・蔵本遺跡第 6 次調査地点の墓と出土遺物
北條編（1998）をもとに作成.

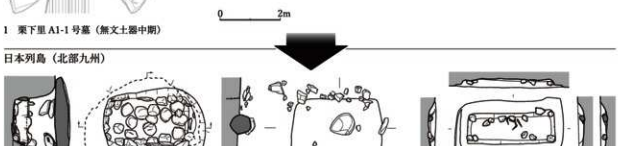
朝鮮半島南部



1　栗下里 A1-1 号墓（無文土器中期）

2　虎灘洞ナ -10 号墓（無文土器中期）

日本列島（北部九州）



3　大友 5 次 6 号支石墓（縄文晩期末葉）

4　新町 1 次 43 号墓（縄文晩期後葉～末葉）

5　江辻 5 地点 SK20（縄文晩期末葉）

6　田久松ヶ浦 SK218（縄文晩期末葉）

7　江辻 5 地点 SK8（縄文晩期末葉～弥生前期前葉）

8　江辻 5 地点 SK15（縄文晩期末葉～弥生前期前葉）

9　天神森 3 次 4 号木棺墓（弥生前期前葉）

10　天神森 3 次 28 号木棺墓（弥生前期前葉）

11　天神森 3 次 27 号甕棺墓（弥生前期前葉）

図 3-9　朝鮮半島南部の支石墓と北部九州の墓制

1 は慶南発展（2009），2 は東亜細亜（2012），3 は宮本編（2001），4 は橋口編（1987），5・7・8 は新宅編（2002），6 は原編（1999），9～11 は松村編（1996）より引用・改変。

図 3-10　集落と出自集団
キージング（1982）をもとに作成．

ようになる（端野 2018b）．こうした木棺墓に配石墓・石槨墓を加えた多様な墓制，一部改変を受けた副葬習俗が，土器棺墓とともに，徳島平野へと伝播したと考えられる．庄・蔵本遺跡一帯の弥生時代前期前葉～中葉の墓域には，こうした弥生的要素のほかに，縄文時代以来の土壙墓も混在する．こうした受容のあり方は，他の文化要素の受容のあり方と調和的である．そのいっぽうで，北部九州との間での葬送習俗，土器の類似度の高さに目を向けると，受容の背後に，そこからの少数の移住者を想定してもよいかもしれない．

3．墓地からみた初期弥生社会

考古学で社会を復元するための方法の一つに，墓あるいは墓地を用いたものがある．庄・蔵本集落の弥生前期社会については，以前から北條芳隆により，第 6 次調査（青藍会館地点）の検討結果をもとに見解が示されていた．北條は，墓の種類の分布の偏りから，複数の造墓単位（単位集団）の存在を想定した．そして，管玉の副葬状態，使用・補修痕，数量に関する検討結果にもとづき，装飾品一式を起点とした管玉の分有関係が一つの集団墓の中でとり結ばれたものとみて，副葬量の違いに階層差を見出した（北條 1998）．

その後，筆者は第 6 次調査地点以外で確認された墓域の調査成果を報告するなかで，弥生前期社会をどう理解しうるのかを再検討した（端野 2018a）．現在，庄・蔵本遺跡一帯では，弥生時代前期前葉～中葉の墓域が三つ確認されている（図 3-1）．これらを対象に，石を用いた施設，遺物の種類，墓壙の規模の相互の関係を検討した結果，石の使用頻度・置き方，遺物の種類には，身分差よりむしろ年齢差が強調されたことがうかがえた．

考古学で過去の社会を論じるとき，世界的によく使われるモデルとして，アメリカ文化人類学者エルマン・サーヴィスの社会類型がある．これは，人類社会を社会統合の度合いによって，バンド社会・部族社会・首長制社会・国家の四つに類型化し，バンド社会から国家へと向かうにつれ，社会の成層化・複雑化が進み，かつ統合の度合いが高まるというものである（サーヴィス 1971）．庄・蔵本集落の初期弥生社会は，埋葬行為において階層差よりも年齢差が強調されていたこと，居住域・墓域・農地が示すように定住した農耕民の集落であることからみて，部族社会に位置づけられる．

つづいて，複数の墓域は何を表示しているのかを，文化人類学の知識を借りつつ考えてみた．墓域だけでなく，この時期に複数の居住域が同時存在したことが指摘されている（近藤 2017）．また，農地である畑も，南蔵本遺跡（徳島県立中央病院 ER 棟地点）で確認された例（徳島県・徳島県埋文 2021）を含め，3 地点で確認されている．部族社会における一つの集落は，複数の異なる出自集団の分節からなると考えられる（図 3-10）[註2]．ここでの出自集団とは，氏族あるいはクランと呼ばれ，共通の祖先・系譜観念をもち，外婚の単位となるものである．一集落に，複数の出自集団の分節（サブクランあるいはリネージ）が居住するというあり方は，異なる出自集団の分節間で婚姻関係を結ぶことを可能に

し（キージング1975），人の再生産には好都合である．個々の墓域・居住域・生産域は，こうした出自集団の分節を表示しているのではないか．

おわりに

以上，庄・蔵本遺跡一帯の調査研究成果をみてきた．本稿で紹介した内容は，数多くある成果のうちのごく一部であることをご了承いただきたい．大学の再開発を背景に，遺跡の多くが姿を消すこととなった．しかし，そのおかげで考古学研究も大きく前進したことも事実である．庄・蔵本遺跡の発掘調査で蓄積した資料は，考古学の各分野に貢献する可能性を大いに秘めたものであり，その自負をもって今後も研究に取り組んでいきたい．

註

1．本稿での徳島平野での時期区分は中村豊（2000，2002）に従う．

2．日本考古学界で，こうした概念を全面に出して，列島先史社会を論じ始めたのは，田中良之（1998，2000）である．本稿はこうした業績に倣うものである．

文献

〔日本語文〕五十音順

磯前順一，2008．考古学の文化領域論―土面の遺跡組成論をめぐって．コンタクト・ゾーン2，37-51．

勝浦康守，1999．南蔵本遺跡（住宅開発工事）．徳島市教育委員会（編），徳島市埋蔵文化財発掘調査概要9．徳島市教育委員会，徳島，pp.1-25．

河野雄次，1998．調査成果のまとめ．徳島大学埋蔵文化財調査室（編），庄・蔵本遺跡1．徳島大学埋蔵文化財調査室，徳島，pp.54-55．

キージング（Keesing R. M.），1975．Kin groups and social structure.（小川正恭・笠原政治・河合利光訳，1982．親族集団と社会構造．未来社，東京）．

近藤玲，2002．徳島県の弥生時代における墓制について．徳島考古学論集刊行会（編），論集 徳島の考古学．徳島考古学論集刊行会，徳島，pp.413-428．

近藤玲，2017．四国東部における灌漑水田農耕の受容期の年代について．総研大文化科学研究（13），149-193．

サーヴィス（Service E. R.），1971. Primitive Social Organization: An Evolutionary Perspective.（松園万亀雄訳，1979．未開の社会組織－進化論的考察－．弘文堂，東京）．

佐々木由香・バンダリ スダルシャン，2015．庄・蔵本遺跡第27次調査出土の炭化種実．国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室紀要1，107-114．

新宅信久編，2002．江辻遺跡第5地点．粟屋町教育委員会，粟屋．

田中良之，1986．縄文土器と弥生土器1．西日本．金関恕・佐原眞（編），弥生文化の研究3．雄山閣出版，東京，pp.115-125．

田中良之，1998．出自表示論批判．日本考古学5，1-18．

田中良之，2000．墓地から見た親族・家族．都出比呂志・佐原真（編），古代史の論点2．小学館，東京，pp.131-152．

徳島県・徳島県埋蔵文化財センター，2021．徳島県徳島市南蔵本遺跡現地説明会資料．徳島県・徳島県埋蔵文化財セン

ター，徳島．
中村豊，1998．稲作のはじまり－吉野川下流域を中心に－．東潮（編），川と人間－吉野川流域史－．渓水社．広島，pp.79-100．
中村豊，2000．阿波地域における弥生時代前期の土器編年．田崎博之（編），突帯文と遠賀川．土器持寄会論文集刊行会，松山，pp.471-498．
中村豊，2002．縄文から弥生へ－眉山北麓遺跡群の分析から－．徳島考古学論集刊行会（編），論集徳島の考古学．徳島考古学論集刊行会，徳島，pp.245-258．
中村豊，2009．西病棟建設に伴う埋蔵文化財発掘調査の成果．国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室年報 1，11-28．
中村豊，2011．吉野川流域における農耕文化の成立と展開．徳島地方史研究会（編），生業から見る地域社会．教育出版センター，徳島，pp.9-39．
中村豊，2018．徳島・吉野川下流域における先史・古代の農耕について．地方研究協議会（編），徳島発展の歴史的基盤－「地力」と地域社会－雄山閣．東京，pp.125-145．
那須浩郎，2017．庄・蔵本遺跡第 20 次調査 SD312 から出土した炭化種実．国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室紀要 3，97-100．
端野晋平，2018a．庄・蔵本遺跡一帯における弥生時代前期墓制の検討．徳島大学埋蔵文化財調査室（編），庄・蔵本遺跡 3－ボイラータンク地点（1998 年度立会）・第 22・30 次調査地点－，徳島大学埋蔵文化財調査報告第 7 巻．国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室．徳島，pp.91-116．
端野晋平，2018b．初期稲作文化と渡来人．すいれん舎．東京．
端野晋平・三阪一徳・脇山佳奈・山口雄治，2015．庄・蔵本遺跡第 27 次調査（立体駐車場地点）の成果．国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室紀要 1，43-97．
橋本達也，2001．弥生時代前期朝鮮系無文土器の展開と徳島．青山考古 18，167-176．
橋口達也編，1987．新町遺跡．志摩町教育委員会，志摩．
原俊一編，1999．田久松ヶ浦．宗像市教育委員会，宗像．
北條芳隆，1998．弥生時代前期集団墓の構造．徳島大学埋蔵文化財調査室（編），庄・蔵本遺跡 1．徳島大学埋蔵文化財調査室．徳島，pp.133-141．
北條芳隆編，1998．庄・蔵本遺跡 1．徳島大学埋蔵文化財調査室．徳島．
松村道博編，1996．下月隈天神森遺跡III．福岡市教育委員会，福岡．
三阪一徳，2017．庄・蔵本遺跡第 27 次調査出土の木製品．国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室紀要 3，29-44
宮本一夫編，2001．佐賀県大友遺跡．九州大学大学院人文科学研究院考古学研究室．福岡．
米田恭子・佐々木由香，2017．庄・蔵本遺跡出土の土器付着炭化鱗茎の同定．国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室紀要 3，79-88．
〔韓国語文〕カナダ順
慶南発展研究院歴史文化センター，2009．金海 栗下里遺跡 II．咸安．
東亜細亜文化財研究院，2012．晋州 虎灘洞 先史遺跡．昌原．

【付記】
本稿は、2021 年 7 月 11 日に開催された「2021 発掘とくしま調査報告会・講演会」（於：レキシルとくしま）での講演資料を加筆・修整したものである。

2022年7月31日発行

OTSUCLEクラウドファンディング研究成果報告書
庄・蔵本弥生集落遺跡の研究

編集・発行　国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室
徳島市南常三島町2丁目1番地（088）656-9405
http://tokudaimaibun.jp/
印　　刷　協業組合徳島印刷センター
徳島市問屋町165（088）625-0135

ISBN 978-4-908223-04-4